

ニジェール共和国
みんなの学校：住民参加による
教育開発プロジェクト
終了時評価調査報告書

平成 29 年 4 月
(2017 年)

独立行政法人国際協力機構
人間開発部

人間
JR
17-038

ニジェール共和国
みんなの学校：住民参加による
教育開発プロジェクト
終了時評価調査報告書

平成 29 年 4 月
(2017 年)

独立行政法人国際協力機構
人間開発部

序 文

ニジェール共和国（以下、「ニジェール」と記す）では、2003年10月に基礎教育のセクタープログラム「教育開発10カ年計画（PDDE）2003-2012」を策定し、「万人のための教育」（Education for All：EFA）達成に向けたさまざまな取り組みを行ってきています。また、PDDE開始以降、教育セクターの地方分権化を進めるとし、学校運営委員会（Comité de Gestion de Décentralisation d'Établissements Scolaires：CGDES）の設立、制度化を進めてきています。

JICAは、このニジェール政府の政策実施に協力すべく、これまで「住民参画型学校運営改善計画（みんなの学校プロジェクト）フェーズ1」を通じてCGDES設置のモデル確立を支援、また、同プロジェクトのフェーズ2により、確立したモデルの全国普及を支援し、結果として全国のすべての小学校〔約1万3,700校（当時）〕においてCGDESによる教育改善活動が行われるに至り、就学率の向上など大きな成果を上げました。しかし、一方で高い退学率や留年率といった著しく低い内部効率及び教育の質の問題について依然として課題があります。その背景には、教員の質や少ない授業時間のほか、教育システムのマネジメントの問題や、予算や資機材といった教育開発に必要なリソース配分の分権化が進んでおらず、学校レベルで活用できる教育リソースは極めて限られているなど、依然として教育セクターの課題が山積している状況です。

このような背景の下、ニジェール政府からわが国に対して、フェーズ2までに全国において確立されたCGDESを通じて学校レベルで活用できるリソースを拡大し、その適正な活用に向けたCGDESの能力強化を含む制度の確立を目的としたプロジェクトの要請がなされ、2012年5月から2016年5月までの4年間の予定で本プロジェクトを開始しました。

今般、プロジェクトの終了時評価を行うことを目的として、2015年12月に調査団を派遣し、ニジェール政府及び関係機関との間で、プロジェクトの目標達成度や成果等を分析するとともに、プロジェクトの残り期間の課題及び今後の方向性について確認・協議を行いました。本報告書は、これら調査結果を取りまとめたものであり、今後のプロジェクトの展開に広く活用されることを願うものです。

ここに、本調査にご協力いただいた内外関係者の方々に深い謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願い申し上げます。

平成29年4月

独立行政法人国際協力機構

人間開発部長 熊谷晃子

目 次

序 文

目 次

地 図

写 真

略語表

評価調査結果要約表（和・英）

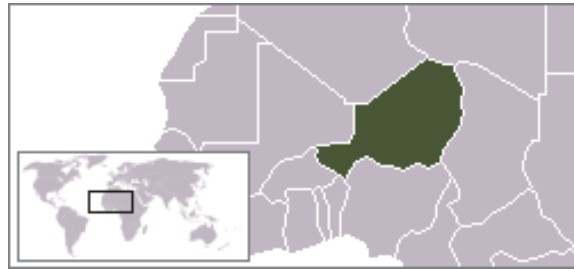
第1章 終了時評価調査団の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 調査日程	2
第2章 プロジェクトの概要	5
2-1 基本計画	5
2-2 プロジェクト・デザイン・マトリックス	5
第3章 終了時評価の方法	6
3-1 評価グリッドの作成	6
3-2 評価実施方法	6
第4章 計画達成度	8
4-1 投入実績	8
4-2 活動実績	8
4-3 成果の達成状況	8
4-4 プロジェクト目標の達成状況	12
4-5 上位目標の達成状況	14
第5章 終了時評価結果	17
5-1 評価5項目による評価	17
5-2 貢献要因と阻害要因の検証	24
5-3 結論	25
第6章 提言	26
6-1 初等教育省に対する提言（プロジェクト期間中及びプロジェクト終了後）	26
6-2 中等教育省に対する提言（プロジェクト期間中及びプロジェクト終了後）	27
第7章 教訓	28

付属資料

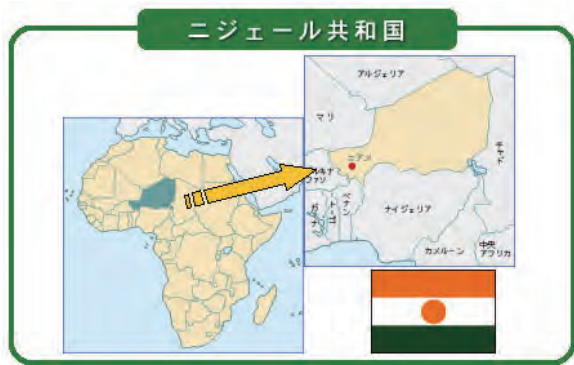
1. ミニッツ（仏文）	31
別添（ANNEX）	
1. プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）	
2. 活動計画表（PO）	
3. 投入実績	
4. 合同調整委員会開催歴	
5. セミナー開催歴	
6. 成果品一覧	
2. 評価グリッド	111
3. 面談者リスト	144
4. 面談・視察録	148
5. PDM（第1版）	180

地図

対象地域：ニジェール共和国全土



写



ニジェール共和国、首都ニアメで調査実施

真



CGDES 調整部面談



中等教育官房長官面談



ニアメ州 CGDES 監督官面談終えて



ニジェールの中学生



中等教育教員（左側）、COGES（右側）



評価発表・協議



評価発表・協議



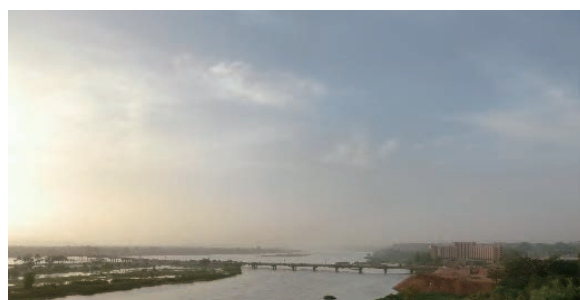
協議ミニッツ署名前 説明



協議ミニッツ署名



署名を終えて



ニジェール川 2015年12月14日
署名同日 ケネディ橋前の立体交差点開通

略 語 表

略 語	正 式 名 称	日 本 語
AFD	Agence Française de Développement	フランス開発庁
CACOCOM	Cadre de Concertation Communal	コミューン連絡協議会
C/CGDES	Coordination des Comités de Gestion Décentralisée des Etablissements Scolaires	学校運営委員会調整部
CGDES	Comité de Gestion de Décentralisation d'Etablissements Scolaires	学校（分権化）運営委員会
CNP/COGES	Cellule Nationale de Promotion des COGES	中等教育省学校運営委員会 COGES の国家促進ユニット
COGES	Comité de Gestion des Etablissements Scolaires	学校運営委員会（CGDES 旧称）
C/P	Counterpart	カウンターパート
FCC	Fédération Communale des CGDES	CGDES 連合
FCFA	Franc de la Communauté Financière Africaine	セーファーフラン（ニジェール通貨単位）
GIZ	Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit	ドイツ国際協力公社
GPE	Global Partnership for Education	教育のためのグローバル パートナーシップ
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
JEC	Jardins d'enfants communautaires	コミュニティ幼稚園
MEP/A/PLN/EC (MEP)	Ministère de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique	初等教育・識字・国語推進・ 市民教育省
MES	Ministère des Enseignements Secondaires	中等教育省
NGO	Non Governmental Organization / Organisation Non-Gouvernementale (ONG)	非政府組織
OECD/DAC	Organization for Economic Cooperation and Development / Development Assistance Committee	経済協力開発機構・開発援助委員会
PAEQ	Projet d'Appui à une Education de Qualité	質の教育支援プロジェクト
PDM	Project Design Matrix (Cadre Logique du Projet)	プロジェクト・デザイン・ マトリックス (ログフレーム)
PFD	Point focal départemental CGDES	県 CGDES 監督官
PFR	Point focal régional CGDES	州 CGDES 監督官

略 語	正 式 名 称	日 本 語
PMAQ	Paquet Minimum Axé sur la Qualité	質のミニマム・パッケージ
PO	Plan d'Opération / Plan of Operations	活動計画
PSEF	Programme sectoriel de l'éducation et de la formation	教育及び研修セクター計画
PTF	Partenaire Technique et Financier	技術的・財政的開発パートナー
RCT	Randomized Control Trial	無作為化比較実験
SDGs	Sustainable Development Goals	持続可能な開発目標
TICAD	Tokyo International Conference on African Development	アフリカ開発会議

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ニジェール共和国	案件名：みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト “School for All”：The Project on support to educational development through community participation
分野：基礎教育	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：人間開発部基礎教育第二チーム	協力金額（評価時点）：約4億円
協力期間	(R/D)：2012年5月～2016年5月
	先方関係機関：ニジェール初等教育・識字・国語推進・市民教育省及びニジェール中等教育省 日本側協力機関：JICA
1-1 協力の背景と概要	
<p>ニジェール共和国（以下、「ニジェール」と記す）政府は、地域住民の学校運営への参加を通じて学校に対する不信感の払拭、信頼を回復することを目的に、2002年より、校長、教師代表、保護者会代表、母親会代表、生徒代表から編成される学校運営委員会を240校に設置した。2005年には国民教育省の省令により全国の小学校に学校運営委員会¹を設置することとなったが、多くの学校で学校運営委員会が十分に機能していなかった。</p> <p>同状況を踏まえ、JICAはこれまで「住民参画型学校運営改善計画（みんなの学校プロジェクト）フェーズ1」を通じて住民参画を効果的に促進する学校運営委員会の設置モデルの確立を支援した。また、同プロジェクトのフェーズ2では、機能するモデルの全国普及を支援し、結果として全国のすべての小学校において学校運営委員会による教育改善活動が行われるに至った。</p> <p>学校レベルにおける教育マネジメント改善に学校運営委員会が果たす役割は大きく、これまでも学校活動計画の策定・実施を中心に、補習を通じた学習時間の確保や、コミュニティのリソース動員による施設改善など、教育改善に貢献してきている。</p> <p>他方、退学率や留年率は依然として高く、小学校の修了率も6割程度にとどまるなど、教育の質の問題についてはいまだに解決できていない状況にある。その要因としては、教員の資質や授業時間の不足などによる学びの質が保証されていないことに加え、教育開発に必要な資源の適正配分がなされないため学校レベルで活用できる予算や資機材が極めて限られていることが挙げられる。</p> <p>このような背景の下、ニジェール政府からわが国に対して、教育の質とアクセスのさらなる改善のために、学校運営委員会を通じて学校レベルでのリソースの適正な活用に向けた学校運営委員会（以下、「CGDES」と記す）の能力強化を含む制度の確立を目的とした本プロジェクトの要請がなされた。</p>	
1-2 協力内容	
(1) 上位目標：学校分権化運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する。	

¹ 学校運営委員会のことをプロジェクトフェーズ1及び2ではCOGES（Comité de Gestion des Etablissements Scolaires）と称したが、フェーズ3開始前に初等教育レベルの学校運営委員会はCGDES（Comité de Gestion de Décentralisation d'Etablissements Scolaires）に改称された。なお、中等レベルでは、現在もCOGESと呼ばれている。

- (2) プロジェクト目標：住民参加を通じたニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDES の学校運営の役割と能力が強化される。
- (3) 成果
- 成果 1：教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献する CGDES の活動が継続して実施される制度が確立される。
- 成果 2：CGDES 活動を通じた教育のアクセス及び質の改善のために、次のモデルが開発される。
- 2-1. 持続するフォーラム・アプローチ
- 2-2. 質のミニマム・パッケージ
- 2-3. リソース管理・運営
- 2-4. 中等学校の機能する学校運営委員会（COGES）
- (4) 投入（評価時点）：日本側の総投入額は約 4 億円（約 20 億 FCFA）、ニジェール政府執行額は約 1 億円（約 5 億 FCFA）、コミュニティ動員額は総額約 18 億 6,000 万円（約 93 億 FCFA）である。
- 1) 日本側：総投入額約 4 億円
- | | | | |
|---------|-----|---------|----------------|
| 長期専門家派遣 | 6 名 | 機材供与 | 約 578 万円 |
| 短期専門家派遣 | 2 名 | 現地活動費負担 | 約 2 億円 |
| 研修員受入 | 5 名 | その他 | 約 1 億 7,600 万円 |
- 2) ニジェール側：
- カウンターパート（Counterpart：C/P）配置 26 名
- 現地活動費負担 約 1 億円（政府）、約 18 億 6,000 万円（住民）

2. 評価調査団の概要

調査者	担当分野	氏 名	所 属
	団長	橘 秀治	JICA 人間開発部基礎教育第二チーム 課長
	協力企画	徳川 詩織	JICA 人間開発部基礎教育第二チーム 職員
	評価分析	國枝 美佳	合同会社 適材適所 コンサルタント
		Mme Halidou Maïmouna BANA	ニジェール初等教育・識字・国語推進・市民教育省 CGDES 調整部研修イニシアティブ課 職員
		Mme BAYERO Fatima	ニジェール中等教育省 COGES 中央推進室 パートナー調整課 職員

調査期間 2015 年 11 月 30 日～ 2015 年 12 月 16 日 評価種類：終了時評価

3. 評価結果の概要

3-1 実績の確認

(1) 成果の達成度

PDM 指標 1～5 の達成状況に照らし成果 1「教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献する CGDES の活動が継続して実施される制度が確立される」は、ほぼ達成済みである。

指標 1「学校運営委員会モニタリング・システムが構築され、公式化される」は、プロジェクト終了時までには達成見込みである。外部コンサルタントによる「CGDES モニタリング・

システム」評価が実施（2015年6～8月）され、その後2015年8月のモニタリング制度承認ワークショップで現行CGDESモニタリング制度が教育省により承認されるとともに、制度化にかかる省令案が作成された。現在、法令案は教育省法務局等関連局にて精査されている。また、CGDESモニタリング制度機能化のためのモニタリング費（燃料費・バイク整備費）及びCGDES監督官会議費が、2013年度より教育省活動計画に盛り込まれ、国家予算により支出されている。

指標2「CGDESモニタリングのための各会議〔経験共有セミナー（年2回）、CGDES監督官会議（年3回）、CGDES連合総会（年3回）〕が全国で80%以上開催される」は、達成されている。

指標3「CGDES年間活動総括表の回収率が90%以上維持される」は、おおむね達成されている。2012年度から毎年およそ90%を達成している。

指標4「CGDES調整部の年間活動計画が策定され、それに沿った国家予算が配分される」は、達成されている。2013年度より教育省の年間活動計画にCGDES調整部の活動が位置づけられているほか、CGDES活動モニタリングにかかる主要活動が国家予算から拠出され、その執行率は7割程度となっている。

指標5「7割以上の教員養成校にてCGDESモジュールにかかる講義が実施される」は達成されている。2015年5月に「教員養成校講師へのCGDES研修にかかる講師研修」及び「教員養成校講師（81名）へのCGDES研修」、2015年5～6月に約6,290名を対象に「全国8州教員養成校でのCGDES特別講義」が実施され、講義の内容もモニタリングされている。

PDM指標1～3の達成状況に照らし、成果2「CGDES活動を通じた教育のアクセス及び質の改善のために、次のモデルが開発される」は、達成済みである。

- 2-1. 持続するフォーラム・アプローチ
- 2-2. 質のミニマム・パッケージ²
- 2-3. リソース管理・運営
- 2-4. 中等学校の機能するCOGES

指標1「対象地域の75%以上のコミュニティにおいてコミュニティから参加するアクター（関係者）のフォーラム参加のための予算が確保される」は達成されている。「第3回タウア州教育フォーラム」会合（2015年11月開催）では州内全44コミュニティ（100%）が自己負担（93%はコミュニティ予算）で参加した。また、フォーラム開催費用全体の5割が州・県・コミュニティによって負担された。

指標2「対象校の9割以上で、子どもの算数ドリルの結果が向上する」は、達成されている。2013年度は98%の学校で学校平均点が向上し、2014年度には補助金有効活用モデル³と質のミニマム・パッケージの結合型モデルが試行され、100%の学校で学校平均点が向上した。

指標3「リソース管理・運営モデルが開発され、補助金が配賦されるCGDESの80%以上

² ミニマムな投入で学習の質を向上させることをめざしたモデルであり、学力テストの実施とその結果の共有（学習の質に関する情報共有）、住民に支援された補習の実施（学習時間の増加）、算数ドリルと補習ファシリテータの導入（学習環境・教授の質の改善）から成る。

³ コミュニティの関与によって学校補助金を良好に管理し、学習の質を改善するために有効に使用することを目的として開発されたモデルであり、住民をはじめとした学校関係者に対する能力強化から構成されている。

で同モデルが活用される」は、2012年度から2014年度のパイロット活動において達成されている。パイロット活動では60校を対象に補助金の供与を実施、別の60校を対象に補助金の供与に加えて資金を効果的に活用するための計画策定研修を実施した。補助金管理面では、対象120全校にて同モデル「リソース管理」の「コミュニティオーデット（住民監査）」プロセスが実践され、住民集会を通じた補助金受領・運用計画策定・補助金活用・結果共有/評価が実施されている。さらに全校の証票書類をプロジェクトにて回収・分析した結果、適切なリソース使用が認められた。リソース運営面に関しては、児童の学力向上につながる活動（補習授業、夜間学習、練習問題実践、教科書・問題集・文具購入等）が計画実施されている。

JICA 研究所によるインパクト評価の分析によると、本モデルを導入した対象60校が、それ以外のグループと比較して、より高い割合で補習授業、夜間学習を実施しているとの結果が報告されている。

また、教育のためのグローバル・パートナーシップ（Global Partnership for Education : GPE）資金による「質的教育支援プロジェクト（PAEQ）」学校補助金供与では、本プロジェクトモデルの開発モジュール2種（リソース管理、活動計画策定）が公式にPAEQ補助金供与モジュールとして承認されている。

(2) プロジェクト目標

プロジェクト目標「住民参加を通じたニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDESの学校運営の役割と能力が強化される」は以下のPDM指標の達成状況に照らし、おおむね達成されている。

指標1「（アクセスの指標）就学児童数に見合った全国の小学校の教室数が確保される」は、達成されている。2014年度にCGDESにより建設された教室総数は2万5,233教室（実施CGDES当たり2.1教室）。通常の教室と合わせて、1教室当たりの平均児童数は41名程度と推計される。

指標2「（質の指標）CGDES活動による補習時間（補習授業及び夜間学習）について（CGDES当たり）年間150時間以上を維持する」は、達成されている。例えば、2014年度CGDESによる平均年間補習時間数は、166.5時間であり、過去3年間の平均補習時間数は173.76時間であった。

指標3「（役割）80%以上のCGDES連合がコミュン予算から財政的支援を受ける」は、達成されている。具体的には、2014年度コミュン予算からの財政支援を受けたCGDES連合は全国266連合中255連合（95.86%）であった。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性：非常に高い

プロジェクト目標である「住民参加を通じたニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDESの学校運営の役割と能力が強化される」はニジェールの教育政策の柱の1つであり、ニジェールの国家政策と整合性が高い。教育環境整備のための資金・資源や人材が限られているニジェールでは、学校運営委員会による資金・資源動員、運営管

理に対する需要と期待が高まっており、教育セクターの地方分権化が進められている。したがって、リソースが限定されているニジェールにおいてCGDESの役割と能力の強化による教育改善をめざす本プロジェクトのアプローチは適切であり、ニジェール国民のニーズにも合致している。

また、本プロジェクトは、2015年9月に、日本政府が発表した「平和と成長のための学びの戦略」やアフリカ開発会議（Tokyo International Conference on African Development：TICAD IV・V）で掲げられた支援目標の具現化にも貢献しており、日本の援助方針とプロジェクト目標の整合性は非常に高い。

(2) 有効性：高い

適切な教室規模による学習環境改善、CGDESによる補習学習時間の確保、コミュニケーションからの適切な予算措置にかかる3つの指標の達成度は高く、プロジェクト目標は順調に達成されている。

成果1でCGDES活動が持続的に実施される制度を構築し、その制度の下で開発したモデルを成果2で実践していくことで、プロジェクト目標が達成可能となることから、プロジェクト目標とその達成に必要な成果は適切に設定されている。

(3) 効率性：高い

成果（アウトプット）はいずれも達成されている。具体的には、学校運営委員会のモニタリング制度がプロジェクトの早い段階で構築され、CGDES調整部に対する効率的な技術移転が進められ、モニタリング経費が国家予算項目となった。また、27の活動を通して①フォーラム・アプローチモデル、②質のミニマム・パッケージ、③補助金モデルとその応用である統合モデルが効率的に開発されてきた。そのため、プロジェクト終了までの期間を活用して開発したモデルの改善に取り組むことが可能となった。

これらの成果の発現に貢献した要因として①コミュニティ動員を図りながらニジェール全土の小学校においてさまざまな活動を実施し、目に見える成果を上げていること、②ロールプレイを取り入れた研修手法で効果的、効率的に記憶に残る学び（研修）の場を提供したこと、③プロジェクトコンサルタントとの信頼関係を築き、人材を効果的に活用している、ことが挙げられる。

反対に、阻害要因として①安全対策の一環として、日本人専門家の首都外移動が禁止されたこと、②CGDESモニタリング実施のための国家予算の執行が恒常的に、また大幅に遅れることなどが挙げられる。

日本・ニジェール国側双方の投入の質、量は適切であったといえる。全国約1万8,000校においてCGDES活動による教育開発を実践し、初等教育へのアクセスと質の改善に大きく貢献した。1校当たりのプロジェクト投入額は2万7,800円程度（約14万FCFA）であり、コスト効率は非常に高いといえる。

(4) インパクト：正のインパクト

本プロジェクトの上位目標の「学校分権化運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上す

る」は、今後達成される見込みが高いと判断される。就学率、留年率、中退率に関しては、フェーズ1プロジェクト開始時から一貫してニジェールの教育指標は緩やかな改善の傾向にあり⁴、本プロジェクトの貢献度は高いと考えられる。さらにはCGDESを通じた学習環境整備及び補習支援活動等が、初等教育の修了率や児童の学力向上に貢献するだけでなく、教員や住民の意識の変革を促し学校と地域住民間の信頼関係を醸成し、地域の就学促進に多大なる影響を与えていることも示された。

また、本プロジェクトが開発した補助金モデルの有効性を検証するための無作為化比較実験（Randomized Control Trial：RCT）を用いた定量的インパクト評価の結果、補助金供与に加えてリソース管理及び計画策定の能力強化を実施したグループの児童学力テストの平均点が、他グループの平均点よりも高い傾向にあることが確認された。能力強化研修を行ったグループでは、補助金だけのグループと比べて、補習授業及び夜間学習、児童の家庭学習の時間、家族による児童の学習のサポートが増加したことが明らかとなった。このような違いが成績の向上につながったことが考えられる。

その他の波及効果として以下の3点が挙げられる。

1) 地域的な取り組みへの発展

ニジェールの「みんなの学校プロジェクト」はJICAが西アフリカで実施する最初の学校運営改善プロジェクトとして開始され、現在は近隣諸国のモデルケースとなっている。モデル国として近隣諸国に及ぼす影響は大きく、また視察や経験共有ワークショップを通じて地域関係者間のネットワークも構築されつつある。

2) 他ドナーによるスケールアップ等

西アフリカ地域における分権型学校運営の潮流を的確に把握し、機能する住民参加型学校運営改善のモデルを適切なタイミングで効果的に示した結果、世界銀行等の他ドナーによってみんなの学校プロジェクトの要素を取り入れたプロジェクトが実施された。

3) 他セクターなどへの波及

水衛生（水管理委員会、美化委員会）、保健（住民参加型マラリア対策）、農業（農業管理委員会）分野で本モデルと同様の住民参加型モデルが実施されている。

(5) 持続性：中程度

政策面からは、教育及び研修セクター計画（Programme sectoriel de l'éducation et de la formation：PSEF 2014-2024）にCGDESの役割や能力強化が明記されており、プロジェクト終了後もCGDESを通じた教育開発が実施される可能性は高い。プロジェクトが開発したモデルはすべて教育省の公式承認を得ており、CGDES活動を包括的に支援するための「CGDES・CGDES 連合活動モニタリング・支援システム」省令が発行見込みであることから、制度的な持続性は高いと判断できる。

組織面についても、学校レベルの活動計画は、コミュニティの能力強化も図られており、実現可能な範囲での活動計画であることから持続性は高い。学校レベルの活動を支えるCGDES連合（Fédération Communale des CGDES：FCC）、県や州レベルのCGDESフォーカ

⁴ アクセス指標は2012年から2013年にかけて一時的に低下しているが、2012年実施の国勢調査の結果から学齢人口を大幅に増加修正したことによる。

ルポイント及びCGDES調整部の組織及び人材に対しても、これまで適切な能力強化が図られて通常の活動を実施することは十分に可能である。

財政面に関して、基本的に予算措置は機能していることが確認された。2014年度より4年間の計画で5州2,800校を対象に教育セクター（世銀銀行・フランス開発庁）コモンファンドによる学校補助金供与の実施が決定している。しかし、インパクト評価調査結果により明らかにされているとおり補助金政策の成功のためには、単に資金を配賦するだけではなく、補助金供与とともにCGDESに対する計画策定及び資金管理のための能力強化研修を実施することが重要である。

また、質のミニマム・パッケージのうち、算数ドリルなどの教材に関しては印刷費用などの予算措置が持続性の担保には不可欠となる。ただし、中央レベルにおいては、プロジェクト活動の予算化はなされたものの、国家予算執行の遅延により、計画時期に適切な資金配賦がなされず円滑な活動実施（例えばCGDES調整部による地方のCGDES活動モニタリング等）に支障をきたしたことがあった。

技術面においては、初等教育省CGDES調整部に対する能力強化が図られ、その結果CGDES調整部による地方行政官（主に州・県CGDES監督官）のCGDESへの技術移転の実施・モニタリング活動は円滑に行われている。

また初等教員養成校の講師に対するCGDES研修は、教員養成課程においてCGDES政策の正しい理解を深めるものであり、将来的なCGDES設立・運営そしてCGDESの持続性確保に資するものである。

中等教育省に関しては中学校COGES設置マニュアルやモニタリング・評価プロセスのマニュアルなどが整備されていることから基本的な技術について移転されていると判断する。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

1) 最小限の投入で最大限の効果をもたらすモデルの開発

「みんなの学校プロジェクト」が開発した住民参加型の学校運営改善モデルは、あらゆる学校環境において適用可能であり、最小限の投入で最大限の効果をもたらした。同モデルの導入により住民と学校の間的情報共有が確保され、住民のニーズを反映した活動が実施され、よりよい学習環境づくりが可能となり、関係者間の信頼関係の醸成が促進された。この信頼関係が行政と学校の建設的な連携を生み、ニジェールの教育開発に大きく貢献したほか、プロジェクトのより高い有効性、効率性、インパクトをもたらした。

2) インパクト評価の実施

形成の段階でRCTによるインパクト評価の計画を組み込むことで、客観的な統計データに基づいて、活動の介入効果を示し、モデルの有効性を示すことができた。これが対外的には他ドナーとの連携につながり、モデルの普及が可能となり、より高いインパクトに寄与した。

3) 本邦研修の効果的な活用

本邦研修によりタイミングよくキーパーソンを日本に招へいし、日本の経験を共有したことで、プロジェクトに対する理解を促進した。その結果、本邦研修に参加した初等教育

事務次官のバックアップにより CGDES モニタリング費用が国家予算に計上されるなど、キーパーソンからの支援を得ることができたため、有効性、インパクト、持続性に大きく寄与した。

(2) 実施プロセスに関すること

1) ニジェール国民の献身的な貢献

プロジェクトの効果発現は、ニジェール国民の多大なる貢献によって成し遂げられた。プロジェクト期間を通して、コミュニティから約 18 億 6,000 万円（93 億 FCFA）が動員されたことより、非常に高いコスト効率性を実現した。

2) 実用性の高い有効なツールや研修手法の開発及び適切な能力強化

「みんなの学校プロジェクト」は非識字者である住民も含め、だれにでも理解しやすく、実用性の高い有効なツールや研修手法を開発し、関係者への適切な能力強化を行ってきた。この能力強化を通じて、プロジェクトモデルに対する住民や行政官の理解を深め、透明性の高い資金管理運用を実現し、住民参加による基礎学力の向上の可能性を示し、地域住民の連携による地域教育開発の分野で大きな成果を上げた。特に各種研修では、実際の活動を想定したロールプレイを研修受講者が演ずる「シミュレーション手法」を取り入れたことで、効果的な技術移転に成功している。

3) 厳しい環境のなかで C/P の献身的な貢献

厳しい環境のなかで C/P の献身的な貢献はプロジェクトの成果発現や成果モニタリングを成立させ、より高い有効性、効率性とインパクトに寄与した。

4) 研修内容の共有の促進

研修参加住民に対し、研修後のコミュニティへのフィードバックを促進したことで、研修に参加していない地域住民とも研修内容が共有されるなど、より高い持続性に貢献した。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

プロジェクト活動の予算化はなされたものの、国家予算執行の遅延により、計画時期に適切な資金配賦がなされず円滑な活動実施（例えば CGDES 調整部による地方の CGDES 活動モニタリング等）に支障をきたしている。このことは、持続性が中程度となった大きな理由となったがプロジェクトスタッフや C/P の献身的な貢献により結果的に目標達成には大きく影響していない。

3-5 結論

全体としてプロジェクトの成果やプロジェクト目標は高いレベルで達成されている。具体的には、学校運営を促進するための 4 つのモデルが開発、提示、試行、そして承認されている。これらは住民をはじめとするニジェール側、日本側関係者の献身的な努力によって成し得たといえる。

評価 5 項目に関し、妥当性は非常に高く、有効性、効率性についても高いと評価される。特に効率性については限られた投入で、必要な活動を担保するためのさまざまな工夫がなされ、期待される成果を産出している。インパクトについては、上位目標の達成見込みや正の波及効

果も確認された。持続性についてはプロジェクトの成果が今後継続され定着していく可能性は中程度としている。

初等レベルに関しては、今後も住民の自助努力により学校レベルにおける持続性の担保ができる。全体的な持続性の担保をより確実なものにするためには、モニタリングを継続しつつ、具体的な成果を発信し、CGDES 支持層の拡大と適切な予算措置と執行を確保していく必要がある。

また、中等レベルに関しても、今後、開発されたモデルを全国展開していくためには中央・地方関係者のさらなる能力強化、モニタリング制度の構築及びそのための適切な予算措置(執行)が必要である。

プロジェクト目標はおおむね達成されていることから、プロジェクトは延長しない。

3-6 提言

3-6-1 初等教育省に対する提言

(1) プロジェクトが開発した各種モデルの活用・普及について

プロジェクトが開発した各種モデルはニジュールの学校現場での実践において試行錯誤を重ねながら開発されたものであり、ニジュールの学校現場に即した汎用性の高いものとなっている。また、同モデルの有効性はインパクト評価においても実証されている。開発されたモデルが活用・普及されるべく、政策意思決定者の強いイニシアティブにより実施することが期待される。

(2) CGDES 活動のモニタリング予算の実質的負担

学校運営委員会モニタリング関係活動の国家予算は 2013 年以降一部執行されている。しかし、ニジュールの教育開発における学校運営委員会活動の貢献とその維持の重要性にかんがみ、また自力でモデル拡大をすることが期待されるなか、学校運営にかかるモニタリングはさらに重要になってくる。したがって、CGDES 活動のモニタリング予算を確実に執行することが期待される。

3-6-2 中等教育省に対する提言

(1) 学校運営委員会中央推進室の業務費予算確保

学校運営委員会中央推進室は、2014 年 10 月の省令で設置が決定し、現在、学校運営委員会政策の実施主体になっている。今後の中等教育における学校運営委員会政策発展のために、2016 年度及びそれ以降の確実な予算措置が望まれる。

(2) 学校運営委員会関連法令整備

中等教育省では、学校運営委員会に関する省令が 2011 年 4 月に発布されているが、現状に合わせた改定が必要である。

(3) 機能する中学校「学校運営委員会」モデルの承認と全国普及準備

現在、「みんなの学校プロジェクト」で実証中の機能する中学校「学校運営委員会」モデルは、今後、全国普及されるためにロードマップも作成する必要がある。

(4) 中学校「学校運営委員会」モニタリング体制への展望

併せて全国の学校運営委員会活動をモニタリング・支援する体制への展望を描く必要がある。モニタリングする体制整備を進め、学校運営委員会活動モニタリング費用の国家予算化が必要である。

3-7 教訓

(1) 成果の分析と発信（インパクト評価の実施）

School Based Management (SBM) は、政府から学校レベルへの権限の委譲と定義され、過去 20 年間にわたり世界各地で広がりを見せている。学校補助金の供与は SBM においてよくみられる介入であり、親やコミュニティのメンバーを含む学校委員会に補助金を管理する権限が与えられることが多い。

しかし、近年の研究では、学校補助金の配賦による学校分権化運営は児童・生徒の学習への影響が限定的であることが言及されている。JICA もモデルの RCT によるインパクト評価を実施し同様の結果を得た。つまり、介入から 2 年を経て、補助金配賦のみのグループの生徒の成績には影響がみられなかったが、補助金配賦に加えて能力強化研修を実施したグループでは数学とフランス語の成績が比較グループの成績と比較して上がる傾向がみられ、統計的な有意差が示されている。モデルの有効性を客観的データにより示すことで、政府は科学的な根拠（エビデンス）によるスケールアップ等の政策判断が可能となり、より効果的な教育開発の実施が期待できる。また、モデルの有効性に関する客観的なエビデンスを示すことは、世界銀行をはじめとする他ドナーの事業に同モデルが取り入れられることを後押しし、他ドナーとの連携による事業成果の拡大にも寄与する。プロジェクトによる介入成果の客観的な評価を可能な限り行い、その有効性を明確に対外的に発信していくことが重要な教訓である。

(2) 地域間の学び合い / グローバルな学びの推進

ニジェール「みんなの学校プロジェクト」は JICA が主に西アフリカ地域で実施する学校運営改善プロジェクトの先駆的な役割を果たしており、近隣諸国のモデル的な取り組みとなっている。近年は域内経験共有セミナー等を年 1 回程度は開催することにより、類似の問題を抱える国同士がお互いに経験や教訓を共有し学び合うことで、国を超えた成果の拡大を実現しつつある。ニジェールにとってもこのような機会は良い刺激となっており、ニジェール側関係者のモチベーションの向上につながっている。このような学び合いの取り組みをプロジェクトの一環として積極的に実施することの意義は高い。

3-8 フォローアップ状況

教育の質改善のためのツールの導入はまだパイロット段階にあり、日本の政策との整合性等からも引き続き日本側の支援が必要である。さらに、ニジェールの不就学児童数はいまだに膨大であり、中退率も高く、女子就学や進学の問題も残るため、協力のあり方を検討する。

Summary of Final Evaluation Survey Results

I. Outline of the Project	
Country: Republic of Niger	Project Title: "School for All" : The project on support to educational development through community participation
Issue/Sector: Basic Education	Cooperation Scheme: Technical cooperation project
Division in Charge: Basic Education Division II, Group 1, Human Development Dept.	Total Cost (as of evaluation): 400 million yen
Period of Cooperation (R/D): May 2012 to May 2016	Implementing Organization in Niger: Ministry of Primary Education and Ministry of Secondary Education Supporting Organization in Japan: JICA
<p>1-1 Background of the Project</p> <p>Since 2002, the Nigerien Government has promoted the establishment of school management committees (SMCs) composed of the school director, teacher representative(s), parent representatives, mother's association representative, and a student representative, to regain the community's confidence and trust in schools through community participation putting in place 240 SMCs. Despite a 2005 ministerial ordinance to establish school management committees¹ (then called COGES, further on changed to CGDES) in all of the nation's primary schools, many were not actually functioning.</p> <p>JICA supported development of a model of school management committee (SMC) through Phase I of the "School for All" or School Management through Community Participation project. In Phase II of the Project, the model was scaled up nationwide to all primary schools. As a result, SMCs started to implement school improvement activities. The SMCs played a major role at the school level, in education management improvement, not only planning and implementing school activities but also securing extracurricular study time, mobilizing community resources to improve school facilities and generally contributing to improving education. At the same time, the dropout and retention rates remained high, with the primary completion rate staying at approximately 60%, and the problem of education quality persisted due to the lack of teacher qualifications, limited teaching time, lack of fund decentralization and materials necessary for educational development, leading to the very limited education budget at the school level among other factors.</p> <p>Thus, the Nigerien government requested the Japanese government for Phase III of the School for All Project in order to improve the quality of education and access to education. The 3rd phase started in May 2012 for 4 years and aims to enhance the capacity of the SMCs and develop a system so that resources at the school level could be appropriately utilized.</p> <p>1-2 Project Overview</p> <p>(1) Overall Goal The quality of and access to basic education are improved by school management through community participation.</p> <p>(2) Project Purpose</p>	

¹ School management committees were called COGES (Comité de Gestion des Etablissements Scolaires) in Phase I and II. However, before launching Phase III, the committees at the primary education level were renamed CGDES (Comité de Gestion de Décentralisation d' Etablissements Scolaires). Those at the secondary education level are still called COGES.

The function and capacity of school management committees (called CGDES in Niger) is strengthened to contribute to educational development (access and quality) in Niger.

(3) Outputs

Result 1: A system allowing sustainable CGDES activities for educational development (school access and quality) is established.

Result 2: The following models are developed to improve access to and the quality of education through CGDES activities.

- 2-1. Sustainable forum approach
- 2-2. The minimum quality package²
- 2-3. Resource management and utilization
- 2-4. A functional secondary school COGES

(4) Inputs

The Japanese side invested approximately 400 million yen (or 2000 million fcfa), the Nigerien government executed 100 million yen (500 million fcfa) and the community raised and contributed an estimated total of 1860 million yen (9300 million fcfa).

Japanese side: Total 400 million yen

6 Long-term experts	Provision of equipment	5.78 million yen
2 Short-term experts	Local costs	200 million yen
5 Counterparts trained in Japan	Other costs	176 million yen

Nigerien side:

26 Counterparts
Local cost 100 million yen (government), 1860 million yen (community)

II. Evaluation Team

Members of Evaluation Team	Team Leader	Hideharu Tachibana	Basic Education Team II, Basic Education group, Human Development Department, JICA
	Cooperation Planning	Shiori Tokugawa	Staff, Basic Education Team II, Basic Education group, Human Development Department, JICA
	Evaluation Analysis	Mika Kunieda	Tekizaitekisho LLC Consultant
	Ministry of Primary Education Representative	Halidou Maimouna Bana	Staff, MEP CGDES Coordination Training Initiative Division
	Ministry of Secondary Education Representative	Fatima Bayero	Staff, MES COGES Promotion, Partnership Coordination Division
Period of Evaluation	30 November – 16 December 2015		Type of Evaluation: Final evaluation

3. Evaluation Results

3-1 Project Performance

² This is a model that aims to improve learning quality at minimal inputs. The package is made up of three elements: 1) scholastic ability tests and results sharing (information sharing on learning quality), 2) extracurricular study supported by local communities (increased learning time), 3) math exercise books and facilitators for supplementary study (improvement of learning environment and teaching quality).

(1) Achievement of results

After examining the situation of the indicators 1 through 5 for the “Result 1: A system allowing sustainable CGDES activities for educational development (school access and quality), is established”, we conclude that the Result 1 is almost fully achieved.

Indicator 1: “A monitoring system of SMCs is established and made official”, will be achieved by the end of the Project. An external consultant evaluated the proposed CGDES monitoring system (June to August 2015). In August, the monitoring system was approved through a workshop and a draft of a Ministerial Ordinance was prepared. Currently, this draft Ordinance is being examined by the Ministry’s Legal Affairs Bureau. Monitoring costs such as motorbike maintenance and gasoline, which is central to a functional system as well as CGDES monitor meeting costs, have been integrated into the Ministry’s action plan since 2013-2014 and is budgeted for, from the national budget.

Indicator 2: “Meetings for CGDES monitoring (experience sharing seminars (twice a year), CGDES monitor meetings (three times a year) and CGDES federation meetings (three times a year) are held 80% of the time nationwide”, has been achieved.

Indicator 3: “A minimum 90% of CGDES annual activity summaries are collected”, has also, by and large, been achieved. Every year since 2012-2013, the collection rate has reached approximately 90%. Indicator 4: “The annual action plan of CGDES Coordination is allocated funds from the national budget”, has been achieved. The activities of the CGDES Coordination have been integrated into the Ministry of Primary Education annual plan from 2013-2014 onwards. In addition, approximately 70% of CGDES activity monitoring costs have been covered by the national budget.

Indicator 5: “Over 70% of teacher training schools gives a lecture on the CGDES module”, has been achieved. The training of trainers of the teacher training schools and the CGDES training for teacher trainers held in May 2015, the special lecture on CGDES module for the 8 teacher training schools was delivered to 6290 participants in May to June 2015. All content was monitored.

The Indicators 1 to 3 for Result 2: “The following models are developed to improve access to and the quality of education through CGDES activities.

- 2-1. Sustainable forum approach
 - 2-2. The minimum quality package
 - 2-3. Resource management and utilization
 - 2-4. A functional secondary school COGES”
- have been achieved as follows.

Indicator 1: “Over 75% of pilot communes’ budget for their actors’ participation in forums”, has been achieved. For the Third Tahoua Regional Education Forum held in November 2015, 100% of the 44 communes self-financed (93% of the commune representatives paid for by the commune) their participation. In addition, 50% of the costs for holding the Forum was financed by the host region, district and commune.

Indicator 2: In over 90% of the pilot schools, the results of the math exercise book improve”, is also achieved. In 98% of the pilot schools in 2013-2014, an improvement in results was noted. In 2014-2015, in 100% of the schools where the school grant model³ and the minimum quality package combination model were piloted, the average improved.

Indicator 3: “Development of the resource management model and its application in over 80% of CGDES which receive school grant”, was achieved where pilot activities took place in 2012-2013, 2013-2014 and 2014-2015. In pilot activities, school grant was delivered to 60 schools, and another 60 schools received school grant and training on planning for effective use of financial resources. A community audit on resource management was done in the 120 piloting schools of the resource management model, with the school grant reception,

³ This is a model developed for well-management and effective use of school grant to improve learning quality with community involvement. The model consists of capacity building of school-related parties such as local communities.

school grant use planning, the actual school grant use, results sharing and joint evaluation taking place at community meetings. In addition, as a result of a collection and analysis of receipts and accounting documents, all resources were appropriately utilized. Activities which lead to student learning such as supplementary classes, night study sessions, exercises, purchase of textbooks, exercise books and other educational materials and supplies were also planned and executed by the CGDES.

The impact evaluation by the JICA Research Institute found that in the pilot 60 schools in which the Project's models were introduced, more supplementary classes and night study sessions were conducted, compared to other groups studied.

The Global Partnership for Education (GPE) funded project "Support to Quality Education (PAEQ)" will allocate school grant based on its official recognition of the 2 models developed by the Project: resource management and resource planning.

(2) Project purpose

The performance indicators of the Project purpose: "The quality of and access to basic education are improved by school management through community participation", are almost fully achieved.

Indicator 1 (access indicator) "An adequate number of school classrooms across the nation, which meets the needs of school aged children is ensured", is achieved with 25,233 classrooms⁴ built by CGDES (2.1 classrooms per CGDES) in the 2014-2015 school year, bringing the average number of students per classroom to 41 students.

Indicator 2 (quality indicator) "A minimum 150 hours (per CGDES) of extracurricular study time (supplementary teaching and night study time) in a school year is maintained through CGDES activities", is achieved with, for example, an average of 166.5 hours in 2014-2015 and an average of 173.76 hours in the 3 school years from 2012 to 2014.

Indicator 3 (role) "80% of CGDES federations receive financial support from their respective communes", is achieved with, 255 CGDES federations out of 266 (95.86%), receiving financial support from their communes in 2014-2015.

3-2 Summary of Evaluation Results

(1) Relevance: Very High

The Project Purpose: "The function and capacity of school management committees (CGDES) is strengthened to contribute to educational development (access and quality) in Niger", remains one of Niger's education policy pillars. In Niger, where financial, physical and human resources for education are limited, there is an increased need for SMCs to mobilize funds and materials, to utilize and manage its limited resources properly. This has been the impetus for promoting decentralization. Therefore, the approach used by the Project, that of recognizing the role of SMCs (CGDES in Niger) and enhancing their capacity to improve education access and quality is not only appropriate but also conform to the needs of the Nigerien population.

In addition, the Project is in line with Japan's educational aid policy "Learning Strategy for Peace and Growth" as announced in September 2015 and which embodies the educational goals set during TICAD IV and V.

(2) Effectiveness: High

Indicators which show improvement of educational environment as a result of CGDES constructed classrooms, increased time for supplementary study secured by CGDES, and budgetary measures taken by the commune, in particular, have been highly performing, leading to a smooth accomplishment of the Project purpose.

If a system where CGDES activities can be continued is established as a result of Result 1,

¹ Classrooms built are mostly made from straw mats and must be rebuilt after every harvest, just before the new school year.

and if under this system, the models developed under Result 2 are applied, the Project Purpose will be achieved. This also means that the Project Purpose and the Results which contribute to the achievement of the Project Purpose, were appropriately designed.

(3) Efficiency: High

All results (outputs) are achieved. More specifically, a monitoring system for SMCs has been established, there has been efficient knowledge and skill transfer to the CGDES Coordination and its activities are now under the national budget. As a result of the 27 activities from activity 2-1-1 to 2-4-7, the a) forum approach model, b) minimum quality education model, c) school grant model and its application the combined model have all been developed by the end of the Project. This allows the Project team to use the remaining Project period to improve the models.

Some of the factors which contributed to the success of the model is a) mobilization of communities, implementation of a variety of activities throughout the country, and the visualization of the results obtained, b) the provision of a learning (training) opportunities using the effective and efficient training approach of role playing, c) building a good relationship with Project consultants and being able to retain and use effectively Project consultants.

On the other hand, inhibiting factors include a) the restriction of Japanese expert movement within the capital, b) the almost routine delay in national budget disbursement for CGDES monitoring activities.

Overall, the quality and quantity of inputs was appropriate. CGDES of 18,000 schools nationwide contributed to better access and improved educational quality. These inputs allowed This means that the Project invested approximately 27,800 yen (or approximately 140,000 fcfa) per school, making this a highly cost efficient Project.

(4) Impact: Positive

The Overall Goal of “The quality of and access to basic education are improved by school management through community participation”, reached within 3 to 5 years after the end of the Project. More specifically, it is expected that the enrollment and completion rates will rise, the retention and dropout rates will decrease and education quality will be improved. Niger’s educational indicators show a slow but steady improvement trend since the Project’s Phase I, which is partially attributable to the Project. CGDES activities for the improvement of the educational environment and to support educational quality, not only contribute to a better completion rate and better academic development but also, according to interviews, changes parents’ attitudes towards education, nurtures trust between the school and the community and in turn promotes enrolment.

The impact evaluation which used a randomized control trial to evaluate the impact of the school grant model found that the test results of the group of schools which were trained on resource management and planning before receiving the school grant, had results above compared to other groups on average. It was also found that, in groups trained on capacity building, more supplementary classes and night study sessions were provided, and children received more time and support for home learning from their parents in comparison to groups with school grant only. These differences are considered to have led to higher test results.

Three other spillover effects are noted as follows: a) development of a sub-regional cluster stemming from JICA’s first West Africa school management improvement Project: Niger’s School for All which has become a model case for neighboring countries. Through visiting each other country and sharing experiences, a community of practice network is being created. b) scale-up by other donors: the Project took into consideration at an early stage, decentralized school management and developed a functional, community participatory school management model, which led to other donors such as the World Bank integrating elements of the School for All Project in their own Projects, c) the participatory community Project model being replicated in other sectors such as water and sanitation (water resource

management committees and clean-up committees), health (participatory malaria control committee) and agriculture (agriculture management committees) are some examples.

(5) Sustainability: Medium

From the policy perspective, as the role of CGDES and the need for their capacity strengthening is clearly indicated in Niger's education policy (PSEF 2014-2024), CGDES is likely to continue even after the Project ends. The models developed by the Project have all been officially approved and the Ministerial Ordinance on CGDES and CGDES federation activity monitoring and support system which comprehensively supports CGDES activities, will be issued soon. Therefore, institutional sustainability is high.

Organizationally, as community capacity and understanding for school level activity plans has been enhanced, the school plans are realistic and thus sustainable. CGDES federations, district and regional CGDES focal points and the CGDES Coordination capacity has been built to support school-level activities, thus ensuring continuity after the Project.

Financially, basic budgetary measures for monitoring are functional. School grant by the education sector common fund (World Bank and French Development Agency) for 2800 schools in 5 regions will be distributed for 4 years from 2014-2015. However, as concluded by the impact evaluation, in order for school grant to succeed, it is recommended that planning and resource management training is conducted before the allocation of school grant. For the minimum quality education package, budgeting the cost of printing educational materials such as the math exercise books, is key to sustainability. However, at the central level, despite national budgeting for the project activities, delay in national budget disbursement hindered appropriate financial allocation at the planning phase, affecting smooth implementation of activities (for example, regional CGDES activity monitoring by the CGDES Coordination).

Technically, capacity building efforts for the Ministry of Primary Education (MEP) CGDES Coordination has borne fruit as the Coordination is now fully self-reliant and functional. The Coordination now is able to train and transfer know-how to regional officials (mainly the regional and district CGDES monitors) and monitor their work.

The CGDES training of trainers of colleges of education is an effort to further understanding of the CGDES policy before teachers are dispatched to the field and is a measure to ensure further development and sustainability of CGDES.

For the Ministry of Secondary Education (MES), manuals on how to establish COGES in secondary schools as well as manuals on monitoring and evaluation processes are seen as evidence of basic knowledge transfer and the basis of sustainability.

3-3 Factors promoting better sustainability and impact

(1) Factors Concerning Planning

a) Development of a model which maximizes minimal inputs

The model developed by the School for All Project allows the community to participate in education development and is applicable to any school environment, depending on minimal input for maximum output. This model enables the sharing of information between the community and the school, better planning and implementation of activities which reflect the needs of the community, and the creation of a better learning environment for children. Trust is also nurtured between actors. This led to a constructive partnership between education administration and the school, largely contributing to Niger's education development, and allowing the Project to have a high score on effectiveness, efficiency and impact.

b) Implementation of impact evaluation

The efficiency and effectiveness of the model was proven using objective statistical data on intervention effects. This was made possible by the fact that the randomized control trial was planned from the conceptual stage of Project formulation. The results of the impact evaluation, led to partnership with other donors, the scale-up of the model(s), and the high impact rating.

c) Effective use of training opportunities in Japan

Key persons were invited to Japan, through the training in Japan scheme which enabled the timely sharing of the Japanese experience and promoted understanding of the Project. The Secretary General of the MEP following participation in this training, pushed through the budgeting of monitoring expenses during the National Budget exercise. Support from key persons contributes to better effectiveness, impact and sustainability.

(2) Factors Concerning the Implementation Process

a) Dedication by the Nigerien people

The high impact of the Project cannot be achieved without the contribution of the Nigerien people. The community mobilized 1,860 million yen (9,300 million fcfa) to improve the educational environment during the Project period, which is why the Project attained an extremely high cost efficiency.

b) Practical and effective tools and training method development, appropriate capacity building

The School for All Project developed over the years, practical and effective tools and training methods, and conducted appropriate capacity building for community members including those who are unable to read and write. This allowed for residents, administrators to further their understanding on the Project proposed models, transparent financial resource use, basic learning capacity enhancement based on community participation, as well as localized education development based on partnership amongst stakeholders. The use of role play and simulation methods based on actual circumstances and activities in the various training sessions allowed the successful transfer of knowledge.

c) Dedication of field counterparts in a harsh environment

The dedication of field counterparts in a harsh environment, contributed largely to the realization and monitoring of Project results, enhanced effectiveness, higher efficiency and larger impact.

d) Promotion of sharing of training content

The Project encouraged training session participants to share and feedback the content of training sessions to their respective communities, which contributed to an information sharing culture and higher sustainability.

3-4 Factors inhibiting better sustainability and impact

Although the government allocated national budget for the Project activities, the disbursement delayed, and the activities were not implemented as planned. More specifically, CGDES Coordination monitoring of regional CGDES activities, which was supposed to be conducted with finance from the National Budget, has not been realized. This is largely the reason why sustainability was evaluated as medium. In the long run, however, the dedication of Project staff and field counterparts have made up for this obstacle and enabled attainment of the Project purpose.

3-5 Conclusion

In conclusion, the Project highly achieved its purpose and results. 4 models promoting better school management, were developed, proposed, tested and officially approved. This was done largely due to the dedicated efforts of the community, the Nigerien government and the Japanese actors.

In regards to the 5 evaluation criteria, the Project was evaluated as very highly relevant, highly effective, and highly efficient. It is noted that this high efficiency comes from the fact that inputs were minimal and innovative, leading to efficient execution of activities, which in turn produced results. Positive impacts were found. Sustainability in terms of the possibility of the Project results being continued and finding root was evaluated as medium.

At the primary education level, community efforts will ensure sustainability at the school level. In order to ensure the sustainability of the results of the Project, monitoring should be continued, the results should be actively communicated, so that more CGDES supporters be obtained and appropriate budgetary measures and execution be secured.

For the secondary education level, appropriate budgeting and disbursement for a strong monitoring system, further capacity building of central and regional level actors need to be implemented.

Project Purpose is almost fully achieved, so the period of cooperation is not extended.

3-6 Recommendations

3-6-1 Recommendations for the Ministry of Primary Education

(1) Use and promotion of the models developed through the Project

The various models were developed in the field; schools went through trial and error so that the models would conform and be adaptable to the realities of schools. The effectiveness of the model(s) were then proven by an impact evaluation. Therefore, it is now up to the policy decision maker's strong initiative to use and apply the developed models.

(2) Self-financing of CGDES activity monitoring

The budgeting and disbursement of CGDES monitoring funds from the National Budget has been partially in effect since 2013. However, considering the importance of maintaining the contribution of CGDES in Niger's education development and the growing need for the Nigerien government to realize the model in other areas, monitoring school management becomes increasingly important. Thus, the nation is expected to make sure that the budget of monitoring CGDES activities is implemented.

3-6-2 Recommendations for the Ministry of Secondary Education

(1) Securing a budget for the COGES Central Promotion Unit

In October 2014, a Ministerial Ordinance established the COGES Central Promotion Unit, which is currently the execution body for its SMC policy. For the further development of SMC policy within secondary education, a more reliable budget measure is necessary from 2016-2016 onwards.

(2) Laws concerning SMCs

A Ministerial Ordinance was issued in April 2011 in regards to SMCs, but needs to be updated according to the current situation.

(3) Approval of the proposed functional secondary education SMC (COGES) and preparations for scaling-up

The functional model for secondary school management, which is currently being refined under the School for All Project, needs to make a roadmap for its scale-up at the national level.

(4) A vision for secondary school management (COGES) monitoring

There is a need for a vision for secondary SMC activity monitoring. This should be accompanied by efforts to build a monitoring structure and national budgeting for monitoring expenses.

3-7 Lessons Learned

(1) Analysis and dissemination of results

School Based Management (SBM) is defined as transferring authority from the central government to the school level, and has been globally promoted in the past 20 years. School grant is a common element of SBM with the authority of school grant management handed over to school management committees which includes the parents and community members.

However, recent studies show that the effect of school grant and decentralization is limited on student learning. JICA and Niger MEP conducted a randomized evaluation. In the 2 years since the intervention, it was found that, while school grant alone did not improve student test score, the grant had positive impact on test scores when it was accompanied

with capacity building of school committee members (on resource planning and management). This evaluation provided the government with clear evidence to make decision on scaling-up and further effective implementation for education development in Niger. In addition, the objective evidence encouraged other institutions including the World Bank to integrate these findings in their projects. The valuable lesson learned was that it is worth the effort to conduct an impact evaluation and to disseminate these results as widely as possible.

(2) Regional mutual learning and promotion of global learning

Niger's School for All Project is the pioneer for JICA-supported school management Projects in West Africa and model for neighboring countries. By conducting annual regional experience sharing seminars and through mutual learning between countries, results are being shared across borders. This is beneficial for Niger as well, by maintaining the motivation of Nigerien actors. In the future, there will be subjects Niger can learn from other countries and this type of mutual learning should be actively introduced in other Projects.

3-8 Follow-up

Tools to improve the quality of education are still at a piloting stage. Considering the fact that education quality improvement is in line with Japan's education cooperation policy, the continuity of Japan's support can be expected. Future cooperation should also consider Niger's large out-of-school child population, as well as persistent problems of high dropout, low continuation and enrollment for girls.

第1章 終了時評価調査団の概要

1-1 調査団派遣の経緯と目的

ニジェール共和国（以下、「ニジェール」と記す）政府は、地域住民の学校運営への参加を通じて学校に対する不信感の払拭、信頼を回復することを図り、2002年より、校長、教師代表、保護者会代表、母親会代表、生徒代表から編成される学校運営委員会（Comité de Gestion des Etablissements Scolaires：COGES；後に Comité de Gestion de Décentralisation d'Etablissements Scolaires：CGDES に改称）を240校に設置、2005年国民教育省のレターにより全国の小学校に設置することとなったが、多くの学校で学校運営委員会が十分に機能せず、研修の充実、女性の巻き込み、法令の整備、中央、州、県、コミュニケーションレベルでの支援体制強化を行っていく必要があった。同状況を踏まえ、JICAはこれまで「住民参画型学校運営改善計画（みんなの学校プロジェクト）（“School for All”：The project on Support to educational development through community participation）フェーズ1」を通じてCOGES設置のモデル確立を支援、また、同プロジェクトのフェーズ2により、確立したモデルの全国普及を支援し、結果として全国のすべての小学校においてCGDESによる教育改善活動が行われるに至った。

学校レベルにおける教育マネジメント改善にCGDESが果たす役割は大きく、CGDESはこれまでも学校活動計画の策定・実施を中心に、補習を通じた学習時間の確保や、コミュニティのリソース動員による施設改善など、教育改善に貢献してきている。これら取り組みを通じて、生徒の卒業試験合格率の向上など一定の成果がみられつつある。

他方、高い退学率や留年率といった著しく低い内部効率（教育投資に比して教育された人材が輩出されない）及び教育の質の問題について依然として解決できていない状況にある。その背景には、教員の質や少ない授業時間のほか、教育システムのマネジメントの問題や、予算や資機材といった教育開発に必要なリソース配分の分権化が進んでおらず、学校レベルで活用できる教育リソースは極めて限られているなどの課題もあり、依然として教育セクターの課題が山積している状況にある。

このような背景の下、ニジェール政府からわが国に対して、教育の質とアクセスのさらなる改善のためにはフェーズ2までに全国に確立されたCGDESを通じて学校レベルで活用できるリソースを拡大し、その適正な活用に向けたCGDESの能力強化を含む制度の確立を目的としたプロジェクトの要請がなされた。同要請を受けて2012年5月から2016年5月までの4年間の予定で本プロジェクトが開始されており、現在、日本人専門家3名（チーフアドバイザー、CGDES能力強化、業務調整）が派遣中である。

本プロジェクトの目的は、ニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDESの学校運営の役割と能力強化を行いつつ、最終的に住民参加型の学校運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上することである。その実現のためにCGDESの継続的活動の実施体制の確立やリソース管理・運営、教育行政分権化におけるCGDESを生かしたモデル（フォーラム・アプローチ¹、質のミニマム・パッケージ²、補助金有効活用モデル³、中等学校の機能するCOGESモデル）の開発を実施中である。

¹ 特定の地域の教育開発に携わるさまざまな関係者グループが、地域内共通の特定の教育課題に対して実現可能な解決策を集会（フォーラム）の場で決議し、自ら調達できる資源を最大限に動員し、学校現場ひいては地域全体の教育環境の顕著な改善を可能とする仕組みである。

本終了時評価調査団は、2016年5月下旬のプロジェクト終了を控え、終了約6カ月前の2015年12月上旬に以下を目的として派遣された。

- (1) 当初計画に照らし、投入実績、活動実績、計画達成度を確認し、問題点を整理する。
- (2) 計画達成度を踏まえつつ、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）の観点からプロジェクトの終了時評価を行う。
- (3) 評価結果に基づき、プロジェクト終了までの課題及び今後の活動計画についてプロジェクトチームやニジェール側関係機関に対し提言を行う。
- (4) プロジェクト終了後に取り組むべき事項を整理する。
- (5) 他国の類似案件に役立つ教訓を抽出するとともに、他国との学び合いにおいて本プロジェクトが果たした役割を明らかにする。
- (6) 評価・協議結果をミニッツとして取りまとめ、ニジェール側と合意する。

1-2 調査団の構成

(1) ニジェール側合同評価メンバー

氏 名	所 属
Mme Halidou Maïmouna BANA	初等教育・識字・国語推進・市民教育省 CGDES 調整部研修イニシアティブ課 職員
Mme BAYERO Fatima	中等教育省 COGES 中央推進室パートナー調整課 職員

(2) 日本側調査団メンバー

担当分野	氏 名	所 属
団長	橋 秀治	JICA 人間開発部基礎教育第二チーム 課長
協力企画	徳川 詩織	JICA 人間開発部基礎教育第二チーム 職員
評価分析	國枝 美佳	合同会社 適材適所 コンサルタント

1-3 調査日程

月 日	曜日	調 査 内 容
11月30日	月	評価分析団員・通訳団員ニジェール着
12月1日	火	プロジェクト事務所訪問・スケジュール打合わせ JICA ニジェール支所表敬 プロジェクト事務所（プロジェクト専門家・スタッフインタビュー等） CGDES 調整部訪問（調整部員インタビュー） プロジェクトコンサルタントとの面会

² ミニマムな投入で学習の質を向上させることをめざしたモデルであり、学力テストの実施とその結果の共有（学習の質に関する情報共有）、住民に支援された補習の実施（学習時間の増加）、算数ドリルと補習ファシリテータの導入（学習環境・教授の質の改善）から成る。

³ コミュニティの監視によって学校補助金を良好に管理し、学習の質を改善するために有効に使用することを目的として開発されたモデルであり、住民をはじめとした学校関係者に対する能力強化から構成されている。

月 日	曜日	調 査 内 容
12月2日	水	ニアメ州教育事務所表敬・インタビュー ニアメ州 CGDES 監督官インタビュー CGDES 連合インタビュー（コロ県ンドウガ） 県 CGDES 監督官インタビュー（コロ県）
12月3日	木	<u>質のミニマム・パッケージ対象地域関係者インタビュー</u> 元キリタシコミュニケーション指導主事インタビュー CGDES 連合代表インタビュー（コロ県キリタシコミュニケーション） 質のミニマム実施 CGDES インタビュー（コロ県キリタシコミュニケーション内学校） コロ県フランコアラブ視学官インタビュー 中等教育省大臣官房長インタビュー
12月4日	金	<u>補助金対象地域関係者インタビュー</u> トロディ県教育事務所長インタビュー CGDES 連合インタビュー（マカロンディ） 補助金対象 CGDES インタビュー（マカロンディ内学校） ドナー関係との面会（GIZ、UNICEF）
12月5日	土	資料整理
12月6日	日	資料整理
12月7日	月	ニアメ州教員養成校関係者インタビュー（校長他） 中学校 COGES パイロット対象校 COGES メンバーインタビュー（ニアメ） ドナー関係との面会（Coopération Suisse） 団長、協力企画団員ニアメ着
12月8日	火	JICA ニジェル支所表敬 プロジェクト専門家との協議 初等教育・識字・国語推進・市民教育省 CGDES 調整部表敬・協議 ミニッツドラフト案作成のための協議（団内協議）
12月9日	水	中等教育省 大臣、事務次官 表敬・協議 初等教育・識字・国語推進・市民教育省 表敬・協議 中等教育省 COGES 中央推進室表敬・協議 ミニッツドラフト案作成のための協議
12月10日	木	ドナー関係との面会（AFD） ミニッツドラフト作成
12月11日	金	ドナー関係との面会（世銀） ミニッツドラフト協議 （初等教育省事務次官、計画局長、CGDES 調整部、中等教育省事務次官、計画局長、COGES 中央推進室）
12月12日	土	ミニッツ最終化
12月13日	日	ミニッツ最終化 初等教育省・中等教育省にミニッツ提出

月 日	曜日	調 査 内 容
12月14日	月	ミニッツ最終化 初等教育省事務次官及び中等教育省事務次官とミニッツ合意 レセプション
		JICA ニジェール支所へ報告 団長、ニアメ発
12月15日	火	ニジェール支所・プロジェクトとの協議
12月16日	水	プロジェクト活動見学、関係者との協議 協力企画団員、評価分析団員、通訳団員ニアメ発

第2章 プロジェクトの概要

2-1 基本計画

名称	ニジェール共和国みんなの学校：住民参加による教育開発プロジェクト
協力期間	2012年5月23日～2016年5月22日
上位目標	学校分権化運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する
プロジェクト目標	住民参加を通じたニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDESの学校運営の役割と能力が強化される
期待される成果（アウトプット）	<ol style="list-style-type: none">1. 教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献するCGDESの活動が継続して実施される制度が確立される。2. CGDES活動を通じた教育のアクセス及び質の改善のために、次のモデルが開発される。<ol style="list-style-type: none">2-1. 持続するフォーラム・アプローチ2-2. 質のミニマム・パッケージ2-3. リソース管理・運営2-4. 中等学校の機能する学校運営委員会（COGES）

2-2 プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）

JICAでは、1990年代前半から、プロジェクト管理手法の一環としてプロジェクト・サイクル・マネジメント（Project Cycle Management：PCM）手法を導入した。PCM手法において中心的役割を果たすのは、PDMと名づけられたプロジェクト計画概要表である。これは「目標」「活動」「投入」などのプロジェクトの主要構成要素や、プロジェクトをとりまく「外部条件」との論理的相関関係を示したものである。

本プロジェクトにおいても、2012年4月の討議議事録（Record of Discussions：R/D）締結時にPDM（第1版）を策定し、R/Dの付属文書として承認した。その後中間評価を経て2014年10月に、主として指標をより具体化するための改訂が行われている。本終了時評価は改訂されたPDMに基づいて実施された。PDMは付属資料1.（ミニッツ別添1.）に示す。

第3章 終了時評価の方法

3-1 評価グリッドの作成

本終了時評価は「新 JICA 事業評価ガイドライン【実践編】第1版」(2010年6月)に準拠して実施した。PDM やその他関係資料に基づいて評価設問(調査すべき項目)を検討し、プロジェクトの実績、実施プロセス、評価5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性)に関する評価グリッドを作成した。実績、実施プロセス、評価5項目の定義は以下のとおりである。

作成された評価グリッドは付属資料2.に示す。

(1) 実績

投入、成果、プロジェクト目標、上位目標に関する達成度、もしくは達成予測に関する情報。

(2) 実施プロセス

活動の実施状況やプロジェクトの現場でおきている事柄に関するさまざまな情報。

(3) 評価5項目

JICA では、プロジェクトの評価における価値判断の基準として、評価5項目を採用している。評価5項目とは1991年に経済協力開発機構(Organization for Economic Cooperation and Development: OECD)の開発援助委員会(Development Assistance Committee: DAC)で提唱された開発援助事業の評価基準であり、以下の5つの項目から成る。

妥当性	プロジェクトのめざしている効果(プロジェクト目標や上位目標)が、受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当かなどといった「援助プロジェクトの正当性・必要性」を問う視点。
有効性	プロジェクトの実施により、本当に受益者もしくは社会への便益がもたらされているのか(あるいは、もたらされるのか)を問う視点。
効率性	主にプロジェクトのコストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか(あるいは、されるか)を問う視点。
インパクト	プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的・間接的效果や波及効果をみる視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。
持続性	援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか(あるいは持続の見込みがあるか)を問う視点。

3-2 評価実施方法

評価グリッドに基づいて以下の方法で情報・データを収集し、評価分析を行った。

(1) 合同評価の目的の確認

本終了時評価調査は、2016年5月のプロジェクトの終了に際して、プロジェクトが順調に効果発現に向けて実施されているかどうかを検証し、結果をプロジェクト内容の改善及びプロジェクト終了後の活動のために活用すべく実施するものであることを、ニジェール側の評価者と確認した。

(2) 評価対象プロジェクトの情報整理

事前評価報告書及び専門家の報告書などを精査し、本プロジェクトの概要を把握した。さらに、調査団員及び関係者で勉強会の場をもち、現状についての情報も共有した。

(3) データ収集・分析方法

評価グリッドに基づいて、関連文献等資料の収集及び関係者から聞き取り情報収集を行った。訪問先及び面談者については、別途記した調査日程と面談者リストを参照されたい。これを取りまとめて、添付の実績の検証、プロセスの検証、5項目評価として、評価グリッド結果表にまとめた。

(4) 評価結果の報告

上記を終了時評価調査報告書に取りまとめた。

第4章 計画達成度

4-1 投入実績

日本側、ニジェール側からの投入は計画どおり実施され、成果の発現に貢献している。詳細は付属資料1.(ミニッツ別添3.)参照。

4-1-1 日本側投入⁴

合計：約4億円

- (1) 長期専門家派遣 6名(チーフアドバイザー/教育アドバイザー1名、CGDES能力強化1名、CGDESモニタリング/業務調整2名、業務調整1名、研修/業務調整1名)
- (2) 短期専門家派遣 2名(チーフアドバイザー1名、ベースライン調査/CGDESニーズ調査1名)
- (3) 研修員受入(本邦研修)5名
- (4) 機材供与 約578万円(モニタリング用車両2台、発電機1基、パソコン4台、プリンター6台、プロジェクター1台、エアコン3基などの事務用機器)
- (5) 活動経費 約1億7,600万円(会議費、ローカルコンサルタント契約費、成果品作成、調整部執務室拡張工事費など)

4-1-2 ニジェール側投入

- (1) カウンターパート(Counterpart:C/P)配置(計26名)

中央レベル

初等教育・識字・国語推進・市民教育省(計13名):事務次官、就学総局長、改革・国語推進・市民教育総局長、教育計画局長、統計局長、CGDES調整部部長、CGDES調整部研修イノベーション課長及び職員1名、CGDES調整部連携調整課長及び職員2名、CGDES調整部モニタリング評価課長及び職員1名

中等教育省(計5名):事務次官、COGES推進室長及び職員3名

州レベル(計8名):全8州初等教育事務所長

- (2) 活動経費 約1億円
- (3) コミュニティが学校運営活動計画に基づいて動員した額 総額約18億6,000万円

4-2 活動実績

プロジェクト活動は、おおむねPDM及び年間活動計画(Plan of Operations:PO)に沿って計画どおり実施されている。ただし、ニジェール側では国家予算執行の遅延により、CGDES調整部による地方のCGDES活動モニタリング等の計画時期に適切な資金配賦がなされず、円滑な活動実施に支障をきたし、一部成果の発現にも影響を及ぼした。

4-3 成果の達成状況

成果1:教育開発(教育のアクセス及び質)に貢献するCGDESの活動が継続して実施される制度が確立される。

⁴ 評価時点

ニジェール・日本国側双方の継続的な努力の結果、評価時点で成果 1 指標 1 以外の成果は達成されており、指標 1 に関してはプロジェクト終了までの達成が見込まれている。成果の達成状況を示す指標の達成度は以下のとおりである。

成果 1：教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献する CGDES の活動が継続して実施される制度が確立される。

(1) 学校運営委員会モニタリング・システムが構築され、公式化される。

プロジェクト終了時まで達成見込みである。外部コンサルタントによる「CGDES モニタリング・システム」評価が 2015 年 6～8 月に実施され、8 月にモニタリング制度承認ワークショップが開催され、現行 CGDES モニタリング制度が初等教育省により承認されるとともに、制度化にかかる省令案が作成された。現在、法令案は教育省法務局等関連局にて精査されている。また、CGDES モニタリング制度機能化のためのモニタリング費（燃料費・バイク整備費）及び CGDES 監督官会議費が、2013 年度より教育省活動計画に盛り込まれ、国家予算により支出されている。

(2) CGDES モニタリングのための各会議〔経験共有セミナー（年 2 回）、CGDES 監督官会議（年 3 回）、CGDES 連合総会（年 3 回）〕が全国で 80%以上開催される。

中央レベルの経験共有セミナーは、2012 年プロジェクト開始～現在まで年 2 回（2012 年 6 月、2013 年 1 月・8 月、2014 年 2 月・8 月、2015 年 2 月・9 月）開催された。州レベルの CGDES 監督官会議は、2012 年はプロジェクト支援により開催され、2013 年 3 月に見返り資金が確保されてからは 2013 年、2014 年ともに全 8 州でそれぞれ年 3 回開催された。なお、見返り資金による開催は 2015 年 8 月をもって終了している。2013 年度以降、国家予算により、コミュンレベルの CGDES 連合総会は各州年平均 3 回近い開催となっている。また、95%以上のコミュンでは指標となっている年 3 回の総会を開催している。

表－1 会議開催数状況

	【中央】 経験共有セミナー	【州】 CGDES 監督官会議	【コミュン】 CGDES 連合総会
2012 年度	2 回	40 回（全国＋8 州各 5 回）	744 回（連合平均 2.8 回）
2013 年度	2 回	40 回（8 州各 5 回）	785 回（連合平均 2.95 回）
2014 年度	2 回	40 回（8 州各 5 回）	761 回（連合平均 2.86 回）

出所：みんなの学校プロジェクト資料

(3) CGDES 年間活動総括表の回収率が 90%以上維持される。

表－2 に示すとおり、過去 3 年間の CGDES 活動総括表回収率は平均 90.1%であった。2014 年度の活動計画の回収率が若干低下したが、これは見返り資金の一時停止等で CGDES モニタリング費の確保が困難であったためである。また、2014 年度はディッフア州の緊急事態発令で集会が禁じられたため、CGDES 連合総会が開催できなかったことも目標値を下回った理由として挙げられる。

表－２ 過去３年間のCGDES活動総括表回収数・回収率変移

	CGDES数	総括表回収・分析数	回収率（％）
2012年度	15,810	14,096	89.2
2013年度	16,587	15,278	92.1
2014年度	18,003	16,020	89.0
平均			90.1

出所：みんなの学校プロジェクト資料

(4) CGDES 調整部の年間活動計画が策定され、それに沿った国家予算が配分される。

2013年度よりCGDES調整部の活動が教育省の年間活動計画に位置づけられているほか、2013年よりCGDES活動モニタリングにかかる主要活動が国家予算でカバーされ、7割程度の執行率である。

(5) 7割以上の教員養成校にてCGDESモジュールにかかる講義が実施される。

全国に11校ある教員養成校のうち8校にて（7割以上）CGDESモジュールにかかる講義が実施されており、指標が達成されている。具体的な研修及び参加者数は以下のとおり。

- ・「教員養成校講師へのCGDES研修にかかる講師研修」実施（2015年5月開催）
- ・「教員養成校講師へのCGDES研修」実施（2015年5月開催）：全国8州教員養成校講師73名、プログラム局長8名、計81名受講
- ・「全国8州教員養成校でのCGDES特別講義」実施（2015年5～6月開催）：8州全教員養成校にて卒業年度の教員候補生を対象としたCGDES関連「特別講義」を実施（受講教員候補生数：約6,290名）

各校での講義実施に際しては、各州CGDES監督官、CGDES調整部員、教員養成研修局がモニタリング支援を実施された。

成果2：CGDES活動を通じた教育のアクセス及び質の改善のために、次のモデルが開発される。

- 2-1. 持続するフォーラム・アプローチ
- 2-2. 質のミニマム・パッケージ
- 2-3. リソース管理・運営
- 2-4. 中等学校の機能する学校運営委員会（COGES）

成果2の達成状況を示す指標の達成度は以下のとおりである。

(1) 対象地域の75%以上のコミュニティにおいてコミュニティから参加するアクターのフォーラム参加のための予算が確保される。

「第3回タウア州教育フォーラム」会合（2015年11月開催）では州内全44コミュニティのうち、93%はコミュニティ予算で参加した。また、フォーラム開催費用全体の5割が州・県・コミュニティによって負担された。

(2) 対象校の9割以上で、子どもの算数ドリルの結果が向上する。

2013年度は対象107校中105校(98%)で算数学力テストの学校平均が向上した。また、2014年度には補助金有効活用モデルと質のミニマムパッケージの結合型モデルが試行され、その結果100%の学校で平均点が向上した。

表-3 対象107校(裨益児童数1万3,000人)算数学力テスト学年別平均点(正答率)結果

	1年生 12問 ⁵	2年生 24問	3年生 44問	4年生 56問	5年生 61問	正答率平均 (%)
事前(13年12月)	1.61 (13%)	8.1 (34%)	16.78 (38%)	21.89 (39%)	29.69 (49%)	34.6
事後(14年5月)	6.06 (50%)	15.05 (63%)	24.25 (55%)	30.31 (54%)	37.55 (62%)	56.8
上昇	4.45点	6.95点	7.47点	8.42点	7.87点	22.2

出所:みんなの学校プロジェクト資料

表-4 結合型モデル試行対象39校(裨益児童数4,000人)算数学力テスト
学年別平均点(正答率)結果

	1年生 12問	2年生 24問	3年生 44問	4年生 56問	5年生 61問	6年生 61問	正答率平均 (%)
事前(13年12月)	0.85 (7%)	6.33 (26%)	12.96 (29%)	23.42 (42%)	25.35 (42%)	34.85 (57%)	33.9
事後(14年5月)	7.55 (63%)	17.94 (75%)	29.63 (67%)	39.74 (71%)	44.37 (73%)	49.05 (80%)	71.5
上昇	6.7点	11.6点	16.7点	16.3点	19点	14.2点	37.6

出所:みんなの学校プロジェクト資料

(3) リソース管理・運営モデルが開発され、補助金が配賦されるCGDESの80%以上で同モデルが活用される。

100%の対象校で同モデルの活用が確認されている。補助金管理面では、対象120全校にて同モデル「リソース管理」の「コミュニティオーデット(住民監査)」プロセスが実践され、住民集会を通じた補助金受領・運用計画策定・補助金活用・結果共有/評価がなされている。さらに全校の証票書類が回収・分析された結果、適切なリソース使用が認められた。また、児童の学力向上につながる活動(補習授業、夜間学習、練習問題実践、教科書・問題集・文具購入等)が計画実施されている。

JICA研究所によるインパクト評価の分析では、リソース管理及び計画策定の2研修を受けたパイロット60校が、それ以外のグループ(介入なしグループ及び補助金配賦と管理研修みのグループ)と比較して、より高い割合で補習授業、夜間学習を実施しているとの結果が報告された。

⁵ 1問1点として合計点を算出している。

なお、教育のためのグローバル・パートナーシップ（Global Partnership for Education：GPE）による「質の教育支援プロジェクト（Projet d'Appui à une Education de Qualité：PAEQ）」による学校補助金供与では、本プロジェクトで開発したリソース管理・運営モデルのモジュール2種（リソース管理、活動計画策定）が公式にPAEQ補助金供与のモジュールとして承認されている。

表－5 リソース管理・運営モデル対象 60 校内活動別計画策定 CGDES 割合

	補習授業 (%)	夜間学習 (%)	練習問題実践補習 (%)	教材・文具購入 (%)
2012/2013	64.4	76.3	31.4	65.2
2013/2014	76.7	75.8	41.7	90

出所：みんなの学校プロジェクト資料

表－6 2013 年度（エンドライン調査時）活動別実施 CGDES 割合

	コントロールグループ (60 校) (介入なし) (%)	グループ 1 (60 校) : 補助金 / 管理研修のみ (%)	グループ 2 (60 校) : 補助金 / 管理研修 + 計画策定研修 (%)
補習授業	51	59	83
夜間学習	36	59	70
教科書購入	42	90	91
教員ガイド購入	33	82	84
文房具購入	49	86	88

出所：みんなの学校プロジェクト資料

4-4 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標：住民参加を通じたニジェールの教育開発(教育のアクセス及び質)に向けて、CGDES の学校運営の役割と能力が強化される。

プロジェクト目標の達成状況を示す指標の達成度は以下のとおりである。

(1) (アクセスの指標) 就学児童数に見合った全国の小学校の教室数が確保される。

教育アクセスについては 2013 年度、初等就学児童数約 227 万人に対して、主に藁葺きの教室が 5 万 5,388 教室あり、1 教室当たりの児童数は 41 名になっており、就学児童数に見合った小学校の教室数が確保されている。

表－7 教室を建設した CGDES の割合、CGDES によって建設された藁葺き教室数

	教室を建設した CGDES 割合 (%)	CGDES による 藁葺き教室建設数	1 CGDES 当たりの 平均教室建設数
2012 年度	82.1	23,910	2.1
2013 年度	81.1	24,647	2.0
2014 年度	76	25,233	2.1

出所：みんなの学校プロジェクト資料

(2) (質の指標) CGDES 活動による補習時間 (補習授業及び夜間学習) について年間 150 時間以上を維持する。

2014 年度において CGDES による補習年間時間数の過去 3 年間の平均が 173.76 時間となっており、目標の年 150 時間以上を十分に達成している。

表－8 CGDES による補習時間数

	補習授業		夜間学習		補習時間合計 (H)
	実施 CGDES 割合 (%)	実施時間数 CGDES 平均	実施 CGDES 割合 (%)	実施時間数 CGDES 平均	
2012 年度	71.3	77	51.9	90	167
2013 年度	61.7	91.4	43.5	96.38	187.78
2014 年度	61.2	78.2	43.3	88.3	166.5
平均	64.73	82.2	46.23	91.56	173.76

出所：みんなの学校プロジェクト資料

(3) (役割) 80%以上の CGDES 連合がコミュニケーション予算から財政的支援を受ける。

2014 年度にコミュニケーション予算からの財政支援を受けた CGDES 連合の割合は 9 割を超えており、地方分権化での教育開発 (教育のアクセス及び質) において CGDES の役割と能力が着実に強化されているといえる。

表－9 コミュニンの財政的支援を受けた連合、及び支援額平均や支援額が活動に占める割合

	コミュニケーション支援を受けた 連合の数と割合 (%)	連合当たりのコミュニケーション 支援額平均 (FCFA)	連合全動員額に対する コミュニケーション支援額が占める 割合 (%)
2012 年度	189 (71)	59,205	12.3
2013 年度	208 (78.2)	112,311	17.12
2014 年度	255 (95.86)	157,448	24.86

出所：みんなの学校プロジェクト資料

4-5 上位目標の達成状況

上位目標：学校分権化運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する。

上位目標の各指標の現時点での達成状況は以下のとおりである。

(1) 教育指標（就学率、留年率、中退率、修了率など）の向上

アクセス指標については、就学前教育粗就学率は2011年度の6.3%から2013年度の6.6%へ微増している。初等教育粗新入学率は2011年度の97.9%から2013年度の82.9%と大きく減少している。また、初等教育粗就学率も2011年度の79.2%から2013年度71.3%に減少している。2013年度の初等教育粗入学率、初等教育粗就学率の減少は2012年度に実施された国勢調査の結果、就学児童推定人口が増えたためと考えられる。過去10年のトレンドをみると確実にアクセスは改善がなされている。本プロジェクトはCGDES・コミュニティによる教室の建設や（2010～2014年度のコミュニティによる建設教室総数は年平均2万3,215教室）フォーラムを通じた女子就学キャンペーンの実施〔タウア州新入生男女比格差が0.77（2014年度）から0.91（2015年度）に改善〕により、教育へのアクセスの向上に貢献したと考えられる。

質の向上を測る指標について、初等教育修了率は2011年度の55.8%から2013年度の61.7%に上昇している。また、修了試験合格率も2011年度の56.7%から2013年度の60.6%と増加しており、2011年度の中学進級率は58.8%から2013年度には59.5%と微増している。教育の質についても、CGDES・コミュニティによる補習の実施（2010～2014年度のCGDESによる補習年間時間数平均は1CGDES当たり191.8時間）等を通して本プロジェクトがその改善に貢献したと考えられる。

上述のとおり人口総数の増加からアクセス指標が減少しているところ、質の向上指数はわずかながら上昇している。就学児童人口の総数変化がなければ、かなり大きな成果が出たと予想される。

質のミニマム・パッケージの算数ドリルの成果が明らかになるにつれ、パイロット地域ではさらにフランス語の補助教材を望む声や、評判を聞きつけたパイロット地域外の保護者や学校長からは算数ドリルの普及を望む声があった。質のミニマム・パッケージが確実に普及し、各CGDESによって継続されることにより、学力向上、それに伴う留年率や中退率の改善が見込まれる。

表-10 就学前教育指標

(単位：%)

		2010～11年	2011～12年	2012～13年	2013～14*年
粗就学率	男子	5.6	6.4	7.3	6.2
	女子	5.7	6.3	7.5	6.9
	全体	5.7	6.3	7.4	6.6

出所：みんなの学校プロジェクト資料

表－ 11 初等教育各種指標

(単位：%)

		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度*
粗新入学率	男子	106.6	103.9	106.9	89.7
	女子	92.7	91.7	91.3	75.9
	全体	99.8	97.9	99.2	82.9
粗就学率	男子	84.9	87.8	89.5	77.7
	女子	67.3	70.7	74.7	64.8
	全体	76.1	79.2	82.0	71.3
留年率	男子	－	4.37	4.4	3.9
	女子	－	4.53	4.5	4.2
	全体	－	4.44	4.4	4.0
初等中退率	男子	9.9	11.7	12.6	12.7
	女子	11.4	12.7	13.5	12.1
	全体	10.5	12.2	13.0	12.4
初等修了率	男子	59.7	63.9	65.5	69.8
	女子	42.6	47.7	49.1	53.5
	全体	51.2	55.8	56.4	61.7
初等修了試験合格率	男子	64.9	57.6	57.7	61.2
	女子	61.6	55.4	56.4	59.7
	全体	63.5	56.7	57.2	60.6
6年－上級進学率	男子	77.4	60.4	57.3	－
	女子	71.4	56.4	54.8	－
	全体	74.8	58.8	56.2	59.5

出所：2012 年度教育年鑑、2013 年度教育年鑑に基づくみんなの学校プロジェクト資料

* 粗就学率低下の主な理由は、2012 年度の国勢調査の結果、就学児童人口が大幅に増えたためである。過去 10 年のトレンドをみると、アクセス状況は改善している。2001～2012 年のニジェールの人口増加率は、予測に使われた 3.2%ではなく、3.9%であった。

(2) 初等課程を終えた児童の割合

初等修了試験合格率は表－ 12 のとおり 2011 年の 56.7%から 2013 年の 60.6%と、(1) 教育指標同様に緩やかな改善が確認される。なお、初等修了試験が 2013 年度より廃止となったため、プロジェクトは 2014 年度からは学習達成度の改善を測るための指標を「年 3 回の期末試験結果の平均点」を基準とすることにした。初等課程を終えた児童の割合の参考として 2014 年の中等学校進学率は全体で平均 56.03%であり、初等修了試験合格率とほぼ同等のもののみなした場合、教育アクセスが横ばいの傾向にあるといえる。

表－12 2010～2013年初等修了試験合格率

初等修了試験 合格率 (%)	2010年	2011年	2012年	2013年
男子	64.9	57.6	57.7	61.2
女子	61.6	55.4	56.4	59.7
全体	63.5	56.7	57.2	60.6

出所：みんなの学校プロジェクト資料

第5章 終了時評価結果

5-1 評価5項目による評価

(1) 妥当性：非常に高い

ニジェールの教育政策とプロジェクト目標の整合性

2012年5月には教育政策文書2013-2020が発表され、これを実践していく戦略として「教育及び研修セクター計画（Programme sectoriel de l'éducation et de la formation：PSEF2014-2024）」が策定された。PSEF2014-2024には、地方分権化に伴うCGDESの役割・能力・権限の強化、州・県・コミューンそれぞれの教育行政レベルにおける能力強化が具体的活動として明記されている。したがって、プロジェクト目標である「ニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDESの学校運営の役割と能力が強化される」は現在においてもニジェールの教育政策の柱の1つであり、整合性が高い。

日本の援助方針とプロジェクト目標の整合性

2015年9月、持続的な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）の目標設定と合わせて日本政府が発表した「平和と成長のための学びの戦略」では、包摂的かつ公正な質の高い学びに向けて教育協力を実施するとしている。日本の対アフリカ支援の基軸であるアフリカ開発会議（Tokyo International Conference on African Development：TICAD）では、教育を優先項目の1つとして掲げており、2008年のTICAD IVで採択された横浜行動計画においては、西アフリカにおける「みんなの学校」モデルを基礎とした学校運営改善の支援対象校を1万校に拡大することを表明している。さらに2013年実施のTICAD Vでは「新たに2,000万人の子どもに対して質の高い教育を提供」することを掲げている。本プロジェクトは日本の支援方針との整合性が高いうえに、政策を具現化するプロジェクトとして注目されている。

ターゲットグループのニーズとプロジェクト目標の整合性

ニジェールの教育指標においては、教育へのアクセスについては緩やかな改善がみられるものの、2013年度の初等教育粗就学率は71.3%であり、中退率は12.4%にのぼり、いまだアクセスの改善が必要とされている。教育の質においては、2013年度の初等教育修了率は61.7%、初等教育修了試験合格率は60.6%と学習達成度が著しく低く、教育の質の改善が課題となっている。本プロジェクトはフェーズ2までに設立された全国CGDESの能力強化や、地方分権化の下でCGDESを支えるさまざまな仕組みづくりとその強化を通じて、教育のアクセスと質の向上をめざすものであり、ニジェール国民のニーズに確実に合致している。

中等（前期中等）教育に関しては、アクセス及び質の面で大きな課題を抱えており、これらの問題の改善にCOGESが貢献することから、中等学校において機能するCOGESモデルの構築と拡大の意義は高い。

プロジェクトの実施方針の適切性

ニジェールの地方分権化の流れのなかで、学校運営委員会は教育政策でも重要な役割を担うものとして学校運営の権限が与えられている。教育環境整備のための資金・資源や人材が限られているニジェールでは、学校運営委員会による資金・資源動員、運営管理がますます求められている。したがって、CGDESの役割と能力強化による教育のアクセスと質の向上をめざす本プロジェクトのアプローチは適切である。

他ドナーとの連携の適切性

本プロジェクトの成果や教訓は技術的・財政的開発パートナー（Partenaire Technique et Financier：PTF）会合、西アフリカ地域経験共有セミナー等を通して周辺国（6カ国）や関係ドナー（世界銀行、UNESCO、GPE等）と共有されている。また、プロジェクト活動として実施されたインパクト評価により成果が科学的に分析され、その結果が共有されている。これらの情報共有の結果、GPEの資金による世界銀行管理のプロジェクト「質の教育支援プロジェクト（PAEQ）」が、みんなの学校プロジェクトにより開発された補助金有効活用モデルを採用した。同補助金有効活用モデルは今後2,800校まで普及される予定である。これは、世界銀行との連携がフェーズ1から継続されてきた結果であるといえる。世界銀行は、本プロジェクトのフェーズ1で開発された学校運営委員会活性化モデル（ミニマム・パッケージ）を当時1万校に全国普及する際、本プロジェクトの要請を受け、教育省を通して活動資金（研修費用、アニメーター雇用費用、普及期間のモニタリング費用）を拠出した。また別途、学校運営委員会担当官の移動手段であるバイクの購入も支援するなど、本プロジェクトとの連携の実績がある。

なお、UNICEFとは、本プロジェクトのフェーズ1（2004～2007年）やフェーズ2（2007～2010年）においてコミュニティ幼稚園（Jardins d'enfants communautaires：JEC）に関する連携がなされた。UNICEFとの連携による普及活動の結果、2009年度末までにこの連携によるニジェール全国のJECは165園、対象園児は1万人（当時のニジェールの就学前教育就学者の約15%）となり、初等教育就学準備や初等教育へのスムーズな移行を促進している。

他ドナーの資金支援によるプロジェクトの成果の拡大は、プロジェクトの活動が高く評価されている結果である。

(2) 有効性：高い

プロジェクト目標の達成度

本プロジェクトの目標は、現在設定されている指標のうえでは既に達成されている。教育アクセスについては1教室当たりの児童数は41名になっており、就学児童数に見合った小学校の教室数が確保されているといえる。

教育の質に関しては、2014年度においてCGDESによる補習年間時間数の過去3年間の平均が173.76時間となっており、目標の年150時間以上を十分に達成している。補習時間の確保をはじめとする質のミニマム・パッケージ等により、多くの学校で初等修了試験の成績向上など教育開発の質の面も成果を上げていることが確認された。

これらの活動を支え・促進するCGDES連合に対するコミュニケーションからの予算措置も80%以上になっており、地方分権化での教育開発（教育のアクセス及び質）においてCGDESの役割と能力が着実に強化されているといえる。

成果のプロジェクト目標への貢献度

プロジェクトは成果1として「教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献するCGDES活動が継続して実施される制度が確立される」、成果2として「CGDES活動を通じた教育のアクセス及び質の改善のために、次のモデルが開発される〔「持続するフォーラム・アプローチ」〕「質のミニマム・パッケージ」「リソース管理・運営」「中等学校の機能する学校運営委員会（COGES）」の大きく2つのコンポーネントで構成されている。成果1は、これまでのフェー

ズ1、フェーズ2の支援で確立された学校運営委員会活動の全国展開の成果を継続させるため、特に中央レベルにおけるモニタリング能力強化を図るものである。成果2では、学校運営委員会活動をさらに活性化させ、学校運営委員会活動によって教育の質向上をめざすために3つのモデル（及び中等学校の機能するCOGESモデル）の開発が実施されている。成果1により、CGDES活動が持続的に実施される制度を構築し、その制度の下に成果2で開発したモデルを実践していくことで、プロジェクト目標が達成可能となることから、プロジェクト目標とその達成に必要な成果は適切に設定され、妥当なものであったといえる。プロジェクト目標の達成度では、現在設定されている3つの指標を基準に達成度の検証で「高い」と判断できる。したがって、プロジェクトの有効性は高い。

成果からプロジェクト目標に至る外部条件「経済・治安状況が著しく悪化しない」

ニジェールの治安状況の悪化から日本政府・JICAニジェール支所における安全対策レベルが上がり、プロジェクト専門家に移動制限が生じたことから、日本人専門家が直接現場でモニタリング活動を実施することが不可能となった。モニタリング活動はプロジェクトが雇用するローカルコンサルタントを通して行うことになり、日本人専門家は現場での活動に係る的確かつタイムリーな判断が下しづらい状況となっている。また、治安悪化が懸念されたため、予定していた短期専門家の一部の派遣が中止された。しかしながら、①目的と内容に照らして可能な限り首都ニアメで研修や会合を行ったこと、②ニアメ外での研修・会議においては州教育事務所長との合意によって責任者へ送金を行い支払作業を実施したこと、③GPSを活用してプロジェクト車両の使用状況等を確認しドライバーの出張時の労務管理・安全管理を徹底したこと等、プロジェクトチーム（専門家、プロジェクトが雇用するローカルコンサルタント、事務スタッフ）の尽力や、さまざまな経験からの活動への工夫、ニジェール側C/Pの取り組みにより、プロジェクト活動への影響を最小限に抑えることができおり、さらなる治安状況の悪化がない限り、プロジェクト目標達成に大きな支障はない。

(3) 効率性：高い

成果の達成度と投入の適切さ

成果（アウトプット）はいずれもほぼ達成されている。具体的には、活動1-1から1-8の結果、学校運営委員会のモニタリング制度が構築され、学校運営委員会調整部への技術移転は確実に進められ、モニタリング活動が国家予算項目となった。今では自国予算で自立したモニタリングができるようになっている。また、活動2-1-1から2-4-7までの27活動を通して、①フォーラム・アプローチモデル、②質のミニマム・パッケージ、③補助金モデルとその応用である統合モデルの開発が効率的に行われた。そのため、プロジェクトは残りの期間を活用して開発したモデルの改善に取り組むことができている。

専門家派遣については、個人の事情による任期短縮や安全管理上の問題による派遣中止などがあったが、ローカルスタッフやプロジェクトコンサルタント等現地の人的資源の活躍により、プロジェクトに負の影響が生じることなく前進することができている。またプロジェクトチームの豊富な経験と献身的な働き、ニジェール側C/Pの尽力により困難な状況を克服してきている。

供与機材を含む投入実績については付属資料1.（ミニッツ別添3.）のとおりであり、日本側の総投入額は約4億円（約20億FCFA）、ニジェール政府執行額は約1億円（約5億

FCFA)、コミュニティ動員額は総額約 18 億 6,000 万円 (約 93 億 FCFA) となっている。これにより全国約 1 万 8,000 校において CGDES 活動による教育開発を実践し、アクセスや質の改善に大きく貢献した。1 校当たりのプロジェクト投入額は 2 万 7,800 円程度 (約 14 万 FCFA) であり、コスト効率は非常に高いといえる。

総じて、投入の質、量は適切だったが、国家予算の執行時期が遅れたことで、地方レベルでのモニタリング活動等に少なからず影響を及ぼしている。

成果の発現における貢献・阻害要因

各成果の発現に貢献した要因として、①プロジェクト (JICA 及びニジェール教育省) としての投入規模は大きくないものの、コミュニティからの動員を図りながらニジェール全土の小学校においてさまざまな活動が実施できていること、②ロールプレイを取り入れた研修手法により効果的・効率的に記憶に残る学び (研修) の場が提供できていること、③プロジェクト運営とプロジェクト活動においてローカルスタッフや信頼のおけるプロジェクトコンサルタントを確保し効果的に活用していることが挙げられる。

各成果の発現を阻害した要因としては、①安全対策の一環として日本人専門家の首都外移動が禁止されたこと (ただし、これにより現地リソースの積極的な活用がなされ、効率性が上がった面もある)、② CGDES モニタリング活動の実施に向けた国家予算の執行が恒常的に、また大幅に遅れることなどが挙げられる。

- (4) インパクト：正のインパクト、プロジェクト活動の継続により、上位目標が達成される見込みも高い

上位目標の達成見込み

本プロジェクトの上位目標は「学校分権化運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する」であり、プロジェクト終了後 3 年以内に達成すべき目標として設定されている。具体的には、就学率、留年率、中退率、修了率といった教育へのアクセスを測る指標と、初等教育の修了率や修了試験合格率などといった教育の質の向上を測る指標の改善をめざしている。終了時評価時点の聞き取り調査からは、ほとんどの関係者がこのままプロジェクトのアプローチを辛抱強く続ければ上位目標の達成が可能であると認識していることが判明した。就学率、留年率、中退率に関しては、2012 年実施の国勢調査の結果を受けての就学児童推定人口の大幅な増加により、2012 年度と 2013 年度の比較では低下しているが、この統計上の特殊要因を除いて考えれば、ニジェールの教育指標はフェーズ 1 のプロジェクト開始時から一貫して緩やかな改善の傾向にある。このような傾向があり、他に教育の質に影響するような全国規模の事業が実施されていないことからプロジェクトの貢献度は高いと考えられる。このことから、今後もプロジェクト活動や普及を継続することで、上位目標の達成見込みも高い。

本プロジェクトでは教育の質向上をめざす CGDES 活動が中心に実施されていることから、修了率及び学力向上に貢献するだけでなく、住民の意識の変革や、学校と地域住民間の信頼関係が醸成されていることが実感されており、その結果、就学に関しても促進していることが聞き取り調査から明らかになった。

予測していなかったインパクトとして、CGDES の学校運営により教育環境が改善されたことによる教員のモチベーションの向上が挙げられており、教育の質の向上に貢献すると考えられる。

補助金モデルの無作為化比較実験（Randomized Control Trial：RCT）を用いた定量的インパクト評価の結果、児童学力テストの結果において、リソース管理及び計画策定の能力強化を実施したうえで補助金を導入したグループが他グループよりも平均点が高いことが確認された。プロジェクトにて開発したモデルを実施することで児童の学力向上が図られ、教育内部効率性の改善につながることも期待される。

上位目標とプロジェクト目標の因果関係

上位目標である各教育指標の改善を図る手段として、プロジェクトではCGDESやCOGESを通して住民の学校運営活動への参加を促進している。地方分権化を進めるニジェールにおいて教育開発（教育のアクセスと質）を進めるうえでCGDESは大きな役割を担っている。したがって、プロジェクト目標「住民参加を通じたニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDESの学校運営の役割と能力が強化される」が達成され、プロジェクト終了後も住民が学校の運営に携わっていく持続性を確保できれば、プロジェクト目標と上位目標の因果関係が成立しているため、上位目標の達成が見込める。

プロジェクト目標から上位目標達成に至る外部条件

外部条件① 「各学校に必要な教員の措置が適切に行われる」の現状

「PSEF 2014-2024」によると、1998年から契約教員が大量に雇用されていることにより、教員数は1999年の1万1,000名から2013年度は約6万3,000名に増加している。今後も基本的には教員数は増え続けると予想される。初等教育課程における教員の能力や配置の適切性については正確な状況把握ができないものの、プロジェクトが開始された当初と外部条件は変化していない。なお、教員配置については、都市と農村部の不均衡がある。

外部条件② 「教育省の予算が確保される」の現状

教育省の予算は確保されているが、一部執行が遅れている。上位目標達成に向け、適切な予算執行が期待される。また、プロジェクトのスコープ外である教室について、その多くが藁葺き教室であり、恒久的な教室建設が必要である。予算確保と併せて積極的かつ長期的な取り組みが必要である。

外部条件③ 「経済・治安状況が著しく悪化しない」の現状

西アフリカ地域の治安状況にかんがみ、ニジェールの経済・治安状況の変化に留意する必要がある。

波及効果

・ 地域的な取り組みへの発展

ニジェールの「みんなの学校」はJICAが西アフリカで実施する最初の学校運営改善プロジェクトとして開始され、現在は近隣諸国のモデル国となっている。モデル国として近隣諸国に及ぼす影響は大きく、また視察や地域経験共有セミナーを通じて近隣諸国とのネットワークも構築されつつあり、西アフリカ地域全体としての学校運営改善の効果発現に寄与しているといえる。

具体的には、ニジェールでの成功は同西アフリカ地域の周辺国の行政官・政策決定者を触発し、周辺国での「みんなの学校プロジェクト」の実施につながった。同類プロジェクトが3カ国（セネガル、マリ、ブルキナファソ）で実施されており、1カ国（マダガスカル）では2016年度からの実施が予定されている。また、「みんなの学校プロジェクト」の要素を取り込んだプロジェクトが1カ国（コートジボワール）で実施されている。これらは、経

験共有セミナーという形で各国同士の学び合いが行われた結果として地域的な活動に展開してきたものであり、その中心としてニジェールが常に先頭を走ってきた。

- ・ 他ドナーによるスケールアップ等

西アフリカ地域で分権型学校運営の流れをいち早くつかみつつ、機能する住民参加型学校運営改善のモデルを示した結果、他ドナー（世界銀行等）によって、みんなの学校プロジェクトの要素を取り入れたプロジェクトが実施された。具体的には、フェーズ1で開発した学校運委員会活性化モデル（ミニマム・パッケージ）が世界銀行の資金により当時1万校に全国普及された。また、フェーズ1及びフェーズ2で設立したコミュニティ幼稚園165園の保育者研修をUNICEFが実施し、1万人の園児が裨益した。

- ・ 他セクターへの波及

プロジェクトが開発した住民参加型学校運営モデルは例えば水衛生分野では水管理委員会や美化委員会となり、保健セクターでは住民参加型マラリア対策のための保健委員会が試された。農業においては農業管理委員会が設置されている。

(5) 持続性：中程度

政策・制度面

「教育及び研修セクタープログラム（PSEF 2014-2024）」では、地方分権化に伴うCGDESの役割や能力強化、権限の強化を図ること、そして州・県・コミューンそれぞれの教育行政レベルの能力強化を図ることをめざしており、政策的にプロジェクト終了後もCGDESを通じた教育開発が実施される可能性は高い。

CGDES活動を包括的に支援するための「CGDES・CGDES 連合活動モニタリング・支援システム」省令案が作成され、発布見込みであることをはじめ、プロジェクトにおいて開発されたモデルはすべて公式に承認されており、制度的な面での持続性も高いといえる。

プロジェクトが構築してきたCGDES活動モニタリングの制度では、学校からコミューンレベル（CGDES 連合）、県レベル、州レベル、中央レベルへと情報が吸い上げられる仕組みや、中央から学校まで情報を伝達する仕組みができ上がっており、今後も現場の状況に合わせた政策・制度の運用が期待される。

組織・財政面

学校レベルの活動計画は、実現可能な範囲での活動計画であることから、組織的にも財政的にも持続性は高い。

学校レベルの活動を支えるCGDES連合（Fédération Communale des CGDES：FCC）、県や州レベルのCGDESフォーカルポイント及びCGDES調整部の組織及び人材に対しては、これまで十分な能力強化が実施されてきており、各アクターは自らのミッションをよく理解し通常の活動を実施することは十分に可能である。

財政面についても、基本的に予算措置は機能していることが確認された。具体的には、CGDESモニタリング費用は、プロジェクトの働きかけの結果、国家予算への計上が実現した。中央レベルのモニタリング機会であるCGDES経験共有セミナーの開催費用も国家予算に計上されるようプロジェクトが引き続き働きかけており、これが実現すれば、モニタリング活動に係るすべての費用を国家予算で賄うことになる。しかしながら、前述のとおり予算執行において遅れが生じているなど一部課題が残されている。

コミュニンの予算措置に関し、CGDES 連合の成果が認められるに従い、各コミュニンが CGDES 連合の開催や連絡協議会に予算執行するなど前進がみられている。なお、コミュニンに責任と権限が委譲された後も予算が適切に計画・執行されるよう、中央政府はコミュニンに対し指導していく必要がある。これは今後コミュニンに責任と権限が委譲されることから、財政面に加え組織体制整備、能力強化がさらに必要になる。

財政面に関して、GPE/AFD コモンファンドによる支援が 5 州 2,800 校を対象に供与されることが決まり、2014 年度より 4 年間補助金が対象校に供与される。この補助金が適切に活用・管理されるようにするため、CGDES 調整部がプロジェクトの成果を活用して研修等を実施している。

インパクト評価調査結果からも明らかにされており、補助金政策の成果を上げるためには、単に資金を配賦するだけでなく、補助金供与の前に CGDES に対する計画策定及び資金管理研修を実施する必要があることから、プロジェクトで開発したモデルが上記の 2,800 校でも活用されることが期待される。また、質のミニマム・パッケージのうち、児童が活用する算数ドリルなどの教材に関しては印刷費用などの予算措置が持続性のカギとなっており、今後も他ドナー資金の活用をニジェール政府は積極的に検討していく必要がある。

CGDES を通して収集している学校運営委員会に関するデータが、統計局が公表する既存の統計データで活用されていることを確認した。他ドナーの聞き取りでは、例えば女子就学に関するデータが公表されていないという指摘もあった。CGDES の活動計画や活動状況のまとめが既存のレビュー制度を通してさらに広く共有されることで、より信頼性の高い教育統計につながる可能性がある。

中等教育省においては、COGES 推進室は設置されたものの、現段階ではモデル開発フェーズであり、今後必要な活動費に対する予算措置が期待される。

技術面

初等教育省に関しては、CGDES 調整部に対する能力強化が図られ、調整部としての年間活動計画が作成されている。また、各種活動を実施するためのマニュアルやガイドラインが策定され、CGDES 調整部及び地方行政官（主に州・県 CGDES 監督官）への研修を実施し、これらの人材が CGDES への技術移転を実施・モニタリングしているので、持続性がある。

初等教育教員養成校の講師への CGDES 研修は、教員養成課程において CGDES 政策の正しい理解を深めるものであり、今後も実施される見通しのため、持続性が見込める。しかし、現在では単発の特別講義に限られていることから、学校分権化単元の授業内容に反映することで持続的に講義が行われる必要がある。

中等教育省に関しては、中学校 COGES 設置マニュアルやモニタリング・評価プロセスのマニュアルなどが開発・整備されており、基本的な技術について移転がされていると想定される。

その他の CGDES 連合及び学校レベルの CGDES に関しては、これまでのフェーズ 1 及びフェーズ 2 の成果もあり活動は比較的安定しているが、現状では異動などによる新任者への適切な引継ぎや、定期的な能力強化は十分に実施されていないため、継続的な能力強化が必要とされている。

5-2 貢献要因と阻害要因の検証

(1) 効果発現に貢献した要因

最小限の投入で最大限の効果をもたらすモデルの開発

「みんなの学校プロジェクト」が開発したモデルは、教育開発への地域住民の参加により、どんな学校環境でも適用可能であり、最小限の投入で最大限の効果をもたらした。これらのモデルの導入により、住民と学校の情報共有が確保され、住民のニーズを反映した活動が実施され、子どもにとってより良い学習環境づくりが可能となった。さらに、関係者間の信頼関係が醸成された。この信頼関係が行政と学校の建設的な連携を生み、ニジェールの教育開発に大きく貢献したほか、プロジェクトのより高い有効性、効率性、インパクトをもたらした。

インパクト評価の実施

インパクト評価が実施され客観的な統計データに基づく介入効果を示したことで、モデルの効率性及び有効性を示すことができ、またその結果が現場の関係者の自信にもつながっていることが確認された。効果を客観的に示したことが対外的には他ドナーとの連携につながり、モデルの普及が可能となり、より高いインパクトに寄与した。

本邦研修の効果的な活用

本邦研修ではタイミング良くキーパーソンを日本に招へいし、日本の経験を共有することでプロジェクトに対する理解を促進した。その結果、本邦研修に参加した初等教育事務次官のバックアップにより CGDES モニタリング費用が国家予算に計上されるなど、キーパーソンからの支援を得ることができ、有効性、インパクト、持続性に大きく寄与した。

ニジェール国民の献身的な貢献

プロジェクトの効果発現はすべて、ニジェール国民の貢献によってなされた。プロジェクト期間を通して、コミュニティから約 18 億 6,000 万円 (93 億 FCFA) が教育環境の改善のために動員されたことより、非常に高いコスト効率性に寄与した。

実用性の高い有効なツールや研修手法の開発及び適切な能力強化

「みんなの学校プロジェクト」では非識字者である住民も含め、だれにでも理解しやすく、実用性の高い有効なツールや研修手法を開発し、関係者への適切な能力強化を行ってきた。この能力強化が住民や行政官のプロジェクトモデルへの深い理解を生み、透明性の高い資金管理・運用、住民参加による基礎学力の向上、関係者間の連携による地域教育開発などにおいて未曾有の成果を上げた。特に各種研修では、実際の活動を想定したロールプレイを研修受講者が演じる「シミュレーション手法」を取り入れたことで、効果的な技術移転に成功している。

厳しい環境のなかで C/P の献身的な貢献

厳しい環境のなかで C/P の献身的な貢献はプロジェクトの成果発現や成果モニタリングを成立させ、より高い有効性、効率性とインパクトに寄与した。

研修内容の共有の促進

研修参加住民に対し、研修後のコミュニティへのフィードバックを促進したことで、研修に参加していない地域住民とも研修内容が共有されるなど、より高い持続性に貢献した。

(2) 阻害要因

国家予算執行の遅延

プロジェクト活動の予算化はなされたものの、国家予算執行の遅延により計画時期に適切な資金配賦がなされず、円滑な活動実施（例えばCGDES調整部による地方のCGDES活動モニタリング等）に支障をきたしている。このことは、持続性が中程度となった大きな理由となったがプロジェクトスタッフやC/Pの献身的な貢献により結果的に目標達成には大きく影響していない。

5-3 結論

全体としてプロジェクトの成果やプロジェクト目標は高いレベルで達成されている。これは住民をはじめとするニジェール側、日本側関係者の献身的な努力によって成し得たといえる。

評価5項目に関し、妥当性は非常に高く、有効性、効率性についても高いと評価される。特に効率性については、限られた投入で必要な活動を担保するためのさまざまな工夫がなされ、期待される成果を産出している。インパクトについては、上位目標の達成見込みや正の波及効果が確認された。持続性は中程度としている。

初等レベルに関しては、今後も住民の自助努力により学校レベルにおける持続性の担保ができる。全体的な持続性の担保をより確実なものにするためには、モニタリングを継続しつつ、具体的な成果を発信し、CGDES支持層の拡大と適切な予算措置と執行を確保していく必要がある。また、CGDESを通して収集しているデータが既存のレビュー制度やプロセスとも広く共有されることで、より信頼度の高い教育統計につなげていく可能性があることも確認できたことから、あと少しの努力と工夫でCGDES役割及び重要性がさらに広く認識され、制度組織面の持続性につながると考える。

また、中等教育レベルに関しては、今後、首都近郊で開発されたモデルを全国展開していくためには中央・地方関係者のさらなる能力強化、強力なモニタリング制度の構築及びそのための適切な予算措置（執行）が必要である。

第6章 提言

6-1 初等教育省に対する提言（プロジェクト期間中及びプロジェクト終了後）

(1) プロジェクトにて開発した各種モデルの活用・普及について

プロジェクトにおいて住民参加型学校運営を通じてより効果的に教育開発（アクセスと質の改善）を進めるために、以下のようなモデルが開発された。以下のモデルはいずれもニジェールの学校現場での実践において試行錯誤を重ねながら開発されたものであり、ニジェールの学校現場に即した汎用性の高いモデルとなっている。また、同モデルの有効性はインパクト評価においても実証されており、世界銀行 PAEQ（質の教育支援プロジェクト）においても補助金有効活用モデルが取り入れられている。このようなことから、開発されたモデルが活用・普及されるべく、政策意思決定者の強いイニシアティブにより以下のような取り組みを実施することが期待される。

1) 補助金有効活用モデルの普及の準備

補助金有効活用モデルは、現在世界銀行管理の PAEQ の補助金コンポーネントの1つとして1,000校に普及を進めているが、今後、同モデルが効果を十分に発揮できるよう、①研修講師の養成、②研修計画の作成、など綿密な準備を行うことが必要である。また、成果を正しくとらえるための実施前と実施後のテストの比較分析を行うこと、補助金供与プロセスを学校運営委員会の活動時期や成果発現に支障をきたさないよう計画的かつ潤滑に進める努力をすることが重要である。

2) 質のミニマム・パッケージモデルの普及

PAEQ の補助金コンポーネント対象180校では、質のミニマム・パッケージと補助金有効活用モデルが統合され、結合モデルとして既に採用されているが、この採用対象を PAEQ 補助金対象校全2,800校まで拡大する。

また、質のミニマム・パッケージの普及、及びそれに伴う算数ドリルの広範囲なニーズに応えられるよう、ドリルの普及体制（入手ルート）を整える必要がある。具体的には、プロジェクト終了後にドリルの印刷・配送・販売のコストを負担できる主体を特定し、その体制を整備する必要がある。

3) 新教育フォーラムモデル、コミュニケーション連絡協議会（Cadre de Concertation Communal : CACOCOM）の普及

新教育フォーラムモデルの試行では、既に女子の就学促進に大きな成果が出ている。この活動を総括して、モデルの要素を見直し、改良のうえ、普及していくことが重要である。特に、新教育フォーラムモデルにおける CACOCOM は、FCC とコミュニケーション、及び現場の教育行政の間での情報共有を通して、地域教育開発にかかる関係者の連携を促進した。さらに、教育分野における住民ニーズと地域的な教育問題に即したコミュニケーション予算配分を促進した優良事例がみられた。これらのことから、この CACOCOM は地域教育開発の核となり発展していく可能性が高いと判断される。今後、これらの活動を総括し、この枠組みをさらに効果的にするために、質のミニマム・パッケージなどのモデルと組み合わせるうえで、他地域への普及を推進することが重要である。

(2) CGDES 活動のモニタリング予算の実質的負担

学校運営委員会モニタリング関係活動の国家予算は2013年以降一部執行されている。しかし、ニジェールの教育開発における学校運営委員会活動の貢献とその維持の重要性にかんがみ、また自力でモデル拡大をすることが期待されるなか、学校運営にかかるモニタリングはさらに重要になってくる。したがって、年2回の経験共有セミナーの開催についても、2016年以降、国家予算の一部に計上されるべきである。

6-2 中等教育省に対する提言（プロジェクト期間中及びプロジェクト終了後）

(1) 学校運営委員会中央推進室の業務費予算確保

学校運営委員会中央推進室は、2014年10月の省令で設置が決定し、現在、学校運営委員会政策の実施主体になっている。しかし、いまだに中等教育省は、中央推進室並びにその地方関係者の活動費用にかかる予算請求に答えていない。今後の中等教育における学校運営委員会政策発展のために、2016年度及びそれ以降の確実な予算措置が望まれる。

(2) 学校運営委員会関連法令整備

中等教育省では、学校運営委員会に関する省令が2011年4月に発布されているが、現状に合わせた改定が必要である。プロジェクトと中等教育省と合同で実施したパイロット活動の成果を受け、学校運営委員会並びにその支援体制にかかる新しい省令をプロジェクト期間中に案を作成し、2016年中旬までに発布することが望ましい。

(3) 機能する中学校「学校運営委員会」モデルの承認と全国普及準備

現在、みんなの学校プロジェクトで実証中の機能する中学校「学校運営委員会」モデルは、今後、全国普及される方向にあるが、その成果を取りまとめ、普及モデルとして承認するプロセスを踏み、全国普及に向け、そのロードマップも作成する必要がある。

(4) 中学校「学校運営委員会」モニタリング体制への展望

今後、機能する中学校「学校運営委員会」モデルの全国普及に際しては、全国の学校運営委員会活動をモニタリング・支援する体制への展望を描く必要がある。また、モニタリング体制確立についてもロードマップを来年開催予定の経験共有セミナーまでに取りまとめ、承認する必要がある。このロードマップに従い、コミュニティ・学校現場とともに、教育行政側においても学校運営委員会活動を支援・モニタリングする体制整備を進め、中等教育省による学校運営委員会活動モニタリング費用の国家予算化への取り組みが必要である。

第7章 教訓

(1) 成果の分析と発信（インパクト評価の実施）

School Based Management (SBM) は、政府から学校レベルへの権限の委譲と定義され、過去 20 年間にわたり世界各地で広がりを見せている。学校補助金の供与は SBM においてよくみられる介入であり、親やコミュニティのメンバーを含む学校委員会に補助金を管理する権限が与えられることが多い。

しかし、近年の研究では、学校補助金を使用した学校分権化運営は児童・生徒の学習への影響が限定的であることが言及されている。児童・生徒の学習効果を向上させるための、より効果的な介入を追求するために、JICA はニジェール初等教育省と共同でモデルのランダム化評価を実施した。モデルでは CGDES のメンバーに対し、効果的に学校の補助金を活用するための行動計画を作成する能力を強化する研修を導入した。この結果、介入から 2 年後、補助金グループの生徒の成績との有意の差はみられなかったが、能力開発グループの数学とフランス語の成績は比較グループの成績よりも向上していることがわかった。

このように成果を科学的に分析することにより、当該国政府は明確な根拠（エビデンス）によって政策判断が可能となり、当該取り組みのスケールアップ、ひいては効果的な教育開発の実施が期待される。

また、このような客観的な根拠（エビデンス）を示すことで、他ドナー（例：世界銀行）の事業などにも同モデルが取り入れられることを後押しし、他ドナーとの連携によるスケールアップの実現にも寄与する。

このようなことから、成果の客観的な評価を可能な限り行い、その成果をしっかりと対外的に発信していくことが重要な教訓である。

なお、モデル開発のステージにおいては、基本的に自己資金により、タイミングよく効果的な介入を行うことが現実的であり、この際にも一定規模の投入を確保することが円滑なモデル開発（あるいはパイロット事業の実施）には重要である。

(2) 国同士の学び合い / グローバルな学びの推進

ニジェール「みんなの学校プロジェクト」は JICA が主に西アフリカ地域で実施する学校運営改善プロジェクトの先駆的な役割を常に果たしており、近隣諸国のモデル的な取り組みとなっている。

近年は域内経験共有セミナー等を年 1 回程度は開催することにより、類似の問題を抱える国同士が互いに学び合うことで、国を超えて成果の拡大・再生産を実現しつつある。

また、ニジェールにとってもこのような機会は良い刺激となっており、ニジェール側関係者のモチベーションの向上につながっている。将来的には、ニジェールも他国から学ぶべき事項が出てくる可能性があり、このような学び合いの取り組みをプロジェクトの一環として積極的に実施することの意義は高い。

付 属 資 料

1. ミニッツ (仏文)
 - 別添 (ANNEX)
 1. プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)
 2. 活動計画表 (PO)
 3. 投入実績
 4. 合同調整委員会開催歴
 5. セミナー開催歴
 6. 成果品一覧
2. 評価グリッド
3. 面談者リスト
4. 面談・視察録
5. PDM (第1版)

COMPTE RENDU DES DISCUSSIONS
ENTRE
LA MISSION JAPONAISE DE L'EVALUATION FINALE
ET
LES AUTORITES CONCERNEES DE LA REPUBLIQUE DU NIGER
SUR
LA COOPERATION TECHNIQUE JAPONAISE POUR LE PROJET « ECOLE
POUR TOUS ; PROJET D'APPUI AU DEVELOPPEMENT DE L'EDUCATION
A TRAVERS LA PARTICIPATION COMMUNAUTAIRE AU NIGER »

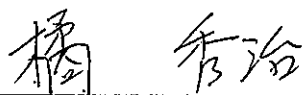
La Mission Japonaise de l'Evaluation Finale (ci-après désignée « la Mission ») de l'Agence Japonaise de Coopération Internationale dirigée par M. Hideharu TACHIBANA, a séjourné en République du Niger du 30 novembre au 16 décembre 2015 pour l'Evaluation Finale de la coopération technique pour le Projet « Ecole Pour Tous : Projet d'Appui au Développement de l'Education à travers la participation communautaire » (ci-après désigné « le Projet »).

Au cours de son séjour au Niger, la Mission et les autorités compétentes nigériennes (ci-après désignées 'la partie Nigérienne') ont tenu une série de discussions et conjointement procédé à l'évaluation des réalisations du Projet.

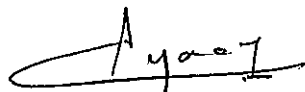
Comme résultats des discussions, les deux parties se sont mises d'accord sur les termes du document en annexe.

Dans ce rapport conjoint, le Ministère de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique et le Ministère des Enseignements Secondaires prennent en charge les volets qui relèvent de leurs compétences respectives.

Niamey, le 14 décembre 2015



M. Hideharu TACHIBANA
Chef
Mission Japonaise de l'Evaluation
Finale, Agence Japonaise de
Coopération Internationale
Japon



M. Elhadji ANOUNOU
Yacoubou
Secrétaire Général,
Ministère de l'Enseignement
Primaire, de l'Alphabétisation,
de la Promotion des Langues
Nationales et de l'Education
Civique
République du Niger



M. Elhadji BOUBE Mamane
Secrétaire Général,
Ministère des Enseignements
Secondaires
République du Niger

RAPPORT CONJOINT D'EVALUATION FINALE DU PROJET

TABLE DES MATIERES

- 1 Introduction
 - 1-1 Contexte
 - 1-2 But de l'Evaluation Finale
 - 1-3 Période
 - 1-4 Membres de l'Evaluation Finale
 - 1-5 Méthodologie de l'Evaluation Finale
- 2 Résultats de l'évaluation
 - 2-1 Degré de réalisation du Projet
 - 2-1-1 Etat de réalisation des résultats
 - 2-1-2 Le but du Projet
 - 2-1-3 L'Objectif Global
 - 2-2 Résultats de l'évaluation
 - 2-2-1 Processus d'exécution
 - 2-2-2 Evaluation par 5 critères
 - 2-2-3 Facteurs ayant contribué à l'émergence des effets
 - 2-2-4 Facteurs qui ont entravé l'émergence des effets
 - 2-3 Conclusion et recommandations de l'évaluation à 5 critères
- 3 Recommandations
 - 3-1 Au MEP/A/PLN/EC (Durant et après le Projet)
 - 3-2 Au MES (Durant et après le Projet)
- 4 Leçons tirées

ANNEXES

- 1 Cadre Logique (PDM)
- 2 Plan d'Opération (PO)
- 3 Contribution au Projet
- 4 Liste des Comités Mixtes de Coordination tenus
- 5 Liste des ateliers tenus
- 6 Liste des produits/manuels élaborés par le Projet

SIGLES ET ABRÉVIATIONS

AD	Autorisation des dépenses
AFD	Agence Française de Développement
AG	Assemblée Générale
BM	Banque Mondiale
CACOCOM	Cadre de Concertation Communal
C/CGDES	Coordination des Comités de Gestion Décentralisée des Etablissements Scolaires
CE1	Cours Elémentaire 1 ^{ère} Année
CE2	Cours Elémentaire 2 ^{ème} Année
CEPE-FA	Certificat d'Études Primaires Elémentaires Franco-Arabes
CERF	Comité Exécutif Régional du Forum
CFEPD	Certificat de Fin d'Etudes du Premier Degré
CGDES	Comité de Gestion de Décentralisation d'Etablissements Scolaires
CI	Cours d'Initiation
CM1	Cours Moyen 1 ^{ère} Année
CM2	Cours Moyen 2 ^{ème} Année
CNP/COGES	Cellule Nationale de Promotion des COGES
COGES	Comité de Gestion des Etablissements Scolaires
COGES-ES	Comités de Gestion des Etablissements Scolaires d'Enseignement Secondaire
DDEP	Direction Départementale de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique
DEP	Direction des Etudes et de la Programmation
DREP	Direction Régionale de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique
DFIC	Direction de la Formation Initiale et Continue
ENI	Ecole Normales d'Instituteurs
EPT	Ecole Pour Tous
FCC	Fédération Communale des CGDES
GDE	Gestion Décentralisée des Ecoles

GIZ	Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit
JEC	Jardins d'Enfants Communautaires
JICA	Agence Japonaise de Coopération Internationale
MEP/A/PLN/EC (MEP)	Ministère de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique
MES	Ministère des Enseignements Secondaires
OCDE/CAD	Organisation de Coopération et de Développement Economique / Comite d'Aide au Développement
ODD	Objectifs du Développement Durable
PAEQ	Projet d'Appui à une Education de Qualité
PDM	Project Design Matrix (Cadre Logique du Projet)
PFD	Point Focal Départemental CGDES/COGES
PFR	Point Focal Régional CGDES/COGES
PMAQ	Paquet Minimum Axé sur la Qualité
PME	Partenariat Mondial pour l'Education Global Partnership for Education
PO	Plan d'Opération
PSEF	Programme Sectoriel de l'Education et de la Formation
PTF	Partenaire Technique et Financier
RGPH	Recensement Général de la Population et de l'Habitat
SCOFI	Scolarisation des jeunes Filles
SG	Secrétaire Général
TBA	Taux Brut d'Admission au CI
TBS	Taux Brut de Scolarisation
TICAD	Tokyo International Conference for African Development

JA

JA

7

1 Introduction

1-1 Contexte

Le gouvernement du Niger a mis en place à partir de 2002 des Comités de Gestion des Etablissements Scolaires (COGES : rebaptisé plus tard CGDES : Comité de Gestion Décentralisée des Etablissements Scolaires) dans 240 écoles, visant à dissiper la méfiance et rétablir la confiance des habitants locaux vis-à-vis de l'école à travers leur participation à la gestion de celle-ci. Le COGES est composé du chef d'établissement, des délégués des enseignants, des représentants de l'APE et de l'association des mères éducatrices et des représentants des élèves. Sa mise en place aux écoles primaires dans l'ensemble du pays a été autorisée par le Ministère de l'Education Nationale en 2005 par lettre N°0056/MEB1/A/SG/DGE/COGES. Cependant, dans beaucoup d'établissements le COGES ne fonctionnait pas comme prévu et il fallait mieux former les acteurs, impliquer davantage les femmes, redéfinir le cadre juridique et renforcer le système de soutien au COGES au niveau central, régional, départemental, communal et local

Face à cette situation, la JICA a initié le Projet d'appui à l'amélioration de la gestion des établissements scolaires à travers la participation communautaire (Ecole Pour Tous) phase 1 pour contribuer à la mise en place d'un modèle fonctionnel de COGES au Niger, et la 2^{ème} phase du Projet a consisté à vulgariser le modèle dans l'ensemble du pays. Par conséquent, des activités d'amélioration de l'éducation sont maintenant menées à travers les CGDES dans toutes les écoles primaires du pays. Les CGDES jouent un rôle important dans l'amélioration de la gestion des établissements scolaires. Ils mènent diverses activités pour contribuer à l'amélioration de l'éducation : élaborer et exécuter des plans d'actions de l'école ; assurer des cours supplémentaires de renforcement, et améliorer les infrastructures et équipements scolaires grâce à la mobilisation des ressources communautaires. Les efforts des CGDES ont commencé à produire certains résultats positifs tels que l'augmentation du taux de réussite de l'examen final. Cependant, le taux de rendement interne demeure encore très faible (le nombre des personnes sortant instruites n'atteignant pas la hauteur des investissements dans l'éducation) avec des taux d'abandon et de redoublement élevés ainsi que le problème de qualité de l'éducation reste encore à régler. Cette situation s'explique par les raisons suivantes : la faiblesse de la qualité des enseignants, la déperdition du temps scolaire, le problème de la gestion du système éducatif, l'indisponibilité des ressources à temps (budget, matériels ou équipements extrêmement limités dans les écoles). Cette situation est en plus accentuée par une décentralisation non encore effective en termes de transferts de ressources nécessaires au développement de l'éducation. Un nombre important de problèmes demeurent donc à résoudre dans le secteur de l'éducation.

Dans ce contexte, le gouvernement du Niger a soumis une requête au gouvernement

du Japon pour améliorer davantage la qualité et l'accès à l'éducation. La requête a consisté à la mise en œuvre d'un projet qui vise à augmenter les ressources utilisables par les écoles à travers les CGDES mis en place dans tout le pays avant la phase 2 mais aussi, et à instaurer un système de renforcement des capacités des CGDES pour une bonne utilisation de ces ressources. En réponse à la requête, le Projet a démarré en mai 2012 pour une période de 4 ans prenant fin en mai 2016. Actuellement, 3 experts japonais (conseiller en chef, renforcement des capacités des CGDES et coordinatrice) travaillent sur place.

Ce Projet s'est fixé pour but d'améliorer la qualité et l'accès à l'éducation de base à travers la gestion des établissements scolaires basée sur la participation communautaire. L'axe principal du projet est le renforcement des rôles et des capacités des CGDES en gestion scolaire. Pour ce faire, différentes activités sont en cours dont principalement : i) la mise en place d'un système permettant la pérennisation des activités des CGDES pour qu'ils contribuent davantage au développement de l'éducation, ii) le développement des modèles pour l'amélioration de la qualité et l'accès à l'éducation (modèle d'approche forum durable, paquet minimum axé sur la qualité, modèle de subvention et modèle COGES fonctionnels au niveau des collèges).

A l'approche de la fin du Projet en mai 2016, une Evaluation Finale est conduite conjointement par la Mission japonaise, le Ministère de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique (ci-après désigné « MEP/A/PLN/EC » ou « MEP»), et le Ministère des Enseignements Secondaires (ci-après désigné « MES »). Elle a pour objectif i) d'analyser le niveau d'atteinte du but du Projet et ses résultats, ii) d'identifier les problèmes à résoudre et iii) les directives à prendre pour la période restante du Projet et enfin iv) de rédiger un rapport conjoint d'évaluation sur lequel la Mission, le MEP/A/PLN/EC et le MES se mettent d'accord.

1-2 But de l'Evaluation Finale

L'Evaluation Finale est conduite en vue de réaliser les activités suivantes :

- (1) Mesurer les résultats obtenus en rapport avec le plan initial en terme d'intrants, de réalisations, de degré de réalisation du plan et identifier les problèmes y découlant ;
- (2) Procéder à l'Evaluation Finale du Projet selon les 5 critères d'évaluation (pertinence, efficacité, efficience, impact et durabilité) en se référant sur le degré de réalisation du plan ;
- (3) Sur la base des résultats d'évaluation, formuler des recommandations à l'équipe du Projet et aux organismes nigériens concernés au sujet des problèmes à résoudre avant la fin du Projet et aboutir à un plan d'activités à

2

- exécuter ;
- (4) Identifier les actions à entreprendre après l'achèvement du Projet ;
 - (5) Tirer les enseignements qui seront utiles à des projets similaires des autres pays et mettre en évidence le rôle joué par le Projet dans le cadre des échanges mutuels entre les pays ;
 - (6) Rédiger un Compte Rendu des Discussions à partir des résultats d'évaluation et de discussions et se mettre d'accord avec la partie Nigérienne.

1-3 Période

L'Evaluation Finale au Niger est conduite du 30 novembre au 16 décembre 2015 selon le calendrier suivant : .

Date	Activités
Le lundi 30 novembre	Arrivée de la consultante de la mission d'évaluation et de l'interprète au Niger
Le mardi 1 ^{er} décembre	Visite du bureau du Projet EPT Visite de courtoisie à la JICA Niger Bureau du Projet (entretien avec des experts et le staff EPT) Visite de courtoisie et entretien avec la C/CGDES Entretien avec des consultants du Projet
Le mercredi 2 décembre	Visite de courtoisie et entretien : DREP Niamey Entretien avec le PFR Niamey Entretien avec la FCC N'Dounga (dépt. Kollo) Entretien avec le PFD Kollo
Le jeudi 3 décembre	<u>PMAQ (Paquet Minimum Axé sur la Qualité)</u> Entretien avec l'ancien CP Kirtachi Entretien avec la FCC Kirtachi (dépt. Kollo) et le CGDES de Babangatta Barkiré (Kirtachi) Entretien avec l'inspecteur franco-arabe, Kollo Visite courtoisie et entretien : Directeur de Cabinet MES
Le vendredi 4 décembre	<u>Modèle de Subvention</u> Entretien avec le DDEP Torodi Entretien avec la FCC Makalondi Entretien avec le CGDES de Patti (Makalondi) Rencontre avec GIZ Rencontre avec l'UNICEF
Le samedi 5 décembre	Rédaction du projet de Compte Rendu des discussions

Le dimanche 6 décembre	Rédaction du projet de Compte Rendu des discussions
Le lundi 7 décembre	Entretien avec le DG ENI Niamey et ses encadreurs Entretien avec le COGES-ES Banizoumbou (Niamey) Rencontre avec la Coopération suisse Arrivée de chef de mission et chargée de planification de coopération à Niamey
Le mardi 8 décembre	Visite de courtoisie au bureau de la JICA Niger Echanges avec des experts EPT Visite de courtoisie et échanges avec la C/CGDES Réunion interne de la mission pour la rédaction du Compte Rendu des Discussions
Le mercredi 9 décembre	Visite courtoisie et échanges avec la Ministre MES et le Directeur de Cabinet MES Visite de courtoisie et échanges avec le SG MEP/A/PLN/EC Visite de courtoisie et échanges avec la CNP COGES MES Rédaction du Compte Rendu des Discussions
Le jeudi 10 décembre	Rencontre avec AFD Rédaction du projet de Compte Rendu des Discussion
Le vendredi 11 décembre	Rencontre avec BM Echanges sur le texte du C/R des Discussions avec le MEP/A/PLN/EC (SG, DEP, C/CGDES) Echanges sur le texte du C/R des Discussions avec le MES (SG, DEP, CNP COGES)
Le samedi 12 décembre	Finalisation du C/R des Discussions
Le dimanche 13 décembre	Finalisation du C/R des Discussions Soumission du C/R des Discussions aux MEP/A/PLN/EC et MES
Le lundi 14 décembre	Finalisation du C/R des Discussions Signature du C/R avec le SG MEP et le SG MES et Réception Visite courtoisie et compte rendu de la mission à la Ministre MES Compte rendu à la JICA Niger et départ du chef de mission
Le mardi 15 décembre	Echanges avec le Projet et la JICA Niger
Le mercredi 16 décembre	Observation des activités du Projet ; échanges avec les acteurs concernés, etc. Départ de la mission (chargée de planification de la mission, consultante et interprète)

1-4 Membres de l'Evaluation Finale

(1) Membres du Comité mixte d'évaluation (partie nigérienne)

- Mme Halidou Maïmouna BANA** Agent à la Division de la Formation et des Innovations, C/CGDES, MEP/A/PLN/EC
- Mme BAYERO Fatima** Agent au Service d'Information et de Mobilisation des Partenaires et Acteurs, CNP COGES, MES

(2) Membres de la Mission Japonaise

- M.TACHIBANA Hideharu** Chef de mission
Directeur, 2^{ème} division Éducation de base, Dépt. du Développement Humain
- Mme TOKUGAWA Shiori** Chargée de planification de coopération
2^{ème} division Éducation de base, Dépt. du Développement Humain
- Mme KUNIEDA Mika** Chargée d'Analyse/ Évaluation,
Consultante, Tekizaitekisho
- Mme MURAKAMI Nobuko** Interprète
JICE (Centre Japonais pour la Coopération Internationale)

1-5 Méthodologie de l'Evaluation Finale

L'Evaluation Finale consiste à vérifier les aspects suivants en conformité avec le cadre logique version 2 révisé en octobre 2014 et les critères d'évaluation ainsi que les documents connexes et à établir une grille d'évaluation sur :

- 1) Les réalisations du Projet sur la base des indicateurs du cadre logique
- 2) Le processus d'exécution
- 3) Les 5 critères d'évaluation (OCDE/CAD)

Tableau 1 : Définition des 5 critères

Pertinence	Mesure dans laquelle les activités d'aide correspondent aux priorités et aux politiques du groupe ciblé, partenaires ou donateurs.
Efficacité	Mesure du degré de réalisation des objectifs de l'activité d'aide.
Efficienne	L'efficience mesure les résultats – qualitatifs ou quantitatifs

	<p>– obtenus par rapport aux moyens mis en œuvre. Il s'agit d'un terme économique utilisé pour indiquer dans quelle mesure une activité d'aide utilise les ressources les moins coûteuses possible pour produire les résultats escomptés. Cela implique généralement de comparer les différentes approches utilisées pour atteindre les mêmes résultats, de façon à déterminer si le processus le plus efficient a été retenu.</p>
Impact	<p>Il s'agit des effets positifs et négatifs, directs ou indirects, intentionnels ou non, induits par une intervention à l'appui du développement. Sont couverts les principaux impacts et effets résultant de l'activité à l'aune des indicateurs sociaux, économiques, environnementaux et autres indicateurs de développement.</p>
Durabilité	<p>La durabilité permet de mesurer si les bienfaits d'une activité de développement ont des chances de perdurer une fois que le donneur aura achevé de la financer. Les projets doivent être aussi bien financièrement qu'environnementalement durables.</p>

Les conclusions sont tirées des résultats de l'évaluation et les recommandations formulées par la Mission.

2 Résultats de l'évaluation

2-1 Degré de réalisation du Projet

2-1-1 Etat de réalisation des résultats

L'évaluation du degré de réalisation est fondée sur des indicateurs définis dans la version révisée du cadre logique PDM (approuvé le 24 oct. 2014). L'état de réalisation de chaque résultat est décrit ci-dessous

Résultat 1

Les indicateurs du Résultat 1 sont atteints. L'état de réalisation du résultat 1 est comme suit :

Résultat 1	
Un système permettant la pérennisation des activités des CGDES qui contribuent au développement de l'éducation (qualité et accès à l'éducation) est établi.	
Indicateur	Etat de réalisation
Indicateur 1 Un système de suivi des CGDES est établi et approuvé officiellement	L'atteinte prévue avant la fin du Projet Une évaluation du Système de suivi des CGDES a été effectuée par un consultant externe (de juin à août 2015) et l'efficacité du système de suivi a été confirmée. <ul style="list-style-type: none">• Un Atelier de validation du système de suivi/accompagnement des activités des CGDES/FCC a été organisé (août 2015)• L'atelier susmentionné a validé l'efficacité du système actuel du suivi des CGDES et élaboré un projet d'arrêté portant sur l'institutionnalisation du système de suivi. Ce texte est en cours d'examen par les directions concernées comme la Direction de législation du MEP.• A partir de 2013/2014, les frais du suivi (carburant et entretien des motos) des points focaux départementaux et régionaux (8 régions) nécessaires au fonctionnement du système de suivi des CGDES ainsi que les frais de réunion des points focaux des CGDES prévus dans le Plan d'actions du MEP sont pris en charge par le budget national. Le budget est exécuté en 2013/2014 et 2014/2015.
Indicateur 2 Plus de 80% des réunions de suivi des CGDES (Atelier de partage d'expérience (2 fois/an), Réunions de PF des CGDES (3 fois/an), AG de FCC (3	Atteint <ul style="list-style-type: none">• Des ateliers de partage d'expériences au niveau central ont été tenus deux fois par an depuis le début du Projet en 2012 jusqu'à aujourd'hui. (juin 2012, janvier et août 2013, février et août 2014, février et septembre 2015).• Des réunions des PF CGDES ont été tenues en moyenne 3 fois et plus par an dans chaque région.

7

fois/an)) sont tenues dans l'ensemble du pays

- La tenue des réunions des PF CGDES a été financée en 2012 par le Projet, et en 2013 et 2014 par le fonds de contrepartie repris en mars 2013, avec 3 réunions par an dans toutes les 8 régions. Le financement par le fonds de contrepartie a pris fin en août 2015. En 2013 et 2014, en moyenne 2 réunions par an ont eu lieu dans chaque région, financées par le budget national en 2013/2014 et 2014/2015.
- Le nombre moyen des AG tenues par les FCC (Fédération communale des CGDES) au niveau de chaque commune est de 2,87 fois de 2012/2013 à 2014/2015 (95,7 % des FCC ont eu 3 AG qui est la norme). 93,2% en 2012/2013, 98,4% en 2013/2014 et 95,3% en 2014/2015 des FCC ont eu 3 AG par an

Tableau 2 : Situation des réunions tenues

	【central】 Atelier de partage d'expérience	【régional】 Réunions des PF des CGDES	【commune】 AG de la FCC
2012/2013	2 fois	40 fois (national + 8 régions 5 fois chacune)	744 fois (en moyenne 2,8 par FCC)
2013/2014	2 fois	40 fois (8 régions 5 fois chacune)	785 fois (en moyenne 2,95 fois par FCC)
2014/2015	2 fois	40 fois (8 régions 5 fois chacune)	761 fois (en moyenne 2,86 fois par FCC)

Indicateur 3
Le taux de récupération des bilans des plans d'actions des CGDES est maintenu à plus de 90%

- Atteint**
- Le taux moyen de récupération des bilans des plans d'actions des CGDES est de 90,1% pour les 3 années 2012/2013, 2013/2014 et 2014/2015 (période de la présente phase du Projet)

Tableau 3 : Nombre et taux de récupération des bilans des plans d'actions des CGDES au cours des 3 dernières années

	Nombre des CGDES	Nombre des bilans récupérés et analysés	Taux de récupération
2012/2013	15810	14096	89,2%
2013/2014	16587	15278	92,1%
2014/2015	18003	16020	89,0%
Moyenne			90,1%

[Handwritten signatures and marks]

	<p>En 2014/2015 le taux de récupération des bilans des plans d'actions a baissé à cause de la difficulté de financement des frais de suivi des CGDES suite à l'arrêt temporel des fonds de contrepartie entre autres. En outre, la raison de la baisse du taux de récupération de cette année est dû au fait qu'un état d'urgence est déclaré pour la région de Diffa. Comme tout rassemblement est interdit dans la région, les FCC ne pouvaient pas tenir leurs AG à l'issue de laquelle les Plans d'actions et les bilans des CGDES sont récupérés</p>
<p>Indicateur 4 Le plan d'action annuel de la C/CGDES est élaboré et financé par l'Etat à travers le budget du MEP/A/PLN/EC.</p>	<p>Atteint</p> <ul style="list-style-type: none"> • Depuis la mise en place de la C/CGDES en février 2012, les activités de la C/CGDES sont inscrites dans les plans d'action annuels du MEP (2013, 2014 et 2015). • Depuis 2013, les frais des activités principales de suivi des activités des CGDES (activités de suivi par les PF des CGDES, réunions des PF des CGDES) sont pris en charge par le budget national (budget exécuté en 2013 et 2014, budget inscrit en 2015). Le taux d'exécution du budget par rapport au plan initial est de 70% environ (2014). • En plus du retard important de l'exécution du budget, même après l'autorisation des dépenses des activités donnée aux régions par le niveau central, il y a des difficultés de déblocage de fonds (dans la mise à disposition des fonds) au niveau régional et le taux d'exécution par rapport au nombre prévu des réunions des PFR et PFD est à peu près la moitié. • D'autre part, le suivi des activités des CGDES au niveau central, programmé dans le programme annuel de la C/CGDES n'a pas été exécuté jusqu'à présent par manque de libération des ressources prévues. • L'organisation des ateliers nationaux de partage d'expériences dans le cadre du suivi/accompagnement des activités des CGDES est programmé dans le budget programme 2016. • En outre, les activités qui ont été planifiées et effectivement financées sont: i) la formation des nouveaux directeurs d'écoles (exécuté en 2013 et 2014), ii) la formation des CGDES nouvellement mis en place (exécuté en 2013 et 2014), iii) l'appui aux ateliers communaux pour le suivi et l'entretiens des

9

	infrastructures scolaires (exécuté en 2014), iv) la subvention directe aux CGDES (exécuté en 2014) et v) la participation aux frais d'organisation de l'atelier sous régional de partage d'expériences (exécuté en 2014).
Indicateur 5 Plus de 70 % des écoles normales ont organisé des sessions de formation sur les modules des CGDES aux élèves-maitres.	<p>Atteint</p> <ul style="list-style-type: none"> • Une formation de formateurs des encadreurs ENI sur le modèle CGDES fonctionnels a été organisée (mai 2015) • Une formation des encadreurs ENI sur le modèle CGDES (mai 2015) avec la participation de 73 encadreurs des 8 régions, 8 directeurs des Etudes, soit 81 participants a eu lieu. • Des sessions de restitution des formations reçues sur le modèle CGDES ont été conduites par les encadreurs des 8 ENI pour les 6290 élèves-maitres en fin de formation (mai-juin 2015) • Les PFR, les cadres de la coordination des C/CGDES et ceux de la DFIC ont effectué le suivi/encadrement et la supervision de ces sessions sur le modèle CGDES.

Résultat 2

Tous les indicateurs du résultat 2 ont été atteints. L'état de réalisation du résultat 2 est comme suit :

<p>Résultat 2</p> <p>Afin d'améliorer la qualité et l'accès à l'éducation, les modèles suivants sont développés.</p> <p>2-1. Approche Forum durable</p> <p>2-2. PMAQ</p> <p>2-3. Gestion des ressources</p> <p>2-4. COGES fonctionnels au niveau des collèges</p>	
Indicateur	Etat de réalisation
Indicateur 1 Plus de 75% des communes dans les zones pilotes mettent à disposition un budget pour la participation des acteurs communaux aux fora.	<p>Atteint</p> <ul style="list-style-type: none"> • Au 3^{ème} Forum Régional de l'Éducation de Tahoua (nov. 2015) tous les acteurs communaux de 44 communes de la région ont participé sans l'appui financier du Projet. • 41 sur 44 communes ont assuré la prise en charge des acteurs par le budget communal. • La moitié des frais d'organisation du 3^{ème} Forum Régional de l'Éducation de Tahoua a été prise en charge par les acteurs de la région, les départements et les communes.
Indicateur 2 Les résultats de test de niveau des élèves en mathématique	<p>Atteint: les activités du pilotage 2013/2014 à 2014/2015</p> <p>2013/2014:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Dans 105 écoles sur 107 (98%), la note moyenne de

10

s'améliorent dans plus de 90% des écoles pilotes.

l'école ainsi que la moyenne par classe ont augmenté entre le test de base et le test final. Ainsi 309 sur 332 classes cibles (soit 93%) ont amélioré leurs résultats.

Tableau 4 : La moyenne (taux de bonnes réponses) par classe au test de niveau en mathématiques dans 107 écoles cibles (13000 enfants bénéficiaires)

	CI 12 questions	CE1 24 questions	CE2 44 questions	CM1 56 questions	CM2 61 questions	Taux moyen de bonnes réponses
Avant (déc. 2013)	1,61 (13%)	8,1 (34%)	16,78 (38%)	21,89 (39%)	29,69 (49%)	34,6%
Après (mai 2014)	6,06 (50%)	15,05 (63%)	24,25 (55%)	30,31 (54%)	37,55 (62%)	56,8%
Différence	4,45 points	6,95 points	7,47 points	8,42 points	7,87 points	22,2%

2014/2015 (expérimentation du modèle de subvention-PMAQ combiné)

- Dans 39 sur 39 écoles cibles (100%) la moyenne par classe de niveau s'est amélioré. 118 classes sur 120 classes ont amélioré leurs résultats de test (il n'y a qu'une classe n'ayant pas de changement, et une autre ayant une diminution de la moyenne de 0,9 point)

Tableau 5 : Résultat (taux de bonnes réponses) et la moyenne par classe pour un test du niveau mathématique dans les 39 écoles cibles (4000 enfants bénéficiaires)

	CI 12 points	CE1 24 points	CE2 44 points	CM1 56 points	CM2 61 points	6ème 61 points	Taux moyen de bonnes réponses
Avant (déc. 2014)	0,85 (7%)	6,33 (26%)	12,96 (29%)	23,42 (42%)	25,35 (42%)	34,85 (57%)	33,9%
Après (Juin 2015)	7,55 (63%)	17,94 (75%)	29,63 (67%)	39,74 (71%)	44,37 (73%)	49,05 (80%)	71,5%
Différence	6,7 points	11,6 points	16,7 points	16,3 points	19 points	14,2 points	37,6%

Indicateur 3
Le modèle de gestion des ressources est développé et utilisé par plus de 80% de CGDES qui bénéficient des subventions.

Atteint : 2012/2013 et 2013/2014

- Parmi les CGDES bénéficiaires de la subvention du Projet, le modèle des gestions de ressources est utilisé à 100% (sauf le groupe témoin de l'étude d'impact)
- Sur le plan de la gestion des subventions, le processus de gestion des ressources par l'audit communautaire a été pratiqué. La réception de subvention, la planification de l'utilisation de la subvention, le partage

11

des résultats/ évaluation ont été fait à travers des AG de la communauté. Pour les deux exercices en question, les pièces justificatives ont été récupérées et analysées pour toutes les 120 écoles bénéficiaires de la subvention. L'utilisation appropriée des ressources a été observée.

- Basé sur le modèle d'utilisation des ressources, les activités qui améliorent l'apprentissage des enfants tel que les cours de rattrapage, les études de nuit, les exercices de remédiation, l'achat des manuels, des livrets et des fournitures scolaires, ont été planifiées et réalisées et la proportion des CGDES qui font ces activités est en augmentation.

Tableau 6 : Proportion des CGDES cibles ayant programmé les principales activités

	cours supplémentaires	études de nuit	exercices de remédiation	achat des matériels pédagogiques et fourniture scolaire
2012/2013	64,4%	76,3%	31,4%	65,2%
2013/2014	76,7%	75,8%	41,7%	90%

- Selon l'évaluation d'impact par l'Institut de Recherche de la JICA « Rapport sur les Résultats de l'Enquête d'Evaluation de l'Intervention (résultats de l'enquête finale » a montré que parmi les 60 écoles cibles (groupe 2 du tableau ci-dessous) la proportion des écoles qui ont organisé des cours de rattrapage et/ou études de nuit est plus importante aux autres groupes non bénéficiaires du modèle de subvention.

Tableau 7 : 2013/2014 (l'enquête finale) Proportion des CGDES qui ont organisé par différentes activités

	Groupe témoin (60 écoles)	Groupe 1 (60 écoles);: subvention + formation en gestion des ressources	Groupe 2 (60 écoles) : subvention + formation (gestion et planification)
Cours de rattrapage	51%	59%	83%
études de nuit	36%	59%	70%
achat des manuels	42%	90%	91%
achat des guides du maître	33%	82%	84%
Achat des fournitures scolaires	49%	86%	88%

R

12
A

9

	<p>2014/2015</p> <ul style="list-style-type: none"> • La formation en gestion et planification a été dispensée aux 39 écoles du modèle de subvention combinée au PMAQ. Toutes les 39 écoles ont bien géré la subvention et exécuté les activités des CGDES relatives à l'amélioration de la qualité de l'éducation (achat des livrets des exercices en mathématiques avec la subvention et la planification et exécution des activités des exercices de remédiation selon le modèle subvention-PMAQ combiné) • Toutes les 39 écoles ont respecté le processus de l'audit communautaire selon le modèle de gestion et d'utilisation des ressources et toutes les pièces justificatives ont été récupérées et analysées. <p>Les 2 modules de formation du modèle de subvention développés par le Projet (gestion des ressources et la planification) ont été validés officiellement comme modules pour la subvention aux écoles du PAEQ financé par le PME. Le manuel de procédure de l'octroi de subvention basée sur le modèle du Projet, a également été validé. Un appui technique est apporté en vue de l'introduction du modèle aux écoles PAEQ cibles de la subvention.</p> <p>Pour l'introduction du modèle afin d'en assurer la qualité aux écoles cibles PAEQ, le Projet apporte un appui technique à la C/CGDES.</p>
--	--

2-1-2 Le but du Projet

Chaque indicateur lié au but du Projet ayant été atteint, le but du Projet est atteint.

<p>But du Projet</p> <p>Le rôle et les capacités des CGDES en gestion scolaire sont renforcés pour le développement de l'éducation (accès et qualité) à travers la participation communautaire.</p>	
Indicateur	Etat de Réalisation
<p>Indicateur 1 (Accès)</p> <p>Le nombre des salles de classe construites par les CGDES dans l'enseignement primaire est fonction du nombre des enfants à scolariser.</p>	<p>Atteint</p> <ul style="list-style-type: none"> • 25,233 salles de classe en paillote et/ou paillote améliorée construites par les CGDES en 2014/2015 (2,1 salles de classe par CGDES) Grâce à cette contribution communautaire l'effectif par classe est estimé à 41 élèves en moyenne nationale. L'évolution de 2010/2011 à 2014/2015 est comme suit :

13

	<p>Tableau 8 : La proportion des constructions CGDES et du nombre de classes en paillote</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>Proportion des CGDES ayant exécuté cette activité</th> <th>Nombre total des classes construites par la communauté</th> <th>Nombre moyen par CGDES</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2012/2013</td> <td>82,1%</td> <td>23910</td> <td>2,1</td> </tr> <tr> <td>2013/2014</td> <td>81,1%</td> <td>24647</td> <td>2,0</td> </tr> <tr> <td>2014/2015</td> <td>76,0%</td> <td>25233</td> <td>2,1</td> </tr> <tr> <td>Moyen</td> <td>79,7%</td> <td>24597</td> <td>2,1</td> </tr> </tbody> </table>		Proportion des CGDES ayant exécuté cette activité	Nombre total des classes construites par la communauté	Nombre moyen par CGDES	2012/2013	82,1%	23910	2,1	2013/2014	81,1%	24647	2,0	2014/2015	76,0%	25233	2,1	Moyen	79,7%	24597	2,1														
	Proportion des CGDES ayant exécuté cette activité	Nombre total des classes construites par la communauté	Nombre moyen par CGDES																																
2012/2013	82,1%	23910	2,1																																
2013/2014	81,1%	24647	2,0																																
2014/2015	76,0%	25233	2,1																																
Moyen	79,7%	24597	2,1																																
<p>Indicateur 2 (Qualité) Le volume des heures supplémentaires (cours supplémentaires et études de nuit) assurées par les CGDES est maintenu à plus de 150 heures par an.</p>	<p>Atteint</p> <ul style="list-style-type: none"> En 2014/2015 les heures supplémentaires en moyenne consacrées par CGDES sont de 166,5 heures. Les heures moyennes des 3 dernières années sont 173,76 heures. L'évolution de 2012/2013 à 2014/2015 est comme suit : <p>Tableau 9 : Nombre d'heures supplémentaires</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">Cours rattrapage</th> <th colspan="2">Etudes de nuit</th> <th rowspan="2">Total heures supplémentaires (h)</th> </tr> <tr> <th>Proportion des CGDES ayant exécuté cette activité</th> <th>L'heures consacrés par CGDES</th> <th>Proportion des CGDES ayant exécuté cette activité</th> <th>L'heures consacrés par CGDES</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2012-2013</td> <td>71,3%</td> <td>77</td> <td>51,9%</td> <td>90</td> <td>167</td> </tr> <tr> <td>2013-2014</td> <td>61,7%</td> <td>91,4</td> <td>43,5%</td> <td>96,38</td> <td>187,78</td> </tr> <tr> <td>2014-2015</td> <td>61,2%</td> <td>78,2</td> <td>43,3%</td> <td>88,3</td> <td>166,5</td> </tr> <tr> <td>Moyen</td> <td>64,73%</td> <td>82,2</td> <td>46,23%</td> <td>91,56</td> <td>173,76</td> </tr> </tbody> </table>		Cours rattrapage		Etudes de nuit		Total heures supplémentaires (h)	Proportion des CGDES ayant exécuté cette activité	L'heures consacrés par CGDES	Proportion des CGDES ayant exécuté cette activité	L'heures consacrés par CGDES	2012-2013	71,3%	77	51,9%	90	167	2013-2014	61,7%	91,4	43,5%	96,38	187,78	2014-2015	61,2%	78,2	43,3%	88,3	166,5	Moyen	64,73%	82,2	46,23%	91,56	173,76
	Cours rattrapage		Etudes de nuit		Total heures supplémentaires (h)																														
	Proportion des CGDES ayant exécuté cette activité	L'heures consacrés par CGDES	Proportion des CGDES ayant exécuté cette activité	L'heures consacrés par CGDES																															
2012-2013	71,3%	77	51,9%	90	167																														
2013-2014	61,7%	91,4	43,5%	96,38	187,78																														
2014-2015	61,2%	78,2	43,3%	88,3	166,5																														
Moyen	64,73%	82,2	46,23%	91,56	173,76																														
<p>Indicateur 3: (Rôle) Plus de 80% des FCC bénéficient de l'appui financier du budget des collectivités territoriales.</p>	<p>Atteint</p> <ul style="list-style-type: none"> 255 sur 266 FCC (soit 95,86%) ont bénéficié d'un appui financier du budget communal 2014/2015. L'évolution de 2012/2013 à 2014/2015 est comme suit <p>Tableau 10 : Les FCC ayant bénéficié d'un appui financier du budget communal, le moyen du montant d'appui et le taux d'appui selon les activités</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>Nombre et taux des FCC ayant bénéficié d'un appui financier des communes</th> <th>Montant moyen d'appui financier des communes par FCC (FCFA)</th> <th>Taux moyen du montant d'appui financier des communes par rapport au montant total mobilisé par la FCC</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2012-2013</td> <td>189 (71%)</td> <td>59 205</td> <td>12,3%</td> </tr> <tr> <td>2013-2014</td> <td>208 (78.2%)</td> <td>112 311</td> <td>17,12%</td> </tr> <tr> <td>2014-2015</td> <td>255 (95.86%)</td> <td>157 448</td> <td>24,86%</td> </tr> </tbody> </table>		Nombre et taux des FCC ayant bénéficié d'un appui financier des communes	Montant moyen d'appui financier des communes par FCC (FCFA)	Taux moyen du montant d'appui financier des communes par rapport au montant total mobilisé par la FCC	2012-2013	189 (71%)	59 205	12,3%	2013-2014	208 (78.2%)	112 311	17,12%	2014-2015	255 (95.86%)	157 448	24,86%																		
	Nombre et taux des FCC ayant bénéficié d'un appui financier des communes	Montant moyen d'appui financier des communes par FCC (FCFA)	Taux moyen du montant d'appui financier des communes par rapport au montant total mobilisé par la FCC																																
2012-2013	189 (71%)	59 205	12,3%																																
2013-2014	208 (78.2%)	112 311	17,12%																																
2014-2015	255 (95.86%)	157 448	24,86%																																

14

	Le fait que la proportion de l'appui financier de la commune par rapport au montant total mobilisé par les FCC est en hausse peut être considéré comme la preuve d'une compréhension du rôle et de l'utilité de la FCC dans le cadre du développement de l'éducation dans la commune.
--	---

2-1-3 L'Objectif Global

L'Objectif Global sera atteint si les différentes activités introduites par le Projet continuent et se généralisent.

L'évolution des indicateurs de l'objectif global est comme suit.

Objectif Global	
Améliorer la qualité et l'accès à l'éducation de base par la gestion décentralisée des établissements scolaires	
Indicateur	Etat de Réalisation
Indicateur 1 : Amélioration du taux de scolarisation, amélioration concernant le taux de redoublement, amélioration concernant le taux d'abandon, amélioration du taux d'achèvement	<p>Accès</p> <ul style="list-style-type: none"> • Préscolaire: TBS (2011/2012) 6,3 → (2013/2014) 6,5 • Primaire : TBA (2011/2012) 97,9 → (2013/2014) 82,9 TBS (2011/2012) 79,2 → (2013/2014) 71,3 <p>La baisse du taux brut de scolarisation (TBS) est essentiellement due à la forte augmentation de la population des enfants en âge scolaire constatée dans les résultats définitifs du RGPH2012. Pendant les 10 dernières années, la situation de l'accès s'est améliorée.</p> <p>Amélioration de la qualité</p> <ul style="list-style-type: none"> • Primaire : <p>Taux d'achèvement primaire (2011/2012) 55,8 → (2013/2014) 61,7 Taux de réussite de l'examen CFEPD/CEPE-FA (2011/2012) 56,7 → (2013/2014) 60,6 Taux de transition CM2 au 6ème (2011/2012) 58,8 → (2013/2014) 59,5</p> <p>Même si on a constaté une diminution des indicateurs de l'accès dû à l'augmentation de la population, les indicateurs sur la qualité ont légèrement augmenté. Cela veut dire que si la population totale des enfants en âge scolaire n'avait pas augmenté, il aurait dû avoir de plus grands résultats.</p> <p>Dès que les résultats probants du livret d'exercices mathématiques du PMAQ ont commencé à être connus, un grand nombre de la population a manifesté son intérêt pour les livrets en français. Dans les zones non pilotes, des parents d'élèves et des directeurs d'école qui ont entendu parler de la réussite, ont réclamé eux aussi le livret de mathématiques dans leur zone. Avec la propagation constante du PMAQ et la poursuite des activités PMAQ par les CGDES, on peut espérer l'amélioration des performances des élèves et la baisse des taux de redoublement et d'abandon.</p>

15

Tableau 11 : Les indicateurs d'éducation préscolaire

TBS		2010-11	2011-12	2012-13	2013-14*
	Garçons	5,6	6,4	7,3	6,2
	Filles	5,7	6,3	7,5	6,9
	Total	5,7	6,3	7,4	6,6

Tableau 12 : Les indicateurs d'enseignement primaire

		2010-11	2011-12	2012-13	2013-14*
TBA	Garçons	106,6	103,9	106,9	89,7
	Filles	92,7	91,7	91,3	75,9
	Total	99,8	97,9	99,2	82,9
TBS	Garçons	84,9	87,8	89,5	77,7
	Filles	67,3	70,7	74,7	64,8
	Total	76,1	79,2	82,0	71,3
Taux de redoublement	Garçons	-	4,37	4,4	3,9
	Filles	-	4,53	4,5	4,2
	Total	-	4,44	4,4	4,0
Taux d'abandon	Garçons	9,9	11,7	12,6	12,7
	Filles	11,4	12,7	13,5	12,1
	Total	10,5	12,2	13,0	12,4
Taux d'achèvement primaire	Garçons	59,7	63,9	65,5	69,8
	Filles	42,6	47,7	49,1	53,5
	Total	51,2	55,8	56,4	61,7
Taux de réussite examen		2010	2011	2012	2013
	Garçons	64,9	57,6	57,7	61,2
	Filles	61,6	55,4	56,4	59,7
	Total	63,5	56,7	57,2	60,6
Taux de transition CM2 au 6ème		2010-11	2011-12	2012-13	2013-14
	Garçons	77,4	60,4	57,3	—
	Filles	71,4	56,4	54,8	—
	Total	74,8	58,8	56,2	59,5

* La baisse du taux brut de scolarisation (TBS) est essentiellement due à la forte augmentation de la population des enfants en âge scolaire constatée dans les résultats définis du RGPH2012. Pendant les 10 dernières années, la situation de l'accès s'est améliorée. La population du Niger a cru entre 2001 et 2012 selon un rythme de 3,9% au lieu de 3,2% utilisé dans nos projections.

Source : Statistiques de l'Education de base; Annuaire 2012-2013, Zoom sur l'Enseignement Primaire et l'Alphabétisation Edition 2013, MEP/A/PLN/EC et Statistiques de l'Education de base; Annuaire 2013-2014, Zoom sur l'Enseignement Primaire et l'Alphabétisation Edition 2014, MEP/A/PLN/EC

Indicateur 2 Proportion des enfants qui ont achevé le cycle de l'enseignement primaire.	<p>Comme l'indicateur 1, une amélioration progressive est confirmée comme suit pour le taux de réussite de l'examen final du cycle primaire. D'autre part, comme l'examen final du cycle primaire a été supprimé à partir de l'exercice 2013, à partir de l'exercice 2014, un indice qui mesure l'amélioration de l'apprentissage a été adopté. L'indice est le taux d'élèves qui ont eu une moyenne de 5 sur 10 notes pour les 3 examens finaux de trimestre.</p> <p>Tableau 13 : Taux de réussite de l'examen final primaire</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Taux de réussite d'examen</th> <th></th> <th>Session 2010</th> <th>Session 2011</th> <th>Session 2012</th> <th>Session 2013</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>Garçons</td> <td>64,9</td> <td>57,6</td> <td>57,7</td> <td>61,2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Filles</td> <td>61,6</td> <td>55,4</td> <td>56,4</td> <td>59,7</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Total</td> <td>63,5</td> <td>56,7</td> <td>57,2</td> <td>60,6</td> </tr> </tbody> </table> <p>Le taux de transition de CM2 au 6ème en 2014 est le 56,03%.</p>	Taux de réussite d'examen		Session 2010	Session 2011	Session 2012	Session 2013		Garçons	64,9	57,6	57,7	61,2		Filles	61,6	55,4	56,4	59,7		Total	63,5	56,7	57,2	60,6
Taux de réussite d'examen		Session 2010	Session 2011	Session 2012	Session 2013																				
	Garçons	64,9	57,6	57,7	61,2																				
	Filles	61,6	55,4	56,4	59,7																				
	Total	63,5	56,7	57,2	60,6																				

2-2 Résultats de l'évaluation

2-2-1 Processus d'exécution

(1) Etat d'avancement et de mise en œuvre des activités

Les activités du Projet sont mises en œuvre comme prévu. Malgré que le déplacement des experts japonais soit limité à l'intérieur de la ville de Niamey à cause du problème sécuritaire au Niger, toutes les activités sont exécutées comme prévu, ce qui est à féliciter vivement.

Pourtant, concernant la validation du système de suivi des CGDES, l'atelier de validation de l'activité 1-4 a été organisé comme prévu sans toutefois arriver à la promulgation de l'arrêté qui est le but final. Il est souhaitable que cet arrêté soit promulgué sans tarder après les discussions par les ministères concernés. D'autre part, l'élaboration des plans d'actions annuels de la C/CGDES de l'activité 1-6 est bien faite et le budget du MEP y est alloué mais l'exécution du budget et en partie retardé (notamment au niveau régional).

Il est aussi nécessaire de mettre en œuvre les activités prévues pour la période restante du Projet d'une manière constante. Les activités particulièrement importantes sont les suivantes :

- Renforcement continu des capacités des homologues de la C/CGDES entre autres ;
- Suivi des activités et partage de ses résultats après l'organisation du Forum dans les zones pilotes ;
- Atelier de partage des modèles PMAQ et de gestion des ressources
- Vérification du modèle COGES fonctionnels au niveau des collègues et partage du modèle validé.

17

(2) Gestion du Projet

Pour la gestion du Projet, des réunions mensuelles sont tenues principalement entre la C/CGDES et les responsables du Projet. Elles fonctionnent comme un lieu de compte rendu de l'avancement des activités, de planification et de résolution de problèmes. Les acteurs concernés participent activement aux réunions mensuelles et partagent les informations régulièrement. Ainsi, le Projet est bien géré.

D'autre part, le Projet a bien utilisé le mécanisme du Comité Mixte de Coordination pour une prise de décision efficace et en temps opportun.

(3) Appropriation du projet par les cadres nationaux

Grâce au soutien des phase1 et phase 2 du Projet, le système du CGDES s'est intégré dans la politique du Ministère de l'Enseignement Primaire. Les modules de formation qui ont été développés sont validés et exploités comme documents du gouvernement nigérien. Dans la présente phase aussi, les cadres nationaux prennent part activement au Projet et leur niveau d'appropriation est élevé.

Quant au Ministère des Enseignements Secondaires, c'est à partir de la présente phase que l'expérimentation des activités des COGES a commencé. Il est à souhaiter de rehausser le niveau d'appropriation à travers les activités futures.

2-2-2 Evaluation par 5 critères

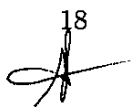
<Pertinence>

La pertinence du Projet est très élevée, vu les raisons suivantes :

(1) Compatibilité entre la Politique éducative du Niger et le but du Projet

En mai 2012, la « Lettre de Politique Educative pour la période 2013-2020 » a été publiée et le Programme Sectoriel de l'Education et de la Formation (PSEF 2014-2024) a été élaboré comme document stratégiques pour la mise en œuvre de cette politique. Le Programme prévoit des activités concrètes : le renforcement du rôle, des capacités et des attributions des CGDES, et le renforcement des capacités de l'administration scolaire au niveau régional/départemental/communal dans le processus de décentralisation et de déconcentration. Par conséquent, le but du Projet : « Le rôle et les capacités des CGDES en gestion scolaire sont renforcés pour le développement de l'éducation (qualité et accès à l'éducation) au Niger » correspond exactement à la politique éducative du Niger.



18




(2) Cohérence de la Politique d'assistance japonaise avec le but du Projet

Dans la « Stratégie d'apprentissage pour la paix et la croissance » publiée en septembre 2015 en accord avec les Objectifs du Développement Durable (ODD), le Japon s'engage à mettre en œuvre une coopération en éducation pour un apprentissage global, équitable et de qualité. La TICAD qui est le pilier principal du soutien japonais à l'Afrique affiche l'éducation comme un des domaines prioritaires. Le Plan d'Action de Yokohama adopté par la TICAD IV tenue en 2008 a annoncé l'élargissement du nombre d'écoles cibles à 10.000 pour le Projet d'appui à l'amélioration de la gestion scolaire sur la base du modèle Ecole Pour Tous en Afrique de l'Ouest. La TICAD V tenue en 2013 a déclaré la détermination du Japon à « approvisionner l'éducation de qualité à 20 millions d'enfants » de plus. Le Projet s'aligne non seulement sur la politique d'assistance japonaise mais l'incarne parfaitement et attire beaucoup d'attention.

(3) Conformité des besoins des groupes cibles au but du Projet

Concernant les indicateurs d'éducation au Niger, bien que l'accès à l'éducation connaisse une légère amélioration, le taux brut de scolarisation dans l'éducation primaire étant de 71,3%¹ et celui d'abandon de 12,4% en 2013/2014, l'accès reste encore à améliorer. Quant à la qualité de l'éducation, le taux d'achèvement de l'éducation de base et celui de réussite à l'examen final étaient respectivement de 61,7% et 60,6% en 2013/2014 indiquant un niveau peu satisfaisant des acquis d'apprentissage et la nécessité d'améliorer la qualité de l'éducation. Le Projet vise donc à améliorer la qualité et l'accès à l'éducation à travers le renforcement des capacités des CGDES mis en place dans l'ensemble du pays avant la fin de la phase 2 ainsi que l'organisation et le renforcement du système de soutien aux CGDES à différents niveaux décentralisés. D'où le Projet répond bien aux besoins du peuple nigérien qui est le groupe cible.

D'autre part, pour ce qui est de l'enseignement secondaire (premier cycle secondaire), il y a un grand problème d'accès ainsi que de qualité à résoudre. Et la mise en place des COGES fonctionnels pouvant contribuer à résoudre ces problèmes, la mise au point du modèle de COGES et son extension au niveau secondaire est important.

(4) Pertinence de la politique d'exécution

Les CGDES jouent un rôle important en matière de politique éducative dans le processus de décentralisation au Niger et les attributions de la gestion de l'école leur sont transférées. Etant donné que les ressources financières, matérielles et humaines

¹ Source des indicateurs de 2013/2014 : Statistiques de l'Education de Base :Annuaire de l'éducation 2013-2014 (version provisoire)

19

pour l'aménagement de l'environnement scolaire sont limitées au Niger, la mobilisation et la gestion des ressources financières et matérielles sont de plus en plus demandées aux CGDES. Dans ce contexte, l'approche du Projet qui vise à améliorer la qualité et l'accès à l'éducation à travers le renforcement du rôle et des capacités des CGDES est appropriée.

(5) Collaboration avec d'autres bailleurs de fonds

Les résultats et les enseignements du Projet sont partagés avec les pays voisins (6 pays²) et les bailleurs de fonds concernés (BM, UNESCO, PME etc.) à travers les réunions des PTF et l'atelier sous régional de partage d'expériences. D'autre part, le Projet a effectué une étude d'impact et ses résultats ont été analysés sur la base des données statistiques et mis en commun. Grâce au partage de cette analyse, le modèle de subvention développé par le Projet a été adopté par le Projet d'Appui à une Education de Qualité (PAEQ) géré par la BM avec le financement du Partenariat Mondial pour l'Education (PME). Ce modèle de subvention va être étendu à 2800 écoles à l'avenir. On peut dire que cela est le résultat de la coopération avec la BM qui a été poursuivie dès la première phase du Projet. Suivant sa demande, la BM a financé la vulgarisation à l'échelle nationale (10.000 écoles) du modèle de dynamisation des COGES (Paquet Minimum) développé dans la phase 1 du Projet par l'intermédiaire du Ministère de l'Education Nationale prenant en charge les coûts des formations, des animateurs engagés et du suivi pendant la période de vulgarisation. Elle a également financé l'achat de motos qui sont un moyen de déplacement des PF des CGDES et sa coopération avec le Projet ne date pas d'aujourd'hui.

En outre, dans les phases 1 et 2, le Projet et l'UNICEF a collaboré pour la réalisation des Jardins d'Enfants Communautaires (JEC). Et à la fin de l'année scolaire 2009/2010, le nombre de JEC créés par cette collaboration s'élevait à 165 avec 10.000 enfants inscrits dans l'ensemble du Niger qui représentait environs 15% des enfants en âge de préscolarisation de l'époque.

L'élargissement des activités du Projet avec l'appui financier des autres bailleurs de fonds est la conséquence de leur estimation que bénéficie le Projet.

< Efficacité >


L'efficacité du Projet est élevée vu les raisons suivantes.

(1) Niveau de réalisation du but du Projet

Le but du Projet est déjà atteint du point de vue des indicateurs définis. Concernant l'accès à l'éducation, en 2013/2014 l'effectif était de 41 élèves par classe avec 55.388

² Burkina Faso, Côte d'Ivoire, Ghana, Madagascar, Mali et Sénégal.



20




salles de classe pour 2.270.000 enfants scolarisés au primaire. On peut dire qu'il y a un nombre suffisant de salles de classe par rapport au nombre d'enfants scolarisés au primaire. Toutefois, à long terme, une construction permanente de salles de classe est nécessaire, ce qui dépasse le cadre du Projet, et le Gouvernement du Niger devrait entreprendre des actions pour y faire face.

Quant à la qualité de l'éducation, en 2014/2015, les heures supplémentaires moyennes données par les CGDES durant les 3 dernières années était de 173,76 heures atteignant largement l'objectif de 150 heures par an et plus. Grâce à l'augmentation des heures d'apprentissage, dans beaucoup d'écoles l'amélioration de la qualité de l'éducation a été constatée comme à l'examen de fin du cycle primaire.

En plus, 80% des communes prennent des mesures budgétaires pour les fédérations des CGDES qui soutiennent et promeuvent ces activités. Ceci montre que le rôle et les capacités des CGDES sont bien renforcés dans le développement de l'éducation (qualité et accès à l'éducation) au niveau décentralisé.

(2) Relations de causalité entre le but du Projet et ses résultats

Le Projet se compose de 2 Résultats : 1. renforcement du suivi d'activités des CGDES fonctionnels; 2. développement des modèles pour la qualité et l'accès à l'éducation (PMAQ, Gestion des ressources, Approche Forum et Introduction du COGES fonctionnel au niveau des collèges). Le Résultat 1 vise à renforcer les capacités en suivi surtout au niveau central pour pérenniser les résultats de la mise à l'échelle nationale des activités des CGDES qui ont été obtenus au cours des phases 1 et 2. Pour dynamiser davantage les activités des CGDES et améliorer la qualité de l'éducation à travers leurs activités, les 3 modèles du Résultat 2 (et le modèle COGES fonctionnels au niveau des collèges) développent leurs activités respectives à titre expérimental. Ainsi, le Projet construit un système permettant aux CGDES de mener leurs activités durablement et met en pratique les modèles développés dans ce système. C'est ainsi que la réalisation du but du Projet devient possible. D'où la définition des résultats nécessaires à la réalisation du but de Projet est pertinente.

Quant à son niveau d'atteinte, il a été vérifié sur la base des trois indicateurs définis et on peut juger qu'il est élevé. Toutes les activités contribuent à la réalisation du but du Projet et comme expliqué plus haut en 2-1-1 Etat d'atteinte des résultats, la majorité des activités produisent bien des résultats. C'est par la réalisation des résultats à travers les activités que le but du Projet est atteint. L'efficacité du Projet est donc élevée.

(3) Conditions extérieures à remplir pour l'atteinte du but du Projet

Condition extérieure « (1) La situation économique et de la sécurité publique ne

21

s'aggravent pas considérablement. »

Vu la situation sécuritaire au Niger, le niveau de surveillance de la sécurité par le gouvernement japonais /JICA s'est élevé au Niger. Les experts japonais sont obligés de donner des instructions par l'intermédiaire des consultants du Projet entre autres pour l'activité du suivi à cause de leurs déplacements limités. Ils ont donc des difficultés de prendre des décisions appropriées en temps opportun. En plus, avec la crainte de l'aggravation de la sécurité au Niger, l'envoi d'une partie des experts à court terme a été annulé. Malgré cette situation, les experts à long terme et les consultants du Projet font de leur mieux pour minimiser l'impact négatif sur les activités du Projet. Pour le moment, grâce aux efforts de l'équipe du Projet, aux astuces trouvées à travers des expériences accumulées, aux engagements des homologues nigériens il n'existe pas de grands facteurs pouvant entraver la réalisation du but du Projet. Tant qu'il n'y a pas de détérioration de la situation sécuritaire, il n'y a pas d'obstacle majeur pour atteindre le but du Projet.

< **Efficienc**e >

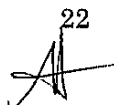
L'efficienc

(1) Etat de réalisation des résultats

Les résultats sont tous atteints. Concrètement parlant, comme conséquence des résultats 1-1 à 1-8, le système de suivi des CGDES est construit, le transfert des compétences techniques à la C/CGDES s'effectue constamment, et les activités de celle-ci sont inscrites sur la ligne budgétaire nationale. Ceci lui permet théoriquement de mener des activités de suivi d'une manière autonome avec ses propres moyens de l'Etat. Et à travers les 27 activités de 2-1-1 à 2-4-7, les 3 modèles que sont : a. Approche Forum ; b. PMAQ ; c. modèle de subvention et son application qui est le modèle subvention-PMAQ combiné ont produit des effets bien avant la fin du Projet. Cela permet au Projet d'utiliser la période restante pour affiner les modèles développés.

Comme facteur contribuant à l'émergence de ces résultats, nous pouvons citer : a. Résultats tangibles par la mise en œuvre de différentes activités dans les écoles primaires à travers le pays en mobilisant la communauté malgré la taille d'investissement peu important du Projet (de la part des JICA, MEP et MES); b. Offre d'un cadre de renforcement des capacités avec une méthode de formation basée sur le jeu de rôle permettant de mémoriser efficacement; c. recrutement et utilisation efficace du personnel local et des consultants du Projet fiables pour la gestion et les activités du Projet.

Par contre, comme facteur entravant nous pouvons citer entre autres : a. Interdiction du déplacement en dehors de la capitale des experts japonais pour la sécurité (pourtant, cet obstacle a permis le recours aux ressources humaines locales et l'utilisation active de



celles-ci a amélioré le rendement.) ; b. Retard permanent et important de l'exécution du budget national pour effectuer le suivi des CGDES.

(2) Relation de causalité entre les activités et les résultats

Concernant le Résultat 1, toutes ses activités constituent un cycle ; exécution du suivi des activités des CGDES au niveau départemental et régional, construction et validation du système de suivi à partir de cette pratique, renforcement des capacités de l'organisme qui supervise ce système de suivi, élaboration du plan annuel des actions suivant les résultats du suivi et enfin partage des expériences des actions entreprises au niveau local en se basant sur ce plan. D'autre part, le cours sur le CGDES donné dans toutes les ENI du pays permet aux futurs enseignants qui seront des acteurs des CGDES, de prendre conscience de l'importance des CGDES très tôt et de contribuer ainsi au développement de l'éducation à travers les CGDES.

Quant au Résultat 2, pour mettre au point les 4 modèles, une série d'activités ont été mises en œuvre : 1. Sélection des zones pilotes ; 2. Formation des ressources humaines nécessaires à l'expérimentation des modèles (organisation des formations) ; 3. Suivi/évaluation des activités de modèles, 4. Validation des modèles ; 5. Partage avec les autres régions. Tout cela a permis de produire des effets avec efficience et efficacité.

(3) Conditions extérieures menant les activités aux résultats

Concernant la situation de la condition extérieure « (1) Beaucoup d'homologues ne sont pas mutés sur une courte durée ».

Les mouvements des homologues sont peu fréquents au niveau central. Pourtant la mutation du haut cadre qui sont des personnes clés du Projet est fréquente. Au niveau local, malgré la mutation des administrateurs y compris les homologues, grâce à l'organisation des ateliers de partage d'expériences les effets négatifs sur le Projet est limités. Il est nécessaire de continuer à organiser ces rencontres au niveau local et central pour minimiser les effets négatifs.

Concernant la condition extérieure « (2) : La situation économique et sécuritaire ne se détériore pas considérablement », voir les conditions extérieures de l'« efficacité »

(4) Situation des attributions des intrants

A propos de l'envoi des experts, il y a eu le raccourcissement de la durée du mandat et l'annulation de l'envoi à cause du problème de sécurité. Mais grâce à l'excellence des ressources humaines locales, le Projet arrive à avancer sans en subir d'effets négatifs. Et le Projet a pu surmonter jusqu'ici les situations difficiles grâce aux expériences accumulées et à l'abnégation de l'équipe du Projet ainsi qu'aux importants efforts



23




fournis par les homologues nigériens.

En ce qui concerne les intrants réalisés y compris les matériels fournis, voir l'annexe 3. La somme totale investie par le Japon est d'environ 400 millions de yen (2 milliards FCFA), le montant exécuté par le gouvernement du Niger est d'environ 100 millions de yen (500 millions FCFA), et la somme mobilisée par les communautés est au total environ 1,86 milliards de yen (9,3 milliards FCFA).

Dans l'ensemble, la qualité et la quantité des intrants ont été appropriées. Mais le décalage important qui intervient pour l'exécution du budget national entraîne des effets non négligeables sur les activités entre autres du suivi au niveau régional et départemental.

(5) Efficience du coût

Comme mentionné plus haut à (4), la somme totale investie par le Projet et le gouvernement du Niger est d'environ 500 millions de yen (2,5 milliards FCFA) et avec au total 1,86 milliards de yen (9,3 milliards FCFA) mobilisés par les communautés, le Projet a mis en pratique le développement de l'éducation à travers les activités des CGDES dans environs 18.000 écoles du Niger contribuant dans une large mesure à l'amélioration de l'accès et de la qualité de l'éducation. Le montant investi par école étant d'environ 27.800 yen (environ 140.000 FCFA) l'efficience du coût est très élevée.

<Impact>

Des impacts positifs du Projet ont été constatés. Avec la poursuite des activités du Projet, la perspective d'atteindre l'Objectif global est jugé élevée.

(1) Perspective de l'atteinte de l'Objectif Global du Projet

L'Objectif global du Projet est d'« Améliorer la qualité et l'accès à l'éducation de base par la gestion décentralisée des établissements scolaires ». Il est défini comme objectif à atteindre dans 3 à 5 ans après l'achèvement du Projet. Plus précisément, il vise à améliorer les indicateurs de l'accès à l'éducation comme les taux de scolarisation, de redoublement, d'abandon et d'achèvement entre autres. Les interviews effectuées auprès de plusieurs acteurs concernés au cours de l'Evaluation Finale ont montré que la plupart d'entre eux considèrent que s'ils persévèrent dans l'approche mise en place par le Projet, il est possible d'atteindre l'Objectif global.

En ce qui concerne les taux de scolarisation, de redoublement et d'abandon, avec l'augmentation massive de la population estimée en âge de scolarisation suite au résultat du recensement de 2012, les indicateurs de l'accès à l'éducation ont baissé entre 2012/2013 et 2013/2014. Mais à part cet incident statistique particulier, les indicateurs

24

de l'éducation nigériens sont en voie d'une amélioration légère et constante depuis le début de la phase 1 du Projet, ce qui permet de considérer que la contribution du Projet y est important. La perspective de l'atteinte de l'Objectif du Projet est donc élevée.

Des activités des CGDES pour améliorer la qualité de l'éducation étant les principales activités du Projet, il contribue non seulement à l'amélioration du taux d'achèvement et du niveau des acquis des enfants, mais aussi, d'après les interviews, au changement perceptible de la mentalité et à l'établissement de la relation de confiance entre l'école et la communauté, ce qui favorise aussi la scolarisation des enfants.

Comme impact imprévisible les enseignants sont plus motivés grâce à l'amélioration de l'environnement scolaire par l'implication de la communauté à la gestion de l'école.

Comme résultat de l'évaluation de l'impact quantitatif par le test comparatif randomisé du modèle de subvention, il a été constaté que les enfants du groupe qui a bénéficié la subvention suivi de renforcement des capacités en gestion des ressources et en planification ont eu des notes moyennes supérieures à ceux des autres groupes lors du test de niveau. En introduisant le modèle développé par le Projet, on peut s'attendre à l'amélioration du niveau des acquis des enfants et du rendement interne.

(2) Relation de causalité entre l'objectif global et le but du Projet

Comme moyen d'améliorer chaque indicateur d'éducation qui constitue l'objectif global, le Projet promeut la participation aux activités de gestion scolaire de la communauté à travers les CGDES ou COGES. Les CGDES jouent un rôle important pour le développement de l'éducation au Niger (qualité et l'accès à l'éducation) dans le processus de décentralisation. Dans cette situation, si le but du Projet :« renforcement du rôle et de la fonctionnalité des CGDES en gestion scolaire pour le développement de l'éducation au Niger (la qualité et l'accès à l'éducation) » est atteint, et que la participation de la communauté à la gestion de l'école est pérennisée, l'Objectif global sera atteint, donc la relation de cause à effet est positive.

(3) Conditions extérieures à remplir pour l'atteinte du but du Projet

Situation de la condition extérieure (1) : Les enseignants sont affectés en nombre suffisant.

D'après le PSEF 2013-2024, le nombre d'enseignants a augmenté de 11.000 en 1999 à 63.000 en 2013/2014 avec le recrutement massif des enseignants contractuels depuis 1998. D'après la prévision, le nombre d'enseignants continuera d'augmenter. Il n'est pas possible de saisir exactement leurs compétences et la pertinence de leur affectation au niveau primaire, la condition extérieure n'a pas changé depuis le début du Projet. À l'heure actuelle, il est donc peu probable que la condition extérieure constitue un

25

obstacle. D'autre part, il est important d'accorder une attention particulière à la répartition des enseignants entre les milieux urbain et rural.

Situation de la condition extérieure (2) : « Le budget du Ministère est alloué »

Le budget du Ministère est alloué, mais son exécution est en partie retardé. Une bonne exécution du budget est à souhaiter pour atteindre l'Objectif global.

Situation de la condition extérieure (3) : « La situation économique et sécuritaire ne se détériore pas. »

Au vu du contexte sécuritaire dans la sous-région, il y a lieu de suivre attentivement l'évolution de la situation économique et sécuritaire au Niger.

(4) Autres effets indirects

a) Développement vers une action sous régionale

L'Ecole Pour Tous au Niger a commencé comme le premier projet d'amélioration de la gestion de l'école mis en œuvre par la JICA en Afrique de l'Ouest. Le Niger est devenu le pays modèle pour ses pays voisins. L'influence qu'il exerce en tant que pays modèle sur eux est important et le réseau avec ces pays voisins est en voie de construction à travers les visites sur le terrain et les ateliers sous régionaux de partage d'expériences. Le Projet contribue donc à l'émergence des effets d'amélioration de la gestion scolaire dans l'ensemble de l'Afrique occidentale.

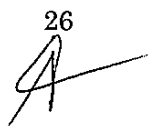
Plus concrètement parlant, le succès du Niger a inspiré les administrateurs et les décideurs politiques des pays voisins de l'Afrique de l'Ouest et amené à implanter le projet EPT dans d'autres pays. Des projets similaires sont réalisés dans 3 pays (Sénégal, Mali et Burkina Faso) et un pays (Madagascar) va mettre en œuvre le projet EPT à partir de l'exercice prochain. Un autre pays (Côte d'Ivoire) exécute un projet qui intègre des éléments du projet EPT. Ce sont des fruits de l'apprentissage mutuel entre les pays et comme conséquence les activités ont pris une ampleur régionale et le Niger a été toujours la tête du peloton en jouant le rôle majeur.

b) Mise à l'échelle par d'autres partenaires

En saisissant très tôt la tendance à la gestion décentralisée de l'école en Afrique de l'Ouest et en montrant un modèle d'amélioration de la gestion fonctionnelle de l'école par la participation communautaire, le Projet a amené d'autres bailleurs de fonds (Banque mondiale entre autres) à mettre en œuvre des projets qui intègrent des éléments du Projet. Plus précisément, ce sont les suivants.

-Le modèle de dynamisation des COGES développé dans la phase 1 du Projet



26




(paquet minimum) a été généralisé dans 10 milles écoles du pays à l'époque par le financement de la Banque Mondiale.

-L'UNICEF a organisé des formations des animateurs/animatrices des 165 jardins d'enfants créés dans les phases 1 et 2 du Projet.

c) Répercussions sur d'autres secteurs

- Assainissement et l'eau (comité de salubrité et comité de gestion de l'eau)
- Santé (Lutte contre le paludisme avec la participation communautaire)
- Agriculture (Comité de gestion agricole)

< Durabilité >

Au moment de l'Evaluation Finale, la possibilité de la pérennisation et de l'ancrage des résultats du Projet est moyenne.

(1) Aspects politique et institutionnel

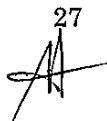
Le « Programme Sectoriel de l'Education et de la Formation (PSEF 2014-2024) » vise le renforcement du rôle, des capacités et des attributions des CGDES et le renforcement des capacités de l'administration scolaire aux niveaux régional, départemental et communal dans la décentralisation et la déconcentration. La possibilité de la pérennisation du développement de l'éducation à travers les CGDES après l'achèvement du Projet est élevée sur le plan politique.

D'autre part, un projet d'arrêté portant sur le Système de suivi des activités des CGDES et des FCC a été élaboré pour appuyer globalement des activités des CGDES. Comme la promulgation de cet arrêté est en vue et que tous les modèles développés par le Projet est validés officiellement, la durabilité est également élevée sur le plan institutionnel.

En outre, le système de suivi des activités de CGDES construit durant ces années par le Projet a mis en place un mécanisme de transmission des informations ascendante et descendante entre l'école et le niveau central en passant par les niveaux communal (Fédération des CGDES), départemental et régional. L'appuis politique et institutionnel adapté à la situation du terrain sera toujours nécessaire à l'avenir.

(2) Aspects organisationnel et financier

Le plan d'actions au niveau de l'école prévoit également le renforcement des capacités de la communauté et planifie des actions réalisables dans la mesure du possible. Sa durabilité est donc élevée sur le plan organisationnel et financier.



Pour les structures et les acteurs tels que les Fédérations des CGDES (FCC) qui appuient les activités au niveau de l'école, les PFR et PFD et la C/CGDES, un renforcement suffisant de leurs capacités a été fait jusqu'ici et il leur est largement possible de mener leurs activités quotidiennes avec une bonne compréhension de leur mission. Sur le plan financier également, il a été constaté que les mesures budgétaires sont prises et fonctionnent en principe. Plus précisément, à la suite des sollicitations du Projet, les frais du suivi des CGDES sont inscrits maintenant sur le budget national. Quant aux frais de la tenue de l'atelier national de partage d'expériences qui est l'instance du suivi au niveau central, le Projet continue de faire en sorte qu'ils soient aussi inclus dans le budget national. Si cela se réalise, tous les frais des activités du suivi seront pris en charge par l'Etat. Toutefois comme mentionné plus haut, le problème du retard de l'exécution du budget reste toujours à régler.

Concernant les mesures budgétaires prises par les communes qui reconnaissent les réalisations faites par les fédérations des CGDES (FCC), des avancées telles que la prise en charge par la commune de l'organisation des AG de la FCC ou du CACOCOM ont été constatées. Par ailleurs, après le transfert effectif des responsabilités et des compétences aux communes, le gouvernement central doit les encadrer pour qu'elles programment et exécutent leur budget d'une manière appropriée. Il est aussi nécessaire d'aménager la structure organisationnelle et de renforcer les capacités en plus de l'aspect financier.

Par ailleurs, la subvention par le fonds commun du PME/AFD aux CGDES a été décidée. 2.800 écoles dans 5 régions feront l'objet de la subvention qui sera allouée sur 4 années à partir de 2014. La C/CGDES dispense des formations basées sur les résultats du Projet pour que ces subventions soient correctement utilisées et gérées.

Comme le résultat de l'Etude de l'impact a montré, pour que la politique de l'octroi de subvention produise des effets, il est nécessaire non seulement de distribuer les fonds, mais aussi de dispenser des formations en planification et en gestion des ressources financières avant l'octroi des subventions, d'où la nécessité d'introduire le modèle développé par le Projet dans les 2.800 écoles susmentionnées. D'autre part, dans le PMAQ, concernant le matériel pédagogique comme les livrets d'exercices de mathématiques qui sont bien exploités par les élèves, la clef de la durabilité est la budgétisation entre autres des frais d'impression de ces livrets. Il est donc nécessaire au gouvernement nigérien de chercher activement le financement auprès des autres bailleurs de fonds.

Au niveau du Ministère des Enseignements Secondaires, bien que la CNP/COGES soit mise en place, on en est encore au stade du développement de modèle et il est nécessaire d'inscrire au budget du Ministère les frais des activités nécessaires à l'avenir.

(3) Aspect technique

Au niveau du MEP, le renforcement des capacités de la C/CGDES a été fait, le plan annuel d'actions de celle-ci a été élaboré dont une partie des activités est budgétisée.

28

Des manuels et les lignes directrices pour la réalisation des différentes activités ont été élaborés, la formation de la C/CGDES et des administrateurs locaux (principalement PFR et PFD) est dispensée. Ce sont ces ressources humaines qui effectuent et suivent le transfert des compétences techniques aux CGDES.

D'autre part, la formation des encadreurs des ENI sur le CGDES permet d'approfondir une compréhension correcte de la politique CGDES dans le programme de formation initiale des enseignants et contribue à l'expansion future des CGDES et à leur pérennisation. Mais pour assurer la pérennisation des CGDES, il est souhaitable que la formation soit donnée non pas sous forme d'un cours spécial et isolé, mais intégrée dans les cours sur le module de la gestion décentralisée de l'école.

Au niveau du MES, le manuel de mise en place des COGES aux collèges et celui de processus de suivi/évaluation etc. sont déjà disponibles. Au cours de cette mission d'évaluation nous n'avons fait qu'apercevoir juste une petite partie de l'expertise du MES, mais il est supposé que les compétences de base sont déjà transférées.

En outre, concernant les FCC et les CGDES au niveau des écoles, avec les résultats des phases 1 et 2 comme renfort, leurs activités sont relativement stables. Il est souhaitable d'assurer la formation des nouveaux arrivants et même s'il n'y a pas de mouvements de personnel, de renforcer régulièrement les capacités des CGDES.

2-2-3 Facteurs ayant contribué à l'émergence des effets

(1) Contribution dévouée du peuple nigérien

Les résultats du Projet ont été réalisés grâce à la contribution du peuple nigérien. Durant la période du Projet, environ au total 1,86 milliards yen (9,3 milliards FCFA) ont été mobilisés par les populations pour améliorer l'environnement scolaire dans l'ensemble du pays.

(2) Développement des modèles qui entraînent le maximum d'effets avec un minimum d'intrants

Les Modèles développés par le Projet sont applicables dans n'importe quel environnement scolaire et ont entraîné un effet maximum avec un minimum d'intrants pour la participation de la communauté au développement de l'éducation. L'introduction de ces modèles a permis le partage des informations entre la communauté et l'école et la réalisation des activités qui reflètent leurs besoins. C'est ainsi qu'un meilleur environnement d'apprentissage pour les enfants a été créé. En plus, un « partage d'informations » de qualité a créé une relation de confiance entre non seulement l'école et les populations, mais aussi avec les structures décentralisées et déconcentrées. La confiance ainsi créée par le partage d'informations sur la gestion de l'école et la qualité de l'apprentissage à l'école a donné naissance à une coopération

29

constructive entre l'administration et l'école et amélioré le développement de l'éducation au Niger.

(3) Développement des outils et des méthodes de formation pratiques et efficaces et renforcement des capacités approprié

Le Projet a renforcé les capacités des acteurs en développant des outils et des méthodes de formation pratiques et efficaces faciles à comprendre par tout le monde y compris les analphabètes. Ce renforcement des capacités a permis à la communauté et aux administrateurs locaux une compréhension profonde du modèle du Projet, ce qui a rendu possible une gestion transparente des fonds, l'amélioration du niveau de l'apprentissage de base des élèves par la participation communautaire et la collaboration des acteurs dans le domaine du développement de l'éducation locale. Différentes formations basées sur la technique de simulation (jeu de rôle) dans lesquelles chaque participant joue un rôle réussissent en terme de transfert efficace de compétences techniques. Au Niger où le taux d'analphabétisme est élevé, cette méthode de formation basée sur le vécu a été très efficace.

(4) Réalisation de l'évaluation d'impact

En montrant l'effet de l'intervention basé sur les données statistiques objectives, il était possible de montrer l'efficience et l'efficacité du modèle. Ceci a conduit à une coopération avec d'autres bailleurs de fonds extérieur au Projet et à la propagation du modèle. La réalisation et les résultats de cette évaluation d'impact fournissent une variété de suggestions pour réfléchir sur la conception et les activités des projets dans les autres pays ouest-africains.

(5) Contribution dévouée des homologues de terrain

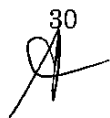
Grâce à la contribution dévouée des acteurs nigériens sur le terrain, il a été possible de construire le système de suivi des activités des CGDES.

(6) Promotion du partage des contenus de la formation

En favorisant le feedback aux participants après la formation organisée par le Projet, les contenus de la formation ont été partagés avec leurs collègues et les populations qui n'y ont pas participé.

(7) Utilisation efficace de la formation au Japon



30




Des personnes clés ont été invitées à temps opportun au Japon pour suivre une formation qui leur a permis de partager l'expérience du Japon et de mieux comprendre le Projet. C'est grâce à un soutien fort du secrétaire général du MEP qui y a participé que les frais de suivi des CGDES sont inscrits dans le budget national. L'invitation de ces acteurs clés au Japon a permis d'obtenir leur soutien appuyé.

2-2-4 Facteurs qui ont entravé l'émergence des effets

En raison du retard de l'exécution du budget, le suivi des activités des CGDES dans les régions était entravé entre autres.

2-3 Conclusion et recommandations de l'évaluation à 5 critères

Dans l'ensemble, les objectifs des résultats du Projets sont atteints à un niveau élevé. Ces résultats ont pu être obtenus grâce aux efforts dévoués des acteurs de la partie Nigérienne y compris ses populations et de la partie Japonaise.

Parmi les 5 critères d'évaluation, la pertinence est très élevée. L'efficacité, l'efficience et l'impact sont aussi évaluées élevées. Surtout en matière d'efficience, différentes astuces ont été trouvées pour assurer les activités nécessaires avec des intrants limités et il a été constaté que les résultats escomptés étaient réalisés. Quant à l'impact, des répercussions positives ont été aussi constatées. La durabilité est jugée moyenne.

Au niveau primaire, la durabilité ne pose pas de problèmes dans les écoles. Toutefois, pour le suivi continu, la vulgarisation et l'extension des modèles développés par le Projet, il y a des volets qui nécessitent une nouvelle budgétisation (ou une exécution appropriée). A l'heure actuelle, il n'y a pas beaucoup d'éléments qui sont sûrs d'être budgétisés (ou exécutés). Afin d'assurer davantage la durabilité, il est nécessaire de communiquer les résultats concrets au grand public tout en poursuivant le suivi, d'élargir le camp des supporteurs des CGDES et de s'assurer de la budgétisation et de l'exécution appropriées.

En ce qui concerne le niveau secondaire, afin de vulgariser à l'échelle nationale les modèles développés, il est nécessaire de renforcer davantage les capacités des acteurs centraux et déconcentrés, de construire le système de suivi et de prendre des mesures budgétaires (exécution) appropriées pour financer ces activités.

31

3 Recommandations

3-1 Au MEP/A/PLN/EC (Durant et après le Projet)

(1) Application/vulgarisation des modèles développés par le Projet

Le Projet a élaboré les modèles ci-dessous énumérés pour développer l'éducation plus efficacement (amélioration de l'accès et la qualité) à travers la gestion des établissements scolaires basée sur la participation communautaire. Tous ces modèles ont été développés en procédant par recherche-action dans le cadre des expérimentations sur le terrain au niveau des écoles nigériennes ; ainsi, ces modèles sont plus applicables aux situations des écoles nigériennes. En plus, l'efficacité d'un de ces modèles (le modèle de subvention) a été attestée par l'étude d'impact et celui-ci a été adopté à l'activité de subvention aux écoles dans le cadre du PAEQ géré par la BM. Pour cela, il est à souhaiter de mettre en œuvre des actions ci-dessous citées par la forte initiative des décideurs politiques afin d'appliquer et vulgariser les modèles développés.

(A) Préparation de la vulgarisation du modèle de subvention

Le modèle de subvention est actuellement en voie d'extension sur 1000 établissements en tant qu'une des composantes de la subvention du PAEQ, mais pour que le modèle soit plus efficace dans l'avenir, il est nécessaire de préparer minutieusement d'avance a) la formation des formateurs et b) la planification des formations des bénéficiaires entre autres. En plus, il est important de comparer les résultats des tests avant et après les activités afin d'en cerner correctement les effets produits.

Des efforts importants doivent être déployés pour assurer une bonne planification des activités pour éviter des interruptions pouvant impacter sur les résultats. Aussi, il est nécessaire de prendre en compte la période d'exécution des activités des CGDES.

(B) Vulgarisation du modèle du PMAQ

Le modèle de subvention-PMAQ combiné est déjà adopté dans 180 établissements cibles du volet subvention du PAEQ ; il faudrait élargir les cibles à 2800 écoles bénéficiaires de la subvention du PAEQ.

D'autre part, pour assurer la vulgarisation du PMAQ et pour répondre aux besoins importants des livrets d'exercices des mathématiques qui en découlent, il faudrait définir le système de distribution (voie d'acquisition) de ces livrets d'exercice. Par exemple, il est nécessaire d'identifier les acteurs qui peuvent prendre en charge l'impression, la mise à disposition et la vente des livrets, et d'établir le système de distribution après avoir clôturé le Projet.

(C) Vulgarisation du modèle de nouveau forum de l'éducation et du CACOCOM

(Cadre de Concertation Communal)

L'expérimentation du nouveau forum de l'éducation a apporté un résultat important en matière de promotion de la scolarisation des jeunes filles. Il est important de capitaliser ces expériences, de réviser et d'améliorer les éléments de ce modèle et de le vulgariser.

Notamment, le CACOCOM dans le modèle du forum a amélioré le partenariat entre les acteurs locaux pour le développement de l'éducation à travers le partage d'informations entre les FCC, les collectivités territoriales (la commune) et l'administration scolaire. En plus, il a été constaté des bonnes pratiques permettant la répartition du budget communal selon les besoins de la communauté et les problèmes locaux dans le domaine de l'éducation. On peut en juger qu'il y a une forte possibilité que le CACOCOM constitue un noyau du développement de l'éducation à la base et qu'il se développe davantage. Dorénavant, il est important de capitaliser les expériences de ces activités et de promouvoir sa vulgarisation dans d'autres régions en le combinant avec d'autres modèles comme le PMAQ pour rendre ce cadre plus efficace.

(2) Prise en charge effective du suivi des activités CGDES

La prise en charge du suivi/accompagnement des activités des CGDES par le budget national a été en partie effective depuis 2013, cependant l'organisation des 2 ateliers de partage par an, doit désormais en faire partie à compter de 2016. Le cadre du suivi/accompagnement des CGDES devient de plus en plus important, tenant compte de la contribution des activités des CGDES au développement de l'éducation du Niger, de l'importance de la pérennisation des acquis et également des stratégies d'extension du modèle par les moyens propres de l'État. Il est donc nécessaire d'assurer le financement à partir de 2016 pour que la C/CGDES puisse effectuer effectivement des activités de suivi des CGDES.

3-2 Au MES (Durant et après le Projet)

(1) Budgétisation des activités de la CNP/COGES

La CNP/COGES a été mise en place par l'Arrêté N° 00243/MES/SG/DL du 21 OCT 2014 et elle est la structure chargée de la mise en œuvre de la politique des COGES-ES. Pourtant, le MES n'a pas encore répondu à la demande de budgétisation des frais des activités du CNP/COGES et de ses répondants au niveau déconcentré. Pour le développement futur de la politique des COGES au niveau secondaire, il est fortement attendu d'assurer la mise à disposition d'un budget à partir de l'exercice 2016.

(2) Réaménagement d'un arrêté ministériel relatif aux COGES

Le MES a publié l'arrêté portant sur les COGES en avril 2011 (Arrêté N°00063/MESS/R/S/SG/DGE/DECBI/M du 06 AVR 2011), mais la révision en est nécessaire pour l'adapter à la situation actuelle. Compte tenu des résultats des activités pilotes menées conjointement avec le Projet et le MES, il est souhaitable d'élaborer un arrêté portant sur les COGES et le système de soutien aux COGES et de le publier d'ici mi-2016.

(3) Validation du modèle COGES fonctionnel au niveau des collèges et préparation de sa généralisation à l'échelle nationale

Le modèle COGES fonctionnel au niveau des collèges est en cours d'expérimentation et va être vulgarisé dans l'ensemble du pays. Il est nécessaire de capitaliser les résultats d'expérimentation, de procéder à la validation du modèle à vulgariser et de tracer la feuille de route pour sa mise à l'échelle nationale.

(4) Perspectives du système de suivi des COGES-ES

Pour la généralisation du modèle COGES fonctionnel au niveau des collèges, il est nécessaire de tracer les perspectives du système de suivi/accompagnement des activités des COGES sur l'ensemble du pays. Il est aussi nécessaire d'établir la feuille de route pour la mise en place du système de suivi avant l'atelier de partage d'expériences prévu l'année prochaine et de la valider. Selon cette feuille de route, il est nécessaire que l'administration scolaire en collaboration avec la communauté et l'école prenne les mesures pour établir le système de suivi/accompagnement des activités des COGES et que le MES prenne des dispositions pour prendre en charge le suivi des activités des COGES par le budget national.

34

4 Leçons tirées

(1) Analyse des résultats et leur communication (mise en œuvre de l'évaluation objective d'impact)

La gestion décentralisée des écoles (GDE), qui est définie par le transfert de compétences du niveau central (gouvernement) au niveau local (écoles), se développe dans les pays développés depuis 20 ans. L'octroi de subvention aux écoles est une intervention commune. Cette activité est souvent accompagnée par la répartition des attributions aux parents d'élèves et au comité de gestion des écoles constitué par les membres de la communauté.

Néanmoins, les quelques études récentes montrent que les effets de la gestion décentralisée des écoles avec l'octroi de la subvention sont limités par rapport aux performances des élèves. La JICA en collaboration avec le MEP/A/PLN/EC a conduit une étude portant sur l'évaluation des impacts du modèle de subvention développé par le Projet. La méthodologie adaptée lors de cette évaluation est le test aléatoire contrôlé afin de rechercher l'efficacité de l'intervention pour améliorer les performances des élèves. Dans le cadre de ce modèle, le projet a introduit une formation pour le renforcement des capacités des acteurs concernés en planification pour une utilisation efficace de la subvention. Par conséquent, les résultats de l'étude ont montré qu'après les 2 ans d'intervention, les élèves du groupe des écoles qui ont été formées en planification, ont significativement amélioré leurs résultats de tests en français et en mathématiques que ceux du groupe témoin, bien qu'il n'y ait pas de différences significatives par rapport aux résultats du groupe qui a seulement reçu la subvention.

L'analyse scientifique des résultats permet au gouvernement de prendre les décisions politiques basées sur les preuves évidentes. Ces résultats peuvent contribuer à l'élargissement des pratiques et aussi à la mise en œuvre des actions efficaces pour le développement de l'éducation. En plus, la présentation des preuves objectives peut favoriser l'application de ce modèle aux activités d'autres partenaires (par exemple, la Banque Mondiale) et élargir l'application du modèle à travers le partenariat avec les autres intervenants. Par cela, comme leçon tirée : il est important d'effectuer une évaluation objective d'impact et d'assurer la diffusion de résultat.

Par ailleurs, à l'étape du développement du modèle, il sera plus réalisable d'effectuer l'intervention efficace et à temps avec les fonds propres du Projet. Dans ce cas-là, il est important d'assurer certains investissements pour le bon développement du modèle (ou la mise en œuvre de l'expérimentation).

35

(2) Promotion du transfert des compétences Sud-Sud

Le Projet au Niger est reconnu comme un projet modèle des pays voisins en jouant le rôle de pionnier parmi les projets déployés par la JICA en Afrique de l'Ouest.

Ces dernières années, le Projet organise un Atelier sous régional de partage d'expériences au moins une fois par an.

Les participants des différents pays qui partagent les mêmes types de problèmes dans le domaine de l'éducation sont en train de réaliser le passage à l'échelle et la reproduction des acquis des activités de ce Projet dans leurs pays respectifs.

En outre, cette occasion stimule la partie nigérienne et favorise ainsi leur motivation. Il est donc très important d'exécuter activement cette approche de « transfert des compétences Sud-Sud » comme une des activités du Projet puisque le Niger pourra aussi s'inspirer des expériences des autres pays en cas de besoin dans l'avenir.

ANNEXE 1 Cadre Logique (PDM)

ANNEXE 2 Plan d'Opération (PO)

ANNEXE 3 Contribution au Projet

ANNEXE 4 Liste des Comités Mixtes de Coordination tenus

ANNEXE 5 Liste des ateliers tenus

ANNEXE 6 Liste des produits/manuels élaborés par le Projet

36

Cadre Logique du Projet (PDM) (Révision le 24 Octobre 2014)

ANNEXE 1

Titre du Projet: "Ecole Pour Tous ; Projet d'Appui au Développement de l'Education à travers la participation communautaire au Niger"
 Organe d'exécution: Ministère de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique (MEP/A/PLN/EC)
 Ministère des Enseignements Secondaires (MES)
 Groupes cibles: C/CGDES du Ministère, Service chargé du COGES au MES, PF départementaux et régionaux, Inspecteurs, Directeurs d'établissements, Membres des CGDES et des COGES, Elèves, Enseignants, Parents d'élèves, Communautés locales
 Zone cible: Toutes les régions du Niger
 Durée: Du mai 2012 au mai 2016 (4 ans)

Résumé Narratif	Indicateurs Objectivement Vérifiable	Moyen de Vérification	Conditions Extérieures
Objectif Global: Améliorer la qualité et l'accès à l'éducation de base par la gestion décentralisée des établissements scolaires	1. Amélioration des indicateurs d'éducation (taux de scolarisation, de redoublement, d'abandon, d'achèvement) 2. Proportion des enfants qui ont achevé le cycle de l'enseignement primaire	Annuaire des Statistiques du MEP/A/PLN/EC	La situation sécuritaire ne se détériore pas
But du Projet: Le rôle et les capacités des CGDES en gestion scolaire sont renforcés pour le développement de l'éducation (accès et qualité) à travers la participation communautaire	1. (Accès) Le nombre des salles de classe construites par les CGDES dans l'enseignement primaire est fonction du nombre des enfants à scolariser. 2. (Qualité) Le volume des heures supplémentaires (cours supplémentaires et études de nuit) assurées par les CGDES est maintenu à plus de 150 heures par an 3. (Rôle) Plus de 80% des FCC bénéficient de l'appui financier du budget des collectivités territoriales	Annuaire des Statistiques du MEP/A/PLN/EC Bilan des plans d'actions des CGDES et FCC Rapport de la C/CGDES Bilan annuel du budget des communes	1. Les enseignants sont affectés en nombre suffisant 2. Le budget du Ministère est alloué 3. La situation économique et sécuritaire ne se détériore pas.
Résultats: 1. Un système permettant la pérennisation des activités des CGDES qui contribuent au développement de l'éducation (qualité et accès à l'éducation) est établi.	1. Un système de suivi des CGDES est établi et approuvé officiellement 2. Plus de 80% des réunions de suivi des CGDES (Atelier de partage d'expérience (2fois/an), Réunions de PF des CGDES (3 fois/an), AG de FCC (3fois/an)) sont tenues dans l'ensemble du pays. 3. Le taux de récupération des bilans des plans d'actions des CGDES est maintenu à plus de 90%. 4. Le plan d'action annuel de la C/CGDES est élaboré et financé par l'Etat à travers le budget du MEP/A/PLN/EC. 5. Plus de 70 % des écoles normales ont	1. Document officiel (Arrêté, décision, note d'orientation etc.) 2. Rapport de la C/CGDES 3. Rapport de la C/CGDES /Annuaire des Statistiques du MEP/A/PLN/EC 4. Plan d'Action annuel élaboré, Rapport de la DRFM et de la C/CGDES/MEP/A/PLN/EC	La situation économique et sécuritaire ne se détériore pas.

<p>organisé des sessions de formation sur les modules des CGDES aux élèves-maitres.</p>	<p>5. Rapport C/CGDES et DFIC</p>		
<p>2. Afin d'améliorer la qualité et l'accès à l'éducation, les modèles suivants sont développés.</p> <p>a. Approche Forum durable</p> <p>b. PMAQ</p> <p>c. Gestion des ressources</p> <p>d. COGES fonctionnels au niveau des collèges</p>	<p>1. Plus de 75% des communes dans les zones pilotes mettent à disposition un budget pour la participation des acteurs communaux aux fora.</p> <p>2. Les résultats de test de niveau des élèves en mathématique s'améliorent dans plus de 90% des écoles pilotes</p> <p>3. Le modèle de gestion des ressources est développé et utilisé par plus de 80% de CGDES qui bénéficient des subventions.</p> <p>4. Les membres des COGES sont démocratiquement élus dans plus de 90% des collèges pilotes.</p> <p>5. Au moins une activité du plan d'actions est exécutée à 100% dans plus de 80% des collèges pilotes.</p>	<p>1. Rapport du CACOCOM, Rapport du Projet et C/CGDES</p> <p>2. Relevé de notes des élèves de chaque niveau, Rapport du Projet</p> <p>3. Rapport de la C/CGDES du MEP/A/PLN/EC</p> <p>4. Rapport de la CNP du Ministère des Enseignements Secondaires</p> <p>• Rapport de la CNP du Ministère des Enseignements Secondaires</p>	
<p>Activités</p>	<p>Contribution</p>		
	<p>Japon</p>	<p>Niger</p>	
<p>1-1 Organiser l'atelier de partage d'expériences</p> <p>1-2 Effectuer le suivi des réunions de PFR/PFD</p> <p>1-3 Evaluer le système du suivi des CGDES</p> <p>1-4 Organiser l'atelier pour l'approbation du système du suivi</p> <p>1-5 Renforcer les capacités de la C/CGDES en collecte et analyse des informations sur les activités des CGDES/FCC</p> <p>1-6 Renforcer les capacités de la C/CGDES en élaboration des plans d'actions annuels</p> <p>1-7 Dispenser des formations sur la politique des</p>	<p>(1) Affectation d'experts japonais</p> <ul style="list-style-type: none"> • Experts à long terme : Conseiller en chef, Experts chargés du suivi des CGDES, du renforcement des capacités des CGDES et de la coordination • Experts à court terme : selon la nécessité <p>(2) Fourniture d'équipement</p> <p>(3) Charge de fonctionnement du Projet</p> <p>(4) Formation des acteurs au Japon ou dans un pays tiers</p>	<p>(1) Affectation des homologues</p> <p>(2) Mise à disposition d'un bureau et de ses frais de maintenance</p> <p>(3) Frais nécessaires aux activités de suivi</p>	<p>1. Beaucoup d'homologues ne sont pas mutés sur une courte durée</p> <p>2. La situation économique et sécuritaire ne se détériore pas considérablement</p>

<p>CGDES aux encadreurs des écoles normales.</p> <p>1-8 Effectuer le suivi des sessions de restitution aux élèves-maîtres relatifs aux CGDES par les encadreurs</p> <p>« Approche Forum »</p> <p>2-1-1 Sélectionner les sites pilotes</p> <p>2-1-2 Mettre en place le comité exécutif du forum</p> <p>2-1-3 Dispenser des formations relatives à la tenue des fora</p> <p>2-1-4 Mettre en place le cadre de concertation communal</p> <p>2-1-5 Tenir les fora régionaux</p> <p>2-1-6 Effectuer le suivi des activités après le forum</p> <p>2-1-7 Partager le modèle établi avec les autres régions</p> <p>« PMAQ »</p> <p>2-2-1 Sélectionner les sites pilotes</p> <p>2-2-2 Elaborer des modules</p> <p>2-2-3 Développer des livrets d'exercices</p> <p>2-2-4 Former les formateurs</p> <p>2-2-5 Dispenser des formations aux CGDES</p> <p>2-2-6 Partager le modèle du PMAQ sur l'ensemble du pays</p> <p>« Gestion des ressources »</p> <p>2-3-1 Sélectionner les sites pilotes</p> <p>2-3-2 Elaborer des modules</p> <p>2-3-3 Former les formateurs</p> <p>2-3-4 Dispenser des formations aux CGDES</p> <p>2-3-5 Evaluer l'impact</p> <p>2-3-6 Effectuer le suivi des activités</p> <p>2-3-7 Partager le modèle établi</p> <p>« COGES fonctionnel au niveau des collèges »</p> <p>2-4-1 Sélectionner les collèges pilotes</p> <p>2-4-2 Elaborer des modules</p> <p>2-4-3 Former les formateurs</p> <p>2-4-4 Former les directeurs des CEG et les membres des COGES</p> <p>2-4-5 Effectuer le suivi des activités des COGES</p> <p>2-4-6 Apprécier le modèle de COGES fonctionnel</p>			<p>Condition préalable</p> <p>La politique de décentralisation en matière de gestion scolaire des CGDES se poursuit</p>
---	--	--	--

7

développé au niveau des collèges 2-4-7 Partager le modèle développé avec les autres régions			
--	--	--	--

* La proportion des élèves qui ont obtenu la note supérieure à la moyenne des examens trimestriels

- 74 -

~~7~~
7

ANNEXE 3 Contributions au Projet

3-1 Liste d'experts japonais

(1) Liste d'experts à long terme

No.	Nom	domaine	De	A
1	M. Masahiro Hara	Conseiller en chef/Conseiller en éducation *basé au siège de la JICA : 8 missions conseil ont été effectuées : - 4 au 8 juillet 2012 - 31 juil. au 3 août 2012 - 9 nov. 2012 au 25 janv. 2013 - 7 au 16 août 2013 - 29 sept. au 5 oct. 2013 - 10 au 12 déc. 2013 - 22 au 25 fév. 2014 - 14 au 16 mai 2014 - 3 au 12 août 2014 - 22 au 28 oct. 2014 - 3 au 14 mars 2015	22 Mai 2012	Aujourd'hui
2	Mlle. Akiko Kageyama	Développement de capacité de CGDES	22 Mai 2012	Aujourd'hui
3	M.Kenichi Tunoda	Suivi des CGDES/Coordinateur	15 Août 2012	29 juil. 2013
4	Mme. Hiroko Tanimoto	Coordinatrice	17 Jan 2013	12 Août 2013
5	Mlle. Kinue Hatano	Suivi des COGES/Coordinatrice	2 Oct 2013	1 Oct 2014
6	Mlle. Akiko Iwata	Gestion de formation/ Coordinatrice	21 Jan 2014	Aujourd'hui

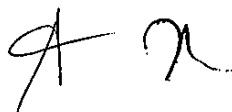
(2) Liste d'experts à court terme

No	Nom	Domaine	De	A
1	M.Morio IWATA	Etude de base/étude des besoins de CGDES	5 Août 2012	1 Oct. 2012
2	M. Masahiro HARA	Conseiller en chef	29 juin 2015	16 janv. 2016

3-2. Liste de machines principales et d'équipement fournis par la JICA

Désignation	Spécification (Nom du modèle/No, Fabricant)	Quantité	Date de livraison	Bénéficiaires	Condition
Ordinateur portable	HP Probook4540s	4	14 Fév 2013	PJ	Bon
Ordinateur de bureau	HP W2072a	1	14 Fév 2013	PJ	Bon
Groupe électrogène	Kusing	1	18 Fév 2013	PJ	Bon
Imprimante Laser	HP Color Laser jet CP5525	1	27 fév 2013	PJ	Bon
Véhicule	Toyota Land cruiser VDJ200 V8 8IT6567RN	1	29 Mar 2013	PJ	Bon
Véhicule	Toyota Land cruiser H LZJ76L 8IT7011RN	1	19 août 2013	PJ	Bon
Bureau et Chaises		4+16	13 Nov 2013	C/CGDES	Bon
Ordinateur portable	HP pavilion	2	26 Nov 2013	PJ	Bon
Imprimante	HP Laser jet pro M113 2 Noir/Blanc	1	26 Nov 2013	C/CGDES	Bon
Imprimante	HP Diskjet 2515	1	26 Nov 2013	PJ	Bon
Vidéo projecteur	EPSON EB S11	2	26 Nov 2013	C/CGDES , PJ	En panne
Photocopieur	CANON 2420 (Noir/Blanc)	1	26 Nov 2013	C/CGDES	Bon
Climatiseur	SHARP 1.5CV	3	11 Dec 2013	C/CGDES	Bon

Climatiseur	SHARP 2CV	1	11 Dec 2013	C/CGDES	Bon
Climatiseur	SHARP 2.5CV	1	11 Mar 2014	PJ	Bon
Imprimante	HP laserjet 5200 Noir/Blanc	1	17 Mar 2014	PJ	Bon
Imprimante	HP Deskjet 2510	1	17 Mar 2014	PJ	Bon
Ordinateur portable	HP 2000	3	1 Dec 2014	C/CGDES	Bon
Imprimante	HP Lasert Jet Pro 100 Colour MFP	1	1 Dec 2014	C/CGDES	Bon

3-3. Liste de Participants en formation d'homologue au Japon

(1) Liste de Participants en Formation au Japon

No	Nom	Position ou Profession	Titre du cours	Lieu	De	A
1	M. Barmou Salifou	le Secrétaire Général du Ministère de l'Education, de l'Alphabétisation et de la Promotion des Langues Nationales (MEN/A/PLN)	Gestion de le Général du Ministère de l'Education, de l'Alphabétisation et de la Promotion des Langues Nationales (M	Tokyo (ICU)	20 Mai 2013	24 Mai 2013
2	M. Abdou Lawan Marouma	Le Directeur des Etudes et de la Programmation, MEN/A/PLN	id.	Tokyo (ICU)	20 Mai 2013	24 Mai 2013
3	M. Moumouni Moussa	Le Directeur Général de la Scolarisation MEN/A/PLN	id.	Tokyo (ICU)	13 mai 2013	24 Mai 2013
	M. Tahirou Elhadji Moussa	Coordonnateur de C/CGDES	id.	Tokyo (ICU)	13 mai 2013	24 Mai 2013
4	M. Yayé Touré Abdourahamane	Directeur régional de l'Education Nationale de l'Alphabétisation et de la Promotion des Langues Nationales (MEN/A/PLN) /Tillabéri	id.	Tokyo (ICU)	13 mai 2013	24 Mai 2013

3-4. Liste des homologues nigériens

N o.	Nom	Fonction
1	M.Elhadji Anounou Yacoubou	le Secrétaire Général du Ministère de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique (MEP/A/PLN/EC)
2	M. Elhadji Boube Mamane	le Secrétaire Général du Ministère des Enseignements Secondaires (MES)
3	M. Haro Abdoulaye	Le Directeur Général de la Scolarisation MEP/A/PLN/EC
4	M. Malam Garba Mamane	Le Directeur Général de la Réforme, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique MEP/A/PLN/EC
5	M. Lawan Marouma Abdou	Le Directeur des Etudes et de la Programmation, MEN/A/PLN/EC
6	M. Mahaman Djibo	Le Directeur des Statistiques MEP/A/PLN/EC
7	M. Tahirou Elhadji Moussa	Le Coordinateur des Comité de Gestion des Décentralisée des Etablissements Scolaires (C/CGDES) MEP/A/PLN/EC
8	M. Garba Insa	Le Coordinateur de la Cellule Nationale de Promotion des COGES/ES, MES
9	M. Roho Oumarou	Le Chef de Division de la Formation et des Innovations (DFI/C/CGDES) MEP/A/PLN/EC
10	M. Sandi Ibrahim	Le Chef de Division du Partenariat et de la Coordination des Interventions (DPCI/C/CGDES) MEP/A/PLN/EC
11	M. Abdou Yahaya	Le Chef de Division du Suivi et Evaluation (DSE/C/CGDES) MEP/A/PLN/EC
12	M. Sani Kane	Les Directeurs Régionaux de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la Promotion des Langues Nationales et de l'Education Civique (DREP/A/PLN/EC) Agadez
13	M. Mamane Boube	DREP/A/PLN/EC/Diffa
14	M. Garba Moussa	DREP/A/PLN/EC/Dosso
15	M. Ali Goge Dango	DREP/A/PLN/EC/Maradi
16	M. Mahamadou Tchamago	DREP/A/PLN/EC/Niamey
17	M. Mohamed Moussa	DREP/A/PLN/EC/Tahoua

18	Abou Idi	DREP/A/PLN/EC/Tillabéri
19	M. Elhqdji Barou Chekaraou	DREP/A/PLN/EC/Zinder
20	Mme Halidu Maimouna Bana	Agent de Division de la Formation et des Innovations (DFI/C/CGDES) MEP/A/PLN/EC
21	Mme Hamani Aissa Yacouba	Agent de Division du Partenariat et de la Coordination des Interventions (DPCI/C/CGDES) MEP/A/PLN/EC
22	M. Rabiou Sani	Agent de Division du Partenariat et de la Coordination des Interventions (DPCI/C/CGDES) MEP/A/PLN/EC
23	M. Yahaya Haouna	Agent de Division du Suivi et Evaluation (DSE/C/CGDES) MEP/A/PLN/EC
24	M. Ousseini Hassane	Agent de la Service de la Formation pour la Gestion Décentralisée des Etablissements Scolaires d'Enseignement Secondaire (SF/GDES/ES)
25	M. Hamidou Hassane	Agent de la Service du Suivi et de l'Evaluation en Gestion Décentralisée des Etablissements Scolaires d'Enseignement Secondaire (SSE/GDES/ES)
26	Mme Bayéro Fatima	Agent de la Service d'Information et de Mobilisation des Partenaires et Acteurs (SIMPA)

* La dénomination du ministère de l'éducation a été changé «Ministère de l'Enseignement Primaire, de l'Alphabétisation, de la promotion des langues nationales et de l'Education Civique (MEP/A/PLN/EC) à partir du 13 août 2013.

3-5. Liste de terrains, bâtiments et équipements

No.	Construction/Equipements
1	Bureau du Projet (Niamey)
2	Bureau de la C/CGDES (Niamey)

3-6 Contribution financière par la JICA (Francs CFA)

	Année 2012 (mai 2012-mars 2013)	Année 2013 (avril 2013- mars 2014)	Année 2014 (avril 2014-mars 2014)	Année 2015 (avril au 9 décembre)	Total
Finance pour les activités (Fcfa)	243 739 594	340 110 630	283 525 362	148 364 641	1 015 740 227

Finance pour les équipements (Fcfa)	15 510 000	12 297 000	1 400 000	0	29 207 000
Total de l'année	259 249 594	352 407 630	284 925 362	148 364 641	1 044 947 227

3-7 Contribution financière par le MEP/A/PLN/EC (Francs CFA)

	An 2012	An 2013	An 2014	An 2015	Total
Fonds de contreparties (KR)	-	52 234 143			52 234 143
MEP/A/PLN/EC (Budget National)	-	<u>Programmé</u> 136 672 000 <u>Débloqué</u> 76 132 700	<u>Programmé</u> 213 576 000 <u>Débloqué</u> 145 700 000	<u>Programmé</u> 154 301 000 (dont 16 000 000 « financement à rechercher ») <u>Autorisé au niveau central</u> 64 301 000	<u>Programme</u> 504 549 000 <u>Débloqué</u> 221 832 700

R

A 91

ANNEXE 4 : Comités Mixtes de Coordination (CMC) tenus (mai 2012 – oct. 2015)

1^{er} Comité Mixte de Coordination	
Date	Le 8 juin 2012
Lieu	Africa Hall à Niamey
Participants	<p><u>MEN/A/PLN</u></p> <ul style="list-style-type: none">- Secrétaire Général du MEN/A/PLN (Président: Coordinateur national du Projet)- Directeur Général de la Scolarisation (DGS)- Directeur Général de la Formation et des Curricula (DGFC)- Directeur des Etudes et de la Programmation- Directeur des Statistiques- Coordinateur et les trois Chefs des divisions de la C/CGDES- Directeurs Régionaux (DREN/A/PLN) des 8 régions <p><u>JICA Niger</u></p> <ul style="list-style-type: none">- Représentant Résident de la JICA Niger- La coordinatrice chargée de l'éducation;- Le chargé de programme ;- Deux (2) cadres de la JICA. <p><u>Projet EPT</u></p> <ul style="list-style-type: none">- Le Chef de Projet JICA ;- L'expert du Projet JICA ;- Les membres du staff du Projet.
Contenus	1. Présentation de l'aperçu du Projet et de ses activités ;

	<p>2. Présentation des résultats de l'atelier de lancement du Projet tenu le 7 juin 2012 à Niamey (l'information de la C/CGDES ; les échanges sur la synergie d'action entre C/CGDES et l'administration scolaire) ;</p> <p>3. Présentation et approbation du programme d'activités du semestre à venir</p>
Résultats	<p>1. L'aperçu du Projet et ses activités programmées ont été présentés et appréciés par les participants</p> <p>2. Les résultats de l'atelier de lancement du Projet tenu le 7 juin 2012 à Niamey ont été présentés et appréciés</p> <p>3. La programmation des activités du semestre à venir a été validée</p>
2^{ème} Comité Mixte de Coordination	
Date	Le 4 janv. 2013
Lieu	Africa Hall à Niamey
Participants	<p><u>MEN/A/PLN</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - Secrétaire Général du MEN/A/PLN (Président: Coordinateur national du Projet) - Directeur Général de la Scolarisation (DGS) - Directeur Général de la Formation et des Curricula (DGFC) - Directeur des Etudes et de la Programmation - Directeur des Statistiques - Coordinateur et les trois Chefs des divisions de la C/CGDES - Directeurs Régionaux (DREN/A/PLN) des 8 régions - PF du projet à la DEP <p><u>JICA Niger</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - Représentant Résident de la JICA Niger - La coordinatrice chargée de l'éducation; - Le chargé de programme ;

	<p><u>Projet EPT</u></p> <ul style="list-style-type: none">- Le Chef de Projet JICA ;- Les experts du Projet JICA ;- Les membres du staff du Projet.
Contenus	<ol style="list-style-type: none">1. Présentation et appréciation des résultats des activités des six premiers mois2. Présentation des résultats de l'atelier de partage d'expériences tenu le 03 janvier 2013 à Niamey (les bilans des activités CGDES/FCC 2011-2012 et les PA CGDES/FCC 2012-2013 ; les échanges sur les stratégies de l'amélioration de fonctionnalité des FCC) ;3. Présentation et approbation du programme d'activités du semestre à venir
Résultats	<ol style="list-style-type: none">1. Les résultats des activités des six premiers mois ont été présentés et appréciés par les participants2. Les résultats de l'atelier de partage d'expériences tenu le 03 janvier 2013 à Niamey ont été présentés et appréciés3. La programmation des activités du semestre à venir a été approuvée
3^{ème} Comité Mixte de Coordination	
Date	Le 13 août 2013
Lieu	Africa Hall à Niamey
Participants	<p><u>MEN/A/PLN</u></p> <ul style="list-style-type: none">- Secrétaire Général du MEN/A/PLN (Président: Coordinateur national du Projet)- Directeur Général de la Scolarisation (DGS)- Directeur Général de la Formation et des Curricula (DGFC)- Directeur des Etudes et de la Programmation- Coordinateur et les trois Chefs des divisions de la C/CGDES- Directeurs Régionaux (DREN/A/PLN) des 8 régions

70

Handwritten signature and initials

	<p><u>JICA Niger</u></p> <ul style="list-style-type: none">- Représentant Résident de la JICA Niger- La coordinatrice chargée de l'éducation de la JICA Niger;- Le chargé de programme. <p><u>Projet EPT</u></p> <ul style="list-style-type: none">- Le Chef de Projet JICA ;- L'expert du Projet JICA ;- Les membres du staff du Projet.
Contenus	<ol style="list-style-type: none">1. Remise officielle des véhicules au MEN/A/PLN pour la C/CGDES et le DREN/A/PLN de Tillabéri2. Présentation et appréciation des résultats des activités des six premiers mois ;3. Présentation des résultats de l'atelier de partage d'expériences tenu les 12 et 13 août 2013 à Niamey (les PA et les bilans des CGDES/FCC 2012-2013 ; les expériences de l'expérimentation du modèle des COGES fonctionnels aux CEG ; le processus de généralisation des COGES fonctionnels au niveau des CEG et les rôles des acteurs) ;4. Présentation et approbation du programme d'activités du semestre à venir
Résultats	<ol style="list-style-type: none">1. Les résultats des activités des six premiers mois ont été présentés et appréciés par les participants2. Les résultats de l'atelier de partage d'expériences tenu les 12 et 13 août 2013 à Niamey ont été présentés et appréciés (3. La programmation des activités du semestre à venir a été approuvée
4^{ème} Comité Mixte de Coordination	
Date	Le 25 fév. 2014
Lieu	Africa Hall à Niamey
Participants	<u>MEP/A/PLN/EC</u>

	<ul style="list-style-type: none">- Secrétaire Général du MEP/A/PLN/EC (Président: Coordinateur national du Projet)-Directeur Général de la Scolarisation (DGS)-Directeur des Etudes et de la Programmation-Directeur des Statistiques-Coordinateur et les trois Chefs des divisions de la C/CGDES-Directeurs Régionaux (DREP/A/PLN/EC) des 8 régions-PF du projet à la DEP <p><u>JICA Niger</u></p> <ul style="list-style-type: none">- Représentant Résident de la JICA Burkina Faso- La coordinatrice chargée de l'éducation de la JICA Niger;- Le chargé de programme. <p><u>Projet EPT</u></p> <ul style="list-style-type: none">- Le Chef de Projet JICA ;- Les experts du Projet JICA ;- Les membres du staff du Projet.
Contenus	<ol style="list-style-type: none">1. Présentation et appréciation des résultats des activités des six premiers mois2. Présentation des résultats de l'atelier de partage d'expériences tenu le 24 fév. 2014 à Niamey (la synthèse des activités CGDES/FCC 2013-2014 ; l'analyse de partenariat FCC-commune ; les échanges sur l'amélioration de partenariat FCC-commune)3. Présentation des résultats de l'atelier sous régional de partage d'expériences tenu du 18 au 20 fév. 2014 à Dakar4. Présentation et approbation du programme d'activités du semestre à venir5. Poursuite de l'expérimentation d'un modèle des CGDES fonctionnels au niveau CEG

Résultats	<ol style="list-style-type: none"> 1. Les résultats des activités des six mois ont été présentés et appréciés par les participants 2. Les résultats de l'atelier de partage d'expériences du Projet tenu les 24 février 2014 à Niamey ont été présentés et appréciés 3. Les résultats de l'atelier sous régional de partage d'expériences tenu du 18 au 20 février à Dakar ont été présentés 4. La programmation des activités du semestre à venir a été approuvée 5. La poursuite de l'expérimentation d'un modèle des CGDES fonctionnels au niveau CEG a été discutée et la reprise de l'expérimentation a été approuvée.
5^{ème} Comité Mixte de Coordination	
Date	Le 8 août. 2014
Lieu	Africa Hall à Niamey
Participants	<p><u>MEP/A/PLN/EC</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - Secrétaire Général du MEP/A/PLN/EC (Président: Coordinateur national du Projet) - Représentant du Directeur Général de la Scolarisation (DGS) : Directeur de l'Enseignement Privé - Directeur des Etudes et de la Programmation - Directeur des Statistiques - Coordinateur et les trois Chefs des divisions de la C/CGDES - Directeurs Régionaux (DREP/A/PLN/EC) des 8 régions - PF du projet à la DEP <p><u>JICA Niger</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - Représentant Résident de la JICA - La coordinatrice chargée de l'éducation de la JICA Niger; - Le chargé de programme. <p><u>Projet EPT</u></p>

	<ul style="list-style-type: none">- Le Chef de Projet JICA ;- Les experts du Projet JICA ;- Les membres du staff du Projet. <p><u>Siège de la JICA</u></p> <p>-L'équipe de la mission de l'évaluation à mi-parcours du projet</p>
Contenus	<ol style="list-style-type: none">1. Présentation et appréciation des résultats des activités des six premiers mois2. Présentation des résultats de l'atelier de partage d'expériences tenu le 7 août 2014 à Niamey (la synthèse des bilans des CGDES/FCC 2013-2014 ; l'analyse de partenariat FCC-commune ; les échanges sur le suivi/accompagnement des CGDES/FCC)3. Présentation et approbation du programme d'activités du semestre à venir4. Présentation des tendances provisoires de la mission de l'évaluation à mi-parcours
Résultats	<ol style="list-style-type: none">1. Les résultats des activités des six mois ont été présentés et appréciés par les participants2. Les résultats de l'atelier de partage d'expériences du Projet tenu le 7 août 2014 à Niamey ont été présentés et appréciés3. La programmation des activités du semestre à venir a été approuvée4. Les tendances provisoires de la mission de l'évaluation à mi-parcours ont été partagées.
6^{ème} Comité Mixte de Coordination (Extraordinaire)	
Date	Le 24 oct. 2014
Lieu	Africa Hall à Niamey
Participants	<p><u>MEP/A/PLN/EC</u></p> <ul style="list-style-type: none">- Secrétaire Général du MEP/A/PLN/EC (Président: Coordinateur national du Projet)- Secrétaire Général du MES

	<ul style="list-style-type: none">- SG/A du MEP-Directeur Général de la Scolarisation (DGS)-Directeur Générale de la Reforme (DGR) (p.i)-Directeur des Etudes et de la Programmation-Directeur des Statistiques (p.i)-Coordinateur et les trois Chefs des divisions de la C/CGDES-Coordinateur National de la Promotion des COGES (p.i)-Directeurs Régionaux (DREP/A/PLN/EC) des 8 régions-PF du projet à la DEP <p><u>JICA Niger</u></p> <ul style="list-style-type: none">- La coordonateur chargé de l'éducation de la JICA Niger;- Le chargé de programme. <p><u>Projet EPT</u></p> <ul style="list-style-type: none">- Le Chef de Projet JICA ;- Les experts du Projet JICA ;- Les membres du staff du Projet.
Contenu	<ol style="list-style-type: none">1. Présentation et approbation du plan de la mise en œuvre des recommandations de la mission d'évaluation à mi-parcours2. Présentation et approbation du cadre logique et du plan d'opération révisés3. Présentation et approbation du programme d'activités des 6 mois à venir4. Echanges sur l'organisation et la préparation de l'atelier sous régional dans le cadre de GDE
Résultats	<ol style="list-style-type: none">1. Le plan de mise en œuvre des recommandations est approuvé par les participants ;2. Le cadre logique et le plan d'opération révisés sont approuvés par les participants ;

	<p>3. La programmation des activités des 6 mois à venir est approuvée ;</p> <p>4. Un plan d'organisation et de préparation de l'atelier sous régional est établi.</p>
7^{ème} Comité Mixte de Coordination	
Date	Le 10 sept. 2015
Lieu	Africa Hall à Niamey
Participants	<p><u>MEP/A/PLN/EC</u></p> <ul style="list-style-type: none"> -Secrétaire Général Adjoint du MEP/A/PLN/EC (Président: Coordinateur national du Projet) -Directeur Général de la Scolarisation (DGS) -Représentant du Directeur des Etudes et de la Programmation -Coordinateur et les trois Chefs des divisions de la C/CGDES -Directeurs Régionaux (DREP/A/PLN/EC) des 8 régions -Représentante de la Cellule National de la Promotion des COGES <p><u>JICA Niger</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - Représentant Résident de la JICA - Le coordinateur chargé de l'éducation de la JICA Niger; - Le chargé de programme. <p><u>Projet EPT</u></p> <ul style="list-style-type: none"> - Le Chef de Projet JICA ; - Les experts du Projet JICA ; - Les membres du staff du Projet.
Contenu	<p>1. Présentation et appréciation des résultats des activités des six derniers mois</p> <p>2. Présentation des résultats de l'atelier de validation du système de suivi/accompagnement des activités des CGDES tenu le</p>

	<p>20 août 2015</p> <p>3. Présentation des résultats de l'atelier du suivi/accompagnement des activités des CGDES tenu le 9 septembre 2015</p> <p>4. Présentation et approbation du programme d'activités à venir</p>
Résultats	<p>1. Les résultats des activités des six mois sont présentés et appréciés par les participants</p> <p>2. Les résultats de l'atelier du suivi/accompagnement des activités des CGDES tenu le 20 août 2015 sont présentés et appréciés</p> <p>3. Les résultats de l'atelier du suivi/accompagnement des activités des CGDES tenu le 9 septembre 2015 sont présentés et appréciés</p> <p>4. La programmation des activités à venir (jusqu'à la fin du projet) est approuvée</p>

R

A

K

ANNEXE 5 : Liste des ateliers tenus par le Projet (mai 2012 à octobre 2015)

Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
An 2012			
1. GENERAL			
1-1	mai	Atelier de partage d'expériences du Projet EPT avec la C/CGDES (1 jour)	Le coordonnateur, les chefs des divisions de la Coordination des CGDES/MEN/A/PLN
			<ul style="list-style-type: none"> - Présentation des activités du Projet EPT phase I et II - Présentation des perspectives et activités de la nouvelle phase du Projet EPT
1-2	Juin	Atelier de lancement du Projet (1 jour)	SG, directeurs centraux, directeurs régionaux de 8 régions, Points Focaux régionaux CGDES de 8 régions, C/CGDES
			<ul style="list-style-type: none"> - Présentation de l'aperçu de la nouvelle phase du Projet - Information sur la C/CGDES - Discussion sur la synergie d'action entre C/CGDES et administration scolaire
1.2 SYSTEME DU SUIVI			
1.2-1	Juil.-août	Réunions des inspecteurs dans les 8 régions (total 8 jours)	DREN, Inspecteurs, C/CGDES
			<ul style="list-style-type: none"> - Partage des résultats de l'atelier de partage d'expériences tenu en juin - Partage des résultats des bilans CGDES 2011-2012 - discussion sur la synergie d'action entre C/CGDES et administration scolaire
1.2-2	Juil.-août	Réunions des Points focaux CGDES dans les 8 régions (total 8 jours)	Points focaux régionaux et départementaux
			<ul style="list-style-type: none"> - Partage des résultats de l'atelier de partage d'expériences tenu en juin - Partage des résultats des bilans CGDES 2011-2012 - Discussion sur les rapports entre C/CGDES et ses répondants
2. PAQUET MINIMUM AXE SUR LA QUALITE (PMAQ)			
2-1	Juin	Ateliers de partages des résultats de test de niveau dans le département de Kollo (administration scolaire, 3 écoles) (total 4 jours)	Inspecteurs, conseillers pédagogiques, enseignants, FCC, PF CGDES, CGDES, communautés
			<ul style="list-style-type: none"> - Partage et échanges des résultats de test de niveau
2-2	Août	Ateliers sur l'élaboration du paquet minimum axé sur la Qualité (PMAQ) avec le conseiller en éducation au siège de la JICA (2 jours)	Equipe du Projet
			<ul style="list-style-type: none"> - Echanges sur les principes de l'apprentissage de mathématiques et les expériences du Japon - Echanges sur les résultats de visite sur le terrain
2-3	Août ; oct.	Atelier de formation sur les outils (livrets d'exercices) du PMAQ pour la pre expérimentation (total 2 jours)	Facilitateurs (PF, directeur cible, enseignants cibles)
			<ul style="list-style-type: none"> - Explication pratique : livrets d'exercices, organisation, facilitation de l'activité - Simulation de l'activité


	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
2.3 MODELE DE SUBVENTION				
2.3-1	Nov.	Atelier d'information sur l'expérimentation du modèle subvention aux CGDES et l'étude d'impact (1 jour)	Directeur régional, les inspecteurs, les conseillers pédagogiques, les PF, les FCC, C/CGDES, PF du Projet/DEP	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation et échanges sur le plan de l'expérimentation du modèle de subvention - Présentation sur la méthodologie de l'étude d'impact d'intervention par l'Institut JICA
2.3-2	Déc.	Atelier de partage des modules du modèle de subvention (1 jour)	Directeur régional, les inspecteurs, les conseillers pédagogiques, les PF, les FCC, C/CGDES, PF du Projet/DEP	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation et échanges sur les modèles du modèle de subvention (gestion des ressources/audit communautaire, planification des activités pertinentes)
2.3-3	Déc.	Formation des formateurs sur les modules du modèle de subvention : gestion et planification (4 jours)	PF régional et départementaux dans la région de Tillabéri, C/CGDES, PF du Projet/DEP	<p>Renforcement des capacités des formateurs en gestion et planification dans le cadre du modèle de subvention aux CGDES</p> <ul style="list-style-type: none"> - Processus de l'audit communautaire - Processus de planification des activités pertinentes - Simulations - Simulation de l'AG de planification sur le terrain
2.3-4	Déc.	Formation des 120 CGDES en gestion dans le cadre du modèle de subvention dans les départements de Say et Torodi (2 jours x 2 département : total 4 jours)	120 CGDES (3 délégués par CGDES), 5 FCC (2 délégués par FCC), PF de la région de Tillabéri, C/CGDES	<p>Renforcement des capacités des CGDES en gestion dans le cadre du modèle de subvention aux CGDES</p> <ul style="list-style-type: none"> - Processus de l'audit communautaire - Simulations - Outils de gestion
2.3-5	Déc.	Formation des 60 CGDES en planification dans le cadre du modèle de subvention dans les départements de Say et Torodi (4 jours x 2 département : total 8 jours)	60 CGDES (3 délégués par CGDES), 5 FCC (2 délégués par FCC), PF de la région de Tillabéri, C/CGDES	<p>Renforcement des capacités des formateurs en planification dans le cadre du modèle de subvention aux CGDES</p> <ul style="list-style-type: none"> - Processus de planification des activités pertinentes - Simulations

An 2013

1.1 GENERAL


1.1-1	Janv.	Atelier de partage d'expériences dans le cadre des activités CGDES/FCC (1 jour)	SG, directeurs centraux, directeurs régionaux de 8 régions, Points Focaux régionaux CGDES de 8 régions, C/CGDES, autres partenaires dans le domaine de l'éducation	<ul style="list-style-type: none"> - Partage des résultats des bilans des activités des CGDES et FCC 2011/2012 et des PA 2012/2013 - Échanges sur la fonctionnalité des FCC - Elaboration des engagements et recommandations
1.1-2	avril	Atelier d'échanges sur les	SG, DGS, Directeur régional, Coordinateur/C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation et échanges sur les résultats des activités du Projet




- 95 -

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
		activités du Projet (réunion préparatoire pour le stage au Japon) (1 jour)		- Visite des écoles cibles des expérimentations
1.1-2	août	Atelier de partages d'expériences dans le cadre des activités CGDES/FCC (2 jours)	Directeurs centraux ; Directeurs régionaux, PFR, Directeurs départementaux et inspecteurs de base 2 de 8 régions ; C/CGDES	- Présentation des résultats des bilans des activités CGDES/FCC 2012-2013 - Expériences de l'expérimentation du modèle des COGES fonctionnels aux CEG - Processus de généralisation des COGES fonctionnels au niveau CEG
1.2 SYSTEME DU SUIVI				
1.2-1	Janv.	Réunion des points focaux CGDES de 8 régions à Niamey (1 jour)	PF régionaux et départementaux de 8 régions, C/CGDES	- Partage des résultats de l'atelier tenu - Echanges sur le système du suivi/accompagnement des CGDES/FCC - Travaux par région
1.2-2	Janv.	Atelier de formation des Points focaux CGDES de 8 régions à Niamey (1 jour)	PF régionaux et départementaux de 8 régions, C/CGDES	Recyclage des PF sur : - le processus de mise en place CGDES/FCC - le processus de l'élaboration des PA CGDES/FCC - le système du suivi des activités des CGDES - l'organisation des réunions des PF - l'organisation des AG FCC
2.2 PAQUET MINIMUM AXE SUR LA QUALITE (PMAQ)				
2.2-1	Mars	Formation des CGDES sur la mise en œuvre du paquet minimum axé sur la qualité (PMAQ) (1 jour)	3 CGDES (2 délégués par CGDES) ; PFD : C/CGDES	- Principes et stratégies du paquet minimum axé sur la qualité (PMAQ) - Processus de mise en œuvre des activités - Stratégies d'organisation des activités de remédiation - Techniques d'administration et analyse de Test de niveau
2.2-2	Mars	Formation des facilitateurs sur l'organisation des activités des livrets d'exercices PMAQ (3 jours)	Facilitateurs (enseignants et membres de communauté) ; PFD ; C/CGDES	- Techniques de facilitation des activités des livrets d'exercices - Pratiques des livrets d'exercices - Simulation avec les élèves
2.2-3	Juil.	Formation des facilitateurs sur l'organisation des activités des livrets d'exercices PMAQ (2 jours)	Facilitateurs communautaires et directeurs de 2 écoles cibles ; PFD ; C/CGDES	- Techniques de facilitation des activités des livrets d'exercices - Pratiques des livrets d'exercices - Simulation avec les élèves
2.2-4	Déc.	Formation des	PFR, PFD, inspecteurs, conseillers pédagogiques ;	- Principes et stratégies du paquet minimum axé sur la qualité (PMAQ)

R


- 96 -

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
		formateurs sur la mise en œuvre des activités du Paquet Minimum Axé sur la Qualité (PMAQ) (2 jours)	C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Processus de mise en œuvre des activités - Stratégies d'organisation des activités de remédiation - Techniques d'administration et analyse de Test de niveau - simulations des formations - calendrier des formations
2.2-5	Déc.	Formation des CGDES sur la mise en œuvre des activités du Paquet Minimum Axé sur la Qualité (PMAQ) dans les communes de Niamey V et Karma (2 zones x 1 jour : total 2 jours)	107 CGDES (2 délégués par CGDES); 3 FCC (2 délégués par FCC); PFR, PFD, inspecteurs, conseillers pédagogiques ; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Principes et stratégies du paquet minimum axé sur la qualité (PMAQ) - Processus de mise en œuvre des activités - Stratégies d'organisation des activités de remédiation - Techniques d'administration et analyse de Test de niveau - simulations
2.2-6	Déc.	Formation des formateurs sur l'organisation des livrets d'exercices PMAQ (2 jours)	PFR, PFD, inspecteurs, conseillers pédagogiques ; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Techniques de facilitation des activités des livrets d'exercices - Pratiques des livrets d'exercices - Simulation
2.2-7	Déc.	Formation des facilitateurs sur l'organisation des livrets d'exercices PMAQ dans les communes de Niamey V et Karma (2 zones x 2 jour : total 4 jours)	107 CGDES (2 délégués par CGDES); 3 FCC (2 délégués par FCC); PFR, PFD, inspecteurs, conseillers pédagogiques ; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Techniques de facilitation des activités des livrets d'exercices - Pratiques des livrets d'exercices - Simulation des activités
2.3 MODELE DE SUBVENTION				
2.3-1	Janv.	Atelier de remise des fonds de subvention aux CGDES cibles dans les départements de Say et Torodi (total 2 jours)	120 CGDES (3 délégués par CGDES), 5 FCC (2 délégués par FCC), Directeur régional, inspecteurs, PF de la région de Tillabéri, C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Recyclage sur la formation en gestion - Remise des fonds de subvention
2.3-2	août	Réunion préparatoire sur la mise en œuvre des activités du modèle de subvention (1 jour)	Directeur régional, PFR, PFD, inspecteurs ; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Programmation des activités de subvention aux CGDES - Calendrier des activités - Rôles des acteurs pour la préparation de formations
2.3-3	Sept.	Formation des formateurs en gestion et planification dans le cadre du modèle de subvention aux CGDES	PF régional et départementaux dans la région de Tillabéri, C/CGDES,	<p>Renforcement des capacités des formateurs en gestion et planification dans le cadre du modèle de subvention aux CGDES</p> <ul style="list-style-type: none"> - Processus de l'audit communautaire - Processus de planification des activités pertinentes

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
		(4 jours)		- Simulations
2.3-4	Oct.	Formation des 120 CGDES en gestion dans le cadre du modèle de subvention dans les départements de Say et Torodi (1 jours x 2 département : total 2 jours)	120 CGDES (3 délégués par CGDES), 5 FCC (2 délégués par FCC), PF de la région de Tillabéri, C/CGDES	Renforcement des capacités des CGDES en gestion dans le cadre du modèle de subvention aux CGDES - Processus de l'audit communautaire - Simulations - Outils de gestion - Gestion de compte banquier
2.3-5	Oct.	Formation des 60 CGDES en planification dans le cadre du modèle de subvention dans les départements de Say et Torodi (3 jours x 2 département : total 6 jours)	60 CGDES (3 délégués par CGDES), 5 FCC (2 délégués par FCC), 7 PF de la région de Tillabéri, C/CGDES	Renforcement des capacités des formateurs en planification dans le cadre du modèle de subvention aux CGDES - Processus de planification des activités pertinentes - Simulations
2.3-6	Nov.	Atelier de remise des fonds de subvention aux CGDES cibles dans les départements de Say et Torodi (total 2 jours)	120 CGDES (3 délégués par CGDES), 5 FCC (2 délégués par FCC), Directeur régional, inspecteurs, 7 PF de la région de Tillabéri, C/CGDES	- Ouverture des comptes bancaiers - Recyclage sur la formation en gestion - Remise des fonds de subvention

2.4 MODELE DU COGES FONCTIONNEL AU NIVEAU CEG

2.4-1	Fév.-mars	Formation des directeurs CEG sur la mise en place des COGES fonctionnels au niveau CEG (2 jours)	Directeurs et surveillants de 3 CEG cibles, C/CGDES	- Processus de la mise en place des COGES fonctionnels - Simulations
2.4-2	Mars	Formation des COGES/CEG en planification des activités pour l'amélioration des résultats d'examen (2 jours)	Président CGDES, Directeurs, délégués des professeurs de 3 CEG cibles	- Processus de programmation des activités axées sur l'amélioration des résultats d'examen - Echanges sur les stratégies de l'amélioration des résultats d'examen
2.4-3	mai	Atelier de partage d'expériences des activités des CGDES/CEG pour l'amélioration des résultats d'examen (1 jour)	Président CGDES, Directeurs, délégués des professeurs de 3 CEG cibles	- Recadrage des activités des CGDES/CEG pour l'amélioration des résultats d'examen (cours d'appui, etc.)

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
3 PARTAGE D'EXPERIENCES SOUS REGIONAL				
3-1	Mars	Atelier de partage d'expériences Burkina Faso-Niger dans le cadre des activités COGES-CGDES (5 jours)	Délégation du Ministère de l'Education National du Burkina Faso ; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Echanges sur les activités des Projets d'appui aux comités de gestion des établissements scolaires (Burkina Faso et Niger) et les expériences des activités des CGDES/COGES - visite des CGDES/FCC
3-2	Sept.	Atelier de partage d'expériences Sénégal-Niger sur la subvention aux CGDES (3 jours)	Délégation du Ministère de l'éducation et du Projet du Sénégal ; Directeurs centraux ; PFR ; PFD ; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation et Echanges du Sénégal et du Niger sur les expériences des activités dans le cadre de subvention directe aux CGDES - Présentation des stratégies du modèle de subvention au Niger - Visite sur le terrain
An 2014				
1.1 GENERAL				
1.1-1	Fév.	Atelier de partage d'expériences dans le cadre des activités des CGDES/FCC (1 jour)	Directeurs centraux ; Directeur régional et PFR de 8 régions ; C/CGDES ; autre partenaires	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation des résultats des PA CGDES/FCC 2013-2014 - Echanges sur le Partenariat FCC-communes - Elaboration des résolutions et recommandations
1.1-2	Août	Atelier de partage d'expériences dans le cadre des activités des CGDES/FCC (1 jour)	Directeurs centraux ; Directeur régional et PFR de 8 régions ; C/CGDES ; autre partenaires	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation des résultats des bilans des PA CGDES/FCC 2013-2014 - Présentation sur les situations du partenariat FCC-commune - Echanges sur le renforcement du système de suivi/accompagnement des activités des CGDES/FCC pour la pérennisation des acquis
1.2 SYSTEME DU SUIVI				
1.2-1	Juil.	Formation des encadreurs de la C/CGDES sur l'informatique (2jours)	C/CGDES ;	- Utilisation de l'Excel pour centralisation des données
1.2-2	Sept.	Formation des encadreurs de la C/CGDES sur l'informatique (2jours)	C/CGDES ;	- Utilisation de l'Excel pour centralisation des données
1.2-3	Oct.	Atelier de l'élaboration des plans de mise en œuvre des recommandations de l'évaluation à mi-parcours et de renforcement des	C/CGDES ;	- Programmation des activités à venir

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
		capacités de la C/CGDES		
2.1 MODELE DU FORUM				
2.1-1	Fév.	Réunion préparatoire pour le Forum régional de Tahoua	Gouverneur de Tahoua, Directeur régional, PFR, C/CGDES	Présentation et échanges sur : <ul style="list-style-type: none"> - les expériences des fora régionaux - l'expérimentation du modèle de forum - le processus de préparation et les rôles des acteurs
2.1-2	mai	Réunion du comité exécutif régional du forum (CERF) de Tahoua	Gouverneur de Tahoua, Président du conseil régional, DREP, PFR, Préfet, Maire, Inspecteur et FCC de Tahoua, PFD ; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Rappel et échanges sur le modèle du forum - Echanges sur l'organisation du forum régional de Tahoua - Préparation et rôles des acteurs
2.1-3	mai	Réunion des inspecteurs : réunion préparatoire du forum régional de Tahoua	DREP, DREP Adjoint, Inspecteurs, PFR ; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Rappel et échanges sur le modèle du forum - Echanges sur l'organisation du forum régional de Tahoua - Préparation et rôles des acteurs
2.1-4	juin	Formation des formateurs sur la mise en place des Cadres de Concertation Communal (CACOCOM)	PFR et PFD de la région de Tahoua ; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Définition, composition, fonctionnement, et axes d'intervention du CACOCOM - Processus de mise en place du CACOCOM - Simulations
2.1-5	Juin	Forum Régional de Tahoua	Gouverneur de Tahoua; Président Conseil Régional de Tahoua ; conseillers régionaux ; Préfets ; Maires ; DREP et DREP Adjoint ; DDEP et Inspecteurs ; PFR et PFD ; FCC ; Chefferie traditionnelle ; leaders religieux ; syndicat ; APE ; C/CGDES ; Partenaires, etc. total 250	<ul style="list-style-type: none"> - Communication sur la situation de scolarisation des filles dans la région de Tahoua - Débats - Adaptation des résolutions du forum - Prise des engagements par chaque groupe des acteurs
2.1-6	Juin	Formation des FCC et maires sur la mise en place des Cadres de Concertation Communal (CACOCOM)	44 FCC (2 délégués par FCC), 44 maires, PFR, PFD ; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Définition, composition, fonctionnement, et axes d'intervention du CACOCOM - Processus de mise en place du CACOCOM - Simulations
2.1-7	juin	Réunion des inspecteurs	DREP, DREP Adjoint, Inspecteurs, PFR ; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Echanges sur les stratégies de mise en œuvre des engagements du forum - Information sur la mise en place du CACOCOM
2.1-8	Août	Atelier d'échanges sur la mise en œuvre des activités du forum	DREP Tahoua, PFR Tahoua, Inspecteurs Tahoua, FCC Tahoua, équipe EPT, équipe Côte d'Ivoire, C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation de l'état d'avancement de la mise en œuvre des engagements du forum - Echanges entre l'équipe Côte d'Ivoire et les membres du comité exécutif régional du forum de Tahoua
2.1-9	Août	Réunion du Comité Exécutif Régional du	Les membres du CERF Tahoua (Gouverneur, Président du Conseil Régional, DREP, PFR, délégués des Préfets, des	<ul style="list-style-type: none"> - Evaluation de la mise en œuvre des engagements du dernier forum - Discussion sur le contenu du prochain forum

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
		Forum (CERF) de Tahoua	maires, des FCC, des inspecteurs, des chefs traditionnels); équipe Konni (DDEP, inspecteur, PFD, maire, préfet), C/CGDES, équipe EPT, PF Projet à la DEP	<ul style="list-style-type: none"> - Programmation du prochain forum - Echanges sur la préparation
2.2 PAQUET MINIMUM AXE SUR LA QUALITE (PMAQ)				
2.2-1	Déc.	Formation des formateurs des facilitateurs PMAQ sur les livrets PMAQ (2 jours)	DDES et Inspecteurs de Kollo et Niamey II, conseillers pédagogiques de Kollo, Kirtachi et Niamey II; PFR Tillabéri et Niamey, PFD Kollo et NiameyII	<ul style="list-style-type: none"> - Techniques de facilitation des activités des livrets d'exercices - Pratiques des livrets d'exercices - Simulation - Techniques de formation
2.2-2	Déc.	Formation des facilitateurs de 37 CGDES sur les livrets PMAQ à Kirtachi (2 jours)	2 facilitateurs par CGDES cibles de Kirtachi	<ul style="list-style-type: none"> - Techniques de facilitation des activités des livrets d'exercices - Pratiques des livrets d'exercices - Simulation
2.2-3	déc	Formation des facilitateurs 2 CGDES sur les livrets PMAQ à Niamey (2 jours)	Tous les facilitateurs de CGDES cibles de Niamey	<ul style="list-style-type: none"> - Techniques de facilitation des activités des livrets d'exercices - Pratiques des livrets d'exercices - Simulation
2.3 MODELE DE SUBVENTION *subvention-PMAQ combiné (2.3-4 à 2.3-7)				
2.3-1	Fév.	Atelier de partage des résultats de l'étude mi-parcours dans le cadre de l'expérimentation du modèle de subvention (1 jour)	Mission de l'Institut Recherche de la JICA; Directeur Général de la Scolarisation, C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation des résultats provisoires d'analyse de l'étude mi-parcours par l'IR JICA
2.3-2	mars	Atelier de partage d'expériences des activités du Projet avec le nouveau directeur régional	Directeur Régional de Tillabéri; PFR; C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation des activités du Projet EPT/JICA - Partage et échanges sur les résultats de l'expérimentation du Projet dans la région de Tillabéri
2.3-3	avril	Atelier d'échanges sur la gestion de compte des CGDES (1 jour x 2 département: total 2 jours)	120 CGDES (2 délégués par CGDES); 5 FCC (2 délégués par FCC); DREP, inspecteurs; PFR,	<ul style="list-style-type: none"> - Echanges sur les expériences de la gestion de compte
2.3-4	Nov.	Formation des encadreurs de la C/CGDES sur le modèle	C/CGDES;	<ul style="list-style-type: none"> - Gestion des ressources (Audit communautaire) - Planification (activités pertinentes) - PMAQ - Simulation

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
		subvention-PMAQ combiné (3 jours)		
2.3-5	Nov.	Formation des formateurs sur le modèle subvention-PMAQ combiné (2 jours)	C/CGDES ; équipe EPT ; PFR de Niamey et Tillabéri, PFD de Niamey II, PFD dans la région de Tillabéri	<ul style="list-style-type: none"> - Gestion des ressources (Audit communautaire) - Planification (activités pertinentes) - PMAQ - Simulation
2.3-6	Nov.	Formation des 37 CGDES de Kiritachi (dépt Kollo) sur le modèle subvention-PMAQ combiné (3 jours)	PFR Tillabéri, PFD dans la région de Tillabéri, C/CGDES, équipe EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Gestion des ressources (Audit communautaire) - Planification (activités pertinentes) - PMAQ - Simulation
2.3-7	Nov.	Formation des 2 CGDES de Niamey sur le modèle subvention-PMAQ combiné (3 jours)	PFD Niamey II, équipe EPT, C/CGDES	<ul style="list-style-type: none"> - Gestion des ressources (Audit communautaire) - Planification (activités pertinentes) - PMAQ - Simulation
2.3-8	Déc.	Atelier de remise des fonds de subvention aux CGDES cibles de Kirtachi	37 CGDES cibles de Kirtachi commune, C/CGDES, équipe EPT, DREP Tillabéri, DDES Kollo, Inspecteurs Kollo	<ul style="list-style-type: none"> - Remise des fonds de subvention - Achat des livrets de PMAQ par CGDES

2.4 MODELE DU COGES FONCTIONNEL AU NIVEAU CEG

2.4-1	Déc.	Formation des encadreurs CNP COGES sur la mise en place démocratique du COGES-ES (1 jour)	CNP COGES	<ul style="list-style-type: none"> - Processus de l'élection démocratique du bureau APE et COGES - Simulation
2.4-2	Déc.	Formation des formateurs sur la mise en place démocratique des COGES-ES	PFR COGES-ES Dosso et Niamey ; PFD COGES-ES dans les régions de Dosso et Niamey ; CNP COGES ; équipe EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Processus de l'élection démocratique du bureau APE et COGES - Simulation

3 PARTAGE D'EXPERIENCES SOUS REGIONAL

3-1	Fév.	Atelier sous régional de partage d'expériences au Sénégal (3 jours)	SG, DGS, Directeur régional, C/CGDES (Coordonnateur, chefs de divisions), équipe du Projet	<ul style="list-style-type: none"> - Echanges sur les expériences des Projets de 4 pays (Burkina Faso, Mali, Niger, Sénégal) dans le cadre de Gestion Décentralisée des Ecoles (GDE)
3-2	Août	Atelier de partage d'expériences de 2 pays : Côte d'Ivoire-Niger (6 jours)	Equipe Côte d'Ivoire (15), C/CGDES, équipe du Projet EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation des 2 pays sur la GDE - Présentation sur les expériences des expérimentations du Niger dans le cadre des activités des CGDES - Visite sur le terrain - Echanges sur le modèle des CGDES fonctionnels et les approches

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
An 2015				
1.1 GENERAL				
1.1-1	Fév.	Atelier de partage d'expériences dans le cadre des activités des CGDES/FCC (2 jours)	Directeurs centraux, Directeurs régionaux de 8 régions, PFR de 8 régions, C/CGDES, autres partenaires,	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation des résultats des Plan d'actions axés sur la qualité des CGDES et des Plan d'actions FCC 2014/2015 ; - Présentation de la synthèse des résultats des enquêtes sur le partenariat entre les FCC et les communes ; - Présenter les résultats à mi-parcours des expérimentations du Projet ; - Visite sur le terrain ; - Information sur l'atelier sous régional de partage d'expériences sur la GDE en mars 2015 ; - Echange sur les conditions d'efficacité de la subvention directe aux écoles et les rôles de l'administration scolaire - Echanger sur les facteurs d'un bon partenariat entre les FCC et les communes pour le développement de l'éducation et les rôles des PF
1.2 SYSTEME DU SUIVI				
1.2-1	Mai	Formation des formateurs de la formation des encadreurs ENI (2 jours)	C/CGDES, PFR de 8 régions, encadreurs DFIC, équipe EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Politiques de la GDE et des CGDES du Niger - Mise en place démocratique du bureau APE et du COGES - Processus de l'Elaboration des plans d'actions - Aperçu de la FCC - Simulation
1.2-2	Mai	Formation des encadreurs ENI de 8 régions (2 jours)	73 encadreurs et 8 directeurs de l'étude des ENI de 8 régions, C/CGDES, PFR de 8 régions, encadreurs DFIC, équipe EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Politiques de la GDE et des CGDES du Niger - Mise en place démocratique du bureau APE et du COGES - Processus de l'Elaboration des plans d'actions - Aperçu de la FCC - Simulation
1.2-3	août	Atelier de validation du système de suivi/accompagnement des activités des CGDES/FCC	Directeurs centraux, 8 Directeurs régionaux, 8 PFR, 8 délégués de PFD, 8 délégués des maires, 8 délégués des DDEP/Inspecteurs, 8 délégués des FCC, 8 délégués des conseillers pédagogiques, partenaires, C/CGDES, EPT, consultant	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation du système de suivi/accompagnement des activités des CGDES - Présentation des résultats de l'étude d'évaluation du système par consultant - Amendement du Projet de l'arrêté portant de l'institutionnalisation du système - Approbation du système de suivi
1.2-4	Sept.	Atelier National du Suivi/accompagnement des Activités des CGDES/FCC	Directeurs centraux, directeurs régionaux, PFR, C/CGDES, partenaire, EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation des résultats des bilans des activités CGDES/FCC en 2014/2015 - Le processus de mise en œuvre des subventions aux CGDES est présenté;

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
		(ANASAC)		- Discussions sur les Autorisations des Dépenses communément appelées (AD)
2.1 MODELE DU FORUM				
2.1-1	Janv.	Réunion du Comité Exécutif Régional du Forum (CERF) de Tahoua	Les membres du CERF Tahoua (Gouverneur, Président du Conseil Régional, DREP, PFR, délégués des Préfets, des maires, des FCC, des inspecteurs, des chefs traditionnels); équipe Konni (DDEP, inspecteur, PFD, maire, préfet), C/CGDES, PF du Projet à la DEP, équipe EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Evaluation de la mise en œuvre des engagements du dernier forum - Discussion sur le contenu du prochain forum - Programmation du prochain forum - Echanges sur la préparation
2.1-2	Janv.	Réunion préparatoire des DDEP/Inspecteurs de la région de Tahoua	DREP et DREP/A Tahoua, DDEP et inspecteurs de la région de Tahoua, PFR Tahoua, C/CGDES, PF Projet à la DEP	<ul style="list-style-type: none"> - Evaluation de la mise en œuvre des engagements du dernier forum - information sur le contenu du prochain forum - Programmation du prochain forum - Echanges sur la préparation - Discussion sur les rôles des inspecteurs pour la mise en œuvre des activités forum
2.1-3	Fév.	Forum Régional de Tahoua	Gouverneur de Tahoua; Président Conseil Régional de Tahoua; conseillers régionaux; Préfets; Maires; DREP et DREP Adjoint; DDEP et Inspecteurs; PFR et PFD; FCC; Chefferie traditionnelle; leaders religieux; syndicat; APE; C/CGDES; Partenaires, etc. total 250	<ul style="list-style-type: none"> - Communication sur les résultats du 1er forum régional de l'éducation de Tahoua - Débats - Adaptation des résolutions du forum - Prise des engagements par chaque groupe des acteurs
2.1-4	Fév	Réunion des DDEP/inspecteurs de la région de Tahoua	DREP Tahoua, DDEP/Inspecteurs de la région de Tahoua, C/CGDES, équipe EPT	- Programmation de la mise en œuvre des engagements pris lors du forum
2.1-5	Fév	Atelier d'échanges FCC-commune	44 maires Tahoua, délégués des FCC Tahoua, C/CGDES; EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Evaluation du partenariat FCC-commune dans le cadre de la mise en œuvre des engagements du dernier forum - Discussion sur les stratégies de la mise en œuvre des engagements du forum
2.1-6	Oct.	Réunion du Comité Exécutif Régional du Forum (CERF) de Tahoua	Les membres du CERF Tahoua (Gouverneur, Président du Conseil Régional, DREP, PFR, délégués des Préfets, des maires, des FCC, des inspecteurs, des chefs traditionnels); équipe Konni (DDEP, inspecteur, PFD, maire, préfet), C/CGDES, PF du Projet à la DEP, équipe EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Evaluation de la mise en œuvre des engagements du dernier forum - Discussion sur le contenu du prochain forum - Programmation du prochain forum - Echanges sur la préparation
2.1-7	Oct.	Réunion préparatoire des	DREP et DREP/A Tahoua, DDEP et inspecteurs de la	- Evaluation de la mise en œuvre des engagements du dernier forum

[Signature]

[Signature]
1
- 104 -

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
		DDEP/Inspecteurs de Tahoua	région de Tahoua, PFR Tahoua, C/CGDES, PF Projet à la DEP	<ul style="list-style-type: none"> - information sur le contenu du prochain forum - Programmation du prochain forum - Echanges sur la préparation - Discussion sur les rôles des inspecteurs pour la mise en œuvre des activités forum
2.1-8	Oct.	Formation des formateurs des FCC sur la planification des activités pertinentes	PFR Tahoua, PFD de la région de Tahoua, C/CGDES, EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Processus de l'élaboration des PAAQ avec les activités pertinentes, - Techniques de test de niveau - Simulation -
2.2 PAQUET MINIMUM AXE SUR LA QUALITE (PMAQ)				
2.2-1	Avril	Atelier de partage d'expériences des facilitateurs PMAQ	37 CGDES de Kirtachi (2 facilitateurs par CGDES), DDEP, Inspecteurs, PFR, PFD, CP, C/CGDES, équipe EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Partage des bonnes pratiques - Evaluation des pratiques sur le terrain - Discussion sur les facteurs clés - Programmation des activités à venir
2.3 MODELE DE SUBVENTION				
2.3-1	Oct.	Atelier de validation des manuels de la subvention PAEQ <i>(N.B. cet atelier a été organisé par la C/CGDES/MEP dans le cadre des activités PAEQ et appuyé techniquement par le Projet)</i>	<i>Directeurs centraux, 2 DREP, PFR 8 régions, partenaires, C/CGDES, coordination PAEQ, EPT etc.</i>	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation de 3 manuels concernés (gestion de subvention, planification, manuel de procédure) - Echanges/amendement - Approbation des manuels - <i>*2 manuels en gestion et planification sont basées sur les manuels développés par le Projet EPT dans le cadre de l'expérimentation du modèle de subvention</i>
2.4 MODELE DU COGES FONCTIONNEL AU NIVEAU CEG				
2.4-1	Janv.	Formation des 12 CEG de Niamey sur la mise en place démocratique du COGES-ES (1 jour)	Directeurs et délégués de professeurs de 12 CEG de Niamey, CNP COGES, PFR Niamey, PFD dans la région de Niamey	<ul style="list-style-type: none"> - Processus de l'élection démocratique du bureau APE et COGES - Simulation
2.4-2	Janv.	Formation des 29 CEG de Dosso sur la mise en place démocratique du COGES-ES (1 jour)	Directeurs et délégués de professeurs de 29 CEG de Dosso, CNP COGES, DRES, PFR, PFD, DDEP, Inspecteurs	<ul style="list-style-type: none"> - Processus de l'élection démocratique du bureau APE et COGES - Simulation
2.4-3	Janv.	Formation des encadreurs de la CNP COGES sur la planification et la gestion simplifiée (2 jours)	CNP COGES	<ul style="list-style-type: none"> - Processus de l'élaboration, l'exécution et le suivi/évaluation des plans d'actions des COGES-ES - Simulation - Gestion simplifiée et outils de gestion
2.4-4	Janv.	Formation des formateurs sur la planification et la gestion simplifiée (3 jours)	PFR Niamey et Dosso, PFD de régions de Niamey et Dosso, CNP COGES, EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Processus de l'élaboration, l'exécution et le suivi/évaluation des plans d'actions des COGES-ES - Simulation - Gestion simplifiée et outils de gestion
2.4-5	Janv.	Formation des 29	2 délégués de 29 CEG de	<ul style="list-style-type: none"> - Processus de l'élaboration,

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
		COGES-CEG de Dosso sur la planification et la gestion simplifiée (3jours)	Dosso, CNP COGES, DRES, PFR, PFD, DDEP, Inspecteurs	l'exécution et le suivi/évaluation des plans d'actions des COGES-ES - Simulation - Gestion simplifiée et outils de gestion
2.4-5	fév.	Formation des 12 COGES-CEG de Niamey sur la planification et la gestion simplifiée (3jours)	2 délégués de 12 CEG de Niamey, CNP COGES, DRES, PFR, PFD, DDEP, Inspecteurs	- Processus de l'élaboration, l'exécution et le suivi/évaluation des plans d'actions des COGES-ES - Simulation - Gestion simplifiée et outils de gestion
2.4-6	juin	Réunion des PF COGES-ES de 2 régions (Niamey, Dosso)	PFR Niamey et Dosso, PFD des régions de Dosso et Niamey, CNP COGES, EPT	- Explication sur la réunion des PF - Explication sur le suivi/accompagnement des COGES et rôles de PF - Evaluation de l'état d'avancement des activités des COGES-ES cibles - Programmation des activités
2.4-7	août	Réunion des PF COGES-ES de la région Niamey	PFR Niamey, PFD de région de Niamey, CNP COGES, EPT	- Evaluation des bilans des activités des COGES-ES cibles en 2014/2015 - Programmation des activités
2.4-8	Août	Réunion des PF COGES-ES de la région de Dosso	PFR Dosso, PFD de région de Dosso, CNP COGES, EPT	- Evaluation des bilans activités des COGES-ES cibles en 2014/2015 - Programmation des activités
2.4-9	Sept.	Atelier d'échanges sur le modèle du COGES-ES fonctionnel	DRES, DDES, Inspecteurs, PFR PFD, C/CGDES, délégués des CEG cibles (directeurs, professeurs, présidents COGES, élèves)	- Présentation des bilans des activités des COGES-ES en 2014/2015 - Identification des problèmes et solutions - Discussion en groupe
2.4-10	Oct.	Atelier de révision des modules des COGES-ES	CNP COGES, EPT	- Révision des modules (mise en place des COGES-ES, planification, gestion simplifiée)
2.4-11	Oct	Formation des formateurs sur la mise en place démocratique des COGES-ES	PFR COGES-ES Dosso et Niamey; PFD COGES-ES dans les régions de Dosso et Niamey; CNP COGES; équipe EPT	- Processus de l'élection démocratique du bureau APE et COGES - Simulation
2.4-12	Oct.	Formation des 6 CEG cibles de la région de Niamey sur la mise en place démocratique des COGES-ES	Directeurs et délégués de professeurs de 6 CEG de Niamey, CNP COGES, PFR Niamey, PFD dans la région de Niamey	- Processus de l'élection démocratique du bureau APE et COGES - Simulation
2.4-13	Oct.	Formation des 36 CEG cibles de la région de Dosso sur la mise en place démocratique des COGES-ES	Directeurs et délégués de professeurs de 36 CEG de Dosso, CNP COGES, PFR Niamey, PFD dans la région de Niamey, DRES, DDES, Inspecteurs	- Processus de l'élection démocratique du bureau APE et COGES - Simulation
2.4-14	Oct.	Formation des formateurs sur la planification et la gestion	PFR Niamey et Dosso, PFD de régions de Niamey et Dosso, CNP COGES, EPT	- Processus de l'élaboration, l'exécution et le suivi/évaluation des plans d'actions des COGES-ES - Simulation

	Mois	Activité	Principaux Participants	Thème/contenu
		simplifiée		- Gestion simplifiée et outils de gestion
3 PARTAGE D'EXPERIENCES SOUS REGIONAL				
3-1	Mars	Atelier sous régional de partage d'expériences sur la GDE (4 jours)	Pays participants (BF, Côte d'Ivoire, Madagascar, Mali, Niger, Sénégal); Banque Mondiale; JICA; IPE/UNESCO (Université Kenyatta), Université Chrétienne Internationale de Tokyo, Université de Hiroshima, ADEA, UNICEF/Mali; Experts JICA (Ghana, Kenya); Autres partenaires locaux; Agents des ministères chargés de l'éducation et autres ministères techniques (Décentralisation, Plan).	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation des pays - Discussion panel : <ul style="list-style-type: none"> ✓ Le développement de l'éducation à travers une synergie d'actions entre les acteurs locaux dans le cadre de décentralisation (amélioration du partenariat entre les communautés, l'administration scolaire, les collectivités locales); ✓ La gestion appropriée et l'utilisation efficace de la subvention directe aux écoles. - Visite sur le terrain - Partage des bonnes pratiques : Amélioration de la qualité de l'éducation à travers la participation communautaire
3-2	juil- Août	Atelier de partage d'expériences de 3 pays : Ghana-Madagascar-Niger	Equipe Ghana (12), Equipe Madagascar (6), C/CGDES, équipe EPT	<ul style="list-style-type: none"> - Présentation des pays sur la GDE - Expériences des expérimentations des modèles au Niger - Visite sur le terrain - Echanges sur les approches communautaires, etc.

ANNEXE 6 : Liste des produits/manuels élaborés par le Projet EPT/JICA

a) Expérimentation Modèle Forum

- 1 Manuel sur la mise en place du Cadre de Concertation Communal (CACOCOM) : juin 2014

b) Expérimentation PMAQ

- 1 Manuel de : processus de mise en œuvre du Paquet Minimum Axé sur la Qualité (PMAQ) 1^{er} édition : nov. 2013
- 2 Guide des facilitateurs pour l'utilisation des livrets de mathématiques – Généralités- (1^{ère} édition): déc. 2013
- 3 Test de niveau pour les classes des CI, CP, CE, et CM : nov. 2013
- 4 Livret 1 d'exercices de remédiation en lecture/écriture des élèves du primaire : juillet. 2013
- 5 Test de niveau – écriture : juillt.2013
- 6 Livret de Mathématiques N°1 ; Version expérimentale : déc. 2012
- 7 Livret de Mathématiques N°2 ; Version expérimentale : déc. 2012
- 8 Livret de Mathématiques N°3 ; Version expérimentale : déc. 2012
- 9 Livret de Mathématiques N°4 ; Version expérimentale : déc. 2012
- 10 Livret de Mathématiques N°5 ; Version expérimentale : déc. 2012
- 11 Livret de Mathématiques Corrigé N°1 ; version expérimentale : déc. 2012
- 12 Livret de Mathématiques Corrigé N°2 ; version expérimentale : déc. 2012
- 13 Livret de Mathématiques Pré mathématique ; Version 1 : nov. 2013
- 14 Livret de Mathématiques N°1 ; Version 1 : nov. 2013
- 15 Livret de Mathématiques N°2 ; Version 1 : nov. 2013
- 16 *Manuel du processus de planification des activités CGDES pour une meilleure utilisation des ressources (3^{ème} édition revue et corrigée) nov.2014 *même manuel que 'subvention N°6'*
- 17 Guide de facilitateurs pour l'utilisation des livrets de mathématiques – Généralités- (2^{ème} édition): déc. 2014
- 18 Rapport de l'expérimentation du PMAQ 2012 – 2015 : juillet 2015
- 19 Livrets de Mathématiques N°3 ; Version 1 : oct. 2015
- 20 Livrets de Mathématiques N°4 ; Version 1 : oct. 2015
- 21 Livrets de Mathématiques N°5 ; Version 1 : oct. 2015
- 22 Livrets de Mathématiques N°3 Corrigé ; Version 1 : oct. 2015
- 23 Livrets de Mathématiques N°4 Corrigé ; Version 1 : oct. 2015
- 24 Livrets de Mathématiques N°5 Corrigé ; Version 1 : oct. 2015



c) **Expérimentation Modèle Subvention**

- 1 Manuel de : Gestion des ressources de CGDES à travers l'Audit Communautaire (1^{ère} édition) déc. 2012
- 2 Manuel de : Processus de micro planification des activités CGDES pour une meilleure application des ressources (1^{ère} édition) : déc. 2012
- 3 Manuel de : Gestion des ressources de CGDES à travers l'Audit Communautaire (2^{ème} édition) sept 2013
- 4 Manuel de : Processus de micro planification des activités CGDES pour une meilleure application des ressources (2^{ème} édition) : sept 2013
- 5 Manuel de : Gestion des ressources de CGDES à travers l'Audit Communautaire (2^{ème} édition revue et corrigée) nov. 2014
- 6 Manuel du processus de planification des activités CGDES pour une meilleure utilisation des ressources (3^{ème} édition revue et corrigée) nov.2014
- 7 Rapport de l'expérimentation du modèle de subvention aux CGDES 2012 – 2014 (draft) : juillet 2015
- 8 Manuel de formation en : Gestion des ressources de CGDES à travers l'Audit communautaire 3^{ème} édition (revue et corrigée) : oct. 2015 (validé pour le PAEQ)
- 9 Manuel de formation en : Processus de Planification des activités CGDES pour une meilleure utilisation des ressources 3^{ème} édition (revue et corrigée) : oct. 2015 (validé pour le PAEQ)

d) **Expérimentation Modèle COGES fonctionnel aux collègues**

- 1 Manuel sur la mise en place démocratique des APE et des COGES-ES (Comité de Gestion des Etablissements Scolaires d'Enseignement Secondaire) : déc.2014
- 2 Manuel pour les procédures de Gestion simplifiée des ressources des COGES-ES (Comité de Gestion des Etablissements Scolaires d'Enseignement Secondaire) : janv.2015
- 3 Manuel sur le processus d'Elaboration, d'Exécution et de Suivi/Evaluation des plans d'actions des COGES-ES (Comité de Gestion des Etablissements Scolaires d'Enseignement Secondaire) : janv. 2015
- 4 Manuel sur la mise en place démocratique des APE et des COGES-ES (Comité de Gestion des Etablissements Scolaires d'Enseignement Secondaire) 2^{ème} édition : oct.2015
- 5 Manuel pour les procédures de Gestion simplifiée des ressources des COGES-ES (Comité de Gestion des Etablissements Scolaires d'Enseignement Secondaire) 2^{ème} édition : oct.2015
- 6 Manuel sur le processus d'Elaboration, d'Exécution et de Suivi/Evaluation des plans d'actions des COGES-ES (Comité de Gestion des Etablissements Scolaires d'Enseignement Secondaire) 2^{ème} édition : oct. 2015

2



7 Guide : Techniques d'organisation des Cours d'Appui et des exercices de remédiation : oct.2015

e) **Système du suivi/accompagnement des activités des CGDES et FC/CGDES**

1 Rapport de l'évaluation du système de suivi/accompagnement des activités des comités de gestion décentralisée des établissements scolaires (CGDES) au Niger en vue de valider son efficacité dans le système éducatif nigérien : sept. 2015

f) **Autres : produits pour le projet PAEQ (appui à la C/CGDES)**

1 Manuel des procédures de la gestion de subvention directe aux CGDES du PAEQ : oct. 2015



評価グリッド

評価項目	判断基準（指標）	結果（終了時評価調査）
1. プロジェクトの実績		
投入実績		総じて、投入の質、量は適切だったが、国家予算の執行時期が大きくなることで、地方レベルでのモニタリング活動等に少なからず影響を及ぼしている。
日本側	計画	供与機材を含む投入実績についてはミニッツ別添3のとおりであり、日本側の総投入額は約4億円 Annex 1 Contribution au Projet 1-1. Liste d'experts japonais 長期専門家延べ5名（CGDES 能力強化、CGDES モニタリング、業務調整）
投入は計画どおりか。	<ul style="list-style-type: none"> ・長期専門家4名（COGES モニタリング、COGES 能力強化、COGES 普及（中等分野）、業務調整）、短期専門家（チーフアドバイザー/教育アドバイザー及び教育評価等必要に応じ） ・機材供与 ・活動経費 ・本邦・第三国研修費 	<p>専門家派遣については、任期短縮や安全管理上の問題による派遣中止などがあったが、現地の優秀な人的資源（プロジェクトコンサルタント）の活躍により、プロジェクトに負の影響が生じることなく前進することができている。また日本人専門家の豊富な経験と献身的な働き、ニジェール側 C/P の尽力により困難な状況を克服してきている。</p> <p>Annex 1 (2) Liste d'experts à court terme 短期専門家2名（チーフアドバイザー/教育アドバイザー、ベースライン調査）</p> <p>Annex 1-2. Liste de machines principales et d'équipement fournis par la JICA 2車両 2012年及び2013年に購入（69,316,000FCFA）</p> <p>Annex 1-6. Financial status of local activity cost by JICA 影山専門家：プロジェクト事務所はJICA負担。CGDES調整部、中等推進室は各教育省の建物にて、それぞれの省負担。プロジェクトは調整部事務所増設工事支援を実施</p> <p>Annex 1-3. Liste des participants en formation d'homologue au Japon 影山専門家：投入実績の「本邦研修」に明記したのはあくまでプロジェクト活動に直接関与し、プロジェクトからの推薦で送った「学校運営委員会関連」の研修者のみであり、当該研修は2013年のみの開催</p>

ニジェール側	計画	ニジェール政府執行額は約1億円、コミュニティ動員額は総額約18億6,000万円となっている。 ニジェール側C/Pの尽力
投入は計画どおりか。	・C/P人件費	Annex 1-4. Liste des homologues nigériens 2015年10月時点
	・プロジェクト執務室及び執務室維持経費	Annex 1-5. Liste de terrains, bâtiments et équipements
	・モニタリング費用	Annex 1-7. Financial status of local activity cost by MEN in Niger Fond de contrepartie: 52 million FCFA
成果の達成度		
成果1:教育開発(教育のアクセス及び質)に貢献するCGDESの活動が継続して実施される制度が確立される。	1. CGDES モニタリング・システムが構築され、公式化される。	プロジェクト終了時まで達成見込み ・外部コンサルタントによる「CGDES モニタリングシステム」評価が実施(2015年6~8月)され、モニタリングシステムの効果が確認された。 ・「CGDES/CGDES 連合活動モニタリング・支援システム承認ワークショップ」開催(2015年8月) ・上記ワークショップにて、現行CGDES モニタリングシステムの有効性が承認されるとともに、モニタリングシステムの制度化にかかる省令案を作成。現在、法令案は教育省法務局等関連局にて精査中で1月ごろに発行される見込み。 ・2013年度より、当該CGDES モニタリングシステム機能化にかかる8州CGDES 監督官(州・県監督官)モニタリング費(燃料費・バイク整備費)及びCGDES 監督官会議費が、教育省活動計画に盛り込まれ、国家予算により支出開始。2013年度、2014年度分執行済み。

	<p>2. CGDES モニタリングのための各会議（経験共有セミナー（年2回）、CGDES 監督官会議（年3回）、CGDES 連合総会（年3回））が全国で 80%以上開催される。</p>	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央レベルの経験共有セミナーは、2012年プロジェクト開始～現在まで年2回開催済み（2012年6月、2013年1月・8月、2014年2月・8月、2015年2月・9月）。 ・州レベルのCGDES 監督官会議は、各州年間平均3回以上開催済み。 ・CGDES 監督官会議は2012年プロジェクト支援による開催、2013年3月に再開した見返り資金2013年、2014年ともに全8州にてそれぞれ年3回開催された。なお、見返り資金による開催は2015年8月をもって終了。2013年・2014年度国家予算により、2013～2014年は各州平均年2回実施） ・コミュニケーションレベルのCGDES 連合総会は、2012年度～2014年度の連合ごとの平均総会開催数は2.87回（通常の年3回に対して95.7%）。年間3回の総会開催率平均は、2012年度：93.2%、2013年度：98.4%、2014年度：95.3%。
	<p>3. CGDES 年間活動総括表の回収率が90%以上維持</p>	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト開始の2012年度～2014年度3年間にわたるCGDES 年間総括表回収率の平均は90.1% 活動計画の回収率が若干低下した2012年度は、見返り資金の一時停止等でCGDES モニタリング費の確保が困難であった。また、2014年度で目標値を下回った理由として、ディッファ州の緊急事態発令で集会が禁じられており、CGDES 連合総会が開催できていないことが挙げられる。
	<p>4. CGDES 調整部の年間活動計画が策定され、それに沿った国家予算が配分される。</p>	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012年2月のCGDES 調整部設立以降、2013年度より教育省の年間活動計画にCGDES 調整部の活動が位置づけられている（2013年、2014年、2015年）。 ・2013年よりCGDES 活動モニタリングにかかる主要活動（CGDES 監督官モニタリング費、CGDES 監督官会議）の国家予算による執行開始（2013年執行済み、2014年執行済み、2015年度予算配分済み）。予算計画に対する執行率は7割程度（2014年）。 ・ただし、予算執行時期の大幅な遅れに加えて、中央から各州への当該活動の支出許可の発行後にも、各州レベルでの出金に困

		<p>難が生じているケースがみられ、CGDES 監督官会議開催等、計画回数に対する執行率は半分ほど。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方、中央レベルの CGDES 活動モニタリングを担う「CGDES/CGDES 連合活動経験共有セミナー」にかかる予算承認及び執行は現在まで実施されていない。 その他、2013 年以降活動計画に含まれていて予算が確保できた活動は：新校長研修（2013 年、2014 年分執行済み）、新設校 CGDES 研修（2013 年、2014 年執行済み）、学校インフラモニタリング・管理にかかるコミュニケーションフォーラム開催支援（2014 年執行済み）、CGDES 補助金供与（2014 年執行済み）、みんなの学校プロジェクト群地域経験共有セミナー開催費（2014 年執行済み）
	<p>5.7 割以上の教員養成校にて CGDES モジュールにかかる講義が実施される。</p>	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教員養成校講師への CGDES 研修にかかる講師研修」実施（2015 年 5 月開催） 「教員養成校講師への CGDES 研修」実施（2015 年 5 月開催）：全国 8 州教員養成校講師 73 名、プログラム局長 8 名、計 81 名受講 「全国 8 州教員養成校での CGDES 特別講義」実施（2015 年 5～6 月開催）：8 州全教員養成校にて卒業年度の教員候補生を対象とした CGDES 関連「特別講義」を実施（受講教員候補生数：約 6,290 名） 各校での講義実施に際しては、各州 CGDES 監督官がモニタリング支援を実施した。
<p>成果 2：CGDES 活動を通じた教育のアクセス及び質の改善のために、次のモデルが開発される。</p> <p>2-1 持続するフォーラム・アプローチ</p> <p>2-2 質のミニマム・パッケージ</p> <p>2-3 リソース管理・運営</p> <p>2-4 中等学校の機能する COGES</p>	<p>1. 対象地域の 75%以上のコミュニティにおいてコミュニティから参加するアクターのフォーラム参加のための予算が確保される。</p> <p>2. 対象校の 9 割以上で、子どもの算数ドリルの結果が向上する。</p>	<p>達成済み</p> <ul style="list-style-type: none"> 「第 3 回タウア州教育フォーラム」会合（2015 年 11 月）にて、州内全 44 コミュニティのうち自己資金により参加した。うち 41 コミュニティはコミュニティ予算により参加した。 フォーラム開催費用全体の 5 割が州・県・コミュニティ関係者によって負担された。 <p>達成済み（2013 年度～2014 年度パイロット活動）</p> <p>2013 年度：</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象 107 校中 105 校（98%）で学校平均（全学年平均）のテスト

		<p>ト結果が向上し、対象全 332 クラス中 309 クラス (93%) で結果の向上が確認された。</p> <p>2014 年度 (補助金有効活用モデルとの結合型モデル試行) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象 39 校中 39 校 (100%) にて学校平均 (全学年平均) のテスト結果が向上し、対象全 120 クラス中 118 クラス (98.3%) で結果の向上が確認された (1 クラスは変化なし、1 クラスは平均点 0.9 減少)。
	<p>3. リソース管理・運営モデルが開発され、補助金が配賦される CGDES の 80% 以上で同モデルが活用される。</p>	<p>達成済み</p> <p>2012/2013 年度～2013/2014 年度 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトとして補助金を配賦した CGDES については 100% リソース管理・運営モデルが活用されている (インパクト評価調査のコントロール群を除く)。具体的には以下のとおり。 ・補助金管理面では、対象 120 全校にて同モデル「リソース管理」の「コミュニティオーデット (住民監査)」プロセスが実践され、住民集会を通じた補助金受領・運用計画策定・補助金活用・結果共有/評価がなされた。モデルに基づき、両年度ともに補助金供与対象全 120 校の証票書類が回収分析された結果、適切なリソース使用が認められた。 ・リソース運用面モデルに基づき、児童の学力向上につながる活動 (補習授業、夜間学習、練習問題実践、教科書・問題集・文具購入等) が計画実施されており、その割合も増加している。 ・JICA 研究所によるインパクト評価「介入評価調査結果報告 (エンドライン調査仮分析結果)」にて、CGDES メンバーへの調査を通じて、プロジェクトモデルを導入したパイロット対象 60 校 (下表グループ 2) が、それ以外のグループと比較して、より高い割合で補習授業、夜間学習を実施しているとの結果が報告された。 <p>2014 年度 :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデル導入対象 39 校に対し、リソース管理及びリソース運用 (活動計画策定) 能力強化研修を実施。全 39 校で補助金の管理と質の改善 (補助金を活用しての算数ドリル購入、ドリル実践活動の計画と実施＝補助金有効活用モデルと質のミニマム・パ

		<p>パッケージ結合モデル)に係る CGDES 活動が実施された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICA 研究所によるインパクト評価「介入評価調査結果報告 (エンドライン調査仮分析結果)」にて、CGDES メンバーへの調査を通じて、プロジェクトモデルを導入したパイロット対象 60 校 (下表グループ 2) が、それ以外のグループと比較して、より高い割合で補習授業、夜間学習を実施しているとの結果が報告された。 <p>GPE 資金による「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」学校補助金供与では、同モデルのプロジェクト開発モジュール 2 種 (リソース管理、活動計画策定) が公式に PAEQ 補助金供与モジュールとして承認されており、同モデルをベースとした「補助金供与手続きマニュアル」も同様に承認されている。この「PAEQ」学校補助金活動の対象校についても同モデルの導入に向けて技術支援を行っている。</p> <p>PAEQ 対象校への同モデル導入に際して、その質の確保のために、プロジェクトによる CGDES 調整部への技術支援が適宜実施されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なお、全 39 校にてリソース管理・運営モデルに基づいて住民監査が行われ、全証票書類回収に至った。
	<p>4-1. 対象校の 9 割以上の中等学校で民主的な選挙でメンバーが選出される。</p>	<p>達成。2014 年度対象 41 校中 40 校 (97.6%) で選挙総会開催、COGES メンバー選出。 定期的活動進捗情報収集・モニタリングにより 2015 年度対象校における達成見込みは高い。</p>
	<p>4-2. 対象校の 8 割以上の中学校で学校活動計画中少なくとも 1 つの活動が 100%実施される。</p>	<p>達成。100%の対象校で卒業試験対策補習活動が 100%計画・実施。対象校平均実施活動数は 8.4 活動で総動員額が高い。 ただし中等 COGES 監督間による COGES 活動情報収集・モニタリング能力・体制強化が必要。 実現可能性・持続性の高い中等 COGES 活動モニタリング体制の構築が課題。</p>

プロジェクト目標の達成度		
<p>プロジェクト目標「住民参加を通じたニジェールの教育開発（教育のアクセス及び質）に向けて、CGDES の学校運営の役割と能力が強化される」の達成度。</p>	<p>1.（アクセスの指標）就学児童数に見合った全国の小学校の教室数が確保される。</p>	<p>達成済み ・2014/2015 年度 CGDES による建設された教室（主に藁葺き）総数は 25,233 教室（実施 CGDES 当たり 2.1 教室）。この貢献及び通常の教室と合わせて、1 教室当たりの児童数全国平均は 41 名程度と推計される。</p>
	<p>2.（質の指標）CGDES 活動による補習時間（補習授業及び夜間学習）について年間 150 時間以上を維持する。</p>	<p>達成済み ・2014 年度 CGDES による補習年間時間数平均は、166.5 時間。過去 3 年間の平均時間数は 173.76 時間。</p>
	<p>3.（役割）80%以上の CGDES 連合がコミュン予算から財政的支援を受ける。</p>	<p>達成済み ・2014 年度コミュン予算からの財政支援を受けた CGDES 連合は全国 266 連合中 255 連合（95.86%）。</p> <p>連合全動員額に対するコミュン支援額が占める割合が上昇しているということはコミュンの連合に対する理解が深まっている証拠とみることができる。 （予想をはるかに上回り、達成。額も 1 割強の 2.5 倍となり、全動員額の 4 分の 1 がコミュンによって支援されている。）</p>
上位目標の達成見込み		
<p>上位目標「学校分権化運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する」の達成見込み度。</p>	<p>PDM 上の上位目標変更</p>	<p>「住民参加型の学校運営を通じて」から「学校分権化運営を通して」に変更。 影山専門家：この点の変更は、PDM 改訂承認のための臨時 JCC にて参加者協議を経て改定された。改訂理由としては、ニジェール側の考え方として、ここが「上位目標」である以上、EPT プロジェクトの介入のみで達成することを意図するものではなく、ニジェールの政策に沿う形で、同分野における国や他ドナーの介入の総体としての目標として定めるべきとの意見から。よって、「住民参加による学校運営」はあくまで EPT のアプローチであり、ニジェールの学校分権化政策の一面にすぎないことから、それを上位目標として定めるのは適切ではなく、教育システムの分権化を含む、より広義の「学校分権化政策」とすべきとの結論となる。</p>

【指標1】教育指標（就学率、留年率、中退率、終了率など）の向上

プロジェクトにより導入された各種活動が継続・普及されることにより上位目標が達成される見込みである。

【指標1】教育指標（就学率、留年率、中退率、修了率など）の向上 【アクセス】

- ・就学前：粗就学率（2011年度）6.3 →（2013年度）6.5
- ・初等教育：粗入学率（2011年度）97.9 →（2013年度）82.9
粗就学率（2011年度）79.2 →（2013年度）71.3

2013年度の初等教育粗入学率、初等教育粗就学率減少は2012年度に実施された国勢調査の結果、就学児童推定人口が増えたためと考えられる（過去10年のトレンドをみると確実にアクセス改善されている）。

【質の向上】

	2011年度	2013年度
初等教育修了率	55.8	61.7
修了試験合格率	56.7	60.6
中学進級率	58.8	59.5

人口総数が増えて、アクセス指標が減少しているところ、質の向上指数はわずかながら上昇している。就学児童人口の総数変化がなければ、かなり大きな成果が出ていたと予想される。

質のミニマム・パッケージの算数ドリルの成果が明らかになるにつれ、パイロット地域ではさらにフランス語の補助教材を望む声、評判を聞きつけたパイロット外の地域の保護者や学校長からは、わが地域にも算数ドリルの普及を、と望む声があった。質のミニマム・パッケージが確実に普及し、各 CGDES によって継続されることにより、学力向上、それに伴う留年率や中退率の改善の向上が見込まれる。

就学前教育指標

粗就学率(%)	2010-11	2011-12	2012-13	2013-14*
男子	5.6	6.4	7.3	6.2
女子	5.7	6.3	7.5	6.9
全体	5.7	6.3	7.4	6.6

初等教育各種指標

		2010-11	2011-12	2012-13	2013-14*
粗 新 入 学 率 (%)	男子	106.6	103.9	106.9	89.7
	女子	92.7	91.7	91.3	75.9
	全体	99.8	97.9	99.2	82.9
粗 就 学 率 (%)	男子	84.9	87.8	89.5	77.7
	女子	67.3	70.7	74.7	64.8
	全体	76.1	79.2	82.0	71.3
留年率	男子	-	4.37	4.4	3.9
	女子	-	4.53	4.5	4.2
	全体	-	4.44	4.4	4.0
初 等 中 退 率	男子	9.9	11.7	12.6	12.7
	女子	11.4	12.7	13.5	12.1
	全体	10.5	12.2	13.0	12.4
初 等 修 了 率	男子	59.7	63.9	65.5	69.8
	女子	42.6	47.7	49.1	53.5
	全体	51.2	55.8	56.4	61.7
初 等 修 了 試 験 合 格 率	男子	64.9	57.6	57.7	61.2
	女子	61.6	55.4	56.4	59.7
	全体	63.5	56.7	57.2	60.6
6 年 - 上 級 進 学 率	男子	77.4	60.4	57.3	-
	女子	71.4	56.4	54.8	-
	全体	74.8	58.8	56.2	59.5

*2012 年度に比べ、2013 年度の各種教育指標（就学率、修了率など）の低下がみられるが、これは2012年度実施の国勢調査の結果就学児童人口が予測より増加したためと理解されている。人口増加率は3.2%から3.9%と見直され、人口総数も大幅に増加した。
出所：2012年度教育年鑑、2013年度教育年鑑（暫定版）

【指標2】初等課程を終えた児童の割合

【指標2】初等課程を終えた児童の割合 指標1同様に、初等修了試験合格率も以下のとおり緩やかな改善が確認される。なお、初等修了試験が2013年度より廃止となったため、2014年度からは学習達成度の改善を測るための指標が「年3回の期末試験結果の平均点を基準とすることになった。ただし、2014年度の統計は発表されていない。

2010～2013年初等修了試験合格率

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
男子	64.9	57.6	57.7	61.2
女子	61.6	55.4	56.4	59.7
全体	63.5	56.7	57.2	60.6

なお、2014年の中等学校進学率は全体で平均56.03%である。

*年3回の期末試験の平均をもとに出した進級率のため、厳密には初等修了試験合格率とは比較できない。

2. 実施プロセスの検証		
活動の進捗・実施状況		
活動は計画どおりに実施されたか。	活動計画と実施状況の確認	<p>本プロジェクトでは計画どおりに活動が実施されている。ニジェールの治安状況から日本人専門家がニアメ市内での活動に限定されているにもかかわらず、すべての活動が計画どおり実施されていることは称賛に値する。</p> <p>ただし、CGDES モニタリングシステムの承認に関して、活動 1-4 の承認ワークショップは予定どおり開催されたものの、最終的な目的である省令の発令までには至っていない。早期に関係各省による協議を経て、省令が発令されることが期待される。また、活動 1-6 調整部の年間活動計画策定も着実に実施され、教育省予算の承認（予算配分）はなされているが、その執行時期に遅れが一部で生じている（特に州レベル等）。</p> <p>なお、プロジェクト期間中に今後予定されている活動を着実に実施していく必要がある。特に重要な活動は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な CGDES 調整部等 C/P の能力強化 ・パイロット地域でのフォーラム実施後の活動モニタリングとその結果の共有 ・質のミニマム・パッケージ及びリソース管理・運営に関するモデル共有ワークショップ ・中等学校の機能する COGES モデルの検証と検証されたモデルの共有
中間レビューの提言のフォローアップ状況		<p>プロジェクトの運営管理としては、主に CGDES 調整部と計画局プロジェクト担当者との月例会が実施されており、活動の進捗報告、計画、問題解決の場として機能している。関係者は毎月の会合に積極的に参加し、情報共有も円滑に実施されており、プロジェクト運営状況は良好である。</p> <p>また、プロジェクトは合同調整委員会（JCC）を有効に活用し、意思決定をタイムリーかつ効果的に行った。</p>

		<p>これまでのプロジェクトフェーズ 1、フェーズ 2 の支援により CGDES の制度は既に初等教育省の政策に反映されており、研修モジュールなどもニジェル政府の文書として承認され、活用されている。本フェーズでは C/P はより積極的に、そして自立的に活動ができており、オーナーシップは高いといえる。 中等教育省については今フェーズから COGES の取り組みのパイロットが始まったことから、今後の活動を通じてオーナーシップをさらに高めていくことが期待される。</p> <p>CGDES 連合と地方自治体の連携強化 (フォーラムアプローチを継続し、評価を行いつつ、他州への拡大を見据えて取り組みの成果を実証していく必要がある。)</p> <ul style="list-style-type: none">・タウア州において州教育フォーラムを 3 回開催済み (3 回目は 2015 年 11 月開催)。・タウアフォーラム州執行委員会 (2015 年 10 月時点) にて、全 44 コミューンにおける『コミューン連絡協議会』の設置を確認。また、州内 44 コミューン中 42 コミューン (95.5%) による『第 3 回タウア州教育フォーラム』へのコミューン関係者 (市長、連合代表 2 名) の参加費予算化が確認された (残り 2 コミューンに関しては、情報未入手)。・第 3 回フォーラム開催時には、プロジェクトからの支援なしに、州内全 44 連合及び 44 コミューン関係者 (市長もしくは市長代理) が自主参加。うち、40 連合はコミューンからの参加費 (交通費・日当等) 受領が確認されている。・プロジェクト合同調整委員会においてプロジェクト関係者へ共有するとともに、国内経験共有セミナー (1 回)、地域経験共有セミナー (1 回) において経験共有済み。・CGDES 連合の予算は各 CGDES からの拠出と市町村からの支援により賄われているが、連合によっては市町村が協力的でないケースも見受けられる。 <p>・補助金パイロット活動の全国展開に向けた計画策定 パイロット地域での活動を着実に実施するとともに、プロジェクト合同調整委員会会合や国内及び地域での経験共有セミナーにて共有がなされている。</p>
--	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> ・「PAEQ 補助金マニュアル承認アトリエ」でのモデル共有・モジュール承認済み。 ・GPE 資金「質の教育支援プロジェクト (PAEQ)」にプロジェクト開発補助金有効活用モデルが導入されたことから、プロジェクト開発モジュール2種 (リソース管理・活動計画策定) がPAEQ 活動関係者に共有され、公式にマニュアルとして承認済み。 ・なお、インパクト調査において、補助金に加えて、リソース管理とその使い方 (児童の学習効果につながる活動計画策定) にかかる能力強化を含む、プロジェクト開発の「補助金モデル」を導入したグループが、児童学力テスト結果において、他グループよりも平均点が高いことが確認された。その背景として、このグループでは、当該モデルを導入していないグループより多くの CGDES が補習・夜間学習に取り組み、児童の参加率も良く、かつ (家族の支援のもと) 児童の自宅学習時間が増加していることが判明した。この結果についても経験共有セミナーにて共有済み。 <p>質のミニマム・パッケージパイロット活動の全国展開に向けた計画策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パイロット地域での活動を着実に実施するとともに、プロジェクト合同調整委員会会合や国内及び地域での経験共有セミナーにて共有がなされている。 ・質のミニマム・パッケージの取り組みによる成果として生徒の算数ドリルを通じた学力向上が確認されている。 <p>機能する中等教育レベル COGES のメンバーをインタビューした。また担当するプロジェクトコンサルタントもインタビューした。活動の遅れはあるものの、パイロットの COGES の補習支援活動が中学校卒業試験結果の改善に直結するという手ごたえもあり、方向性として間違っていないという確信を得ることができた。</p>
<p>技術移転の方法に問題はなかったか。</p>		<p>プロジェクトが CGDES 調整部を強化 (機材供与、本邦研修) し、プロジェクトが CGDES 調整部に技術移転</p>

活動の実施過程で生じた問題はあるか、その要因は何か。	活動実施状況と生じた問題の確認	COGES モニタリングに係る見返り資金再開の遅延によるモニタリング費用の不足が生じ、プロジェクトの支援で賄ったが、2013年4月より資金再開。
		2013年8月の省庁改編により、中等学校管轄が中等教育省に変わり、新たなC/P設置の遅れにより、成果1の中等学校への介入が一時中断していたが、2014年11月から中等教育省と正式に活動を開始した(2014年8月の中間評価時に中等教育と協議、COGES担当部署の設置をもって、中学校COGESモデル開発活動に限定して支援を行うことで合意)。 もともと今フェーズの詳細設計時及び立ち上げ時には、中学校は現在の初等・識字・国語推進・市民教育省の管轄になっており、それをもとに中学校COGESモデル開発活動をプロジェクト活動として入れていたが、その後、中等教育省の設立に伴い、中学校が現中等教育省の管轄へとなったことから、プロジェクトのC/P省と異なるということで、中学校関連の活動は一時中断していた。そのようななか、中等教育省からの強い働きかけから、中間評価団のニジュール訪問時に協議され、中学校COGESモデル開発のパイロット活動に限って中等教育省と活動を実施することになった。
		中央実務レベルにおいてC/Pの異動は少ない。ただし次官局長クラスのキーパーソンの異動は多い。地方レベルにおいてはC/P等の異動があるものの、経験共有セミナーなどが実施されているため、異動があってもプロジェクトへの負の影響が少ない。今後も中央・地方レベルで経験共有セミナーを行い、異動による負の影響をあらかじめ軽減するなどを検討する必要がある。
プロジェクト運営管理		
モニタリングと実施状況	モニタリングはどのように実施されているか。	CGDES 調整部及び計画局との月例会議の実施があるようだが、CGDES 調整部月例会議議事録は入手できず。
	モニタリング結果はどのようにフィードバックされたか、問題への対応は十分だったか。	中間レビュー及び終了時評価はニジュール側と合同で実施し、インタビューそして協議も行っていることから、特にプロジェクト運営管理のモニタリングに関するフィードバックは行われていない。

意思決定過程	どのように意思決定がなされているのか。	プロジェクトは合同調整委員会（JCC）を有効に活用し、意思決定をタイムリーかつ効果的に行った。
プロジェクト内のコミュニケーションは十分であったか。	日本人専門家と C/P、日本人専門家間のまたのコミュニケーション状況	プロジェクト及び CGDES 関係者インタビューを通して、プロジェクト内外の円滑なコミュニケーション状況を確認。
		プロジェクトコンサルタントインタビューで確認
本部・在外事務所のプロジェクト支援は適切であったか。	本部・在外事務所とプロジェクトのコミュニケーション、支援状況	担当者とプロジェクトチーム（チーフアドバイザー）間電話メール相談頻繁。 中間レビュー、終了時評価調査の团长はともに原課課長で一貫性あり。 職員引継ぎの際、引継ぎから漏れてしまった書類がいくつかあったよう。 プロジェクトチーム支所間コミュニケーション問題なし。 対処方針・帰国報告にはアフリカ部職員が出席、フォロー。 調査団帰国報告会はブルキナ事務所長によってフォロー。
C/P のオーナーシップ		
C/P の配置は適切であったか。	適切な能力と人数の C/P が配置されたか。	異動した C/P リストは入手できず。現時点の C/P リストのみ
		影山専門家：投入実績 C/P リスト参照のこと。 3 課長とは調整部部長以下の 3 課の課長のことを指すことを確認。
C/P のプロジェクト活動参加の度合い	プロジェクト活動に C/P は積極的に参加、活動したか。	
実施機関のプロジェクト運営費の負担の度合い	研修費、日当、モニタリング費などの負担の度合い	調整部インタビュー：中央が地方をモニタリングするための予算は確保されているが、執行が伴わない。 ユニセフ：予算が確保されているのに、予算執行されず別の目的（国防やその他省の優先事項）に使われることがある。
		影山専門家：国家予算による執行がないのは、COGES 推進室のモニタリング費用や研修費などである。

本邦研修の成果	本邦研修の参加者5名は、研修成果をどのようにプロジェクトに反映させていくか。	本邦研修によりキーパーソンを日本に招へいし、タイミング良く日本の経験を共有し、プロジェクトに対する理解を促進した。それにより、本邦研修に参加した初等教育事務次官のバックアップでCGDES モニタリング費用が国家予算に計上されるなど、キーパーソンからの支援を得ることができた。
他ドナーとの連携		
他ドナーとの連携状況、連携活動による効果	他ドナーとの連携状況、連携活動による効果	<p>本プロジェクトの成果や教訓は PTF 会合、西アフリカ地域経験共有セミナー等を通して周辺国(6カ国)や関係ドナー(世界銀行、UNESCO、GPE等)と共有されている。また、プロジェクト活動としてインパクト評価を実施し、成果を科学的に分析・発信した。これらの積極的な情報発信・情報共有の結果、本プロジェクトの補助金供与の活動実績が注目され、GPE 資金による、世界銀行管理のプロジェクト「質の教育支援プロジェクト(PAEQ)」の補助金コンポーネントで、みんなの学校プロジェクトが開発した補助金有効活用モデルが採用された。同補助金有効活用モデルは今後2,800校まで普及される予定である。これは、フェーズ1から世界銀行との連携が継続されてきた結果であるといえる。世界銀行は、本プロジェクトのフェーズ1が開発した学校運営委員会活性化モデル(ミニマム・パッケージ)を当時1万校に全国普及する際、本プロジェクトの要請を受けて、教育省を通して活動資金(研修費用、アニメーター雇用費用、普及期間のモニタリング費用)を拠出した。また別途、学校運営委員会担当官の移動手段であるバイクの購入も支援するなど、本プロジェクトとの連携の実績がある。</p> <p>他にも、フェーズ1やフェーズ2ではUNICEFとコミュニティ幼稚園に関する連携がなされた。その結果、2009年度末までに、この連携によるニジェール全国のコミュニティ幼稚園は165園となり、対象園児は1万人(当時のニジェールの就学前教育就学者の約15%)となった。</p> <p>他ドナーの資金支援によるプロジェクトの成果の拡大は、プロジェクトの活動が高く評価されている結果である。</p> <p>ユニセフはコミュニティ幼稚園から思春期の子どものケアにシフトしていくという印象。ユニセフはJICA(事務所?)に対してコミュニティ幼稚園などで連携を持ちかけるも、実現できず当事者はあきらめているよう。</p> <p>就学前教育は初等教育省の担当。</p>

3. 5 項目評価		
・ 妥当性		以下の理由から、プロジェクトの妥当性は非常に高い。
必要性		
プロジェクト目標、上位目標は終了時評価時点においてもニジェールの開発政策及びターゲットグループのニーズに合致しているか。	整合性の確認	<p>(1) ニジェールの教育政策とプロジェクト目標の整合性 2012年5月には教育政策文書2013~2020が発表され、これを実践していく戦略文書として「教育及び研修セクター計画(PSEF2014~2024)」が策定された。PSEF2014~2024では、具体的活動として地方分権化に伴うCGDESの役割や能力強化、権限の強化、州・県・コミュンそれぞれの教育行政レベルの能力強化が明記されている。したがって、プロジェクト目標である「ニジェールの教育開発(教育のアクセス及び質)に向けて、CGDESの学校運営の役割と能力が強化される」は現在においてもニジェールの教育政策の柱の1つであり、整合性が高い。</p>
日本側の優先度		
日本の援助政策、JICA 国別事業実施計画との整合性はあるか。	優先度の確認	<p>(2) 日本の援助方針とプロジェクト目標の整合性 2015年9月、持続的な開発目標(SDGs)の目標設定と合わせて日本政府が発表した「平和と成長のための学びの戦略」において包摂的かつ公正な質の高い学びに向けて教育協力を実施するとしている。日本の対アフリカ支援の基軸である「アフリカ開発会議(TICAD)」では、教育を優先項目の1つとして掲げており、2008年のTICAD IVで採択された横浜行動計画においては、西アフリカにおける「みんなの学校」モデルを基礎とした学校運営改善の支援対象校を1万校に拡大することを表明している。さらに2013年実施のTICAD Vでは「新たに2,000万人の子どもに対して質の高い教育を提供」することを掲げている。 本プロジェクトは日本の政策との整合性が高いうえに政策を具現化するプロジェクトとして注目されている。</p>
手段の適切性		
プロジェクトのアプローチは適切であるか。	適切性の確認	<p>(3) 実施方針の適切性 ニジェールの地方分権化の流れのなかで、学校運営委員会は教育</p>

		政策でも重要な役割を担うものとして学校運営の権限が与えられている。教育環境整備のための資金・資源や人材に限られているニジェルでは、学校運営委員会による資金・資源動員、運営管理がますます求められている。したがって、CGDES の役割と能力強化による教育のアクセスと質の向上をめざす本プロジェクトのアプローチは適切である。
	フォーラムアプローチは CGDES 機能強化を通じたニジェルの教育課題に貢献する手法として適切か。	フォーラムアプローチこそ地方分権の流れを組み、地方公共団体を巻き込む方法だということで妥当性が高い。
	補助金を導入した手法はリソース運営・管理能力強化に効果的なアプローチか。	ドナーによる学校補助金が大きな潮流となっているなかで、リソース（資金）管理などに関する研修は透明性を高める。
	中等学校の機能する COGES アプローチは適切か。	初等教育での成功体験にかかわった行政官数人が中等教育省に配属されている。ごく自然に中等教育建て直しのためには住民の力を借りなければならないことが共通認識となりつつあり、2015 年の要望調査で日本政府に対して協力要請書が提出された。
ターゲットグループの選定は適切であったか（対象、規模、男女比等）。	ターゲットグループ選定理由	（４）ターゲットグループのニーズとプロジェクト目標の整合性 ニジェルの教育指標はアクセスについては緩やかな改善がみられるものの、2013 年度の初等教育粗就学率は 71.3%であり、中退率は 12.4%にのぼり、いまだアクセスの改善が必要とされている。教育の質においては、2013 年度の初等教育修了率は 61.7%、初等教育修了試験合格率は 60.6%と、学習達成度が著しく低く、教育の質の改善が課題となった。本プロジェクトはフェーズ 2 までに設立された全国 CGDES の能力強化や地方分権化の下で CGDES を支えるさまざまな仕組みづくりやその強化を通じて、教育のアクセスと質の向上をめざすものであり、ニジェル国民のニーズに確実に合致している。 また、中等（前期中等）教育に関しては、アクセス面で大きな課題を抱えており、COGES の設置がアクセス面の改善に貢献することから、中等学校の機能する COGES モデルの構築の意義は高い。

ターゲットグループ以外への波及性はあるか。	波及効果の有無	CGDES 設立から運営、モニタリングに関するノウハウを得た CGDES 調整部のもとで普及されることでターゲットグループ以外への波及が見込める。
中間レビュー以降、プロジェクトをとりまく環境（政策、経済、社会等）の変化はないか。	環境変化の有無	中間レビュー以降、プロジェクトをとりまく環境（政策、経済、社会等）は少し変化している。ディッファでの非常事態宣言、IS 勢力拡大で近隣諸国の治安の悪化がある。
・有効性		
プロジェクト目標の達成		以下の理由から、プロジェクトの有効性は高い。
プロジェクト目標は達成されるか。	実績の検証結果	<p>（１）プロジェクト目標の達成度</p> <p>本プロジェクトの目標は、現在設定されている指標のうちでは既に達成されている。教育アクセスについては 2013 年度、初等就学児童数約 227 万名に対して、教室が 55,388 あり、1 教室当たりの児童数は 41 名になっており、就学児童数に見合った小学校の教室数が確保されているといえる。ただし、プロジェクトのスコープ外ではあるが、長期的には恒久的な教室建設が必要であり、これについてニジェール政府は積極的な取り組みが必要である。</p> <p>一方教育の質に関しては 2014 学年度において CGDES による補習年間時間数の過去 3 年間の平均が 173.76 時間となっており、目標の年 150 時間以上を十分に達成している。補習時間の確保をはじめとする質のミニマム・パッケージ等により、多くの学校で初等修了試験の成績向上など教育開発の質の面も成果を上げていることが確認された。</p> <p>加えて、これらの活動を支え・促進する CGDES 連合に対するコミューンからの予算措置も 80%以上になっており、地方分権化での教育開発（教育のアクセス及び質）において CGDES の役割と能力が着実に強化されているといえる。</p>
JICA 他スキームとの連携、他の援助機関の案件との協力による相乗効果があったか。		本フェーズは他スキームもなく、連携もなかった。他の援助機関に関しては、他ドナーとの連携参照。
プロジェクト目標と成果の因果関係		

<p>成果はプロジェクト目標を達成させるために十分か。</p>	<p>成果が達成されればプロジェクト目標が達成されるという理論に無理はなかったか。</p>	<p>(2) プロジェクト目標と成果の因果関係 プロジェクトは成果1として「教育開発（教育のアクセス及び質）に貢献する CGDES 活動が継続して実施される制度づくり」と成果2として「CGDES 活動を通じた教育の質及びアクセスに係るモデル開発（「質のミニマム・パッケージ」「リソース運営管理」「フォーラム・アプローチ」「中等学校の機能する学校運営委員会（COGES）導入）」の大きく2つのコンポーネントで構成されている。成果1は、これまでのフェーズ1、フェーズ2の支援で確立された学校運営委員会活動の全国展開の成果を継続させるため、特に中央レベルにおけるモニタリング能力強化を図るものである。成果2は、学校運営委員会活動をさらに活性化させ、学校運営委員会活動によって教育の質向上をめざすために3つのモデル（及び中等学校の機能する COGES モデル）開発が実施されている。これにより、CGDES 活動が持続的に実施される制度を構築し、その制度の下に開発したモデルを実践していくことで、プロジェクト目標が達成可能となることから、プロジェクト目標とその達成に必要な成果は適切に設定され、妥当なものであったといえる。プロジェクト目標の達成度では、現在設定されている3つの指標を基準に達成度の検証で「高い」と判断できる。すべての活動はプロジェクト目標達成に寄与するものであり、「2-1-1 成果の達成度」の項で示しているとおりに、ほぼすべての活動は順調に成果を出している。そして活動を通して成果が達成されたことによってプロジェクト目標が達成されている。したがって、プロジェクトの有効性は高い。</p>
<p>プロジェクト目標に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件が満たされる可能性は高いか。</p>	<p>【外部条件】</p>	<p>(3) 成果からプロジェクト目標に至る外部条件 外部条件① 「経済・治安状況が著しく悪化しない」の状況 ニジェールの治安状況の関係から日本政府・JICA ニジェール支所における安全対策レベルが上がり、プロジェクト専門家の移動制限によるモニタリング活動の遠隔操作を余儀なくされた。日本人専門家は活動モニタリングを、プロジェクトのインハウスコンサルタントを通して行うことにより、活動に係る的確かつタイムリーな判断が下しづらい状況となっている。また、治安悪化が懸念されたため、予定していた短期専門家の一部の派遣が中止された。</p>

		しかしながら、長期専門家の尽力、さまざまな経験からの工夫、ニジェール側 C/P の取り組み及び現地リソース（現地コンサルタント）の活用等により、プロジェクト活動への影響を最小限に抑えることができている、さらなる治安状況の悪化がない限り、プロジェクト目標達成に大きな支障はない。
	学校に必要な教員の配置が適切に行われる。	「学校に必要な教員の配置が適切に行われる」は満たされる可能性は高い。
	教育省の予算が確保される。	「教育省の予算が確保される」は中央 CGDES 調整部のモニタリング経費以外確保される見込みである。残る中央モニタリング経費や経験共有セミナーなどの経費は 2016 年度以降、努力事項としてミニッツに記載された。
	経済・治安状況が著しく悪化しない。	近隣諸国でのテログループ勢力拡大で軍事費が嵩んでおり、国家予算を圧迫している。農業及び鉱業が経済を牽引し、2013 年は 4.1%、2014 年は 7.1% の実質 GDP 成長率が記録されている。2015 年も 6% 台だといわれている。 (http://www.africaneconomicoutlook.org/en/country-notes/west-africa/niger/)
プロジェクト目標達成の貢献・阻害要因は何か。		国家予算執行の遅延により、計画時期に適切な資金配賦がなされず円滑な活動実施（例えば CGDES 調整部による地方の CGDES 活動モニタリング等）に支障をきたした。
・ 効率性		プロジェクトの効率性は高い。
成果の産出状況		
成果の産出状況は適切か。	(実績の検証結果)	(1) 成果達成状況 成果（アウトプット）はいずれも達成されている。具体的には、活動 1-1 から 1-8 の結果、学校運営委員会のモニタリング制度が構築され、確実に学校運営委員会調整部に技術移転が進められ、国家予算項目となった。今では理論的には自国予算で自立したモニタリングができるようになっている。また、活動 2-1-1 から 2-4-7 までの 27 活動を通して①フォーラム・アプローチモデル、②

		<p>質のミニマム・パッケージ、③補助金モデルとその応用である統合モデルは特に短期間で成果を出しており、モデルによってはさらに普及、拡大、実証の繰り返しが行われている。</p> <p>これらの成果の発現に貢献した要因として①後述のとおり、プロジェクト（JICA 及びニジェール教育省）としての投入規模は大きくないものの、コミュニティからの動員を図りながらニジェール全土の小学校においてさまざまな活動を実施し、目に見える成果を上げていること、②ロールプレイを取り入れた研修手法で効果的、効率的に記憶に残る学び（研修）の場が提供できていること、③プロジェクト運営とプロジェクトの活動でローカルスタッフや信頼のおけるプロジェクトコンサルタントを確保し、効果的に活用している。</p> <p>反対に、阻害要因として①安全対策の一環として、日本人専門家の首都外移動が禁止されたこと（ただし、これにより現地リソースの積極的な活用がなされ、効率性が上がった面もある）、②CGDES モニタリング実施のための国家予算の執行が恒常的に、また大幅に遅れることなどが挙げられる。</p>
<p>因果関係</p>		
<p>活動は成果を達成させるために十分であったか。</p>	<p>【成果1】の活動</p> <p>1. CGDES モニタリング・システムが構築され、公式化される</p> <p>2. CGDES モニタリングのための各会議（経験共有セミナー（年2回）、CGDES 監督官会議（年3回）、CGDES 連合総会（年3回））が全国で 80%以上開催される。</p> <p>3. CGDES 年間活動総括表</p>	<p>成果1に関して、州・県レベルでの CGDES 活動のモニタリング実施、それを踏まえたモニタリングシステムの構築・承認、そのモニタリングシステムを統括する組織の能力強化、モニタリング結果を踏まえた年間活動計画の策定、それに基づく各地域での取り組みの経験共有と、一連の制度（システムとサイクル）を構築している。また、全国の教員養成校を対象に CGDES に関する講義を実施することで将来的に CGDES の活動にかかわることになる教員を早い段階から意識づけすることができ、より多くの教員が CGDES を通じた教育開発に貢献できるようになる。</p>

	<p>の回収率が 90%以上維持される。</p>	
	<p>4. CGDES 調整部の年間活動計画が策定され、それに沿った国家予算が配分される。</p>	
	<p>5. 7 割以上の教員養成校にて CGDES モジュールにかかる講義が実施される。</p>	
	<p>【成果 2】の活動</p>	<p>成果 2 に関して、4 つのモデルを開発するため、①パイロット地域の選定、②モデルの試行に必要となる人材の育成（研修の実施）、③モデル活動のモニタリングと評価、④モデルの承認、⑤他地域への共有という一連の活動が実施されており、効率的・効果的な成果発現に至った。</p>
	<p>1. 対象地域の 75%以上のコミュニティにおいてコミュニティから参加するアクターのフォーラム参加のための予算が確保される。</p>	
	<p>2. 対象校の 9 割以上で、子どもの算数ドリルの結果が向上する。</p>	
	<p>3. リソース管理・運営モデルが開発され、補助金が配賦される CGDES の 80% 以上で同モデルが活用される。</p>	
	<p>4-1. 対象校の 9 割以上の中等学校で民主的な選挙でメンバーが選出される。</p>	

	4-2. 対象校の8割以上の中学校で学校活動計画中少なくとも1つの活動が100%実施される。	
活動から成果に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件による影響はないか。	1. 多数のC/Pが短期間において異動しない。	外部条件①「多数のC/Pが短期間において異動しない」の状況 中央実務レベルにおいてC/Pの異動は少ない。ただし次官局長クラスのキーパーソンの異動は多い。地方レベルにおいてはC/P等の異動があるものの、は経験共有セミナーなどが実施されているため、異動があってもプロジェクトへの負の影響が少ない。今後も中央・地方レベルで経験共有セミナーを行い、異動による負の影響をあらかじめ軽減するなどを検討する必要がある。
	2. 経済、治安状況が著しく悪化しない。	外部条件②「経済、治安状況が著しく悪化しない」の状況については、「有効性」の外部条件の項を参照。
投入の実施状況		投入の実施状況
投入の質と量について	予算執行	<p>専門家派遣については、任期短縮や安全管理上の問題による派遣中止などがあったが、現地の優秀な人的資源（プロジェクトコンサルタント）の活躍により、プロジェクトに負の影響が生じることなく前進することができている。また日本人専門家の豊富な経験と献身的な働き、ニジェール側C/Pの尽力により困難な状況を克服してきている。</p> <p>供与機材を含む投入実績についてはミニッツ別添3のとおりであり、日本側の総投入額は約4億円、ニジェール政府執行額は約1億円、コミュニティ動員額は総額約18億6,000万円となっている。</p> <p>総じて、投入の質、量は適切だったが、国家予算の執行時期が大きすぎることで、地方レベルでのモニタリング活動等に少なからず影響を及ぼしている。</p>
	専門家派遣	インタビューでは技術的側面の専門家の人選、派遣タイミングについて問題はなかった。しかしながら、アドミニ側（業務調整）専門家の度重なる人選ミスや派遣期間の短さ（空白期間に技術専門家への負担）が指摘された。

	機材供与	機材供与に関しては中間レビューの際に説明がされており、ニジェール側が理解されている。
活動はタイミングよく実施されたか。		やむを得ない事情により活動が一時中止することがあった（例：中等教育 COGES）が、その後遅れを取り戻し、また活動によっては先を見越して先取りしているものもある。
コスト		プロジェクト及びニジェール政府の総投入額は約 5 億円であり、これによりコミュニティから総額 12 億円を動員しつつ、全国約 1 万 8,000 校において CGDES 活動による教育開発を実践し、アクセスや質の改善に大きく貢献した。1 校当たりのプロジェクト投入額は 2 万 7,800 円程度であり、コスト効率は非常に高いといえる。
成果は投入コストに見合ったものか。	本邦研修への参加はプロジェクト目標達成に効果的に貢献しているか。	本邦研修によりキーパーソンを日本に招へいし、タイミング良く日本の経験を共有し、プロジェクトに対する理解を促進した。それにより、本邦研修に参加した初等教育事務次官のバックアップで CGDES モニタリング費用が国家予算に計上されるなど、キーパーソンからの支援を得ることができた。
	ローカル NGO への業務委託はコスト効率的か。	ローカル NGO への業務委託ではなく、ローカル NGO から人材派遣をしてもらっているという説明を受けた。 影山専門家： 今フェーズにおいて NGO への業務委託を実施したのは、JICA 研究所の介入調査及びその証憑回収のみ。一般活動での委託は行っていない。
プロジェクト目標の達成度は投入コストに見合ったものであるか。		プロジェクト及びニジェール政府の総投入額は約 5 億円であり、これによりコミュニティから総額 12 億円を動員しつつ、全国約 1 万 8,000 校において CGDES 活動による教育開発を実践し、アクセスや質の改善に大きく貢献した。1 校当たりのプロジェクト投入額は 2 万 7,800 円程度であり、コスト効率は非常に高いといえる。
・インパクト（予測）		プロジェクト実施によって正のインパクトが確認された。プロジェクト活動の継続により、上位目標が達成される見込みも高いと判断される。

<p>上位目標の達成予測</p>		
<p>上位目標は、プロジェクトの効果として発現が見込まれるか。</p>	<p>現時点での指標の推移及び関係者の意見</p>	<p>本プロジェクトの上位目標は「学校分権化運営を通じて基礎教育の質とアクセスが向上する」であり、プロジェクト終了後3年から5年以内に達成すべき目標として設定されている。具体的には、就学率、留年率、中退率、修了率といった教育へのアクセスを測る指標の改善と、教育の質の向上をめざしている。終了時評価時点の聞き取り調査からは、ほとんどの関係者がこのままプロジェクトの敷いたレールを走れば上位目標の達成が可能であると認識していることが判明した。就学率、留年率、中退率に関しては、2012年実施の国勢調査の結果を受けての就学児童推定人口の大幅な増加により、アクセスに関する指標は2012/2013年と2013/2014年の比較では悪化しているが、この統計上の特殊要因を除いて考えれば、フェーズ1プロジェクト開始時から一貫してニジェール教育指標は緩やかな改善の傾向にあり、プロジェクトの貢献度は高いと考えられる。このため、上位目標の達成見込みも高い。教育の質向上をめざすCGDES活動が中心に実施されているため、修了率及び学力向上に貢献するだけでなく、聞き取り調査によると目に見えない意識の変革と学校と地域住民間の信頼関係の醸成をもたらし、就学を促進していることも明らかになった。また、予測できなかったインパクトとして就学の促進やCGDESの学校運営により教員の負担が少し軽減され、地域住民に支えられているという意識が芽生えた教員のモチベーション向上が挙げられる。</p> <p>補助金モデルの無作為化比較実験(RCT)を用いた定量的インパクト評価の結果、リソース管理及び計画策定の能力強化をされたうえで補助金を導入したグループが児童学力テスト結果において、他グループよりも平均的が高いことが確認された。プロジェクトにて開発したモデルを実施することで児童の学力向上が図られ、内部効率の改善につながることも期待される。</p>
<p>上位目標を達成するための取り組みが行われているか。</p>		<p>上位目標である各教育指標の改善を図る手段として、プロジェクトではCGDESの有効的な機能化を実現しようとしている。したがって、プロジェクト目標であるCGDESの機能化が確実に達成され、さらにプロジェクトコンポーネントである「継続する」教育フォ</p>

		一ラムが構築されることで、上位目標が達成されるといえる。また「質のミニマムパッケージ」の普及もこれに大きく貢献するものである。
上位目標達成によりニジェール国開発計画へのインパクトは見込めるか。		教育指標の改善により、より質のよい教育をより長く受けることを意味する。初等教育から中等教育に進学する子どもが増えることで、ニジェール国家開発に必要な人材が育成されるので、上位目標達成によりニジェール国開発計画へのインパクトは見込める。
上位目標達成を阻害する要因はあるか。		初等課程修了資格試験が廃止されたことで、一貫した指標で成果を測ることができなくなった。
上位目標とプロジェクト目標の因果関係		住民の学校運営に対する理解が深まり、能力が強化されることで住民が教育開発に参加する、つまり教育のアクセスや質に住民の意向が反映される。住民の意向が学校の運営に反映され、住民との協働で教員のモチベーションが高められ、教育の質とアクセスが向上すると考えられている。
上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか。		上記のとおりロジックで、かい離はない。
プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件は現時点においても正しいか。外部条件が満たされる可能性は高いか。	【外部条件】	上位目標である各教育指標の改善を図る手段として、プロジェクトでは CGDES や COGES を通して住民の学校運営活動への参加を促進している。地方分権化を進めるニジェールにおいて教育開発(教育のアクセスと質)を進めるうえで CGDES は大きな役割を担っている。したがって、プロジェクト目標「住民参加を通じたニジェールの教育開発(教育のアクセス及び質)に向けて、CGDES の学校運営の役割と能力が強化される」が達成され、プロジェクト終了後も住民が学校の運営に携わっていく持続性を確保できれば、上位目標が達成され、因果関係が成立する。
	1. 各学校に必要な教員の措置が適切に行われる。	外部条件①「各学校に必要な教員の措置が適切に行われる」の現状 「PSEF2014-2024」によると、教員数は、1998年より契約教員の大量雇用により、1999年の1万1,000人から2013/2014年は約6万

		3,000 人に増加している。今後も基本的に教員数は増え続けると予想される。初等教育課程において教員の能力や配置の適切性については正確な状況把握ができないものの、プロジェクトを開始した当初と外部条件は大きく変化していない。したがって現時点で外部条件は阻害要因となる可能性は低い。なお、地方の教員不足について留意する必要がある。
	2. 教育省の予算が確保される。	外部条件② 「教育省の予算が確保される」の現状 教育省の予算は確保されているが、一部執行が遅れている。上位目標達成に向け、適切な予算執行が期待される。
	3. 経済・治安状況が著しく悪化しない。	外部条件③ 「経済・治安状況が著しく悪化しない」の現状 今後、ニジェールでは大統領選を控えており、経済・治安状況の変化に留意する必要がある。
波及効果		
上位目標以外の効果・影響が想定されるか。	政策策定、法律、制度、基準等の整備への影響	①広域的な取り組みへの発展 ニジェールの「みんなの学校」は JICA が西アフリカで実施する最初の学校運営改善プロジェクトとして開始され、現在は近隣諸国のモデル国となっている。モデル国として近隣諸国に及ぼす影響は大きく、また視察や地域経験共有セミナーを通じて近隣諸国とのネットワークも構築されつつあり、西アフリカ地域全体としての学校運営改善の効果発現に寄与しているといえる。 具体的には、ニジェールでの成功は同西アフリカ地域の周辺国の行政官・政策決定者を触発し、他国におけるみんなの学校プロジェクト実施につながった。同類プロジェクトが3カ国（セネガル、マリ、ブルキナファソ）で実施されており、1カ国（マダガスカル）では2016年度から実施予定。また、みんなの学校プロジェクトの要素を取り込んだプロジェクトが1カ国（コートジボワール）でも実施されている。これらは経験共有セミナーという形で各国同士の学び合いが行われ、その結果として地域的な活動に展開してきたものであり、その中心としてニジェールが常に先頭を走ってきたものである。

	<p>ジェンダー、人権、貧富格差など社会・文化的側面への影響</p>	<p>②他ドナーによるスケールアップ等 西アフリカ地域で分権型学校運営の流れをいち早くつかみつつ、機能する住民参加型学校運営改善のモデルを示したことにより、他ドナー（世界銀行等）がみんなの学校プロジェクトの要素を取り入れたプロジェクトを実施した。具体的には以下のとおり。 ・フェーズ1で開発した学校運委員会活性化モデル（ミニマム・パッケージ）が世界銀行資金で当時1万校に全国普及された。 ・フェーズ2、フェーズ3で設立したコミュニティ幼稚園165園の保育者研修をUNICEFが実施、1万人の園児が裨益した。</p>
	<p>技術面での変革による影響</p>	<p>③他セクターなどへの波及 ・水衛生（水管理委員会） ・保健（住民参加型マラリア対策） ・農業（農業管理委員会）</p>
	<p>対象社会、プロジェクト関係者、受益者への経済的影響等</p>	<p>聞き取り調査で会計の透明性が高まり、信頼が醸成されると、教育に対して投資する気運が高まっているという証言があった。</p>
<p>他仏語圏アフリカへの波及効果はあるか。</p>	<p>周辺国に対する技術支援、経験共有の実績</p>	<p>①広域的な取り組みへの発展 ニジェールの「みんなの学校」はJICAが西アフリカで実施する最初の学校運営改善プロジェクトとして開始され、現在は近隣諸国のモデル国となっている。モデル国として近隣諸国に及ぼす影響は大きく、また視察や地域経験共有セミナーを通じて近隣諸国とのネットワークも構築されつつあり、西アフリカ地域全体としての学校運営改善の効果発現に寄与しているといえる。 具体的には、ニジェールでの成功は同西アフリカ地域の周辺国の行政官・政策決定者を触発し、他国におけるみんなの学校プロジェクト実施につながった。同類プロジェクトが3カ国（セネガル、マリ、ブルキナファソ）で実施されており、1カ国（マダガスカル）では2016年度から実施予定。また、みんなの学校プロジェクトの要素を取り込んだプロジェクトが1カ国（コートジボワール）でも実施されている。これらは経験共有セミナーという形で各国同士の学び合いが行われ、その結果として地域的な活動に展開してきたものであり、その中心としてニジェールが常に先頭を走ってきたものである。</p>

<p>マイナスの影響はあるか。それを取り除くための方策は何か。</p>	<p>ジェンダー、民族、社会階層の違いによる負のインパクト</p>	<p>女子就学の問題はないとティラベリ州 CGDES 関係者、当事者は言う。一方で、遊牧系男子の学校アクセスが問題だという発言も聞かれた。</p>
<p>・持続性（見込み）</p>		<p>終了時調査時点で、プロジェクトの成果が今後継続され定着していく可能性はやや高いと判断していたが、中程度で提案し、議論すると戦略的に出たところ、ニジェール側から反論がなかったのが拍子抜け。最終的に「中程度」と辛口の判定になったが、ニジェール側が真摯に持続性が他項目と比較して劣ることを真摯に受け止めてくれたことの裏返し。</p>
<p>政策・制度面</p>		
<p>CGDES を重要視した教育政策はプロジェクト終了後も継続される予定か。</p>		<p>「教育及び研修セクタープログラム (PSEF2014-2024)」のなかで、地方分権化に伴う CGDES の役割や能力強化、権限の強化を図ること、そして州・県・コミュニケーションそれぞれの教育行政レベルの能力強化を図ることがめざされており、政策的にプロジェクト終了後も CGDES を通じた教育開発が実施されている可能性は高い。</p>
<p>プロジェクト支援により策定される CGDES 活動に係る政策が継続される見込みか。</p>		<p>また、CGDES 活動を包括的に支援するための「CGDES・CGDES 連合活動モニタリング・支援システム」省令案が作成され、発行見込みであることをはじめ、プロジェクトにおいて開発されたモデルはすべて公式承認されており、制度的な面での持続性も高いといえる。</p>
<p>プロジェクト成果の他地域への普及を支援する取り組みが担保されているか。</p>		<p>また、プロジェクトが構築してきた CGDES 活動モニタリングの制度は、学校からコミュニケーションレベル (CGDES 連合)、県レベル、州レベル、中央レベルへと情報が吸い上げられる仕組み及び中央から学校まで情報を伝達する仕組みができ上がっており、今後も現場の状況に合わせた政策・制度の運用が期待される。</p>
<p>組織・財政面</p>		
<p>教育省 CGDES 調整部は全国に CGDES 活動を統括するために必要な人員、予算を確保しているか。</p>		<p>学校レベルの活動を支える CGDES 連合 (FCC)、県や州レベルの CGDES フォーカルポイント及び CGDES 調整部の組織及び人材に対しても、これまで十分な能力強化が図られており、自らのミッシ</p>

		<p>ョンをよく理解し通常の活動を実施することは十分に可能である。</p> <p>また、財政面についても、基本的に予算措置は機能していることが確認された。具体的には、CGDES モニタリング費用は、プロジェクトの働きかけの結果、国家予算への計上が実現した。中央レベルのモニタリング機会である CGDES 経験共有セミナーの開催費用も国家予算に計上されるようプロジェクトが引き続き働きかけており、これが実現すれば、モニタリング活動に係るすべての費用を国家予算で賄うことになる。しかしながら、前述のとおり予算執行において遅れが生じているなど一部課題が残されている。</p>
<p>州教育事務所は州レベルで CGDES 活動を統括するために必要な人員、予算を確保しているか。</p>		<p>また、学校レベルの活動を支える CGDES 連合 (FCC)、県や州レベルの CGDES フォーカルポイント及び CGDES 調整部の組織及び人材に対しても、これまで十分な能力強化が図られており、自らのミッションをよく理解し通常の活動を実施することは十分に可能である。</p> <p>なお、中等教育省において、COGES 推進室は設置されたものの、現段階ではモデル開発フェーズであり今後必要な活動費に対する予算措置が期待される。</p>
<p>CGDES 連合は活動の継続のための組織力と収入源を有しているか。</p>		<p>また、学校レベルの活動を支える CGDES 連合 (FCC)、県や州レベルの CGDES フォーカルポイント及び CGDES 調整部の組織及び人材に対しても、これまで十分な能力強化が図られており、自らのミッションをよく理解し通常の活動を実施することは十分に可能である。</p>
<p>CGDES はリソース管理・運営活動を継続されるための組織力と収入源を確保しているか。</p>		<p>学校レベルの活動計画は、コミュニティの能力強化も図られており、実現可能な範囲での活動計画であることから組織的にも財政的にも持続性は高い。</p>
<p>教育省から補助金が制度化される見込みはあるか。関連ドナーによる支援の見込みはあるか。</p>		<p>財政面に関して、GPE/AFD コモンファンドによる支援が 5 州 2,800 校を対象に供与されることが決まり、2014 年度より 4 年間補助金が対象校に供与される。これらの補助金が適切に活用・管理されるようにするため、プロジェクトの成果を活用して、CGDES 調整部</p>

		<p>が研修等を実施している。インパクト評価調査結果からも明らかにされているとおり補助金政策の成果を上げるためには、単に資金を配賦するだけではなく、補助金供与の前に CGDES に対する計画策定及び資金管理研修を実施することが必要であり、プロジェクトで開発したモデルが上記の 2,800 校でも活用されることが期待される。また、質のミニマム・パッケージのうち、児童が活用する算数ドリルなどの教材に関しては印刷費用などの予算措置が持続性のカギとなっており、今後も他ドナー資金の活用をニジェール政府は積極的に検討していく必要がある。</p>
<p>実施機関のプロジェクトに対するオーナーシップは十分に確保されているか。</p>		<p>地方政府の予算措置に関し、CGDES 連合の成果が認められるに依り、各地方自治体が CGDES 連合の開催や連絡協議会に予算措置するなど前進がみられており、現時点では目標を達成している。</p>
<p>技術面</p>		
<p>教育省 CGDES 調整部は、関連政策策定、各種能力強化研修の実施及び CGDES 活動モニタリングに係る能力は十分か。</p>	<p>活用状況、普及状況</p>	<p>初等教育省に関しては、CGDES 調整部に対する能力強化が図られ、調整部としての年間活動計画が作成され、一部予算措置がなされている。また、各種活動を実施するためのマニュアルやガイドラインが策定され、CGDES 調整部及び地方行政官（主に州・県 CGDES 監督官）への研修を実施し、これらの人材が CGDES への技術移転を実施・モニタリングしている。</p>
<p>中等教育省 COGES 推進室は、関連政策策定、各種能力強化研修の実施及び COGES 活動モニタリングに係る能力は十分か。</p>		<p>中等教育省に関しては中学校 COGES 設置マニュアルやモニタリング・評価プロセスのマニュアルなどが整備されており、今回の評価調査ではごく一部の中等教育省の技術を確認したまでであるが、基本的な技術について移転がされていると想定される。</p>
<p>州教育事務所は教育フォーラムの開催及び CGDES 連合総会、CGDES モニタリングに係る十分な能力を有しているか。</p>	<p>研修・セミナーの開催能力、活動モニタリング能力</p>	<p>その他の CGDES 連合及び学校レベルの CGDES に関しては、これまでのフェーズ 1、フェーズ 2 の成果もあり、活動は比較的安定している。州教育事務所による教育フォーラムや CGDES 連合総会、CGDES モニタリングに関する能力は有しているようだが、異動などによる新任者への適切なフォロー、異動がなくとも定期的な能力強化を実施することが望ましい。</p>

<p>初等教育教員養成校講師への技術移転は十分か。</p>		<p>初等教育教員養成校の講師への CGDES 研修は、教員養成課程において CGDES 政策の正しい理解を深めるものであり、将来的 CGDES 拡大そして CGDES の持続性確保に資するものである。ただし、持続性確保のためには単発の特別講義ではなく、学校分権化単元の授業内容に反映されることが望ましい。</p>
<p>CGDES はリソース管理・運営活動を継続されるための十分な能力を有しているか。</p>		<p>その他の CGDES 連合及び学校レベルの CGDES に関しては、これまでのフェーズ 1、フェーズ 2 の成果もあり、活動は比較的安定しているが、異動などによる新任者への適切なフォロー、異動がなくとも定期的な能力強化を実施することが望ましい。</p>
<p>質のミニマムパッケージが展開・継続されるための関係者の能力は確保されているか。</p>		<p>質のミニマムパッケージと補助金結合モデルは十分に理解されて実施されているため、補助金さえあれば展開、継続は望める。唯一難点があるとすれば、補助金がない、または遅れた場合、質のミニマムパッケージが機能するか、関係者は機転を利かせて質のミニマムパッケージの部分の展開や継続ができるかということである。</p>
<p>社会・文化・環境面</p>		
<p>女性、貧困層、社会的弱者への配慮不足により、持続的効果を妨げる可能性はないか。</p>		<p>特に注意喚起につながる発言はなかった。</p>

面談者リスト

日時	分類	面談者	場所	団員
12月1日(火) 10時30分～12時	プロジェクト	M. Ali Ndiaye Ibrahim プロジェクト・コンサルタント	プロジェクト事務所	國枝、村上
12月1日(火) 12時30分～13時		原雅裕 専門家 チーフアドバイザー		
12月1日(火) 17時～18時15分		M.Hamza DJIBO 及び M. Yawalé Moussa Organisation Nigérienne des Educateurs et Novateurs : ONEN 派遣プロジェクトコンサルタント	ONEN 事務所	
12月9日(水)	中央レベル C/P	Moussa Sido 初等教育省事務次官補佐	次官補執務室	原専門家、アリ、橘 課長、徳川、國枝、 村上、小林支所長、 中川企画調査員
12月1日(火) 15時～16時		CGDES 調整部 M.Elhadji Moussa Tahirou 調整部長 M. Abdou Yahaya モニタリング評価課 M Yahaya Haouna モニタリング評価課 職員 M. Roho Oumarou 研修・イノベーション課長 Mme Halidu Maimouna Bana 研修・イノベーション職員 M. Sandi Ibrahim パートナーシップ・介入調整課長 Mme Hamani Aissa Yacouba パートナーシップ・介入調整課 職員 M Rabiou Sani パートナーシップ・介入調整課 職員	CGDES 調整部事務所	國枝、村上

12月2日(水) 9時~9時25分	州レベル C/P	M.Mahamadou Tchamago Ali ニアメ州初等教育所長	ニアメ州教育事務所	
12月2日(水) 9時30分~ 10時30分	現場レベル C/P	M. Abdou Hamidou ニアメ州 CGDES 監督官 (PFR)		
12月2日(水) 12時45分~ 13時40分		M. Dijibo Moumouni ティラベリ州コロ県 CGDES 監督官 (PFD)	プロジェクト事務所	國枝、村上
12月3日(木) 9時10分~ 10時25分		M. Younsa Sanda コロ県 キリタシの元指導主事	プロジェクト事務所	國枝、村上
12月3日(木) 11時50分~ 12時30分	M.Moussa Harou フランコ=アラブ初等教育視学官			
12月4日(金) 9時10分~10時	M. Yayé Amadou Hassane トロディ県教育事務所長、視学官			
12月2日(水) 11時30分~ 12時15分	コミュニティ	M.Souley Garda ンドウンガ CGDES 連合 (FCC) 議長 M.Issoufou Hama SG 同書記	プロジェクト事務所	調整部 Mme Moumouni、 國枝、村上
12月3日(木) 10時35分~ 11時50分		M.ISSAKA Idé キリタシ CGDES 連合会長 M.Badié Seybou 書記 M.Kalilou Kimba ババンガッタ・バルキレ CGDES 会長 M.Idé Hassoumi ババンガッタ・バルキレ CGDES 書記 (ババンガッタ・バルキレ学校長)		

12月4日(金) 10時5分～11時		M.Woba Kanfideni マカロンディ CGDES 連合会長 M.Harouna Abdou 同連合事務局長兼ガルバング小学校長		調整部 Mme Moumouni、 國枝、村上
12月4日(金) 13時25分～ 13時55分	コミュニティ	M. Mamoudou Hama パッティ CGDES 会長 M.Mounkaïla Hama パッティ小学校長、CGDES 書記		
12月7日(月) 9時55分～	教員養成校	M.Mamadou Boubacar ニアメ小学校教員養成校長 M. Aboubacar Rahamadou 学習部長 M. Boubacar Garba 社会学教員	ニアメ小学校教員養成 校(仮校舎)	調整部 Mme Moumouni、 國枝、村上、影山専 門家、ハムザ
12月3日(木) 15時～16時	元 C/P	Elhadji Moussa Moumouni 中等教育省 大臣官房長官 前教 育省就学総局長	中等教育省 官房長室	國枝、村上、影山専 門家
12月9日(水)	中等教育省	Mme. Bety Aichatou H. Oumani 中等教育大臣 Mme. Galbert Zaliatou 中等教育省 調査プログラム計画局長	中等教育省大臣室	原専門家、アリ、橘 団長、徳川、國枝、 村上、小林支所長、 中川企画調査員
12月9日(水)	中等教育 COGES 中央 レベル C/P	Mme. Fatimata Bayero COGES 推進室長代理代行 M. Hamidou Hassane モニタリング評価担当	COGES 推進室	橘、徳川、國枝、 村上
12月7日(月) 11時15分～12時	中等教育 COGES 裨益者	CEG15 Banizoumbou ニアメ バニズンブー第15中学校 教員と COGES 事務局の保護者 中等 PFR ニアメ、PFD COGES 会長、AME 会長、 COGES メンバー 生徒代表かつ副財務係	Lycée Kasai	推進室 Mme Fatimata、 影山専門家、ハムザ、 國枝、村上

		注：COGES 書記の校長先生は喪中のため欠席 フランス語教員 2 名、歴史地理担当教員、英語担当教員、数学担当教員、物理化学担当教員、生物地学担当教員		
12 月 7 日（月） 12 時～12 時 35 分		ニアメ バニズンブー第 15 中学校 CEG15 Banizoumbou 4 年生（最終学年）留年者：女子 9 名、男子 6 名		
12 月 4 日（金） 15 時～15 時 50 分	ドナーパート ナー	GIZ M.AMZIAH Euloge Bienvenu 初等教育プロジェクト（PEP） 人材管理/教育 技術顧問 M.Marc KIRCHER 初等教育プロジェクト ECO Consultant/GOMA ミッションリーダー M.Abdoulaye OUSMANE 初等教育プロジェクト 教育・地方 分権 技術顧問	GIZ 事務所	國枝、村上
12 月 4 日（金） 16 時～17 時		UNICEF M.Irénée B. Zevounou 教育チーフ（暫定） Mme. Sharmila Pillai 教育専門家 M.Boureima Daouda 教育ローカルコンサルタント	UNICEF 教育チーフ室	國枝、村上
12 月 7 日（月） 16 時 30 分～ 17 時 30 分		スイス開発協力庁 Mme. Nicole Gantenbein 開発協力局 副所長 M.Alfari Djibo 教育プログラム担当	スイス開発協力庁 副 所長室	
12 月 10 日（木）		フランス開発庁 Mme. Cynthia MELA フランス開発庁次長	フランス開発庁	原専門家、國枝、 徳川
12 月 11 日（金）		世界銀行 M. Adama Ouedrago 教育セクター専門家	ニジェール世銀オフィ ス 会議室	原専門家、橘、徳川、 國枝

4. 面談・視察録

面談記録

日 時	12月1日（火）10時30分～12時
面会者	M. Ali Ndiaye Ibrahim：EPT プロジェクト・コンサルタント
場 所	プロジェクト事務所
団 員	國枝、村上

<プロジェクトとのかかわり>

現フェーズの最初よりかかわる。前はニアメとザンデルで2007～2008年、2008～2010年に州教育事務所長（DREP）。任されている仕事は①省庁や援助機関との会合でプロジェクトを代表してコミュニケーション役、②教育の質ミニマムパッケージ、③行政手続きの促進支援・アドバイス

<全般>

教育の現実としてCGDESが受け止められている。流行だからCGDESをやっているのではない。住民自身が必要を感じている。CGDESは文化になっている。

<プロジェクト目標達成の貢献あるいは阻害要因>

貢献要因：効率。透明性。情報の流れ。定期的に情報共有の会合が開かれていること。スタッフは毎週の定期的会合で先の活動を報告している。こういうことはニジェールではあまり行われない。

- ・ 指標1-4ではCGDESの年間計画表（PA）「提出」の代わりに「回収」の語に変更されたがなぜ？
- ・ 未提出の10%のCGDESはいつも同じか、毎年違うか？

調整部のPAは省がモニタリング費用の予算を出す。2億FCFAの予算が調整部と、州や県のフォーカルポイント（PF）のモニタリング費用をカバーする。予算計上させたことがEPTの最も大きな成果の1つ。持続性は国の財源支出によって支えられる。教育政策において、非常に重要。

CGDESのPAは各学校で策定。「回収」ではなく「提出」。地域によって承認される。フォーカルポイントは回収するだけ。「提出」だと、だれかに提出して、認められるとか、認められないとかが問題になる。地域が自分で作ったものに外部の（行政組織の）承認の必要はない。逆に調整部のPAは省に「提出」する。これは省が予算を出すため、活動を「承認」する必要があるからだ。

また「回収できなかった」活動計画は①時間の問題。決められた期間内で回収できず、共有ワークショップまでに間に合わないとか、総括、分析をする時期に間に合わなかったとか。②僻地にある場合、提出が難しい。総会（AG）出席率が高いと、提出率も高い。AGに出席したときに提出することもあるからだ。いつも同じCGDESが提出しないわけではない。ディッファ州は交通手段がない。また現在ディッファは戒厳令下にあり、集会が禁じられている。アガデズ、ザンデルは集会所まで距離がある。この活動に反対する勢力「抵抗」はゼロ。

<質のミニマムパッケージ（PMAQ）モデル>

成功条件 ①住民が同意すること、②教員のニーズに応じている（教員の協力が得られる）、③生徒のニーズに応える、④学習ツールのニーズに応える、ものであること。成功は、教師の質に

よる。なぜなら教員のボランティアにより、教員によっては負担と感ずることがある。持続性のためには、教員のやる気をいかに上げるかがカギとなる。また、保護者1～3人の担当者が生徒の出席率を確認、全員出席するようにする。識字者（ファシリテーター）がいれば、学習グループができる。④道具。計算のツール。フランス語（識字）と四則計算。成功の要因はドリル。非常に興味深いドリル。説明があまりなくてもできる。子どもたちは反復によって学習。評価の焦点は個人で、各自が自分の進捗、リズムによって評価される。もしも理解が進まなければ、やり直す。ファシリテーターと生徒のより平等な関係。昔は先生が王様。今はもっと水平的な関係で昔の垂直的な関係とは違う。

障害：ツールのコスト。プロジェクト後、コミュニンはこのドリルを買えるか。これまで3つのドリルを開発、なるべく安くできるようにし、3冊で約2,000FCFAとなっている。コミュニンが買えるようなツールでなければできない。計算に習熟することによって、識字のレベルも上がるよいツールだが、教員の協力とドリルのアクセシビリティが2大障害。多くのドナーパートナーが関心をもっている。

<全国展開するときモデルの汎用性の障害>

教育行政の手続きの遅さ。調整部のコミットメントはあるが、仕事のリズムが違う。また調整部5～7人でEPT（みんなの学校）との関係を優先してくれるがほかのドナーパートナーとの関係調整をしている。4年間でモニタリングを完全に習得し自分のものにした。フォーラム、PMAQ、補助金モデルでは、CGDESはまだ戦略とテクニックを自分のものにしていない。資金があっても、まだ自分たちだけではできない。プロジェクトの支援を仰ぐ姿勢が、成功の要因。

EPTの活動は、行政官やコミュニンの期待に沿っている。元事務次官(SG)は、あらゆるプロジェクトのうち、具体的な活動があるのはEPTだけだ、と言っていた。情報は大臣から職員までいきわたる。それがプロジェクトの成功要因に。

障害：余裕がないこと。日本は少量の投入で、多くの結果を得ようとする。ニジェール人は、多くを投入し、少量の結果しか得られないことに慣れている。その習慣を変えさせている。心理的な変化をもたらす必要がある。効率性を求めるプロジェクトは、心理的葛藤を生む。いつも「たくさん仕事させられるのに、手当が少ない」と言われている。省の幹部を研修するとき、開催地の幹部には日当はなく、交通費しか出ない。ニアメのDREP（州教育事務局）だったとき、市内交通費としての2,000FCFAをもらう資格があったが、心理的に受け取ることはできなかった（失礼に感じた）。

現在の調整部長は、EPTの技術支援がほかのすべてのプロジェクトに役立つことを理解しており、手当がなくとも活動に協力してくれる雰囲気がある。

<外部条件>

・DREPの交代が多いことの影響は？能力のばらつきにはどのような解決策を？

任期は1年半から2年で非常に不安定。これが現実（政治的理由による）なので受け入れるしかないがニジェールの教育制度の弱点ともいえる。能力強化を無限にしなくてはならない。州教育所長が変わるたびごとに研修している。

<投入>

- ・ 専門家の派遣時期はどうだったか。

4年間で4回業務調整員が変わった。その度ごとに、仕事が（特に影山さんの仕事が）増えた。

<外部条件&投入>

- ・ 異動したC/Pのリスト（現在の連絡先も）を提出してほしい。

プロジェクトの初めから現在までのデータベースはない。C/Pとされている方々の肩書きは決まっているので、州にリストを作ってもらえる必要があるだろう。11年間のプロジェクトの裨益人数はものすごく多い。全視学官は1,000人くらいか。DREPは50人くらいか。一方で、州のフォーカルポイントはあまり変わらなかった。県のフォーカルポイントは2015年だけで80人くらい。

<波及効果>

COGESモデルは環境や農業、保健分野にも影響した。農業の水利管理委員会、農業管理委員会、保健委員会

日 時	12月1日（火）12時30分～13時
面会者	原雅裕専門家（チーフアドバイザー）
場 所	プロジェクト事務所
団 員	國枝、村上

<持続性阻害要因>

世銀管理の GPE-PAEQ。プロジェクト補助金のコンポーネントの出金が遅れている。理由は、DREP 州の口座を管理している要員が、世銀が要求する財務管理要員の資格を満たしていないため。財務人を雇うか、今いるスタッフに対しての能力強化をすることを要件にしている。補助金は今期 6 カ月くらい活動できるように考えていたが、難しくなった。PMAQ と補助金モデルの結合モデルをティラベリ州で 200 校に実施する資金も当然遅れている。

まだ技術支援が必要な部分がある。能力強化が一番難しいのはモデルを開発したり、新しい政策をつくること。ニジェールでは、CGDES と CGDES 連合が、全国的に機能しており、その状態を基礎とした応用普及モデルをつくることはここでしかできない。応用モデルは、基礎教育の質の改善に焦点を当てるべきであろう。ニジェールでは、質の高い教育を実施するには、基礎的条件（学習時間、学習環境、教授の質）など欠けているためには、支援も複数の効率的な要素をパッケージ化して行わないと望まれる効果はでない。現場では、算数だけでなく、語学の基礎的な能力改善が求められているため、それに応えるモデルづくりが必要。住民参加、ネットワーク、住民動員など、みんなの学校の強みを生かすべき。

<活動進捗>

PDM の活動は達成していたため、活動の先を見据えて「応用編」活動を実施している。

<機能する中等教育 COGES モデル>

導入しようとしている COGES モデルはミニマムのパッケージで、透明性、情報共有、結果に向かって直接的な活動を行うという要素のみである。中等、初等だから保護者の質が違うということはない。ニーズは確かに違うが、組織を機能させる基本的要素は同じ。中等教育は完全に卒業試験が念頭にある（小学校だと就学）。そのニーズに応えないと、住民参加が得られにくい。

<今後>

中等教育ではなく、以前取り組んでいた就学前教育レベルでの COGES の方がより多くのニジェールの子どもに裨益する。例えば以前取り組んでいたコミュニティ COGES を増やしていけば、世界的な成功例になったと思うが、国や国際的な援助の潮流がある。今は中等教育の方に目が向けられている。

教育省アドバイザーだと仮説を検証する場がない。プロジェクトなら小さな試行錯誤を重ねていくことができる。だから個別専門家ではなく、エンジンのあるプロジェクトが必要。

日 時	12月1日（火）15時～16時
面会者	CGDES 調整部（全8名）
場 所	プロジェクト事務所
団 員	國枝、村上

<全般>

M. Alhadji Moussa Tahirou, coordonnateur 調整部長。調整部のメンバーは全員で9名（運転手1名）。モニタリング評価課（課長と職員1名） 研修・イノベーション課（課長と職員1名）、パートナーシップ・介入調整課（課長、職員2名）

<成果発現阻害要因>

・モニタリング費用出金

国から各 DREP、各 DDEP、各コミュニティの FCC にモニタリング予算執行許可（AD）が出る。

2013年から国家予算の予算項目に COGES が計上された。毎年国家予算から支出のはずだが、現在中央からのモニタリングに対して出金が行われていない。省は地方のモニタリングを重視し、そこに限られた出金を当てている。出金が行われないのは、治安問題のため。治安の問題があると、国は各省庁に予算に見直しを求める。そうすると中央からのモニタリング費用の優先順位が下がる。ところが研修モニタリングの費用は出たので、研修のモニタリングをする際、CGDES 活動のモニタリングも同時に行っている。年2回の経験共有ワークショップをする前に、地方レベルでモニタリングの総括会議をし、EPT の費用でモニタリングをすることも。モニタリング費用は国家予算から出してもらえるよう、引き続き働きかける。

・モニタリング手段

フォーカルポイントの移動手段は、モニタリングの中核。5～7年前の移動手段（バイク）の80%以上が寿命を全うし、現在80%以上のフォーカルポイントはCGDES、FCCを巡回する手段がない。そのため、2015年の2KR見返り資金使用の申請をした。現状では、フォーカルポイントの中には視学官のバイクを借りてモニタリングに行っている。

・モニタリング制度

モニタリングシステムの再活性化のため、モニタリングがより容易に進められるようにコミュニケーションレベルでのCACOCOMを立ち上げた。これを通してCGDESとFCC（連合）のモニタリングができる。このCACOCOMコミュニティの協議会には、教育を支援する者がそろっている。

このプロジェクト後、モニタリング制度がどうなるか、心配している。国による予算化にもかかわらず、2011～2012年には、2つのフェーズの間で指標が下がった。総会の数、拠出金、活動計画が低下した。バイクが投入されれば、モニタリングは現実味を帯びる。モニタリングがなければ、CGDESの活動停滞が懸念される。

<インパクト>

教育セクターで開発したCOGESは他の分野、保健、農業分野、水衛生（井戸の運営委員会）でも作られるようになった。他の分野へのインパクトは計り知れない。

<成果発現阻害要因>

研修にもドナーパートナーと国の支援が必要。再教育が常に必要な CGDES。毎年、新設学校が 1,000 校規模であり、校長は CGDES 設置の研修、CGDES は計画と管理の初歩の研修を受ける。

しかし今後必要とされている研修は、古典的な「管理」研修ではなく、財務、社会、エボラなど新しい研修テーマが必要となってくる。

< CGDES 調整部のパートナー>

ドイツ GIZ、Plan Niger、ユニセフ、イタリア協力庁、Save the Children、世銀など、教育関係のパートナーは EPT と関係をもっている。

< CGDES 業務範囲>

指標には幼稚園も入っている。就学前教育、フランコアラブ学校、すべて CGDES 調整部でみている。

日 時	12月1日（火）17時～18時15分
面会者	M.Hamza DJIBO 及び M. Yawalé Moussa Organisation Nigérienne des Educateurs et Novateurs : ONEN 派遣プロジェクトコンサルタント
場 所	プロジェクト事務所
団 員	國枝、村上

<プロジェクトとのかかわり>

Hamza 氏は CGDES のモニタリング・能力強化（フォーラムアプローチ）、及び中等教育 COGES 担当。プロジェクトとのかかわりはタウア州で実施したフェーズ1の時から。

Yawalé 氏は2012年11月から補助金活動を担当。以前ザンデルの ONEN フォーカルポイントだった。

<成果発現の阻害要因>

- ①安定性 国の関係者である DREP が毎年変わったりする。視学官も。国の関係者と直接働くプロジェクトなのに、彼らが不安定では困る。
- ②現場の県 CGDES 監督官（PFD）の現場経験不足。そのため、研修、モニタリング、能力強化で補う必要がある。
- ③モニタリング費用が予算化されているにもかかわらず、必要なときに大金されない。6か月間出金がないままのこともある。学校行政はプロジェクトに関与しているので、フォーカルポイントのモニタリング・能力強化ができるように、最低限の費用を学校が出してくれる。
- ④ CGDES 連合が総会を開けないこともある。時期が不適切だったり、あるいは資金がなかったり。実験の前あるいは初期は参加の程度がよくなかったが、能力強化とともによくなった（地域住民のことをコミュニティと呼んでいる）。

<モニタリング費用出金遅れの解決法>

予算に計上されている場合、教育省は州に対して支出許可 *autorisation des dépenses* (AD) を出す。すると州は州予算からフォーカルポイントのモニタリング費を支出する。年内に資金を消化しなければ、資金を国庫に戻さなければならない。そのため、技術顧問として省に *systeme de securisation de fonds* 資金安全化システム「N+1」を提案している。教育制度に対してフォーカルポイントが行っている活動の価値を財務官に理解してもらえれば、「N+1」が実現できる。簡単にいえば、前年度に計上されていた予算を、翌年度に繰り越して使用する仕組み。モニタリング制度の評価の経験共有セミナーで提案し、調整部とともに実現に向けて努力している。

<効果発現促進要因>

フォーラムモデル FACE (*forum approche communautaire pour education* 教育のためのコミュニティ・アプローチによるフォーラム) についてタウア州がパイロットに選定されたのは、総会の回数、活動計画の提出率、学校行政、県知事、市長その他の指標で優秀だったため。マダウワで能力強化研修を行い、フォーラムを介してモデルを共有。モデルは3つのキーワード：学校行政、コミュニティ、地方自治体をもとに構築してきた。

州レベルでは、州フォーラム執行委員会 CERF (Comité Executif Regional du Forum) がある。州知事 (中央から任命) が議長、州議会議長 (選挙で選出)、学校行政は州教育事務所長が代表、タウアの 44 名の市長、連合からそれぞれ代表 1 名等¹で構成される。フォーラムの開催、テーマの決定、参加者の決定、方針、決定事項の実施のモニタリングはすべて自分たちでやっている。

コミュニケーションレベルのフォーラムは CACOCOM (コミュニケーション連絡協議会)。コミュニケーションの長が議長を務める。市長、FCC の代表、学校行政代表 (各コミュニケーションに 1 名指導主事が原則配置)。フォーラムで州目標を決定している。各 CACOCOM が自分たちの目標を決定し、FCC の代表は、この決められた目標を達成するために、学校行政、市役所、それぞれ何をするのか責任を分担する。CACOCOM で決めたことは、市の予算に反映される。FCC の第 1 回総会 (10 月中旬から 11 月) の前に CACOCOM の総会。その前の 9 ~ 10 月に FCC の中間評価。FCC2 ~ 3 月 (FCC 連合総会)。CACOCOM が決めたことができるかどうか。コミュニケーションレベルで第 2 回 CACOCOM を 3 ~ 4 月に開催。フォーラムの開催費用は州によって負担されるようになってきた。第 1 回 2014 年 6 月に Madaoua で開催され、第 2 回は 2015 年 2 月に Konni で開催。先日第 3 回目が同 Konni で開催されたが、最初及び 2 回目のフォーラムは JICA が全額負担し、3 回目は州及び県合わせて開催費用の 50% を負担した。これは大きな進展と成果である。CACOCOM がコミュニケーションメンバーの参加費用も出すようになっている。

CERF と CACOCOM は、フォーラムの成果を永続させる理想的な枠組みである。なぜなら、市長は 5 年任期のため、少なくとも、5 年間の継続が望めるからだ。対する州教育局長や県教育局長がいつ異動になるか、わからない。CACOCOM 州議会議長も 5 年任期。CACOCOM のメンバーのフォーカルポイントは国の職員。これらの関係者は CACOCOM の要員なので、彼らが安定して任期を務めれば、CACOCOM も安定する。

本フォーラムアプローチはうまく構築できたと思うが、モデルはまだ支援が必要。なぜなら市長のなかには、まだ CACOCOM の付加価値を理解していない人がいるからだ。

<機能する中等教育 COGES モデル>

中学の COGES の 3 つの要素は民主選挙、活動計画 (PA)、モニタリング。小学校と中学校では保護者のニーズは同じでない。初等は就学、中等は中等第一段階修了証 BEPC 合格。

補習授業を地域のニーズに合わせている。ニアメ州とドッソ州でパイロットしている。レベルテストを年度初めに行い採点。成績順に 3 つのグループに分け²、授業時間外で補習を行う。13 時で中学の授業が終わるため、15 ~ 17 時に COGES が PA に従って先生を呼び、補習授業をしてもらう。試験答案の分析。因数分解ができない生徒がいたら、できるまで練習問題をあたえる。補習の目的は競争させるためではない。成績の比較ではなく、理解していない部分を見つけ、それを改善することが目的。

ワークショップに関係者 (生徒も) を呼び、パイロット 1 年目の批判的分析を行った。それを受けて研修モデルを見直し、パイロット 41 学校から 80 学校以上に拡大するつもりである。中等教育 COGES のフォーカルポイントは県レベルまでいるが、中学間の距離があるため、県 COGES 連合 (FCC) が必要となってきた。

¹ 県知事代表、視学官代表、州 CGDES 監督官、伝統的宗主代表

² その後、CEG15 中学校で確認したところ、成績順ではなく、補習授業料を払った順だということが判明

<補助金モデル>

補助金モデルは経験から開発したモデル。これまでの経験では、質とアクセスの改善のみならず、資金の管理不足、横領、無理解があったので、それを改善しようとしている。実証しようとしているのは3つの要素：

- ①能力向上 資金をより活用できるように
- ②計画策定における能力向上
- ③資金の導入、資金の適切な管理

2012～2014年ティラベリ州サイ、トロディ県でインパクト調査実施。180学校のうち、3つのグループに分けた。

- ① 60学校には何も介入していない。研修も補助金も。
- ② 60学校に管理研修と補助金を投入
- ③ 60学校に管理研修、計画研修、補助金という介入をした。

その結果、3番目のグループで一番よい成績（伸び）が観察された。日本のコンサルタントが調査。これを受けて、世銀にモデルが採用されたので、①についても補助金と研修を与える。

120学校で管理研修が実施されたが、どの学校でも補助金の横領等の問題は出なかった。すべての支出が適切に管理されたということだ。コミュニティ監査を通してあらゆるレベルの透明性が向上し、その結果、地域住民がCGDESを「信用」するようになった。主要4段階で4回の総会が開催される。初期の総会と比較して、今は村の情報が開示され³、補助金の用途が話し合われる。そして例年、2～3月に活動の中間総括、5月に年間総括をする総会が開催される。

³ 例えば補助金を受領→CGDESが小切手を見せることでいくら受け取ったかを明らかにしている。

日 時	12月2日（水）9時～9時25分
面会者	ニアメ州初等教育所長 M.Mahamadou Tchamago Ali DREP Niamey
場 所	ニアメ州教育事務所
団 員	國枝、村上

<全般>

プロジェクトの評価をするとしたら、10点満点で10点をつける。本プロジェクトはニジェールで受け入れられている。住民がまず教育問題に関心をもつようになった。学校はコミュニティのものとなっている。しかし、貧困から保護者が学校に投資できない。学校のガードマンの費用が払えない。1,000FCFA できえ難しい。ニアメの Pays Bas (“低い国”) 地区は、貧しい人が住む地区。保護者は学校の会議に出席するが、教育の費用を負担できない。朝食代も払えないのに学校の費用は払えない。国レベルでは、プロジェクトの後、フォーカルポイントがリソース管理の研修などの継続を行うことはできる。教科書はコミュニティが管理するべき。ブルキナファソの例が参考になるだろう。貧しい人たちは会費を払うことは OK だし、学校にお金がかかることは知っているが、払うお金がない。

ニジェールでは生徒に1人1冊支給したいが、資金が足りない。2015年の（ニアメ州の？）新入生数は6万2,000人。その前は4万人。その前は1万人。毎年、生徒の人口が増えている。幹部公務員の子どもなら保護者が教科書を買って与えられる。貧しい子の教科書やノート、筆記具はコミュニティが面倒を見るべきだが、まだそこまでいっていない。コミュニティの研修がさらに必要だ。わかっているけれども彼らはお金がない。時間がたてば変わる。解決法を探し続ける。彼らは活動計画をつくっている。10年たてば変わる。学校レベルで活動計画をつくる時、教育行政はかかわっていない。住民の間で決め、予算も立てる。できないことは決めない。コンクリートの学校を作ろうとは言わない。藁ぶき屋根の教室を作るために会費を集める。ガードマンを雇うために1,000FCFA 払う。

ニアメでは昔は大規模な建設計画があったが、今はない。各 CGDES はそれぞれ予算がある。身の丈にあった計画ができるようになった。

教員の遅刻や女性教員が学校に赤ん坊を連れてくることは禁止されている。

学校の設置の必要があれば、コミューンが決める。土地を見つける。コミューンの予算で CGDES を設置する。コミューン議員を通して。コミューンレベルで教育担当がいる。

<タウア州教育 フォーラム・CACOCOM について>

タウアは広大な地域なので、ニアメとは事情が違う。国はニアメにより多くの投資を行っている。タウアは国の投資が少ないので、地域レベルでしなくてはならない。藁ぶき屋根の教室が多い。ニアメでは学校数は足りている。

<ニアメのニーズ>

教育の質改善（例えば PMAQ）。タウアとは優先課題が違う。女子就学の問題はニアメにはない。タウアには女子早婚の問題があるが、ニアメでは、むしろ男子が家畜の世話のため学校に行けず、女子の就学率の方が高い。ニアメには交通手段もあるし、集会なども容易。一方、地方は交通費も宿泊費もかかる。

日 時	12月2日（水）9時30分～10時30分
面会者	ニアメ州 CGDES 監督官（PFR）M. Abdou Hamidou PFR/CGDES Niamey
場 所	ニアメ州教育事務所
団 員	國枝、村上

<業務内容>

2007年からニアメ州で州 CGDES 監督官（PFR）。PFR は事務所長が任命していたので、自身 Ali Ndiaye が所長のときに任命された。CGDES の設置とともに、州知事が州 CGDES 監督官（PFR）を任命することになった。

月例会議を開催し、県 CGDES 監督官（PFD）の会議、プロジェクトオフィスで算数、補助金について CGDES の研修を行う。教員（ファシリテータ）の研修もする。CGDES 連合の総会に出席する。PFD の日々の活動を支援する。総会后、年頭に PFD が行う総括を、州レベルで総括する。ニアメ州の PFD は6名、うち2名は女性。活動的である。問題があると PFR の自分を呼び、いっしょに検討する。調整部とプロジェクトとも相談する。しかし、交通手段の問題がある。

<学校運営委員会組織化の阻害要因>

問題は、リーダーシップ。最初、学校長などは自分たちの権限が CGDES に奪われたと感じていた。啓発の結果、現在は理解されている。やっていることを公開することで、CGDES の意義を理解してもらえ、学校を支援しようという連携体制ができる（結果的に学校長としてリーダーシップを発揮し、ステータスも上がる）。ニアメでは問題は多いが、保護者の参加がある。保護者は皆仕事をしているので、参加できるように総会開催時期を選ぶ。昼間は仕事があるので、ニアメでは総会は週末に開く。学校で問題があると戦略を立てるために、自然と CGDES の集会を開かれるようになった。

<持続可能性について>

コミュニティの啓発のおかげで、地域住民は学校への参加への重要性を理解しているので、学校運営委員会は「持続」することは疑う余地もない。生徒や教員の補習授業では、保護者1名が、生徒の出席をチェック。登校しない子どもがいると、保護者に連絡が行くため、出席率が向上している。CGDES のおかげで普通の授業でも遅刻がなくなる。教員と生徒、教員と校長、校長と地域との信頼関係がつくられ、情報が共有される。

今では教員は生徒をたたいたり、ののしったりではなく、父や兄のように接する。民主的な学校管理ができるようになった。そして、子どもの学習レベルが上がる。今は保護者が子どもを補習授業に行かせたがる。

<グッドプラクティス>

- ・ EPT/JICA のグッドプラクティスは、研修の時のシミュレーション。笑いながら学ぶので、よく覚えられる。優れた方法論だと思う。
- ・ 民主的な CGDES 設置。それまでは保護者会（APE）の役員は任命だったが、今は匿名式の投票で、運営管理が透明。情報共有が住民レベルで行われている。
- ・ 理数科教育とみんなの学校の連携がうまくいっている。
- ・ 民主的な CGDES 運営の結果を住民が理解している。生徒の成績も向上している。関係者の連携の成果を皆が理解している。

日 時	12月2日（水）11時30分～12時15分
面会者	ンドウンガ CGDES 連合（FCC）議長 M.Souley Garda , président FCC N'Dounga 同書記 M.Issoufou Hama SG FCC N'Donga
場 所	プロジェクト事務所
団 員	Mme Moumouni（調整部）、國枝、村上

<全般>

コミュニティ内に9校のマドラサ（イスラム学校）がある。

< CGDES 連合（FCC）のフォーラム開催について>

コロ島の11のコミュニティのFCCが3グループに分かれ、議論した。議題は3つ。

- ① FCC と市役所がそれぞれどのような役割を果たせばよいか。11のFCCが、コミュニティの予算編成の前に地元選出の議員と会議を開き、市役所とFCCと連携する。
- ② FCCの抱える問題、予算。県知事が全市長に対し、FCCと連携しないと予算を認めないと通知する。
- ③保護者の啓発。FCCの存在で、保護者の学校への関心が高まった。全FCCがそれぞれのコミュニティで啓発活動を行う。全住民が教育の質に関心を持ち、そのために活動するように。本FCCでは生徒1人当たり年間100FCFAを払うことにしている。

< FCC 問題点>

- ・ コミュニティのなかには、市長がFCCに関心をもっていないところもある。
- ・ フォーラムにコミュニティの指導主事、視学官も一緒に動員する必要がある。各FCCの参加者は5名（FCC議長、FCC会計係、FCC書記、市会議員/市長代表、指導主事）で構成されている。そのため、60人近い食事の用意が問題（負担）となる。各FCCが交通費、5名の参加費を払う。交通費は自己負担。コミュニティは食費150,000FCFAを出し、個人の寄付で50,000FCFA。

< FCC や CGDES 可能性>

- ・ 学校内に就学前学級を作るようにした。親が6歳未満の子どもを連れてきたら、幼稚園に入れられるようになった。2016年度藁ぶき屋根教室を5つ作るとしたら、6つ目は幼稚園にする。

<今後>

プロジェクトでCGDESという木を植えてくれた。CGDESが水を与え育つようにしてきた。そしてCGDESがその日陰の恩恵を受ける。プロジェクトが今日終わったとしても、植えられた木は守っていく。どうやって魚を釣るかを教えてもらった。きちんと管理するにはどうすればいいかを学んだ。プロジェクトがなくなっても、学んだことを続ける。

・ FCC について

任期は4年。2期務めた。2016年1月に選挙がある。そのために1月前にPAで立てた計画を終える必要がある。

日 時	12月2日（水）12時45分～13時40分
面会者	ティラベリ州コロ県 CGDES 監督官（PFD）M. Dijibo Moumouni
場 所	プロジェクト事務所
団 員	Mme Moumouni（調整部）、國枝、村上

<インパクト>

保護者は学校の価値について、また学習の質を改善するためには、何をすればいいかを理解している。

子ども自身が行動する。彼らが直接の裨益者だからだ。

活動計画はコミュニティが国に対してする貢献。国がするのではなく、コミュニティがやる。連合、市役所、学校が連携する。また、プロジェクトは、コミュニティ・オーディットを定着させた。CGDES のリソース管理は、保護者の信用を得るのに貢献。お金の管理のための4つの段階を教える。

<活動>

カルマでは PMAQ のモデルを実施。学校外活動と本来の学校学習を区別して、授業時間外の補習授業は地域（住民）がやっている。総会で活動計画を承認され、どのように補習授業と夜間授業をするか、監督官としてモニタリングしている。

キリタシでは補助金と PMAQ 結合モデルを実施した。保護者に PMAQ の活動について啓発。モニタリングも説明した。子どもたちは PMAQ が大好き。

<問題点>

- ①時間が足りない。
- ②予算不足：保護者の会費があっても足りない。時間外労働なので、手当を払ってほしいという教員もいる。
- ③犠牲を払うことに抵抗する人もいる。
- ④ PMAQ モニタリング：指導主事ではなく FCC、PFD、PFR が行うべき。

< PFD 業務内容 >

戦略面、アプローチ面のみを監督。よいアプローチは広める。問題を抱えているところにはアドバイス。

担当する11のコミューンのうち、2つだけがプロジェクトの恩恵を受けた。質のミニマムパッケージ PMAQ の対象にならなかったコミューンは「県内の全コミューンでやってほしい」と何度も言われる。きちんと全県レベルで一緒にスケジュールを立てれば、プロジェクトも全県でできるはず。

<フォーラムアプローチ>

各コミューンの5名の代表が参加。11コミューンあるので、参加者総数は55名。各連合が交通費各人7,000FCFA 支払う。食費は市役所が負担する。計画を正確に前もってすれば、できる。活動計画がエンジン。

<オーナーシップと持続性>

調整部が調整し、経験共有セミナーを開催している。活動計画のモニタリングは連合と私がやっている。

日 時	12月3日（木）9時10分～10時25分
面会者	コロ県キリタシの元指導主事 M. Younsa Sanda, conseiller inspecteur pédagogique de Kirtachi コロ県キリタシの元指導主事。10月19日までキリタシにいた（現在は高等師範学校で視学官の資格準備中）。
場 所	プロジェクト事務所
団 員	Mme Moumouni（調整部）、國枝、村上

<質のミニマムパッケージ（PMAQ）活動>

キリタシのコミューンは面積 6,000km²。指導主事 1 名で全部の学校を回るのに丸 3 日間かかる。ここで PMAQ と補助金の結合モデルを実施した。カルマは PMAQ のみ。キリタシ CGDES 連合（加盟校は 2014 年は 34 校 + 3 マドラサ、2015 に新設 1 校）が、プレテストの前に会議を 2 回開催した。

プレテストが実施され、子どものレベルが測られた。各学校で試験結果をまとめた。教師が自分のクラスの成績の正答率を計算する。成績は個人ではなく、クラス全体の成績。

その後、CI 児童は Premath と Livret1（テーマ 2～5）、CP 以上の児童は Livret1 と Livret2（テーマ 6～10）に取り組んだ（児童当たり 2 冊）。PMAQ は学校外活動だが、地域に元教員や元公務員がいない場合は、教員がファシリテータをしなければならない。プレテストの結果、個々に応じた指導法を取ることができる。コミュニティのファシリテータ（研修を受けている）が各単元の理解度をチェックし、理解していれば次に進むという方法を採用している。ファシリテータは 1 人で最大 20 名の子どもをチェックする。

PMAQ は週末や水曜の夜に実施された。教員に保護者がコメや野菜の現物支給でお礼をすることもあった。

保護者は評価している。PMAQ のおかげで算数の学力が上がった。子どもは PMAQ が大好き。普通の授業が嫌いな子どもでも、PMAQ は好きな子は多い。

<持続性>

プロジェクトが去っても、モニタリングは指導主事用のバイクを使って可能。2011 年に購入したバイク。ガソリンは国から支給されている。

パイロットプロジェクトが続くわけではないことを市長に説明してあるので、視学局、市役所、保護者と一緒に続行していこうということになっている。

<問題点>

- ・ 学校間の距離が遠いので、監督が難しい。
- ・ 季節労働で転出し、また戻ってきた子どもは、ついていくのが難しい。
- ・ パイロットの結果を発表するときに自分たちがニジェールのためにやったことを取材してほしい。
- ・ 算数だけではなく、フランス語でもやってほしい。

日 時	12月3日(木) 10時35分～11時50分
面会者	キリタシ CGDES 連合 会長 M.ISSAKA Idé , président de la FC/CGDES 書記 M.Badié Seybou, secrétaire FC/ CGDES ババンガッタ・バルキレ CGDES 会長 M.Kalilou Kimba, président, CGDES, Babangatta Barkiré ババンガッタ・バルキレ CGDES 書記 (ババンガッタ・バルキレ学校長) M.Idé Hassoumi, SG CGDES, Babangatta Barkiré
場 所	プロジェクト事務所
団 員	Mme Moumouni (調整部)、國枝、村上

< PMAQ と補助金の結合モデル >

児童1人に2,000FCFAの補助金が出る。児童にドリルを2冊買った後、余ったお金はゴザ(6,000FCFA)やランプ(1台2,500FCFA+電池代)の購入に使う。ドリルの値段は現時点では、プレ算数550FCFA、Livret1:650FCFA、Livret2:900FCFA。電気が来てない地域では太陽電池パネルを持っている家以外、電気はないので、ランプは夜間補習のための必需品である。その他、ドリル購入後に購入できたものは教科書、ノート、ボールペン(採点用の赤ボールペン:子どもの進度表の記入用)、鉛筆、消しゴム。補習授業は各グループ最大15名で実施している。15名のグループに必要なランプは3台でグループが5つあるため15台のランプが必要だ。

キリタシではドリルは補助金供与の際に各CGDESが購入し、プロジェクトで実施した研修の機会にコミュニケーションレベルまで輸送。そこからは各CGDESが自分たちで持って帰った。

最初のレベルテストで子どもの学力がわかった。中間評価で次の成績の改善がみられた。総会で子どもの成績が発表された。それを見て、保護者はファシリテータを信頼した。

< CGDES の活動 >

出席管理担当者は、補習授業の最初に子どもの数を数え、いない子を探しに行く。夜間授業で子どもの送り迎えもする。問題があると、校長がすぐにCGDESに相談する。今では補習授業に限らず、昼間の学校を無断欠席した子どもがいると、校長がすぐCGDESを呼び出す。

< 問題点 >

- ・ CGDES は楽な仕事ではない。何も報酬はないのに、献身を求められ、いろいろと犠牲にせざるを得ない。
- ・ ファシリテータは一年中仕事したのに何も報酬がなく、犠牲を払ったと言っていた。
- ・ プロジェクトによる活動モニタリングがなく、ファシリテータ感謝会もなかった。
- ・ キリタシで成功すれば、ニジェール中に広まると言われたが、成功したのに全然宣伝されていない。
- ・ 新入生のためのドリルがない。新学期に新入生のレベル試験がなかった。

< CGDES 連合 >

キリタシ地区連合(FCC)加盟校は40校。2つのフランコ・アラブ校と普通学校1校が新設。計5フランコ・アラブ校と35校。FCC会長、FCC会計係も保護者。校長が書記。任期4年。この12月末にFCCの役員交代が予定されている。連合はCGDESメンバーの会費100FCFAで運営している。各総会開催に40,000FCFAの予算をつけている。

日 時	12月3日（木）11時50分～12時30分
面会者	フランコ＝アラブ初等教育視学官 M.Moussa Harou, Inspecteur de l'Enseignement Primaire Franco-Arabe
場 所	プロジェクト事務所
団 員	Mme Moumouni（調整部）、國枝、村上

<プロジェクトとのかかわり>

初等教員として17年務めた後、アラブ教育課でカリキュラムや教員の異動を担当し、リビアで視学官訓練を受けた。タウアの教員養成校で教育指導法と教育心理学を2年学んだ。中央に移ってからカナダの援助機関が進める能力別アプローチ（APC）のカリキュラム策定にかかわり、それをアラビア語に翻訳した。現在、小学校でアラブ語によるAPCを実験中。カリキュラム課のあと、コロで視学官として5年目。

<フランコアラブ校>

フランス語とアラビア語で授業が行われる学校。小1、小2はフランス語で計算を習う。小5、小6の歴史地理はアラビア語で習得する。低学年ではフランス語中心に学習している。このように、低学年から2種類の言語を使うよう教育している。コロ県には116校のフランコ・アラブ校がある。生徒数は全部で1万2,800人。200人、300人の大きな学校もあるが、だいたいの生徒数は100人である。

<質のミニマムパッケージ PMAQ とフランコ・アラブ校>

2014年度 PMAQ 6カ月間の実験をカルマの2つのフランコ・アラブ校で実施した。6年生まで PMAQ を導入するために教員を研修した。キリタシの3つのフランコ・アラブ校で PMAQ 補助金結合型モデルを導入。

PMAQ のいいところは、

- ①教員のモチベーションを維持するのに役立つ。
- ②ドリルは、生徒が忘れていたことの復習になる。
- ③(補助金のおかげで) 備品も COGES で購入できるようになった。
- ④教師が働かなくても、CGDES があれば、生徒は勉強する。

<問題点>

- ① COGES の研修強化の必要性
- ②女子就学については消極的な地域。もっと母親会が関与しなければならない。

日 時	12月3日（木）15時～16時
面会者	中等教育省 大臣官房長官 Elhadji Moussa Moumouni, Chef du Cabinet, Ministère de l'Éducation Secondaire、以前は教育省の就学総局長
場 所	中等教育省 官房長室
団 員	國枝、村上、影山専門家

<プロジェクトの功績>

コミュニティに学校とは何かを理解させた。プロジェクトの対象地域だったすべての地域の学校のためになった。「村にある」学校から「村の学校」になった。地域住民が学校を自分たちのものにした。また、教師と地域を近づけた。国の学校ではなく、地域の学校となる第一歩である。

コミュニティ間の対抗意識も生まれた。子どもの学校がビリだったので、大泣きした母親もいた⁴。PMAQを通してより地域の結束が強まった。

<プロジェクトの持続性>

何よりもまず、プロジェクトが行ったことの結果を意思決定者（大統領）に知らせる必要がある。大統領がプロジェクトのことをきちんと知れば、国家予算でプロジェクトは続き、調整部は今後も国の支援と必要な予算を受け続ける。9月20日に大統領と初等教育大臣が会っているが、プロジェクトについては話されていない。

「初等」では、現在就学率が80%になっており、アクセスの面で大きく改善している。一方、質に関しては多くの問題があることから、現在「初等教育」における中心的課題は「質」（ドロップアウト・就学維持の問題も含む）と「教育システムマネジメント」。「中等」では、女子就学等アクセス改善にも取り組んでいるが、今後 JICA の支援により COGES の全国展開が図れば、ここから質の改善にもつなげていきたい。

中等教育の中等教育が軸としているコンポーネント：アクセス、質、マネジメント。

< PMAQ や補助金モデルの活動 >

補助金は、教科書やノートなど、補習授業や夜間学習の実施に使用された。PMAQ は児童の成績を向上させた。現在国の第一課題である、質の問題に対し PMAQ が解決策となり得る。

初等教育は80%以上の就学率に達したが、質が伴っていない問題が残っている。PMAQ はより多くの子どもに広げれば、その改善に有効のモデルである。子どもが自信をもてるようになった。

PMAQ はまだ算数だけが大丈夫。計算ができる子は、文字も読めるし書けるようになる。PMAQ の中で、数詞の仏語書き練習があり、そこで仏語にもふれている。よい科学者は、よい文学者でもある。

現在の初等卒業児童を受け入れる中等の立場で言うと、1つの問題は、初等を卒業した新中学1年生のレベルが非常に低いということである。とても中学の授業についていけない。中学に行く前に基本を身に付けられる PMAQ には大いなる可能性があり、期待している。

中等は教育制度の一番大切な部分。バカロレアや大学、高等教育の準備は中等教育段階で行わ

⁴ 補助金モデルにて導入した学力テストに際し、その結果を研修時に発表したときのことをいったもの。学力テストの結果をもとに公に自分たちの活動の成果が発表されることで、コミュニティ間での競争意識が生まれると同時に、自分たちの学校の状態（児童の学力）に対する関心が断然上がったということの説明。

れる。補習授業や夜間授業に出ている子は、既に学習リズムができています。勉強だけが成功のもとだと理解している。その調子でいけば、子どもも中等教育を順調に進んでいける。

<ニジェール中等教育の現状>

より多くの子が増えることで中等教育に進学するとまず問題になるのが、「生徒の受け入れキャパシティ」そして「教員不足」である。10年前から中等教育の教員研修がなくなっているからだ。同時に中等教育省は10年で500以上の中学を新設した。子どもと中学を近づけることが目的で、農村部に中学を設置している。以前は都市の中心部にしか中学がなかった。田舎の子どもたちは都会で面倒を見てくれる親戚がいないと、中学に行けなかった。田舎で10人の子どもがいる場合、都会に送り出せない。女子は学業を中止し、村に帰って結婚するしかなくなった。だから女子就学の対策としても村の中学をたくさん作った。

作ったはいいが、今度の問題は教員不足、特に理系の教員が大幅に不足している。

また中等教育の女子になるとお金がかかる。

教員不足、中等教育へのアクセスの改善だからこそ、地域住民の協力が必要。そのため、COGES - ES 案件を要請した。

<プロジェクトのインパクト>

JICA のおかげで地域セミナーを通して同じ問題を抱える西アフリカ諸国が経験を共有する機会を得てきた。女子就学でもセネガルやコートジボワールやブルキナファソと同じ問題があるようだ。他の国より進んでいるときは、発信して他の国の役に立つべき。西アフリカ諸国が抱える教育の問題は基本的に同じであり、ニジェールにて開発したこと（試したこと）は他地域へ適用可能である。

JICA が提供しているのは「金」ではなく益のある「技術」であり、それにより利益を得ることができる。知に価値がある。例えば、JICA が教員研修等を行えば、授業に問題を抱えている教員がその技術を活用して、現在抱えている問題・困難を解決することができる。そういうことにこそ価値がある（金ではない）。

<教育に対する想い>

私は高等師範学校を出た教員出身で、農民の息子だが、知識を得て出世できた。自分には知識があるため、よりよい方法を生活全般において考えることができる。そういう思考がはぐくまれるのは教育のおかげ。

パリ - 東京は飛行機で11時間。しかも時差が8時間もある。0度のところから50度近くにまでなるニジェールにわざわざ専門家が来る。つまり大きな犠牲を払って、われわれのところに私利私欲を超えた援助をしてくれている。なすべきことをよりよく教えてくれる。日本は自分を犠牲にして、われわれのことを考えてくれている。何よりも知識を基に発展した日本、尊敬に値する。日本で創立128年の学校を見た。少なくとも5世代の子どもたちがこの学校で育っていった。こうした体験で思ったことは継続性が大切だということ。

日 時	12月4日（金）9時10分～10時
面会者	トロディ県教育事務所長、視学官 Inspecteur de l'Enseignement Primaire de Torodi M. Yayé Amadou Hassane
場 所	プロジェクト事務所
団 員	Mme Moumouni（調整部）、國枝、村上

<全般>

トロディ県はおよそ面積 6,200km² でニアメから 60km。ブルキナファソ国境にあり、ブル族が多数派を占め、グルマンチエ、ジェルマ、ハウサ、トゥアレグ民族がいる。農業と畜産が主要産業、遊牧民のなかにはフランス語を話さない保護者も多い。2012年にサイ県から分離してできた県で、農村部の2つのコミューン、トロディとマカロンディから成る。

県内に小学校 182 校 2 万 1,235 名、就学前教育 15 校、仏アラブ学校 17 校、中学 7 校、高校 1 校、技術中学（CET）1 校、職業訓練センター 1 つ（Centre de formation aux métiers : CFM）がある。

<補助金>

182 の小学校のうち、トロディとマカロンディの小学校 90 校が裨益した。1 グループは 30 校で、運営管理のみ研修を受けた 30 校が第 1 グループ、運営管理と計画の 2 つの研修を受けた 30 校を第 2 グループ、そして補助金だけで研修のなかった 30 校が第 3 グループに振り分けられ、インパクト調査が行われた。

運営管理と計画の研修がよかった。CGDES の会長、事務局長、財務係の 3 名が研修を受けた。研修とともに、学校運営が改善された。村に戻って研修報告会を開き、話し合われたことを知らせる。以前報告はなかった。あるいはあっても限られた情報のみ報告されていたが、現在は何事も透明になった。また研修の結果、計画をしっかりと立てられるようになった。

補助金で教員が補習授業を週末あるいは夜に行った。ランプ、学用品、藁ぶき教室の建設、教科書を購入。机、黒板、水タンク、水がめ、せっけんを購入したところもあった。トイレを作った CGDES もあり、建物の修復を行ったところもあった。教科書を買ったところは 3 人に 1 冊から 1 人 1 冊になり、補助金のおかげで学習環境が改善された。

年度末に生徒の成績がとても上がった。その過程で生徒が積極的に学習に参加し、教員や保護者のモチベーションも上がった。教育の質も少し良くなった。

<技術移転>

視学官は人材育成が仕事。EPT/JICA と学校の間において、研修で行ったことと違うことがあれば、学校に直させる。問題があるときには、学校の住民に総会を開かせ、話し合い、解決策を見つけてさせる。

ターゲット校の校長がきちんと仕事しないときは、異動させる。

教員が違う地方から異動して来た場合は、研修をしなければならない。

FCC が総会のときに情報を与える。FCC がメンバー 4 ～ 5 人を選んで学校に行き、新校長の指導をする。あるいは視学官、指導主事が新校長に会いに行き、指導する。

日 時	12月4日（金）10時5分～11時
面会者	COGES 連合インタビュー（マカロンディ） M. Woba Kanfideni Président FC/ CGDES Macalondi 会長 M.Harouna Abdou Secrétaire Général, Enseignant directeur de Galbangou 事務局長兼ガルバング小学校長
場 所	プロジェクト事務所
団 員	Mme Moumouni（調整部）、國枝、村上

<補助金インパクト>

補助金と研修を受ける前は保護者が学校に物を出すことはなかった。学校に必要なものは国がそろえるという意識が強かった。学校に子どもをやるとお金がかかるので、子どもが5～6人いる家庭は2人しか学校に行かせなかった。教科書を買わないで済むよう、全員を学校にやらなかった。学校の運営にも関心がなかった。

補助金が出ると聞いて、対象校では生徒数が増え始めた。つまり住民は子どもを競って学校に登録するようになった。保護者の学校への関心が高まった。だから、最初のインパクトはメンタリティの変化といえるだろう。つまり、学校の管理はみんなです、というようになったこと、1冊の教科書は校長ではなく、住民全員のために大切に使い、大切に使えば5年間もつかも、と考えるようになった。

研修で、保護者は学校のお金の管理の仕方や帳簿をつけることを学んだ。短い期間の間に信頼が生まれた。保護者がそれまで学校を信用していなかったのが、信頼するようになった。

農村部では学校の期間は年6～7カ月で都市部の学校より短い。これは新学期がミレットを刈り取り、畑仕事を終えてからになるからだ。そして学年末は、雨が2～3回降って藁ぶき教室が使えなくなるところ、田植えの時期になるからだ。補助金のおかげで学校で勉強する期間が①補習授業 Cours de rattrapage：授業時間中にできなかった内容を、水曜午後や土曜に消化する、②支援授業 Cours de remédiation：レベル別に子どもを集めて計算、読み書きをつける、③チューター制 Cours de tutorat：家で4人の子どもがいるうち、一番できる子が他の子を指導する、などの工夫を通して伸ばせた。新学年度の直前で農作業の忙しいときに藁ぶき教室を作らなくともいいよう、保護者が半恒久的な校舎を建てよう動き出したところもある。

クラス間の競争が生まれた。子どもが学校に関心をもつようになった。女子就学に関する母親のメンタリティが変わった。家で仕事させた方がいい、と女子は家に残されることが多かった。補助金が出て保護者の負担が減ったこともあって、今は、家事があっても時間になったら学校に行かせる。

< FCC の役割 >

マカロンディ FCC は 81 の CGDES を束ねる。うち補助金をもらったのは、11校が計画と運営管理研修+補助金、11校が運営管理のみ+補助金、計22校。補助金は学校間に競争を生んだ。現 FCC 事務局メンバーは2期目。2016年4月に選挙がある。

< 問題 >

比較対照校 école témoin の取り扱い。介入があるのかないのか。

< その他 > 提案

FCC は研修されれば、活動モニタリングができる。バイクで各学校 CGDES を回って、^{しょうひょう}証憑を確認する。

日 時	12月4日（金）13時25分～13時55分
面会者	補助金対象 COGES インタビュー（マカロンディ内学校） M. Mamoudou Hama, Président du CGDES de Patti パッティ CGDES 会長 M.Mounkaïla Hama, directeur de l'école de Patti パッティ小学校長、CGDES 書記
場 所	プロジェクト事務所
団 員	Mme Moumouni（調整部）、國枝、村上

<全般>

パッティ小学校の2015年度の生徒数は143名、2014年は123名。以前は3クラスだったのが、今は5クラスで、学校が大きくなっている。補助金が出て、保護者が子どもを学校にやろうという気になった。

<補助金>

補助金で教科書（算数、読解）、ボールペン、チョーク、鉛筆、消しゴム、教師用指導書を購入。JICAによりこれらの教科書をどうやって維持管理するか、研修を受けた。買ったものを見せたことで、保護者も拠出金に協力するようになった。

補習授業は役立った。保護者のやる気を引き出した。

教育の質も教科書、補習授業が行われているのを見た保護者がやる気を出し、自分たちの貢献として藁ぶきではなく、土レンガ造りの「改良教室」を作ったりした。コンクリートの教室の脇に土レンガ造りの教室を保護者が作る、材料も持ってくる。藁は貴重で、木材も入手が難しい地域である。

ブル族は昔は子どもを学校に行かせたがらなかった。ブル族の家と家が離れている。子どもは30～40分歩けば学校に行ける。

以前、教科書は保護者が全部毎年買わなければならなかった。教科書が破れていたこともあった。研修及び補助金導入後、1年使った教科書は、次年度の生徒に譲る制度になった。よく維持しておけば、何年も使えるという考えからだ。子どもが教科書を破ったら、保護者が弁償するので今は保護者がしっかり監視している。教科書がきちんときれいに長い間使われるようになった。なぜなら教科書は保護者にとって、とても高い。JICAの援助で自分たちが買えないものを買ってくれたので、保護者は助かる。自分で買うと高くて子どもを学校にやれない。以前は教科書がなく、読みたくても読めなかった。今は家で読める。兄弟がいれば、教えてもらえる。

夏休みは教科書を学校に置いていくが、CGDESがシロアリに食べられないようにきちんと管理する。夏休み明けはCGDESが学校をきれいにし、学校再開に協力してくれる。

自分たちのできることをする。教育はひとりのためだけではない。みんなで取り組むことだとわかった。

<問題>

補習のファシリテータを務める教師へのお礼

日 時	12月4日（金）15時～15時50分
面会者	GIZ 初等教育プロジェクト（PEP）人材管理/教育技術顧問 M.AMZIAH Euloge Bienvenu, conseiller technique GRH/Education, Projet Education Primaire (PEP) 初等教育プロジェクト ECO Consultant/GOMA ミッションリーダー M.Marc KIRCHER, chef de mission ECO Consultant/GOPA, PEP 初等教育プロジェクト 教育・地方分権 技術顧問 M.Abdoulaye OUSMANE, conseiller technique en éducation et décentralisation, PEP
場 所	GIZ 事務所
団 員	國枝、村上

< GIZ とプロジェクトの関係 >

M.Kircher：GIZの初等教育プロジェクト（PEP）は、みんなの学校（EPT）と共通の活動はない。GIZのプロジェクトは5年間、人材資源管理中央部局と地方部局から学校を支援している。女子就学が横断的テーマ。正規教員と契約教員のデータベースを作ることで改善にも取り組んでいる。GIZは州レベルのプログラムをめざし、各州が活動計画を作るようにするべきだと考える。教育職業訓練計画（PSEF）のなかに州プログラムがある。州議会、州経済開発計画のなかの教育セクター活動計画が含まれるというのが望ましい形。学校の州教育事務所長が、学校活動計画（CGDES 連合活動計画）を取りまとめ、州議会の間でのコミュニケーションと調整をするのが、理想だ。PEPはマクロ（省レベル）の計画制度の仕事をしている。EPTの州フォーラム、FCCと学校レベルのPAなど、ミクロのレベルで方法論が違う。3月の経験共有セミナーに招かれ、何をしているか知った。活動計画で行われたことは地域レベルのことで、教育省の計画立案システムには貢献しなかったと、個人的には考える。活動計画は保護者の教育への参加を評価するためのもの。各COGESが活動計画の財源確保に貢献したかどうか。2つの計画立案システムが存在していることになるのでは。

Abdoulaye：アプローチは面白いと思う。民主的選挙など、それまで存在しなかったことを組織した。コミュニティが教育支援活動計画を作る。省の永続的な部局によるモニタリング。さまざまな責任者により、近場から支援するシステムが徐々に構築された（PFD, PFRなど）。

最近の指標により、アクセスの他に質の問題の重視が必要だとして、質の改善活動をするようになった。

開発された算数ドリルやレベルテストは、全部見た。普及はしていないが、教訓は引き出せる。たくさんのマニュアルが作られた。教員が授業するのに役立つ。

JICAは各ステップを監督しているので失敗はしない。他のプロジェクトと比べると、JICAは条件がある。C/CGDESによるモニタリングがやや心配。PFはCGDESをモニタリングできていない。視学局に座っているだけで、女子就学のモニタリングに村までいけない。移動手段がないからだ。

もう1つ疑問なのが、調整部は各村の活動計画を集めるが、なぜ調整部に直接伝えるのか、ということ。ベースで収集したニーズは、県、コミュニケーションレベルで拾い上げられるべき。女子就学に関しての村の計画はC/CGDESに集結されている。だがそこで止まってしまっている。視学事務所で総括したコミュニケーションの活動計画を基に、CGDES連合で同県のコミュニケーションを複数集めた活動計画、州レベルでの活動計画へと上げていく。

日 時	12月4日（金）16時～17時
面会者	UNICEF 教育チーフ（暫定）M.Irénée B. Zevounou « I » 教育専門家 Mme. Sharmila Pillai, Education Specialist « S » 教育ローカルコンサルタント M.Boureima Daouda
場 所	UNICEF 教育チーフ室
団 員	國枝、村上

<プロジェクト認識・連携について>

I：以前 JICA とは、COGES の啓発と JEC（コミュニティ幼稚園）で協力していた。地域住民に能力権限を与える。子どもの脳の刺激を支援する。セネガルの就学前教育の専門家が、大挙して日本の就学前教育の視察に行ったことがあるのを覚えている。

S：フェーズ1と2では就学前教育との協力があつたが、フェーズ3ではなくなった。JICA はお金をかけないやり方でユニセフと違った。JICA は COGES と地域住民との関係が強く、ユニセフにはそのような関係がないので、JICA と連携しようと思ってもうまくいかないことの連続だったのであきらめた。また、NFQE（公正と質の基準）で使えるかと Ali Ndiaye を通して尋ねたが、「まだ評価がされていないから、評価がされてから」と言われた。私たちは PSE（Paquet de Service Educatif）で同じことをやろうとしていた。JICA のドリルを導入する用意があつた。しかし、JICA と連携しようとするたびに、十分な反応がなかった。JICA とユニセフの連携の可能性はあるのか？

I：JICA のチームと関係を結び直したい。女子就学で同じ話をしている。タスクフォースを作ろうとしている、このテーマはユニセフにとって JICA とスイスの援助の入り口になるかもしれない。

<就学前教育・中等教育>

S：重視すべきはもちろんそうだと思うが、現実をみると、小学校終了でほとんど学力がついていない。

I：現在の政治家のビジョンをみると、就学前教育は小学校の中にある JEC。CGDES の小学校では、計画者は供給サイドに目がいく。だがうなぎ上りの人口の急増で、より需要の方をみる必要が出てきた。CGDES の能力強化をして、4～6歳の子どもの就学準備をして、JEC を小学校の中に作ることはできる。

I：中学はますます私たちの関心の対象になっている。ライフスキルを身に付ける重要なライフステージだから。中等支援は初等支援とは違う。中学校は思春期。女子は14～15歳で結婚。保護者が、教育は就学前教育→小学校→中等という継続であることを理解しているので、ユニセフはここにも力を入れ始めているが、限られたリソースを考えるともう少し経済効率のよい中等教育モデルを検討している。つまり①地域の能力強化、動員。需要に応えられるようにしなければならない、②現在の中等教育はお金がかかりすぎる。もっとインテリジェントな教育にしたい、③教師はフランス語1人、数学1人、歴史地理1人…と全教科をそろえると大変コストがかかる。検討している農村中学のモデルでは、1人の先生が複数教科を教えられるようにする。そして教育ニーズに合わせたカリキュラムにする。より少ないリソースで多くの子どもを教育することが

必要だと思っている。

<ユニセフの疑問点>

- ・ 本当に技術移転ができてきているのか。政府機関、地方行政機関が、EPTを持続するための技術を習得する時間があったのか。

日 時	12月7日（月）9時55分～
面会者	ニアメ州 小学校教員養成校 Ecole Normale d'Instituteur (ENI) de Niamey ニアメ小学校教員養成校長 Mamadou Boubacar, DG ENI/Niamey 同 学習部長 Aboubacar Rahamadou Directeur des Etudes 同 社会学教員 Boubacar Garba , encadreur socio
場 所	ニアメ小学校教員養成校（仮校舎）
団 員	Mme Moumouni（調整部）國枝、村上、影山、ハムザ

<教員養成校概要>

8校だった教員養成校（ENI）は現在、11校。テッサワ、マガリア、ドゥッチに新設された。ニアメは新設校で一番新しく小さい。学生数500名。ティラベリ、ドッソ、ザンデールENIの学生数は2,000～3,000人。2014年CGDES組織化を含む単元をニアメENIで受講した研修受講者数は30名。2015年の2年生は560名おり、来年教員として巣立つ。560名の2年生のうち、男子学生は50名だけ。全体の1,000人の学生のうち、男子学生は100人だけ。

<教員養成校での活動>

校長：教育省はAME（母親会）、APE（保護者会）といった学校支援機関の重要性を知っているの
で教員養成校カリキュラムにこれらの組織についての年間10～15時間かけて教える単元がある。
具体的には地方分権が進むなかで保護者会、母親会、学校運営組織の設置プロセスとそれ
ぞれの権利や義務（責任）を説明してから、CGDESを説明している。CGDESは諸々の組織の
なかで一番重要である。教員になる前、授業で学生にCGDESのことを教える。CGDESが学校
を機能させているので、とても重要。CGDESを通して「村にある学校 école au village」が「村の
学校 école du village」となる。あるCGDESを見学したが、まさに学校の発展の原動力である。
プロジェクトは全国8校の教員養成校（ENI）の教員研修（TOT）をした。ENI教員はENI学生
に教えることで学生が教員となり、学校現場に行って役に立つ。最良の知識は養成校で学ぶ。
卒業後にそれを発展させる。

学習部長：CGDESをテーマに私は修士？論文を書いた⁵。タウアでCOGESプロジェクト前後の比
較調査をした。調査のためにタウア地方のCOGESを見たので、CGDESがどのように機能する
かはよく知っており、それを現在、ENIで教えている。とてもよい仕組み。ザンデールの研修で
知識を更新できた。

社会学教員：CGDESは学校のパートナーで、教育のコストは国と地域で分担するものと理解して
いる。ニジェール教育制度基本法（Loi d'Orientation du Système Educatif Nigérien：LOSEN）を基
に設立された。ザンデールの研修は役に立った。

社会学教員と校長：プロジェクトによって実施された研修の報告を養成校の学生に行った。活動
計画の作成方法など。学校のたくさんの問題を解決するための活動計画がどのように実施に移
されるか、多くを学んだ。養成校の学生は、すぐに役に立つものだと即座に理解した。2014年
の研修報告会で、CGDESが連合を作っていることを生徒に説明した。

学習部長：CGDESの設置は民主的な投票で行われる。投票は市民意識を与える。そのグループの

⁵ プロジェクトでコピー保管

ために働く人を選ぶ。透明性がある。任務を与える。それを総会や報告会で知らせる（理解していることを話す）。

私たちが育てたい教員は CGDES のことを知っていて、赴任したときに役立つ。

校長：村には必ずオピニオンリーダーがいる。リーダーとして、村の生活を活性化させる。運営の透明化、活動計画の作成、報告を聞く、全員が関与している。CGDES には地域の最良の人材が集まっている。

校長：以前、カナダの女子就学支援プロジェクトの監督官としてターゲット校のモニタリングを行った。学校管理委員会（Comité Administratif de l'Ecole : CAE）という呼称を使っていたが、言葉が難しくて地域住民は理解できない。JICA の COGES という言葉の方が理解しやすい。COGES の方が地域に根差した運営で、柔軟である。地域住民は難しいことはわからない。民主主義、透明性が必要。活動計画を策定するのはとても大切。1 日分の仕事をする、という貢献の仕方もある。価値を定量化する。薫ぶき教室がいくらかかったがわかる。自分自身が関与することで、新しいダイナミズムが生まれる。自分たちの手段でできるがわかる。1 万 FCFA とか 10 万 FCFA ではなく、水とか、自分たちにできるものを持ってくる。自分たちの学校を自分たちが作った、自分が生んだものは大切という気持ちになる。個人的な貢献が積み重なって、大きな額になる。

研修報告の講義は、理論ではなく実践だったので、学生はとても関心をもっていた。民主制度、投票制度、本当の地域機関。学生はやる気があってよく理解した。実践的な授業だったためでもある。よく説明すれば、よく理解する。

<ニジェール教育の問題点>

（今のニジェールには）多くの教員が教員養成を受けずに教えている⁶。国は（教員養成校を通して教員を）養成するけれども、モニタリングはしていない。モニタリングがないと、（教育が）機能しなくなる。モニタリングすることで、活性化が生まれる。

もう少し女性に注目すべきではないだろうか。社会文化的な習慣のために CGDES では女性はあまり活発ではない。だから啓発、研修は女性に対して重点的に行い、もっと女性が参加するようにならなければならない。今の CGDES には女性の場所がない。形だけの財務係に正直そうな女性が任命されるくらい。これは男性による性差別ともいえる。仕事の男女差別を変えるべき。人口の半分は女性なのだから、もっと女性に関与させないといけない。

AME（母親会）は女性同士だからうまくいっている。そこに男性が入ると、温度が下がる。男性がいると発言をしないが、女性同士だと、よくしゃべる。CGDES の事務局長には女性もなれるはず。女性は地域に変化を吹き込むことができる。CGDES を変化させられる。女性がリーダーになれば、積極的に関与することによって、社会的タブーがあっても変わっていく。女性がその役割と力を理解したとき、女性が民主的に選挙に参加し、流れを変える。タウア州では女性が積極的に CGDES の活動にかかわる。トゥアレグ社会が女系社会だから「男性は強い forte が、女性は命令 commande をする」とまでいわれる。

⁶ 契約教員のことを指していると思われる。

日 時	12月7日（月）11時15分～12時
面会者	ニアメ バニズンブー第15中学校 CEG15 Banizoumbou 教員と COGES 事務局の保護者 中等 PFR ニアメ、PFD COGES 会長、AME 会長、 COGES メンバー 生徒代表かつ副財務係 注：COGES 書記の校長先生は喪中のため欠席 フランス語教員2名、歴史地理担当教員、英語担当教員、数学担当教員、物理化学担当教員、生物地学担当教員
場 所	Lycée Kasai
団 員	國枝、村上、ハムザ、影山

<中等教育 COGES モデル>

中等教育 COGES の試行はニアメとドッソで実施されている。ニアメバニズンブー第15中学校が COGES-ES モデル実験校の1つ。目玉の活動は補習授業。

< COGES の視点 >

COGES 会長：COGES は民主的に、プロジェクトの指示に従って、透明な仕方で設置された。事務局が設置された後、活動計画を作成した。補習授業の実験をする。中等教育課程卒業試験（BEPC）の準備、支援をしている。プロジェクトによる研修の後、4年生（最終学年）の全保護者に呼びかけて、補習授業を実施した。活動計画に従って予算を組み、2,500FCFA の会費を徴収することを総会で合意が得られた。ニジェールは収入が低いので未徴収が心配されたが、少数の例外を除いて、保護者はお金を出した。全額ではないが払った保護者もいる。シンプルかつ透明だ。

補習各教科の出席表があり、生徒がいないと保護者に電話をかけ、理由を聞く。COGES のメンバー1名が補習が行われる夜、そのために常駐している。メンバーの役割は、先生はいるか、生徒はそろっているかを確認することだ。BEPC では、補習授業がなければ達成できないような結果を得ることができた。

2016年度は新学期早々から補習を行うべき。本当によいイニシアティブだと思っている。他の中学でも、ためになるので（プロジェクトを）続けてほしい。

副財務係：生徒代表として、JICA と先生に感謝したい。自分は昨年補習授業の恩恵を受けた。おかげでこの Lycee Kasai 高校に来られた。

<行政側の視点>

州 CGDES 監督官（PFR）：3年前の試験成績と比べると、結果はよくなっている。12の中学の成績を比べても優秀な結果。2015年度は6中学を（実験校グループに）足した。このイニシアティブにより、生徒はより効率的に BEPC に合格できる。民主的な手続きや年末に報告することが以前はなかったので、学年末には喧嘩になっていた。何を買って、何に使ったかわからなかったが、今のやり方で住民が安心できる。

県 CGDES 監督官（女性）：感謝。成功した。これが続くことを希望する。生徒のため、保護者のために。

女性校長はダイナミック。

<教員の視点>

2014 年は COGES の設置が遅れたので、試験前の 2 カ月間だけ補習授業。月～金まで毎日 2 時間の補習授業が実施された。COGES 保護者で話し合い、補習授業のため月額 2,500FCFA の会費を徴収することにした。生徒数 261 名の BEPC 受験準備に使用している。先生の犠牲を補うほどの金額ではない(民間で家庭教師をすると週 2～3 回の授業で 5～6 万 FCFA はもらえる)ため、もっと払ってもいいと申し出た保護者もいた。

保護者：補習授業の監督は楽しかった。自分の学生時代を思い出した。

教員：保護者を呼ぶと、どこにいるか教えてくれ、学校まで連れてくる。

教員：生徒は先生に敬意をもって接した。教員は喜んで補習をした。今年もやる。

教員：先生は仕事をしたのに、感謝されない。COGES は先生を集めて、最後に感謝すべきだ。年度末に主要関係者に感謝すべきだ。

教員：COGES がコピー機、パソコン、プリンターを提供してくれたら、仕事が助かる。暑い季節に答案の採点は大変。クーラーがほしい。図書館が必要。

COGES が機能するようになって、教科書が購入できた。本校では教科書の問題があった。この実験を通して生徒にいろいろな教科書が与えられた。先生は授業がやりやすくなった。例えば、フランス語では 2014 年、カリキュラムに従って練習問題をやり、試験の準備をした。州 CGDES 監督官がマニュアルを 1 冊持ってきたので、それをコピーした。以前なら先生が自分で問題を準備したが、今はコピーすればよい。補習授業以外に、椅子、窓、ドア、とたん屋根の補修、宿題や試験の支援をした。

2014 年は最終学年のみ補習を実施したが、2015 年は女性校長と話し合い、クリスマス休暇の後から 1 年生のレベルアップのため補習をすることとした。基礎の学年である中 1 の学力補強が必要という考えからだ。これまでのように小学校卒業試験が廃止されたため、入学時の学力が下がっているのだ。

日 時	12月7日（月）12時～12時35分
面会者	ニアメ バニズンブー第15中学校 CEG15 Banizoumbou 4年生（最終学年）留年者：女子9名、男子6名
場 所	Lycée Kasai
団 員	國枝、村上、ハムザ、影山

<中等学校 COGES 補習授業 生徒の視点>

2014年、全員 BEPC を受けたが、合格しなかったため、2015年もう一度4年生をやっている。去年は補習2カ月では足りなかった。5～6カ月は必要。勉強したい。補習の目的は BEPC に全員が合格すること。

2014年5教科：数学、英語、仏語、物理化学、生物地学の補習が行われた。1日に1科目2時間、2カ月約8週間。学校が13時に終わり、15:30～17:30に補習が行われた。終わりが18:00すぎになることもあった。いったん家に帰る子もいれば、学校に残って補習に出る子もいる。261名を3クラス⁷。クラスの再構成は、お金を払った順だった。結果的にフランス語のできる子、できない子が混じったがクラスの中でグループ別に勉強している。

校長は、2カ月分5,000FCFAのうち、3,000FCFAしか払えない子がいても、お金を払っていない子も全員補習授業ができるようにした。お金を払った授業だと、先生はきちんと説明してくれる。お金を払ったのだから、先生も生徒にちゃんと理解してもらわないと困る。去年は、練習問題がわからなかった。補習授業だと先生がよく説明してくれるので、よくわかるようになった。以前はわからないことがあっても、先生に聞きに行けなかった。今はわからないことがあったら、先生に聞ける。

「なんで補習授業をしなくちゃいけないの？」という子はいない。2名の生徒代表が生徒を啓発したおかげかもしれない。

生徒代表は一昨年、受験に失敗したことを明かした。補習費で5,000FCFAもらっていたとしたら、食べ物を買っていた過去を振り返り、COGESが補習授業を運営するようになっているのを見てお金を無駄にできないこと、皆が自分の試験合格を応援していることがわかったこと、啓発し続けることの重要性を力説。

絶対に BEPC に合格したい。今年は198名（女子108名、男子90名）が受験。

ハムザ：本校の校長は、最良の校長のひとり。勇気があって、生徒を助け支援する用意ができています。校長先生を失望させないようにしよう。補習授業は授業時間外の活動。本来ならやらなくてもよい。みんなが BEPC を取得できることが目的で保護者も教員も協力してくれる。校長先生をはじめ、彼らをはっきりさせることのないように（がんばることだ）。CEG15 中学校はパイロット開始当初、模擬試験で8%の合格率の予想で、校長が困っていた。COGES の補習授業のおかげもあり、結果的に60%というニアメでも最高の合格率を達成することができた。それを励みにがんばってほしい。

⁷ 通常授業は4クラス

日 時	12月7日（月）16時30分～17時30分
面会者	スイス開発協力庁 開発協力局 副所長 Mme. Nicole Gantenbein, directrice résidente suppléante, Direction du Développement et de la Coopération、2015年7月着任 2011年から教育の質プログラム担当 M.Alfari Djibo, Chargé de Programme（村上研修コーディネーター担当）
場 所	スイス開発協力庁 副所長室
団 員	國枝、村上

<教育セクター コモンファンド資金>

世銀と AFD で始めたコモンファンド資金にスイス協力庁は 500 万スイスフラン（ユーロ）を拠出した。

コモンファンドは初等と中等だけではなく、全教育セクターに拡大する。スイス協力庁は現在、教育訓練セクタープログラムのドナー会議長役を担っている（ので、ここにも裨益することを期待する。）また対象教育サブセクターの拡大により、より多くのドナーの（日本も）関心が集められるのではと考えた。現在基礎教育セクターのドナー会議長はフランス AFD が担当している。スイスは2年間会議長を務め、現在は副議長である。

現在、スイス協力庁は地方分権管理プログラム PGD（programme de gestion décentralisé）を4年間マラディ、ドツンでやった。ノルウェーと一緒にザンデルとディツファに広げている。

<地方分権、モニタリング、技術移転、国家予算支出の難しさ、女子就学について>

ジボ：CGDES はより包括的な方法でコミューンを巻き込んでいる、CGDES 連合とコミューンに責任を与え、コミューンの学校にそれぞれ CGDES がある仕組みができています。その中で、生徒－教師－保護者間の地域のシナジーが生まれている。国はコミューンに権限を委譲するが、予算は出していない。スイス協力庁はコミューンが教育プロセスの中心であることを望む。

副所長からスイス協力庁などは治安問題による移動制限はないので、モニタリングを NGO やコモンファンドに任せたらどうかという提案があった。また、これらの現場人材に的確に技術移転が本当に行われたか、何の根拠をもってそれがいえるのかという質問が続いた。これに対して、コンサルタントは「CGDES 調整部が 2012 年にでき、中央－州－県レベルまでの官民の体制ができたこと、多くの活動に国の予算がついている」ことを説明した。これに対し、副所長は「国家予算がついても、執行が1年遅れたりして、なかなか出ない。」と発言、「PAEQ（質の教育支援プロジェクト）なら違う（このような事態になったりすることはない。だから PAEQ を通してモニタリングや技術移転を進めるべきだ）」と続く。その理由として「すべての部局に予算があるが、うまく資金調達ができているところは、PAEQ 以外、1 つもない。」を挙げられた。教育セクターコモンファンドは質の教育支援プログラム PAEQ（世銀が資金管理）を含むものであり、全体として 8,400 万米ドルだが、質の教育支援プログラムにだけに 1 億米ドルがついている（逆転現象が起きている）ことを説明頂いた。PAEQ の最も大きなコンポーネントが建設であることや、PAEQ を通して女子就学、地方分権管理運営などについてドナーとして助言できることを明かした。

現在女子就学に関するキャンペーンが各ドナーにより実施されていることについて、スイス協力庁は「20 年前から女子就学の話をしている。スイス協力庁も女子就学推進プログラムを実施していたが、3 年前に終了させた。子どもは男女を問わず、学校に行かせることが大切だと思う（女子就学だけに焦点をあてることに否定的)」。

日 時	12月10日（木）
面会者	フランス開発庁 Cynthia MELA Chargée de Mission, Agence Française de Développement (AFD)
場 所	フランス開発庁
団 員	國枝、徳川、原

<自己紹介とプロジェクトとのかかわり>

2013年からニジェール保健と教育の担当をしている。2014年より AFD がドナー会議長を担当。世銀と AFD がコモンファンドを運営している。いくつかの活動が COGES のエンパワーメントにかかわる。COGES に対する研修、補助金のやり方にインスピレーションをもらった。プロジェクトが成果を証明してくれているので、コモンファンドを通してニジェール政府を支援している。

コモンファンドのなかには質のコンポーネントがある。サブコンポーネントのなかにある教員養成（initial training）研修と現職研修を支援するつもり。15年近く中等教育教員が養成されていないので、中等教育省を支援して教員養成ができるようにする。女子就学に関して、アクセス改善のために①ユニセフモデルに基づく中等に進学した女子の奨学金とホストファミリー手当、②中学校に進学した女子のための乾物支給、③初等・中等女子のための補習授業、④母親の識字教室。まだ家庭学習に関する活動がない。協力の可能性はある。

< JICA の協力形態について >

アクセスの他に教育の質について強化する必要がある。個人的に教員のトレーニングがもっと必要だと思っている。契約教員のなかにはフランス語が話せない者もいる。教員としての資格があり、ステータスも保証されることが必要。また、教育の質といっても2つのレベルをターゲットにする必要があると思う。1つは学校レベルで、もう1つは個人の生徒のレベルでみていく必要がある。ついていけない子どもをどのようについていけるようにするのか。そのあとでカリキュラム、教科書、その他のことをどうしたらいいか考える必要がある。

とても重要だと思うことは、EPTが導入した COGES の銀行口座があること。おかげで他のドナーも各自のプロジェクトで COGES の銀行口座を活用していくことができる。地方分権化という流れに注目する必要がある。改善を促進するためにはもっと権力を地方などに委譲していく必要がある。中央レベルはいろいろなドナーの調整が難しく、仕事も出張も多い。そのためにより多くの注目を地方レベルにすべきだ。

< 質のミニマムパッケージ >

算数ドリルのインパクト評価の結果を見た。自分自身算数は苦手だし、専門家ではないけれど、プロセス（日本人専門家とニジェール人専門家がともに開発する）には共感した。

フランス語部分の開発について、関心はある。しかし実際にどのようにやるかわからない。AFD が直接かかわることはないだろう。大使館などが担当することになるかもしれない。独立研究機関の Pôle de Dakar 評価の結果、提言を基に今後の取り組み方を決める。

< 母国語政策 >

識字率や学習到達度が低いことからわかるとおり母国語ではないフランス語の教育がうまくいっていない。2016年度から1年生で母国語授業を始めるにあたり、コモンファンドで母国語教員研修やマニュアル開発を支援している。

日 時	12月11日（金）
面会者	世銀 教育セクター専門家 Adama Ouedrago
場 所	ニジェール世銀オフィス 会議室
団 員	國枝、橘、徳川、原、

<質のミニмумパッケージ>

ニジェール JICA と世界銀行（世銀）は、ニジェールの教育に関して、長い協力の歴史がある。2003～2005 年以來、2つの主要問題にともに取り組んできた。就学が大幅に向上したため、子どもがどのように学習しているか、男女の機会平等で女子就学の促進という問題はともに教育システムマネジメントとつながっている。世銀はマクロなアプローチで、JICA はミクロなアプローチでほぼ同時期に取り組み始めた。学校運営に関して規律はあったけれど、実態が伴っていなかった。試行錯誤しながら実証していくやり方で学校運営委員会を設置した JICA、拡大普及を担った世銀。質の向上、教員養成、教科書配付などありとあらゆる取り組みをしてきたが、学習成果という意味ではまだまだ成果を上げることができていなかった。そこにプロジェクトが学校レベルで数学に取り組み始めた。しかし思うに数学の言語を習得する以前に、言語（識字）に取り組むべきではないだろうか。

EIGRA 実験校を訪問したが、EIGRA の投入は多すぎる。例えば、20 人の生徒に対して 5 人の講師が必要だ。これでは拡張することはできない。現実的にニジェールの現状の学校状況に適応するようなものでなければならない。どのドナーがこのアプローチをサポートするのか、政府と話し合っていく必要がある。数学と言語の両方が揃って世銀が拡張を支援していくこととなる。

質のミニмумパッケージは 1 州 200 校だけの実験である。そのため、どのように政府資金が学校に流れるのかについて政府と話して明確にしておかなければならない。PAEQ が 2018 年に終わる前にこの結論が出ていなければならない。ドナー会合では学習成果について話し合わなければならない。そのために Pole de Dakar 研究機関が実施したインパクト評価が重要だ。何がうまくいき、どのようにすれば拡大できるかをそこから考える。

<持続性>

各ドナーのプロジェクト結果がいろいろある。なかには持続的でないものもある。ニジェールでは教員 1 人確保するだけでも難しい。視学官が毎日来るようなことは不可能に近い。JICA の場合、農村部で実験実証がされることが多いから、都市の問題にそのまま当てはめることはできない。

持続性といえば、政府の資源ではなく、コミュニティのコミットメントを基準に考えている。コミットメントがあれば、コミュニティは政府がいようがいまいが、達成していこう。また、コミュニティが啓発、訓練されていれば金銭的な価値以上のものがある。なぜなら彼らは貧しくても学校の活動を支えるための貢献ができるからだ。

また、持続性が確保できるもう 1 つの要因は実験が終わる前に、拡張のための戦略があるかだ。どのように政府の資金を得て、拡大、拡張していくのがポイントだ。

議論し、よいアイデアがあれば、実現のために意思決定をし、行動していく。そのために、年次レビューが貴重な機会である。プレゼンテーションをすることで営業をし、議論して、ともに何かを決めていくことができる。

ANNEXE I: Cadre Logique du Projet (PDM) version 1.0 (mars 2012)

Titre du Projet: TBD "Ecole Pour Tous; Projet d'Appui au Développement de l'Education à travers la participation communautaire"

Zone cible: Toutes les régions (Agadez, Diffa, Dosso, Maradi, Niamey, Tahoua, Tillabéri, Zinder)

Groupe cible: Parents/membres de la communauté, directeurs d'écoles, enseignants des écoles, et administrateurs régionaux de l'éducation

Durée: le 1er mai 2012 - le 31 avril 2016 (4 ans)

RESUME NARRATIF	INDICATEURS OBJECTIVEMENT VERIFIABLES Les données de base seront fixées environ 6 mois après le démarrage du projet	MOYENS DE VERIFICATION	CONDITIONS EXTERIEURES
OBJECTIF GLOBAL La qualité et l'accès de l'éducation de base sont améliorés par la gestion de l'école à travers la participation communautaire	Amélioration du taux de scolarisation Amélioration concernant le taux de redoublement Amélioration concernant le taux d'abandon Amélioration du taux d'achèvement Amélioration concernant les acquis scolaires	Statistiques de MEN/A/PLN, DREN, IEB	
BUT DU PROJET Les attributions et les capacités des CGDES sont renforcées afin de contribuer au développement de l'éducation (accès et qualité) au Niger	Le taux des CGDES qui ont soumis leurs rapports annuels à leurs Fédérations Communales des CGDES (FC/CGDES) respectives et au MEN/A/PLN est amélioré 2 Le taux d'augmentation des ressources gérées par CGDES dans la zone d'intervention	1 Rapports des PFs / ORs 2 Rapports de l'Evaluation par le Projet	La politique éducative du Niger qui donne de l'importance au CGDES n'a pas changé
RESULTATS 1 Un système pour appuyer les CGDES fonctionnels pour le développement de l'éducation au Niger est mis en place	1-1 Plus de 95% des FC/CGDES des régions ayant organisé des foras ont tenu une Assemblée Générale de restitution du forum régional 1-2 Plus de 80% de CGDES révisent leurs Plans d'Actions d'école mettant l'accent sur l'amélioration de la qualité de l'éducation 1-3 Nombre de réunions tenues au niveau central, régional et départemental est amélioré 1-4 Le système de suivi des activités des CGDES est officiellement approuvé par MEN/A/PLN 1-5 90% des écoles secondaires de Niger ont mis en place des CGDES à travers des élections démocratiques 1-6 Plus de 80% de CGDES au niveau de cycle base II ont mis en oeuvre au moins une activité dans le cadre du Plan d'actions de l'école	1-1 Rapports de DREN/A/PLN 1-2 Rapports de PFs / ORs 1-3 Rapports de la C/CGDES, DREN/A/PLN, RFs / Ors 1-4 Documents sur la politique ou la stratégie officiellement approuvée 1-5 Rapports de PFs / ORs 1-6 Rapports de PFs / ORs	Les écoles n'ont pas connu de perturbation importante La situation de pauvreté des ménages ne s'empire pas
2 Les rôles et attributions des CGDES dans la gestion scolaire sont renforcés en vue d'une meilleure gestion des ressources dans la Zone d'Intervention	2-1 Pourcentage de CGDES formés en gestion des ressources est augmenté dans la zone d'intervention 2-2 Pourcentages de l'augmentation du montant de ressources gérées par les CGDES est amélioré dans la zone d'intervention. 2-3 Pourcentage des Plans d'actions de l'école mettant l'accent sur l'amélioration de la qualité de l'éducation augmente	2-1 Rapports par le Projet 2-2 Rapports de l'Evaluation par le Projet 2-3 Documents sur la Politique ou la Planification de MEN/A/PLN	
3 Des stratégies pour renforcer les attributions des CGDES dans un système éducatif décentralisé sont développées et mises en oeuvre	3-1 La politique sur le CGDES est élaboré 3-2 Existence de Plan annuel du MEN/A/PLN qui reflète la politique et les activités de CGDES 3-3 Existence de politiques et/ou plans du MEN/A/PLN qui reflète la gestion de ressources par les CGDES	3-1 Politique par MEN/A/PLN 3-2 Plan Annuel par MEN/A/PLN 3-3 Politique ou plan/documents sur le programme sectoriel par MEN/A/PLN	

ANNEXE I: Cadre Logique du Projet (PDM) version 1.0 (mars 2012)

Titre du Projet: TBD "Ecole Pour Tous; Projet d'Appui au Développement de l'Education à travers la participation communautaire"

Zone cible: Toutes les régions (Agadez, Diffa, Dosso, Maradi, Niamey, Tahoua, Tillabéri, Zinder)

Groupe cible: Parents/membres de la communauté, directeurs d'écoles, enseignants des écoles, et administrateurs régionaux de l'éducation

Durée: le 1er mai 2012 - le 31 avril 2016 (4 ans)

ACTIVITES	CONTRIBUTIONS		IMPORTANT ASSUMPTIONS
	JAPON	NIGER	
1-1 Appuyer l'organisation de Fora Régionaux 1-2 Appuyer le développement d'un paquet minimum d'activités pour l'amélioration de la qualité de l'éducation 1-3 Appuyer l'organisation de réunions et de suivi des activités du CGDES par les niveaux central, régional et départemental 1-4 Evaluer le système de suivi des CGDES 1-5 Appuyer l'organisation d'un atelier national pour valider le système de suivi des CGDES 1-6 Appuyer la mise en place des CGDES fonctionnels et leur système de suivi au niveau du cycle de Base II 1-7 Appuyer l'introduction du Module des CGDES dans la formation initiale des enseignants	Affectation d'experts japonais 1) Experts à long terme - Chef du Projet / Conseiller Technique en éducation - Chargé de Suivi des CGDES a) - Développement de capacité - Coordinateur 2) Experts à court terme en cas de besoin	Affectation des personnels - Secrétaire Général, Secrétariat Général du Ministère de l'Education Nationale, de l'Alphabétisation et de la Promotion des Langues Nationales (MEN/A/PLN) - Directeur Général de la Scolarisation, MEN/A/PLN - Directeur, Direction Générale de la Formation et des Curricula, MEN/A/PLN a) - Directeur, Direction des Etudes et de la Programmation, MEN/A/PLN - Directeur, Direction des Statistiques, MEN/A/PLN - Coordinateur National de la C/CGDES, MEN/A/PLN - Directeurs, Directions Régionales de l'Education Nationale, de l'Alphabétisation et de la Promotion des Langues Nationales	
2-1 Mener une étude sur la capacité des CGDES à gérer les ressources de de l'école et une évaluation des besoins des CGDES en renforcement des capacités en gestion des ressources 2-2 Elaborer un module de formation sur le renforcement des capacités des CGDES en gestion des ressources. 2-3 Appuyer la mise en oeuvre des formations des CGDES en gestion des ressources. 2-4 Appuyer les activités des CGDES dans la gestion des ressources. 2-5 Exécuter l'évaluation des interventions 2-6 Faire des recommandations au Ministère sur le rôle des CGDES dans la gestion des ressources de l'éducation	b) Fourniture d'équipement: moyens nécessaires pour le suivi, etc. (Si c'est nécessaire) c) Allocation du coût de mise en œuvre du Projet	b) Fourniture de bureaux c) Allocation du coût de mise en œuvre du Projet	Condition préalable La politique de CGDES existe
3-1 Vulgariser et partager les résultats des activités du Projet aux réunions des PTF 3-2 Faire des recommandations et appuyer la planification pour le développement de l'éducation à travers les CGDES 3-3 Appuyer le renforcement des capacités dans la gestion des CGDES au niveau central	d) Autres		

* CGDES : Comité de Gestion Décentralisée des Etablissements Scolaires

** FC/CGDES : Fédération Communale des CGDES

*** C/CGDES : Coordination des CGDES

ANNEX I Project Design Matrix (PDM) version 1.0 (March 2012)

Project Title: "School for All": The Project on Support to Educational Development through Community Participation

Target Area: All the regions (Agadez, Diffa, Dosso, Maradi, Niamey, Tahoua, Tillaberi, Zinder)

Target Group: Parents/community residents, principals, teachers and local education administrators

Duration: May 2012 - April 2016 (4 years)

NARRATIVE SUMMARY	OBJECTIVELY VERIFIABLE INDICATORS The baseline will be set within 6 months after the launch of the project	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTIONS
<p>OVERALL GOAL</p> <p>The quality and the access of basic education are improved by school management through community participation</p>	<p>Changes in enrollment rate Changes in repetition rate Changes in dropout rate Changes in completion rate Changes in learning achievements</p>	<p>Statistics of MEN/A/PLN, DREN, IEB</p>	
<p>PROJECT PURPOSE</p> <p>The function and capacity of CGDES is strengthened to contribute to educational development (access and quality) in Niger</p>	<p>1 The rate of the CGDES which submit annual reports to their respective communal federations of CGDES (FCC) and to MEN/A/PLN increases 2 The rate of increase in resources managed by CGDES in piloting area</p>	<p>1 Reports of PFs (CGDES supervisors) / ORs (CGDES Officers) 2 Evaluation report by the Project</p>	<p>Niger's education policy which places importance on CGDES is unchanged</p>
<p>OUTPUTS</p> <p>1 A system to sustain functioning CGDES for educational development (access and quality) is established</p> <p>2 A role and function of CGDES in educational management is reinforced for better resource management in the target area of piloting</p> <p>3 Strategies to reinforce CGDES' function in decentralized education system is developed and implemented</p>	<p>1-1 More than 95 % of the FCC in the regions which had organized regional forum hold a general assembly for information sharing. 1-2 More than 80% of the CGDES revise school action plans with focus on improvement of educational quality 1-3 Number of meetings by educational administration at central, regional and district level increases 1-4 A monitoring system of CGDES activities is officially endorsed by MEN/A/PLN 1-5 90% of secondary schools in Niger have CGDES whose members have been elected democratically 1-6 At least one school action plan is implemented at more than 80% of secondary schools</p> <p>2-1 In the targeted area of piloting, percentage of CGDES trained in resource management is increased 2-2 In the targeted area of piloting, percentage of the amount of resources managed by CGDES is increased 2-3 In the targeted area of piloting, percentage of school action plans with focus on improvement o educational quality increases</p> <p>3-1 Policies on CGDES is produced 3-2 Existence of Annual plan of MEN/A/PLN which reflects CGDES policies and activities 3-3 Existence of policies and/or plans which reflects resource management by CGDES by MEN/A/PLN</p>	<p>1-1 Reports of DREN/A/PLN 1-2 Reports of PFs / ORs 1-3 Reports of C/CGOES, DREN/A/PLN, RFs / ORs 1-4 Policy or strategy papers officially endorsed 1-5 Reports of PFs / ORs 1-6 Reports of PFs / Ors</p> <p>2-1 Reports by the Project 2-2 Evaluation report by the Project 2-3 Policy or plan papers of MEN/A/PLN</p> <p>3-1 Policies by MEN/A/PLN 3-2 Annual plan by MEN/A/PLN 3-3 Policy or plan papers of education sector program by MEN/A/PLN</p>	<p>The schools do not face serious disturbances The poverty situation of households with school-aged children does not worsen</p>

ANNEX I Project Design Matrix (PDM) version 1.0 (March 2012)

Project Title: "School for All": The Project on Support to Educational Development through Community Participation

Target Area: All the regions (Agadez, Diffa, Dosso, Maradi, Niamey, Tahoua, Tillaberi, Zinder)

Target Group: Parents/community residents, principals, teachers and local education administrators

Duration: May 2012 - April 2016 (4 years)

ACTIVITIES	INPUTS		IMPORTANT ASSUMPTIONS
	JAPAN	NIGER	
1-1 To support organizing regional education forum 1-2 To support development of a minimum package of activities for educational quality improvement 1-3 To support organizing meetings and monitoring of CGDES activities at central, regional and district levels 1-4 To evaluate CGDES Monitoring system 1-5 To support organizing national seminar to refine national CGDES monitoring system 1-6 To support introduction of functioning CGDES and its monitoring system at secondary level 1-7 To support introduction of CGDES module to pre-service training for teachers	Dispatch of Japanese experts 1) Long-term experts - Chief Advisor / Education Advisor - CGDES Monitoring a) - Capacity Development - Coordinator 2) Short-term experts if necessary	Assignment of the counterparts - Secretary-General, General Secretary of Ministry of National Education, literacy and promoting national language (MEN/A/PLN) - Director-General of Schooling, MEN/A/PLN - Director, Department of General Training and Curriculum, MEN/A/PLN a) - Director, Department of Studies and Programming, MEN/A/PLN - Director, Department of Statistics, MEN/A/PLN - National Coordinator of C/CGDES, MEN/A/PLN - Directors, Regional Office of National Education, literacy and promoting national language	
2-1 To conduct a study on resource management capacity of CGDES and needs assessment of CGDES in capacity development of resource management 2-2 To develop a training module for capacity development of CGDES in resource management 2-3 To support implementation of trainings for CGDES in resource management. 2-4 To support CGDES activities in resource management 2-5 To implement evaluation of interventions 2-6 To make recommendation to the Ministry on CGDES's role in educational resource management	b) Provision of equipment: necessary measures for monitoring and etc. (if necessary) c) Allocation of project implementation cost	b) Provision of an office c) Allocation of project implementation cost	RPRECONDISION The CGDES policy exists
3-1 To disseminate and share outcomes of the Project activities in PTF meetings 3-2 To make policy recommendations and to support planning for educational development through CGDES 3-3 To support capacity development in CGDES management at central level	d) Others		

* CGDES : Comité de Gestion des Etablissements Scolaires (School Management Committee)

** FCC : Fédération Communale des CGDES (Communal Federation of CGDES)

*** C/CGDES : Coordination des CGDES

